

Honeywell

Xenon™ Ultra 196X シリーズ

エリアイメージングスキャナ

スキャナファミリー：1960g、1960h、1960li、1962g、1962h、1962li



ユーザーガイド

免責事項

ハネウェル社（「HII」）は、本書に記載されている仕様やその他の情報を予告なく変更する場合があります。そのような変更がなされたかどうかについては、いかなる場合においても HII にお問い合わせください。HII は、本書に記載された内容を表示または保証するものではありません。

HII は、本契約に記載される技術的もしくは編集上の誤りもしくは不作為、または本資料の提供、履行もしくは使用に起因する付随的もしくは派生的損害につき一切責任を負わないものとします。HII は、意図した結果を達成するためのソフトウェアおよび/またはハードウェアの選択および使用に対するすべての責任を放棄します。

本書には、著作権によって保護された独自の情報が記載されています。無断転載を禁じます。HII の書面による同意なしに、本書のいかなる部分もコピー、複製、別の言語への翻訳を行うことはできません。

Copyright © 2024 Honeywell Group of Companies. 無断転載禁止

ウェブアドレス：sps.honeywell.com

商標

Microsoft® Windows® および Windows ロゴは、Microsoft Corporation の商標または登録商標です。

Bluetooth® の商標およびロゴは、Bluetooth SIG, Inc. が所有しています。

Apple は米国および他の国々で登録された Apple Inc. の商標です。

本書に記載されているその他の製品名またはマークは、他社の商標または登録商標である可能性があり、それぞれの所有者に帰属します。

特許

特許情報については、www.hsmpats.com を参照してください。

目次

カスタマーサポート	xvii
技術支援	xvii
製品のサービスと修理	xvii
限定保証	xvii
1章 - はじめに	1
本書について	1
デバイスの開梱	1
装置の特徴	2
コード付き	2
コードレス	2
コード付きデバイスの接続	3
USB による接続	3
キーボードウェッジによる接続	4
RS232 シリアルポートによる接続	5
コードレス機器の接続	6
読取り技術	7
メニューバーコードのセキュリティ設定	7
カスタムデフォルトの設定	7
カスタムデフォルトのリセット	8
2章 - インターフェースのプログラミング	9
はじめに	9
インターフェースのプログラム- プラグアンドプレイ	9
キーボードウェッジ	9
ノートブックダイレクトコネクト	10
RS232 シリアルポート	10

USB IBM SurePos	10
USB PC または Macintosh キーボード.....	11
USB HID.....	11
USB シリアル.....	11
CTS/RTS エミュレーション	12
ACK/NAK モード	12
高速 USB.....	12
Verifone® Ruby 端末	13
Gilbarco® 端末.....	13
ハネウェルバイオプティック Aux ポート	14
Datalogic™ Magellan® Aux ポート	14
Wincor Nixdorf 端末.....	14
Wincor Nixdorf Beetle™ 端末.....	15
Wincor Nixdorf RS232 モード A	15
国別キーボードレイアウト	16
キーボードウェッジ修飾子	23
ALT モード	23
キーボードスタイル	23
キーボード変換.....	25
文字出力制御.....	25
キーボード修飾子	26
RS232 修飾子	28
RS232 ボーレート	28
RS232 ワード長：データビット、ストップビット、パリティ	29
RS232 受信機タイムアウト	30
RS232 ハンドシェイク	30
RS232 タイムアウト	31
XON/XOFF	31
ACK/NAK	31
スキャナとバイオプティック通信	32
スキャナ-バイオプティックパケットモード	32
スキャナ-バイオプティック ACK/NAK モード	33
スキャナ-バイオプティック ACK/NAK タイムアウト	33

3章 - コードレスシステムの操作 35

コードレス充電ベース／アクセスポイントの仕組み.....	35
スキャナをベースにリンクする	35
スキャナをアクセスポイントにリンクする	36
リンクスキャナの交換	36
コードレスシステムとホスト間の通信	36
スキャナとベースまたはアクセスポイントをプログラムする.....	37
RF（無線周波数）モジュールの動作	37
システム条件	38
Find My（ファインドマイ）ボタン	39
Find My（ファインドマイ）ボタンとプレゼンテーションモード	39
一時ストリーミングプレゼンテーションのタイムアウト	40
ベースのプレゼンテーションモード	40
充電情報	40
バッテリー情報	40
バッテリーの推奨事項	41
リチウム電池に関する安全上のご注意	41
バッテリーレススーパーキャパシタの情報	42
ビープ音と LED のシーケンスと意味	42
スキャナの通信とスキャン	42
アクセスポイントの通信とスキャン	43
ベースの通信とスキャン	43
ベース電源通信インジケータ	43
ベース充電状況	44
バッテリーLED ステータス	44
バッテリーLED 警告	44
低電力警告	45
低電力警告範囲	45
低電力警告点減回数	45
低電力警告の繰り返し	46
低電力警告ビープ音	46
スキャナのリセット	47
ベースクレードルでのスキャン	47

ベース充電モード	47
Find My (ファインドマイ) ボタン	48
Find My (ファインドマイ) モード	48
Find My (ファインドマイ) のピッチ	49
エラーインジケータ	49
ビープ音ピッチ - ベースのエラー	49
ビープ音の数 - ベースのエラー	50
スキャナレポート	50
スキャナアドレス	50
ベースまたはアクセスポイントのアドレス	50
バッテリーおよびバッテリーレススーパーキャパシタの情報.....	51
スキャナのモード	51
充電専用モード	51
充電・リンクモード	51
リンクモード	52
スキャナのリンク解除	52
ロックされたスキャナの上書き	53
圏外アラーム	53
アラーム音タイプ	53
スキャナ電源タイムアウトタイマ	54
パワーセーブモード	55
スキャナパワーセーブタイムアウトタイマ	56
柔軟な電源管理	57
バッチモード	Error! Bookmark not defined.
バッチモードのビープ音	59
バッチモードストレージ	59
バッチモード数量	60
数量の入力	60
バッチモード出力順序	62
全記録	62
最後のコードを削除	62
全コードを消去	62
ホストへの記録送信	63
バッチモード送信遅延	63

複数のスキャナ操作	64
スキャナ名	64
アプリケーションワークグループ	65
アプリケーションワークグループの選定	66
工場出荷時のデフォルトへのリセット：すべてのアプリケーション作業グループ	67
カスタムデフォルトのリセット：すべてのアプリケーション作業グループ	67
Bluetooth デバイスでスキャナを使用する	68
Bluetooth セキュアシンプルペアリング (SSP)	68
Bluetooth HID キーボード接続	68
仮想キーボード	69
Bluetooth HID キーボードの切断	69
Bluetooth シリアルポート - PC/ノート PC	69
PDA/モビリティシステムデバイス	70
スキャナの Bluetooth PIN コードを変更する	70
Bluetooth/ISM バンドのネットワークアクティビティの最小化	70
自動再接続モード	70
最大リンク試行回数	71
再リンクタイムアウト	72
Bluetooth/ISM ネットワークアクティビティの例	72
ホストの承認	73
ホスト ACK オン/オフ	75
ホスト ACK タイムアウト	75
ホストの ACK 応答	75

4章 - 入出力設定

電源投入時ビープ音	77
BEL 文字ビープ音	77
トリガクリック	78
読み取り成功時とエラー時のインジケータ	78
ビープ音 - 読み取り成功時	78
ビープ音量 - 読み取り成功時	79
ビープ音ピッチ - 読み取り成功時	79
ビープ音ピッチ - エラー時	79
ビープ時間 - 読み取り成功時	80

LED - 読み取り成功時	80
ビーブ音回数 - 読み取り成功時	80
ビーブ音回数 - エラー時	81
読み取り成功時の遅延時間	81
ユーザー指定の読み取り成功時の遅延時間	82
トリガモード	82
マニュアルトリガ	82
トリガトグル	82
シリアルトリガ	84
プレゼンテーションモード	85
カメラモーションプレゼンテーションモード	85
物体検出モード	85
デコード後のプレゼンテーション LED の動作	86
プレゼンテーションセンタリング	86
プレゼンテーション再読み込み制御	88
スタンド内センサーモード	89
低品質コード	89
低品質 1 次元コード	89
低品質 PDF コード	90
低解像度 PDF コード	90
CodeGate™	90
ストリーミングプレゼンテーションモード	91
スタンド内でのストリーミングプレゼンテーション	91
ハンズフリータイムアウト	91
再読み取り遅延	92
ユーザー指定再読み取り遅延	92
2D 再読み取り遅延	93
文字アクティベーション	93
アクティベーション文字	94
読み取り成功後に終了する文字アクティベーション	94
文字アクティベーションタイムアウト	94
文字アクティベーション解除	95
アクティベーション解除文字	95
照明ライト	95

照準器遅延	96
ユーザー指定照準器遅延	96
照準器モード	96
プレゼンテーション照準器モード	97
センタリング	97
シングルコードセンタリング	97
カスタムセンタリング	97
優先記号	99
高優先記号	100
低優先記号	100
優先記号タイムアウト	100
優先記号のデフォルト	101
出力シーケンスの概要	101
出力シーケンスエディタ	101
出力シーケンスを追加するには	101
出力シーケンスエディタコマンド	102
出力シーケンスの作成	105
部分シーケンス	105
読み取り成功音 - 出力シーケンス	110
複数記号	111
複数記号カウント	111
読み取りなし	112
ビデオ反転	112
作業方向	113
抽出遅延	114
5章 - ヘルスケア設定	115
静穏操作 - コンビネーションコード	115
LED 点滅を伴うサイレントモード	115
LED 点灯を伴うサイレントモード	116
超低ビープ音（夜間モード）	116
低ビープ音（昼間モード）	117
静音操作 - LED と音量設定	117
LED の色と音をリンクさせる	117

LED 点滅回数	118
LED 点滅速度	118
LED 固定点灯（点滅なし）	119
ファインドマイ音量制御	119
圏外アラーム音量	120
圏外遅延	121
振動 - 読み取り成功	121
6章 - データ編集	123
プリフィクス／サフィックスの概要	123
留意点	123
プリフィクスまたはサフィックスを追加する	124
例：すべての記号にタブサフィックスを追加	124
1つまたはすべてのプリフィクスまたはサフィックスを消去	124
すべての記号にキャリッジリターンのサフィックスを追加	125
デフォルトの有効化と CR サフィックスの追加	125
プリフィクスの選択	125
サフィックスの選択	126
ファンクションコード送信	126
文字間、機能間、メッセージ間の遅延	126
文字間遅延	127
ユーザー指定の文字間遅延	127
機能間遅延	128
メッセージ間遅延	128
7章 - データフォーマット/キューバusting	129
データフォーマットエディタの概要	129
データフォーマットの表示	130
データフォーマットの追加	130
その他のプログラミング選択	131
端末 ID 表	132
データフォーマットエディタコマンド	132
送信コマンド	132
移動コマンド	138

検索コマンド	139
その他のコマンド	142
データフォーマット	145
データフォーマット不一致エラー音	146
プライマリ/代替データフォーマット	146
シングルスキャンデータフォーマット変更	147
キューバusting抽出	148
キューバusting記号	148
抽出コード ID	149
抽出セパレータ	149
抽出遅延	149

8章 - 記号 151

すべての記号	152
メッセージ長の説明	152
Codabar	152
Code 39	155
Interleaved 2 of 5	159
Code 93	162
Straight 2 of 5 Industrial (three-bar start/stop)	163
Straight 2 of 5 IATA (two-bar start/stop)	164
Matrix 2 of 5	165
Code 11	166
Code 128	167
ISBT 128 連結	167
GS1-128	169
Telepen	170
UPC-A	172
拡張クーポンコード付き UPC-A/EAN-13	174
クーポン GS1 DataBar 出力	175
UPC-E0	176
UPC-E1	178
EAN/JAN-13	179
ISBN 変換	186

EAN/JAN-8.....	186
MSI.....	188
GS1 DataBar Omnidirectional.....	190
GS1 DataBar Limited.....	191
GS1 DataBar 拡張.....	191
Trioptic Code.....	192
Codablock A.....	192
Codablock F.....	193
ラベルコード.....	194
PDF417.....	194
MacroPDF417.....	195
MicroPDF417.....	195
GS1 Composite Codes.....	196
GS1 エミュレーション.....	197
TCIF Linked Code 39 (TLC39).....	198
QR コード.....	199
DotCode.....	201
Digimarc Barcode™.....	202
Data Matrix.....	203
MaxiCode.....	205
Aztec コード.....	206
Chinese Sensible (Han Xin) コード.....	207
郵便番号 - 2D.....	208
Planet Code チェックディジット.....	211
Postnet チェックディジット.....	212
Australian Post の解釈.....	212
Postal Codes - 1D.....	213
China Post (Hong Kong 2 of 5).....	213
Korea Post.....	214
9章 - イメージングコマンド.....	215
1 回使用を基本.....	215
コマンド構文.....	215

スナップ画像- IMGSNP.....	216
IMGSNP 修飾子.....	216
画像送信- IMGSHIP.....	219
IMGSHIP の修飾子.....	220
画像サイズ適合性.....	227
インテリジェント署名キャプチャ - IMGBOX.....	228
署名キャプチャ最適化.....	228
IMGBOX 修飾子.....	229
RF デフォルトイメージングデバイス.....	233
10章 - ユーティリティ.....	Error! Bookmark not defined.
テストコード ID の追加すべての記号に対するプリフィクス.....	235
ソフトウェアの改定の表示.....	235
試験メニュー.....	235
TotalFreedom.....	236
アプリケーションプラグイン (アプリ).....	236
スキャンニング用 EZConfig の概要.....	237
スキャンニング用 EZConfig で設定.....	237
工場出荷時のデフォルトへのリセット.....	238
11章 - シリアルプログラミングコマンド.....	239
表記.....	239
メニューコマンド構文.....	239
クエリコマンド.....	240
クエリコマンドの例.....	241
トリガコマンド.....	242
カスタムデフォルトのリセット.....	243
メニューコマンド.....	244
12章 - 製品仕様.....	277
Xenon Ultra 製品仕様.....	277
被写界深度チャート.....	279
小売/ヘルスケア用途での通常性能.....	279
小売/ヘルスケア用途での保証パフォーマンス.....	281

軽工業用途での通常性能	282
軽工業用途での性能保証	282
標準コネクタのピン配列	284
キーボードウェッジ	284
シリアル出力	284
USB	285
必要な安全ラベル	285
13章 - メンテナンスとトラブルシューティング	287
修理	287
メンテナンス	287
スキャナのクリーニング	287
消毒対応モデルについて	288
コードとコネクタの点検	288
コード付きスキャナのケーブル交換	288
インターフェースケーブルの交換	288
コードレスシステムのケーブルとバッテリーの交換	289
ベースのインターフェースケーブルの交換	289
接点バッテリーまたはバッテリーレススーパーキャパシタの交換	289
無接点バッテリーまたはバッテリーレススーパーキャパシタの交換	291
コード付きスキャナのトラブルシューティング	291
コードレスシステムのトラブルシューティング	292
ベースのトラブルシューティング	292
コードレススキャナのトラブルシューティング	293
A章 - 参考図	295
記号チャート	295
1D 記号	295
2D 記号	296
郵便記号	297
ASCII 変換チャート (コードページ 1252)	298
下位 ASCII 参照表	299
ISO 2022/ISO 646 文字置換	302
キーボードキーリファレンス	305

サンプル記号	307
プログラミングチャート	309

カスタマーサポート

技術支援

ナレッジベースで解決策を検索したり、テクニカルサポートポータルにログインして問題を報告したりするときは、honeywell.com/PSTechnicalsupport を参照してください。

最新の連絡先情報については、sps.honeywell.com をご覧ください。

製品のサービスと修理

ハネウェル社は、世界中のサービスセンターを通じて、すべての製品のサービスを提供しています。sps.honeywell.com にアクセスし、**Support**（サポート）を選択して近くのサービスセンターを見つけるか、製品を返品する前に **Return Material Authorization number**（返品資材認定番号、RMA #）を入手してください。

限定保証

保証情報については、sps.honeywell.com にアクセスし、**Support**（サポート） > **Productivity**（生産性） > **Warranties**（保証）を選択してください。

1

章

はじめに

本書について

このユーザーガイドには、Xenon™ Ultra 1960 コード付きエリアイメージングスキャナおよび Xenon™ Ultra 1962 コードレスエリアイメージングスキャナのインストールとプログラミングの手順が記載されています。製品の仕様、寸法、保証、お客様のサポート情報も含まれています。

ハネウェルのバーコードスキャナは、最も一般的な端末および通信設定用に、工場ですべてプログラムされています。これらの設定を変更する必要がある場合は、このガイドのバーコードをスキャンしてプログラミングを行います。

注: Xenon Ultra アクセサリについては、sps.honeywell.com の Xenon Ultra 196x Series Accessories User Guide (Xenon Ultra 196x シリーズアクセサリ ユーザーガイド) を参照してください。

オプションの横にあるアスタリスク (*) は、デフォルト設定を示します。

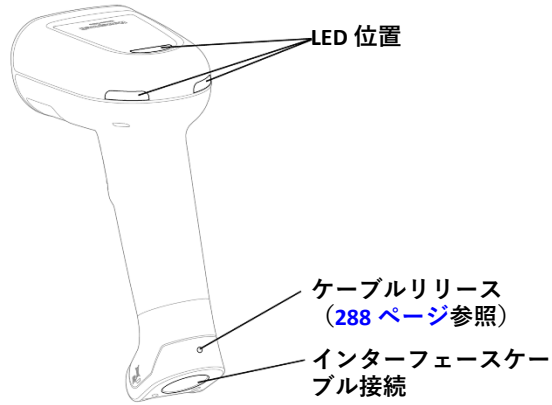
デバイスの開梱

製品が入っている梱包箱を開けたら、次の作業を行います。

- 輸送中の損傷を点検します。荷物を納品した運送業者に、損傷をただちに報告してください。
- 荷物の中の物品が注文と一致していることを確認します。
- 輸送用の箱は、後で保管または輸送するために保管しておいてください。

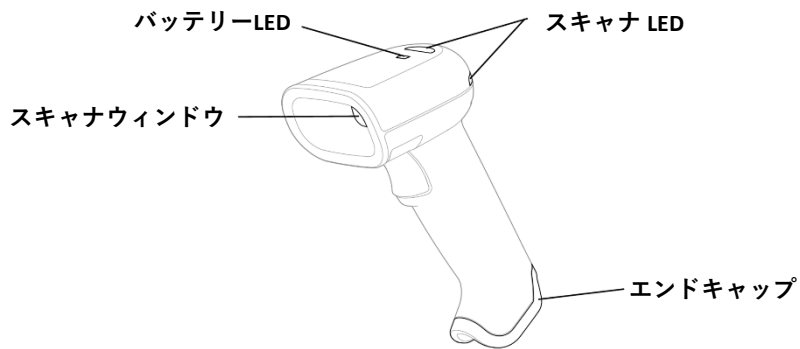
装置の特徴

コード付き

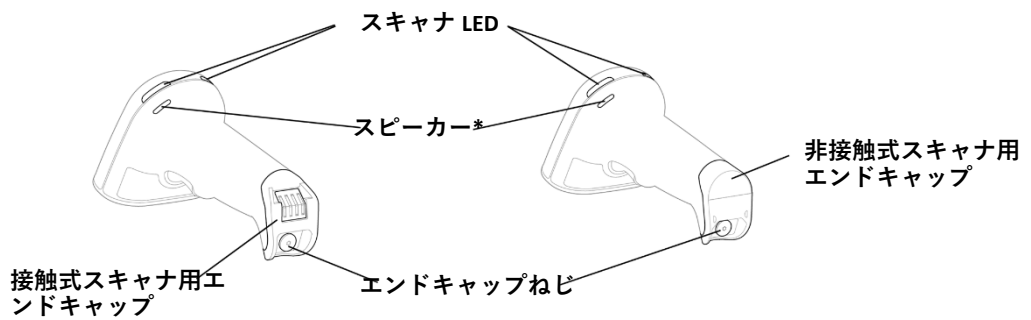


コードレス

正面



背面



* 1962g/1962li にのみ適用。

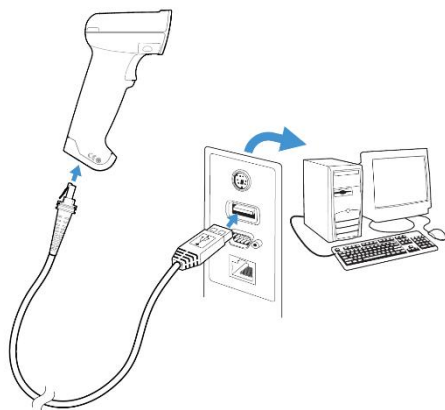
コード付きデバイスの接続

USB による接続

スキャナはコンピュータの USB ポートに接続することができます。

1. 適切なインターフェースケーブルをまずデバイスに接続し、次にコンピュータに接続します。

コード付きスキャナの USB 接続：



注: 必要に応じて、電源を別途注文する必要があります。

2. スキャナがビープ音を鳴らします。
3. **サンプル記号** (307 ページ以降) からバーコードをスキャンして、スキャナの動作を確認します。

ユニットのデフォルトは USB PC キーボードです。その他の USB 端末の設定については、**11 ページ**を参照してください。

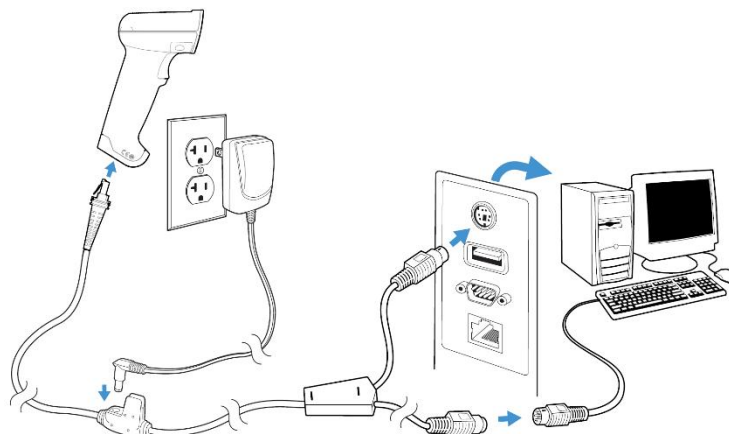
キーボードウェッジによる接続

スキャナはキーボードと PC の間に「キーボードウェッジ」として接続することができます。スキャナはキーボード入力と同様のデータ出力を提供します。

注: キーボードケーブルを接続する前に、電源をオフにする必要があります。
キーボードウェッジ接続の例を次に示します。

1. 電源を切り、端末/コンピュータの背面からキーボードケーブルを外します。
2. 適切なインターフェースケーブルをデバイスと端末/コンピュータに接続します。

コード付きスキャナのキーボードウェッジ接続：



注: 必要に応じて、電源を別途注文する必要があります。

3. 端末/コンピュータの電源を再びオンにします。スキャナがビープ音を鳴らします。
4. **サンプル記号** (307 ページ以降) からバーコードをスキャンして、スキャナの動作を確認します。

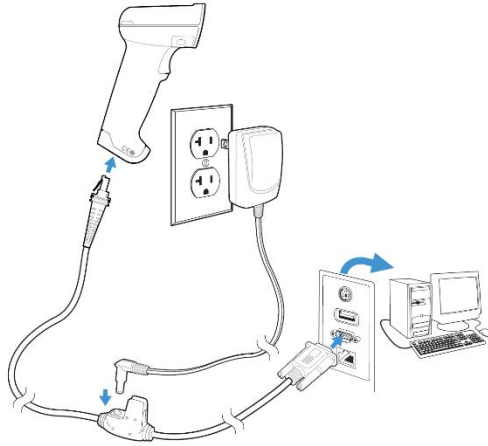
本機のデフォルトは IBM PC AT で、互換性のあるキーボードウェッジインターフェースは USA キーボードです。バーコードデータにキャリッジリターン (CR) サフィックスが追加されます。

RS232 シリアルポートによる接続

1. 端末／コンピュータの電源を切ります。
2. 適切なインターフェースケーブルをスキャナに接続します。

注: スキャナが正常に動作するには、端末／コンピュータのタイプに合った正しいケーブルが必要です。

コード付きスキャナの RS232 シリアルポート接続：



注: 必要に応じて、電源を別途注文する必要があります。

3. シリアルコネクタをコンピュータのシリアルポートに差し込みます。2本のネジを締め、コネクタをポートに固定します。
4. スキャナが完全に接続されたら、コンピュータの電源を入れます。

このインターフェースは、115,200 ボー、8 データビット、パリティなし、1 ストップビットでプログラムします。

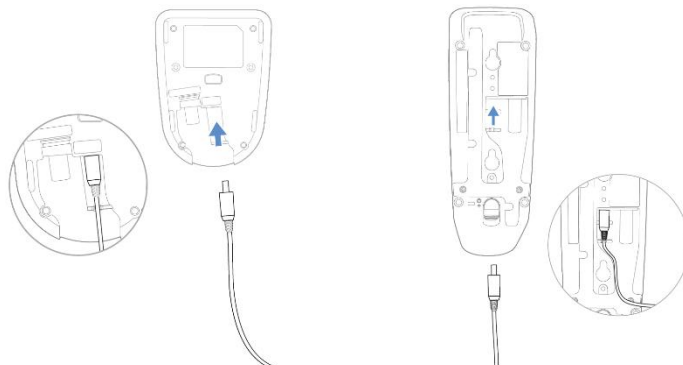
コードレス機器の接続

注: USB ケーブルを使用してスキャナを充電する場合、充電に使用できる電流が減少し、充電時間が長くなります。電源または BC1.2 充電ポート経由の充電の方が速く行われます。

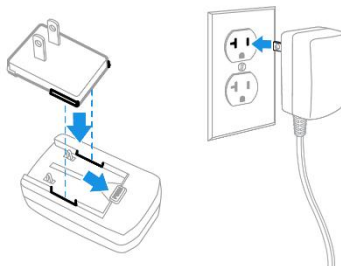
1. 電源プラグをベース底部に差し込みます。

プレゼンテーション CCB

水平 CCB



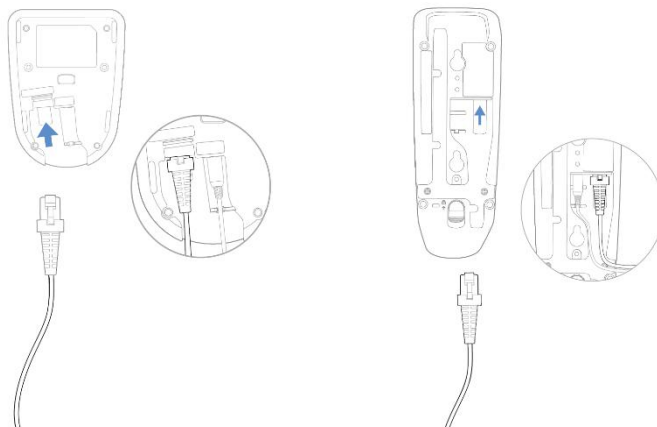
2. 電源を標準的な壁のコンセントに差し込みます。



3. 通信ケーブルをベース底部に差し込みます。

プレゼンテーション CCB

水平 CCB



4. 通信ケーブルをホストに接続します。
5. スキャナをベースにセットします。スキャナは自動的にベースにリンクします。

読取り技術

Xenon Ultra スキャナには、スキャナの水平視野に対応する明るい緑色の照準ビームを投射するビューファインダーがあります。照準ビームは、バーコードの中央に合わせる必要がありますが、正しい読み取りを行うために好きな方向に向けることができます。

リニアバーコード



2D マトリックス記号



メニューバーコードのセキュリティ設定

ハネウェルのスキャナは、メニューバーコードを読み取るか、シリアルコマンドをスキャナに送信することによってプログラムされます。メニューコードのスキャン機能を制限する場合は、メニューバーコードセキュリティ設定を使用できます。詳細については、最寄りのテクニカルサポートオフィスにお問い合わせください（[テクニカルアシスタンス](#) (xvii ページ) 参照）。

カスタムデフォルトの設定

独自のカスタムデフォルトとして一連のメニューコマンドを作成することができます。そのためには、カスタムデフォルトのメニューコマンドをスキャンする前に、以下の**カスタムデフォルトの設定**バーコードをスキャンします。メニューコマンドで**プログラミングチャート**（309 ページ以降）から数値コードをスキャンする必要がある場合、**保存**コードを使用すると、シーケンス全体がカスタムデフォルトに保存されます。カスタムデフォルト用に保存するすべてのコマンドを入力したら、**カスタムデフォルトの保存**バーコードをスキャンします。



MNUCDP.

カスタムデフォルトの設定



MNUCDS.

カスタムデフォルトの保存

注: コードレスシステムを使用している場合、カスタムデフォルト設定はすべてのワークグループに適用されます。また、**デフォルトの保存**のバーコードをスキャンすると、スキャナとベースまたはアクセスポイントの両方がリセットされ、リンクが解除されます。セットアップコードを入力する前に、リンクを再確立するためにスキャナをベースに置く必要があります。アクセスポイントを使用する場合は、リンクバーコードをスキャンする必要があります。詳しい情報については、[コードレスシステムの操作](#)（35 ページ）を参照してください。

一連のカスタム設定に対して設定を一つだけ修正したい場合があります。そのためには、新しい設定をスキャンして古い設定を上書きします。たとえば、**Beeper Volume at Low**（ビープ音小）の設定をカスタムデフォルトに保存した後に、ビープ音量を **High**（大）に設定したい場合は、**カスタムデフォルトの設定**バーコードをスキャンしてから、**Beeper Volume High**（ビープ音大）メニューコードをスキャンし、**カスタムデフォルトの保存**をスキャンします。カスタムデフォルトの残りの部分に変わりはありませんが、ビープ音の音量設定は更新されます。

カスタムデフォルトのリセット

スキャナにカスタムデフォルト設定を復元する場合は、以下の**カスタムデフォルトの有効化**バーコードをスキャンします。これは、ほとんどのユーザーに推奨されるデフォルトのバーコードです。スキャナをカスタムデフォルト設定にリセットします。カスタムデフォルトがない場合、スキャナは工場出荷時のデフォルト設定にリセットされます。カスタムデフォルトで指定されていない設定項目は、工場出荷時のデフォルト設定になります。



DEFAULT.

カスタムデフォルトの有効化

2

章

インターフェースのプログラミング

はじめに

本章では、目的のインターフェース用にシステムをプログラムする方法について説明します。

インターフェースのプログラム- プラグアンドプレイ

プラグアンドプレイバーコードは、一般的に使用されるインターフェース用に設定されたスキャナをすぐに使えるようにします。

注: コードの1つをスキャンしたら、**ホスト端末の電源を入れ直し、インターフェースを有効にします。**

キーボードウェッジ

ご使用のシステムを IBM PC AT 用にプログラムし、USA キーボードと互換性のあるキーボードウェッジインターフェースを使用したい場合は、以下のバーコードをスキャンしてください。キーボードウェッジがデフォルトのインターフェースです。

注: 次のバーコードは、**キャリッジリターン (CR) サフィックスもプログラムします。**



PAP_AT.

IBM PC AT および
CR サフィックス付き互換機

ノートブックダイレクトコネクト

ほとんどのノートブックでは、**ノートブックダイレクトコネクト**バーコードをスキャンすることで、一体型キーボードと一緒にスキャナを操作できます。以下の**ノートブックダイレクトコネクト**バーコードもキャリッジリターン (CR) サフィックスをプログラムし、外部キーボードのエミュレートをオンにします (24 ページ)。



PAPLTD.

CR サフィックス付き
ノートブックダイレクト
コネクト

RS232 シリアルポート

RS232 インターフェースバーコードは、PC または端末のシリアルポートに接続するときに使用します。以下の **RS232 インターフェース**バーコードは、キャリッジリターン (CR) とラインフィード (LF) サフィックス、ボーレート、データフォーマットも以下のようにプログラムします。またこのバーコードは、トリガモードを手動に変更します。

オプション	設定
ボーレート	115,200 bps
データフォーマット	8 データビット、パリティビットなし、1 ストップビット



PAP232.

RS232 インターフェース

USB IBM SurePos

次のいずれかの「プラグアンドプレイ」コードをスキャンして、IBM SurePos (USB ハンドヘルドスキャナ) または IBM SurePos (USB テーブルトップスキャナ) インターフェース用にスキャナをプログラムします。

注: これらのコードの1つをスキャンした後、キャッシュレジスタの電源を入れ直す必要があります。



PAPSPH.

USB IBM SurePos
(USB ハンドヘルドスキャナ)
インターフェース



PAPSPT.

USB IBM SurePos
(USB テーブルトップスキャナ)
インターフェース

上記の各バーコードは、それぞれの記号に対して以下のサフィックスもプログラムします。

記号	サフィックス	記号	サフィックス
EAN 8	0C	Code 39	00 0A 0B
EAN 13	16	Interleaved 2 of 5	00 0D 0B
UPC A	0D	Code 128 *	00 0A 0B
UPC E	0A	Code 128 **	00 18 0B
		MaxiCode	00 2F 0B

* IBM 4683 ポート 5B、IBM 4683 ポート 9B HHBCR-1、IBM 4683 ポート 17 のインターフェースを使用した Code 128 用にプログラムされたサフィックス。

** IBM 4683 ポート 9 HHBCR-2 インターフェースを使用した Code 128 用にプログラムされたサフィックス。

USB PC または Macintosh キーボード

次のコードのいずれかをスキャンして、スキャナを USB PC キーボードまたは USB Macintosh キーボード用にプログラムします。これらのコードをスキャンすると、CR サフィックスも追加されます。



PAP124.

USB キーボード (PC)



PAP125.

USB キーボード (Mac)



TRMUSB134.

USB 日本語キーボード (PC)

USB HID

次のコードをスキャンして、スキャナを USB HID バーコードスキャナ用にプログラムします。



PAP131.

USB HID バーコードスキャナ

USB シリアル

Microsoft® Windows® PC を使用している場合は、[honeywell.com/PSSsoftware-downloads](https://www.honeywell.com/PSSsoftware-downloads) の Honeywell Technical Support Downloads Portal (ハネウェルテクニカルサポートダウンロードポータル) から最新のドライバをダウンロードする必要があります。ドライバは次に使用可能な COM ポート番号を使用します。Apple® Macintosh コンピュータはスキャナを USB CDC クラスデバイスとして認識し、自動的にクラスドライバを使用します。

ドライバをダウンロードした後、以下のコードをスキャンしてスキナをプログラムし、通常の RS232 ベースの COM ポートをエミュレートします。



TRMUSB130.

USB シリアル

追加の設定（ボーレートなど）は必要ありません。

注: 古いハネウェルシリアルドライバ、またはドライバがインストールされていない状態で USB シリアルバーコードをスキャンすると、バーコードをスキャンできなくなることがあります。この場合は、古いバージョンのドライバをアンインストールして最新のドライバをインストールするか、デバイスマネージャの特定のデバイスエントリを削除してください。

CTS/RTS エミュレーション



USBCTS1.

CTS/RTS エミュレーションオン



USBCTS0.

*CTS/RTS エミュレーションオフ

ACK/NAK モード



USBACK1.

ACK/NAK モードオン



USBACK0.

*ACK/NAK モードオフ

高速 USB

注: 高速 USB はケーブル CBL-500-120-S00-HS でのみ使用可能で、別途注文する必要があります。



USBSPD0.

* 高速 USB オフ



USBSPD1.

高速 USB オン

Verifone® Ruby 端末

次のプラグアンドプレイコードをスキャンして、Verifone Ruby 端末用にスキャナをプログラムします。このバーコードは、ボーレートを 1200 bps、データフォーマットを 8 データビット、マークパリティビット、1 ストップビットに設定します。また、ラインフィード (LF) サフィックスを追加し、それぞれの記号に対して以下のプリフィックスをプログラムします。

記号	プリフィクス
UPC-A	A
UPC-E	A
EAN-8	FF
EAN-13	F



PAPRBY.

Verifone Ruby の設定

Gilbarco® 端末

次のプラグアンドプレイコードをスキャンして、Gilbarco 端末用にスキャナをプログラムします。このバーコードは、ボーレートを 2400 bps、データフォーマットを 7 データビット、偶数パリティ、2 ストップビットに設定します。さらにキャリッジリターン (CR) サフィックスを追加し、それぞれの記号に対して以下のプリフィックスをプログラムします：

記号	プリフィクス
UPC-A	A
UPC-E	E0
EAN-8	FF
EAN-13	F



PAPGLB.

Gilbarco の設定

ハネウェルバイオプティック Aux ポート

以下のプラグアンドプレイコードをスキャンして、ハネウェルバイオプティックスキャナ Aux ポート構成用にスキャナをプログラムします。このバーコードは、ボーレートを 38400 bps、データフォーマットを 8 データビット、パリティなし、1 ストップビットに設定します。



PAPBIO.

ハネウェルバイオプティック設定

Datalogic™ Magellan® Aux ポート

以下のプラグアンドプレイコードをスキャンして、Datalogic Magellan Aux ポート構成用にスキャナをプログラムします。このバーコードは、ボーレートを 9600 bps、データフォーマットを 8 データビット、パリティなし、1 ストップビットに設定します。



PAPMAG.

Datalogic Magellan の設定

Wincor Nixdorf 端末

次のプラグアンドプレイコードをスキャンして、Wincor Nixdorf 端末用にスキャナをプログラムします。このバーコードは、ボーレートを 9600 bps、データフォーマットを 8 データビット、パリティなし、1 ストップビットに設定します。



PAPWNX.

Wincor Nixdorf 端末の設定

Wincor Nixdorf Beetle™ 端末

次のプラグアンドプレイコードをスキャンして、Wincor Nixdorf Beetle 端末用にスキャナをプログラムします。それぞれの記号に対して以下のプリフィクスがプログラムされます。

記号	プリフィクス	記号	プリフィクス
Aztec コード	V	Interleaved 2 of 5	I
Codabar	N	MaxiCode	T
Code 93	L	MicroPDF417	S
Code 128	K	PDF417	Q
Data Matrix	R	QR コード	U
EAN-8	B	Straight 2 of 5 IATA	H
EAN-13	A	UPC-A	A0
GS1 DataBar	E	UPC-E	C
GS1-128	P	他のすべてのバーコード	M



PAPBTL

Wincor Nixdorf Beetle の設定

Wincor Nixdorf RS232 モード A

以下のプラグアンドプレイコードをスキャンして、Wincor Nixdorf RS232 モード A 端末用にスキャナをプログラムします。このバーコードは、ボーレートを 9600 bps、データフォーマットを 8 データビット、奇数パリティ、1 ストップビットに設定します。それぞれの記号に対して以下のプリフィクスがプログラムされます。

記号	プリフィクス	記号	プリフィクス
Code 128	K	EAN-13	A
Code 93	L	GS1-128	K
Codabar	N	Interleaved 2 of 5	I
UPC-A	A0	Straight 2 of 5 IATA	H
UPC-E	C	GS1 DataBar	E
EAN-8	B		
他のすべてのバーコード	M		



PAPWMA

Wincor Nixdorf RS232
モード A の設定

国別キーボードレイアウト

インターフェースが USB キーボードまたはキーボードウェッジの場合、キーボード配列のデフォルトは US キーボードです。このレイアウトを変更するには、下の該当する国別キーボードバーコードをスキャンします。デフォルトでは、各国の文字置換は次の文字に使用されます：**# \$ @ [¥] ^ ' { }** ～.各国の文字置換を見るには、[ISO 2022/ISO 646 文字置換](#)（302 ページ）をご覧ください。

国別キーボード



KBDCTY0.

*United States



KBDCTY35.

Albania



KBDCTY81.

Azeri (Cyrillic)



KBDCTY80.

Azeri (Latin)



KBDCTY82.

Belarus



KBDCTY1.

Belgium



KBDCTY33.

Bosnia



KBDCTY16.

Brazil



KBDCTY59.

Brazil (MS)



KBDCTY52.

Bulgaria (Cyrillic)

国別キーボード (続き)



KBDCTY53.
Bulgaria (Latin)



KBDCTY18.
Canada (French)



KBDCTY32.
Croatia



KBDCTY40.
Czech (Programmers)



KBDCTY38.
Czech (QWERTZ)



KBDCTY11.
Dutch (Netherlands)



KBDCTY54.
Canada (French legacy)



KBDCTY55.
Canada (Multilingual)



KBDCTY15.
Czech



KBDCTY39.
Czech (QWERTY)



KBDCTY8.
Denmark



KBDCTY41.
Estonia

国別キーボード (続き)



KBDCTY83.

Faroese



KBDCTY3.

France



KBDCTY4.

Germany



KBDCTY64.

Greek (220 Latin)



KBDCTY65.

Greek (319 Latin)



KBDCTY63.

Greek (Latin)



KBDCTY2.

Finland



KBDCTY84.

Gaelic



KBDCTY17.

Greek



KBDCTY61.

Greek (220)



KBDCTY62.

Greek (319)



KBDCTY66.

Greek (MS)

国別キーボード (続き)



KBDCTY60.

Greek (Polytonic)



KBDCTY50.

Hungarian (101 key)



KBDCTY75.

Iceland



KBDCTY56.

Italian (142)



KBDCTY28.

Japan ASCII



KBDCTY79.

Kyrgyz (Cyrillic)



KBDCTY12.

Hebrew



KBDCTY19.

Hungary



KBDCTY73.

Irish



KBDCTY5.

Italy



KBDCTY78.

Kazakh



KBDCTY14.

Latin America

国別キーボード (続き)



KBDCTY42.

Latvia



KBDCTY44.

Lithuania



KBDCTY34.

Macedonia



KBDCTY86.

Mongolian (Cyrillic)



KBDCTY20.

Poland



KBDCTY58.

Polish (Programmers)



KBDCTY43.

Latvia (QWERTY)



KBDCTY45.

Lithuania (IBM)



KBDCTY74.

Malta



KBDCTY9.

Norway



KBDCTY57.

Polish (214)



KBDCTY13.

Portugal

国別キーボード (続き)



KBDCTY25.

Romania



KBDCTY67.

Russian (MS)



KBDCTY21.

SCS



KBDCTY36.

Serbia (Latin)



KBDCTY49.

Slovakia (QWERTY)



KBDCTY31.

Slovenia



KBDCTY26.

Russia



KBDCTY68.

Russian (Typewriter)



KBDCTY37.

Serbia (Cyrillic)



KBDCTY22.

Slovakia



KBDCTY48.

Slovakia (QWERTZ)



KBDCTY10.

Spain

国別キーボード (続き)



KBDCTY51.
Spanish variation



KBDCTY29.
Switzerland (French)



KBDCTY85.
Tatar



KBDCTY24.
Turkey Q



KBDCTY7.
United Kingdom



KBDCTY88.
United States (Dvorak left)



KBDCTY23.
Sweden



KBDCTY6.
Switzerland (German)



KBDCTY27.
Turkey F



KBDCTY76.
Ukrainian



KBDCTY87.
United States (Dvorak)



KBDCTY89.
United States (Dvorak right)

国別キーボード (続き)



KBDCTY30.

United States (International)



KBDCTY77.

Uzbek (Cyrillic)

キーボードウェッジ修飾子

ALT モード

バーコードに拡張 ASCII チャートの特殊文字が含まれている場合 (たとえばアクセント記号付きの e (è) など)、ALT モードを使用します。([拡張 ASCII 文字](#) (299 ページ) 参照。)

注: 該当するキーボードの国コードをスキャンした後、ALT モードのバーコードをスキャンしてください。

ALT キーと 3 文字または 4 文字のキー入力が必要な場合は、**3 文字** または **4 文字** バーコードをスキャンしてください。その後、データは 00~255 の値の特殊文字とともに出力されます。デフォルト= オフ。



KBDALT0.

* オフ



KBDALT6.

3 文字



KBDALT7.

4 文字

キーボードスタイル

Caps Lock や Shift Lock などのキーボードスタイルをプログラムします。 [キーボード変換](#) 設定を使用した場合、以下のキーボードスタイル設定に優先されます。デフォルト=標準。

通常 Caps Lock キーをオフにする場合は、**標準**を使用します。



KBDSTY0.

*標準

通常 Caps Lock キーをオンにする場合は、**Caps Lock** を使用します。



KBDSTY1.

Caps Lock

通常 Shift Lock キーをオンにする場合（U.S.キーボードにはありません）は、**Shift Lock** を使用します。



KBDSTY2.

Shift Lock

Caps Lock キーのオン/オフを変更する場合は、**自動 Caps Lock** を使用します。Caps Lock がオンであるかオフであるかをソフトウェア的に追跡および反映させます。これは、Caps Lock の状態を表す LED が付いているシステム（AT キーボード）でのみ選ぶことができます。



KBDSTY6.

自動 Caps Lock

NumLock を介した Autocaps のバーコードは、Caps Lock キーを Caps Lock の切り替えに使用できない国（例えば、ドイツ、フランス）でスキャンする必要があります。NumLock オプションは通常の Autocaps と同様に機能しますが、NumLock キーを使用して Caps Lock の現在の状態を取得します。



KBDSTY7.

Autocaps via NumLock

外部キーボード（IBM AT または同等品）がない場合は、**外部キーボードのエミュレーション**をスキャンする必要があります。



KBDSTY5.

外部キーボード
エミュレーション

注: 外部キーボードのエミュレーションのバーコードをスキャンしたら、コンピュータの電源を入れ直す必要があります。

キーボード変換

アルファベットのキーボード文字を強制的にすべて大文字またはすべて小文字にすることができます。したがって、「abc569GK」というバーコードがある場合、**すべての文字を大文字に変換**をスキャンして出力を「ABC569GK」にしたり、**すべての文字を小文字に変換**をスキャンして出力を「abc569gk」にしたりできます。

これらの設定は**キーボードスタイル**の選択に優先します。

注: インターフェイスがキーボードウェッジの場合は、最初に**自動 Caps Lock** (24 ページ) をスキャンします。そうしないと、出力が期待通りにならないことがあります。

デフォルト= キーボード変換オフ。



KBDCNV0.

*キーボード変換オフ



KBDCNV1.

すべての文字を大文字に変換



KBDCNV2.

すべての文字を小文字に変換

文字出力制御

これを選ぶと、制御文字の代わりにテキスト文字列を送信します。たとえば、キャリッジリターンの制御文字が出力される場合、出力には 0D の ASCII コードではなく [CR] が表示されます。[ASCII 変換チャート \(コードページ 1252\)](#) (298 ページ) を参照してください。コード 00~1F のみに変換されます (チャートの最初の列)。デフォルト= オフ。

注: *Control + X (Control + ASCII)* モードはこのモードに優先します。



KBDNPE1.

文字出力制御オン



KBDNPE0.

*文字出力制御オフ

キーボード修飾子

これにより、CTRL+ ASCII コードやターボモードなどの特殊なキーボード機能が変更されます。

Control + X (Control + ASCII) モードオン： スキャナは、00～1F の値に対する ASCII 制御文字のキーの組み合わせを送信します。Windows が推奨モードです。すべてのキーボードの国コードがサポートされています。DOS モードは従来のモードであり、すべてのキーボードの国別コードをサポートしていません。新しいユーザーは Windows モードを使う必要があります。CTRL+ X の値については、[ASCII 変換チャート \(コードページ 1252\)](#) (298 ページ) を参照してください。

Windows モードのプリフィクス／サフィックスオフ： スキャナは値 00～1F の ASCII 制御文字のキーの組み合わせを送信しますが、プリフィクスやサフィックスの情報は変換しません。

ALT 3 桁 HEX モードをサポート： スキャナは、ALT キーと 3 桁の数字として送信される値 00 ～ 1F の ASCII 制御文字のキーの組み合わせを送信します。

デフォルト= Control + X モードオフ。



KBDCAS2.

Windows モード Control +
X モードオン



KBDCAS0.

*Control + X モードオフ



KBDCAS1.

DOS モード Control + X モードオン



KBDCAS3.

Windows モードのプリフィクス／サ
フィックス



KBDCAS4.

DOS モード Control + X モードオン
(Windows モードのプリフィクス／
サフィックス付き)



KBDCAS5.

ALT 3 桁 HEX モードをサポート

ターボモード：スキャナはより速く文字を端末に送信します。端末が受け取る文字が欠落した場合は、ターボモードを使用しないでください。デフォルト= オフ。



KBDTMD1.

ターボモードオン



KBDTMD0.

*ターボモードオフ

数字キーボードモード：数字キーボードからの入力にしたがって数字を送信します。デフォルト= オフ。



KBDNPS1.

数字キーボードモードオン



KBDNPS0.

*数字キーボードモードオフ

自動ダイレクトコネクトモード：これは、IBM AT スタイルの端末において、システムが受け取った文字が欠落している場合に使用できます。デフォルト= オフ。



KBDADC1.

自動ダイレクトコネクト
モードオン



KBDADC0.

*自動ダイレクトコネクト
モードオフ

RS232 修飾子

RS232 ボーレート

ボーレートは、指定された速度でスキャナから端末にデータを送信します。ホスト端末は、スキャナと同じボーレートに設定する必要があります。デフォルト=115,200。



232BAD0.

300



232BAD1.

600



232BAD2.

1200



232BAD3.

2400



232BAD4.

4800



232BAD5.

9600



232BAD6.

19200



232BAD7.

38400



232BAD8.

57,600



232BAD9.

* 115,200

RS232 ワード長：データビット、ストップビット、パリティ

Data Bits（データビット）は、1文字あたり7または8ビットデータにワード長を設定します。アプリケーションで ASCII Hex 文字 0~7F 10 進数（テキスト、数字、句読点）のみが必要な場合は、7データビットを選択します。完全な ASCII セットの使用を必要とするアプリケーションの場合は、1文字あたり8データビットを選択します。デフォルト = 8。

Stop Bits（ストップビット）は、ストップビットを1または2に設定します。デフォルト=1。

Parity（パリティ）は、文字のビットパターンの有効性をチェックする手段を提供します。デフォルト= なし。



232WRD3.

7データ、1ストップ、パリティ偶



232WRD0.

7データ、1ストップ、
パリティなし



232WRD6.

7データ、1ストップ、パリティ奇



232WRD4.

7データ、2ストップ、
パリティ偶



232WRD1.

7データ、2ストップ、
パリティなし



232WRD7.

7データ、2ストップ、
パリティ奇



232WRD5.

8データ、1ストップ、パリティ偶



232WRD2.

*8データ、1ストップ、
パリティなし



232WRD8.

8 データ、1 ストップ、パリティ奇



232WRD14.

8 データ、1 ストップ、
パリティマーク

RS232 受信機タイムアウト

本機は、RS232 レシーバのタイムアウト時間が経過するまで、データの受信を待機します。手動トリガまたはシリアルトリガがタイムアウトをリセットします。RS232 レシーバがスリープ状態のとき、文字を送信してレシーバを復帰させ、タイムアウトをリセットすることができます。CTS ライン上のトランザクションもレシーバを復帰させます。レシーバが完全に復帰するまでに 300 ミリ秒かかります。RS232 レシーバのタイムアウトを変更するには、以下のバーコードをスキャンし、[プログラミングチャート](#) (309 ページ以降) から数字をスキャンし、**保存**をスキャンします。範囲は 0~300 秒です。デフォルト=0 秒 (タイムアウトなし-常にオン)。



232LPT.

RS232 レシーバタイムアウト

RS232 ハンドシェイク

RS232 ハンドシェイクは、ホストデバイスからのソフトウェアコマンドを使用して、スキャナからのデータ送信の制御を可能にします。RTS/CTS をオフにすると、データフロー制御は使用されません。

フロー制御、タイムアウトなし： スキャナは、送信するデータがある場合に RTS をアサートし、ホストによって CTS がアサートされるまで無期限に待機します。

2 方向フロー制御： スキャナは、ホストが送信するのに問題がなければ RTS をアサートします。ホストは、デバイスの送信に問題がなければ CTS をアサートします。

タイムアウトによるフロー制御： スキャナは、送信するデータがある場合に RTS をアサートし、ホストによって CTS がアサートされるまで遅延時間 ([RS232 タイムアウト](#) (31 ページ) 参照) だけ待機します。遅延時間が経過しても CTS がアサートされていない場合、デバイス送信バッファはクリアされ、スキャンが再開されることがあります。デフォルト=RTS/CTS オフ。



232CTS1.

フロー制御、タイムアウトなし



232CTS2.

2 方向フロー制御



232CTS3.

タイムアウトによるフロー制御



232CTS0.

*RTS/CTS オフ

RS232 タイムアウト

Flow Control with Timeout (タイムアウトによるフロー制御) を使用する場合は、ホストからの CTS を待つための遅延の長さをプログラムする必要があります。以下のバーコードをスキャンし、タイムアウトの長さ (ミリ秒単位) を設定します。次に、**プログラミングチャート** (309 ページ以降) から数字をスキャンしてタイムアウト (1~5100 ミリ秒) を設定し、**保存** をスキャンしてください。



232DEL.

RS232 タイムアウト

XON/XOFF

標準の ASCII 制御文字を使用して、データ送信の開始 (XON/XOFF オン) またはデータ送信の停止 (XON/XOFF オフ) をスキャナに指示できます。ホストがスキャナに XOFF 文字 (DC3、Hex 13) を送信すると、データ送信が停止します。送信を再開するために、ホストは XON 文字 (DC1、Hex 11) を送信します。XOFF が送信されたときに OFF となった位置でデータ通信が続行されます。デフォルト=XON/XOFF オフ。



232XON1.

XON/XOFF オン



232XON0.

*XON/XOFF オフ

ACK/NAK

データ送信後、スキャナはホストからの ACK 文字 (hex 06) または NAK 文字 (hex 15) の応答を待ちます。ACK を受信すると、通信サイクルが完了し、スキャナはさらにバーコードを探します。NAK を受信すると、最後のバーコードデータセットが再送信され、スキャナは再び ACK/NAK を待ちます。

以下の **ACK/NAK オン** のバーコードをスキャンして、ACK/NAK プロトコルをオンにします。プロトコルをオフにするには、**ACK/NAK オフ** をスキャンします。デフォルト= ACK/NAK オフ。



232ACK1.

ACK/NAK オン



232ACK0.

*ACK/NAK オフ

スキャナとバイオプティック通信

以下の設定は、ハネウェルスキャナとバイオプティックスキャナ間の通信を設定するために使用されます。

注: バイオプティックスキャナと通信するためには、スキャナのボーレートを **38400** に設定し、**RS232 タイムアウト** を **3000** に設定する必要があります。詳しくは、**RS232 修飾子** (28 ページ) および **RS232 タイムアウト** (31 ページ) を参照してください。

スキャナ-バイオプティックパケットモード

バイオプティックスキャナと互換性があるようにスキャナのフォーマットを設定するには、**パケットモードオン** をスキャンする必要があります。デフォルト= パケットモードオフ。



232PKT0.

*パケットモードオフ



232PKT2.

パケットモードオン

スキャナ-バイオプティック ACK/NAK モード

バイオプティック ACK/NAK オンをスキャンする必要があり、スキャナは各パッケージが送信された後、バイオプティックスキャナからの ACK または NAK を待ちます。スキャナ-バイオプティック ACK/NAK タイムアウト（下記）は、スキャナが応答を待つ時間を制御します。デフォルト = バイオプティック ACK/NAK オフ。



232NAK0.

* バイオプティック ACK/NAK オフ



232NAK1.

バイオプティック ACK/NAK オン

スキャナ-バイオプティック ACK/NAK タイムアウト

これにより、バイオプティックスキャナの ACK/NAK 応答のタイムアウトの長さ（ミリ秒）を設定することができます。以下のバーコードをスキャンし、[プログラミングチャート](#)（309 ページ以降）から数字を読み取ってタイムアウト（1~30,000 ミリ秒）を設定して、**保存**をスキャンしてください。デフォルト=5100。



232DLK.

ACK/NAK タイムアウト

3

章

コードレスシステムの操作

本章は、1962x シリーズスキャナを対象にしています。

コードレス充電ベース／アクセスポイントの仕組み

充電通信ベースまたはアクセスポイントは、コードレススキャナとホストシステム間を接続します。ベース/アクセスポイントには、インターフェースアセンブリと RF 通信モジュールが含まれています。RF 通信モジュールは、コードレススキャナとインターフェースアセンブリ間のデータ交換を行います。コントロールアセンブリは、ホストシステムとのコマンドおよびデータの送受信、ソフトウェアアクティビティ（パラメータ・メニュー作成、ビジュアルインジケータサポート、パワーオン診断）の実行、ホストシステムに必要なデータ変換など、セントラルインターフェースのアクティビティを調整します。

コードレスベースは、スキャナのバッテリーまたはバッテリーレススーパーキャパシタ充電器でもあります。追加情報については、[推奨バッテリー](#)（41 ページ）を参照してください。

スキャナをベースにリンクする

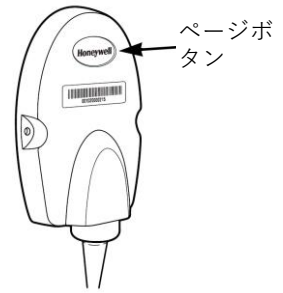
ベースを接続する前に電源をオフにし、ベースが完全に接続されたらコンピュータの電源をオンにします。ベースが接続され電源が入ったら、スキャナをベースに置いてリンクを確立します。

スキャナとベースが以前リンクされたことがある場合は、フィードバックはありません。スキャナとベースが初めてリンクされた場合は、無線がつながると両方のデバイスが短いチャープ音を発します。この時点で、その 1 つのスキャナが 1 つのベースにリンクしています。

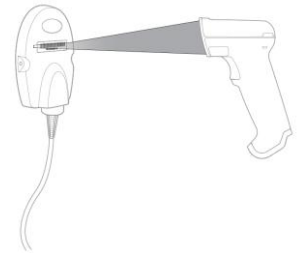
スキャナとベースが正しくリンクされているかどうかを確認するには、[307 ページ](#)から始まるサンプルバーコードのいずれかをスキャンします。スキャナが良好な読み取りピープ音を 1 回発し、緑色の LED が点灯すれば、スキャナはベースと正常にリンクしています。エラー音が鳴り、赤色 LED が点灯した場合は、スキャナがベースとリンクしていません。トラブルシューティングについては [293 ページ](#)を参照してください。

スキャナをアクセスポイントにリンクする

コンピュータ（ラップトップ／デスクトップ）の電源を入れます。インターフェースケーブルをまずアクセスポイントに差し込み、次にコンピュータの適切なポートに差し込みます。ホストとの接続が完了すると、ページボタンが点灯します。



アクセスポイントの上部にあるリンク用バーコードをスキャンして、アクセスポイントとスキャナ間の接続を確立します。スキャナは短いビープ音を発し、緑色の LED を点滅させてアクセスポイントとの接続を確認します。アクセスポイントのページボタンは青色のままです。



リンクスキャナの交換

ベースまたはアクセスポイントにリンクされているスキャナが壊れたり紛失したりして交換する必要がある場合は、新しいスキャナで下の**ロックされたスキャナの上書き**バーコードをスキャンし、そのスキャナをベースに置くか、アクセスポイントをリンクするバーコードをスキャンします。ロックされたリンクが上書きされ、故障または紛失したスキャナとベースまたはアクセスポイントとのリンクが削除され、新しいスキャナがリンクされます。



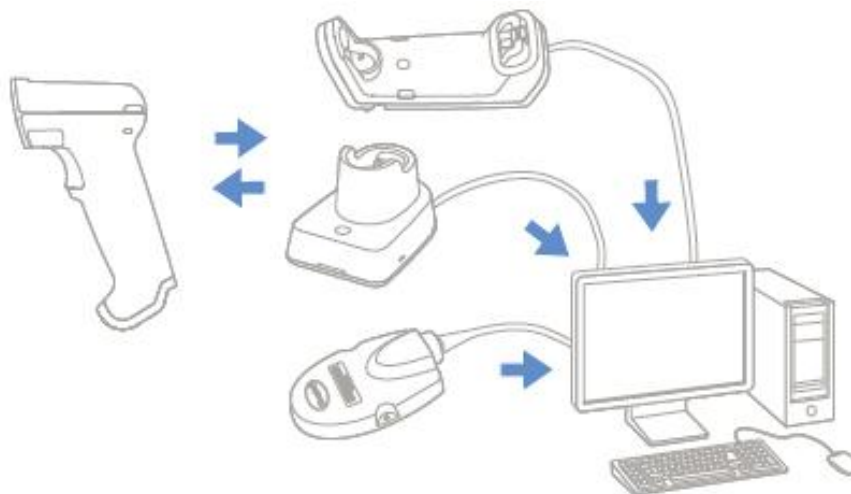
BT_RPL1.

ロックされたスキャナの上書き
(シングルスキャナ)

コードレスシステムとホスト間の通信

コードレススキャナは、スキャナの緑色 LED とビープ音による「読み取り良好」表示という形で、フィードバックを即座に提供します。プログラムされている場合は、スキャナは振動もします。これは、バーコードが正しくスキャンされ、ベースまたはアクセスポイントがデータの受信を確認したことを表しています。これは、コードレスシステムがスキャナとベースまたはアクセスポイントとの間で双方向通信を提供しているため、可能になります。

データがスキャンされると、データはベースまたはアクセスポイントを経由してホストシステムに送信されます。コードレススキャナは、ベースまたはアクセスポイントからのデータ確認応答（ACK）を認識します。データがベースまたはアクセスポイントに正しく送信されたと判断できない場合、スキャナはエラー表示をします。その後、スキャンしたデータがホストシステムで受信されたかどうかを確認する必要があります。



1. スキャナはコードを読み取り、ベースまたはアクセスポイントから ACK を取得します。
2. ベースまたはアクセスポイントは、ホストへデータを送信します。

スキャナとベースまたはアクセスポイントをプログラムする

スキャナとベースまたはアクセスポイントをシステムとして一緒に使用する場合、メニューパラメータと構成設定はベースまたはアクセスポイントに保存されます。そのため、メニュー構成設定をプログラムする場合は、スキャナを目的のベースまたはアクセスポイントにリンクする必要があります。

注: これは、スキャナがベースまたはアクセスポイントにリンクされている場合にのみ適用されます。スキャナが非ベースモードの場合、構成設定はスキャナに保存されます。

RF（無線周波数）モジュールの動作

コードレスシステムは、Bluetooth™無線を使用して、スキャナとベースまたはアクセスポイント間でデータの送受信を行います。ポイント・ツー・ポイントおよびマルチポイント・ツー・シングルポイントのアプリケーション用に設計されたこの無線は、免許不要のISMバンドを使用して動作し、周波数がランダムに変化する無線信号で比較的小さなデータパケットを高速データレートで送信します。そのため、コードレスシステムは多様なデータ収集アプリケーションに非常に迅速に対応でき、ノイズの多いRF環境にも耐性があります。CCB（Bluetoothクラス1、クラス2、またはBLE）は、環境に応じて、スキャナとベースまたはアクセスポイント間の通信距離を328フィート（100m）または33フィート（10m）にします。この範囲の管理に関する情報は、[柔軟な電源管理](#)（57ページ）を参照してください。

システム条件

スキャナをベースまたはアクセスポイントに関連付ける際、スキャナが範囲外に移動する際、スキャナが範囲内に戻る際、または2つのコードレスシステム間でスキャナを交換する際に、コードレスシステムの構成要素は特定の方法で相互作用します。コードレスシステムの動作条件について以下で説明します。

リンクプロセス

スキャナがコードレスベースにセットされると、スキャナの充電状態がチェックされ、ソフトウェアが自動的にスキャナを検出し、選択されたリンクモードに応じてベースとリンクします。

アクセスポイントへのリンクに関する情報は、[スキャナをアクセスポイントにリンクする](#) (36 ページ) を参照してください。

スキャナが圏外

コードレススキャナは、バーコードデータを送信していないときでも、ベースまたはアクセスポイントと通信しています。スキャナがベースまたはアクセスポイントと数秒間通信できない場合は、圏外です。スキャナが圏外にあるときにバーコードをスキャンすると、スキャナはベースまたはアクセスポイントとの通信がないことを示すエラー音を発します。コードレスベースもアラームを鳴らすことができます。[圏外アラーム](#) (53 ページ) を参照してください。

スキャナを範囲内に戻す

スキャナ、ベース、またはアクセスポイントがリセットされた場合、またはスキャナが圏内に戻った場合、スキャナは再リンクします。スキャナが再リンクした場合、再リンク処理 (パラメータテーブルのアップロード) が完了すると、チャープ音が1回鳴ります。詳細については、[圏外アラーム](#) (53 ページ) を参照してください。

バッチモードオンでの圏外から圏内へ

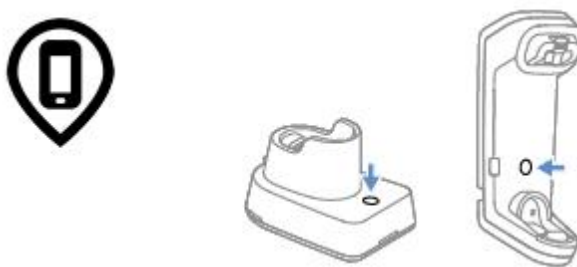
スキャナは圏外になったときに多数の記号 (U.P.C.記号は約450個、他の記号は場合によります) を保存し、圏内に戻ったときにそれらをベースまたはアクセスポイントに送信することができます。[バッチモード](#) (58 ページ) 参照。

このモードでは通信エラー音は聞こえませんが、無線通信が機能していない場合、トリガを押すと短いブザーが聞こえます。無線接続が行われると、データがベースまたはアクセスポイントに転送されている間、スキャナはビープ音を連続して発します。

Find My (ファインドマイ) ボタン

ベースの Find My (ファインドマイ) ボタンを押すと、そのベースに関連付けられているスキャナがビープ音を鳴らし始めます (短いビープ音が 3 回、長いビープ音が 1 回)。ビープ音に反応しているスキャナのトリガを押すか、ベースの Find My (ファインドマイ) ボタンを押すか、または 2 回目を押すと、関連するすべてのスキャナのビープ音が止まります。Find My (ファインドマイ) ボタンの設定について詳しくは、[ファインドマイモード](#) (48 ページ) を参照してください。

Find My (ファインドマイ) ボタンとプレゼンテーションモード



ストリーミングプレゼンテーションモードでは、スキャナの照準器は短時間で消えますが、スキャン照明は常時点灯し、継続的にバーコードを検索します ([ストリーミングプレゼンテーションモード](#) (91 ページ) 参照)。一時ストリーミングプレゼンテーションモードにあるとき、ベースの Find My (ファインドマイ) ボタンを押すと、タイムアウトが発生するまでスキャナはストリーミングプレゼンテーションモードになります。タイムアウトに達する前にバーコードがスキャンされた場合、タイマーは再スタートします。

スキャナがベース内にあるとき、Find My (ファインドマイ) ボタンを 1 回押して、スキャナを一時ストリーミングプレゼンテーションモードにします。スキャナがベース内にあり、ベースが外部電源を持っている (コンセントに差し込まれている) 場合、Find My (ファインドマイ) ボタンを 2 回押して、スキャナをストリーミングプレゼンテーションモードにします。もう一度 2 回押すと、ストリーミングプレゼンテーションモードが終了します。ベースに外部電源がない場合、Find My (ファインドマイ) ボタンを 2 回押しても、ストリーミングプレゼンテーションモードは起動しません。

スキャナがベースから外れている場合、Find My (ファインドマイ) ボタンは正常に動作します。デフォルト = 一時ストリーミングプレゼンテーションモードオン。



BEPPGE2.

*一時ストリーミングプレゼンテーション
モードオン

一時ストリーミングプレゼンテーションモードを解除するには、[ファインドマイモード](#) (48 ページ) のバーコードをスキャンします。

一時ストリーミングプレゼンテーションのタイムアウト

一時ストリーミングプレゼンテーションモードを使用しているときに、照明が点灯したままバーコードを検索する時間のタイムアウトを設定します。以下のいずれかのバーコードをスキャンして、タイムアウトの長さを設定します。デフォルト=10,000ms (10 秒)。



TRGTPM10000.

*10 秒タイムアウト



TRGTPM30000.

30 秒タイムアウト

ベースのプレゼンテーションモード



BT_PIB0.

*無効



BT_PIB1.

有効

充電情報

バッテリーまたはバッテリーレススーパーキャパシタは、スキャナがコードレスベースユニットに配置されている間に充電されるように設計されています。チャージステータスインジケータの解釈については、[スキャナの通信とスキャン](#) (42 ページ) を参照してください。スキャナをベースにリンクせずに充電する必要がある場合は、[充電専用モード](#) (51 ページ) を参照してください。

スキャナを適切な電源に接続されたベースに置きます。定格出力 5~5.2VDC、1A の、リストにある限定電源 (LPS) またはクラス 2 タイプの電源のみを使用してください。

注: AUX ポートに接続された外部電源を使用せず、インターフェースケーブル (USB ケーブルなど) を介してベースに給電する場合、充電に使用できる電流が減少し、充電時間が長くなります。

バッテリー情報

スキャナへの電力供給は、スキャナハンドルに内蔵された充電式バッテリーによって行われます。バッテリーは部分的に充電された状態で出荷されます。最適な性能を確保するため、初回使用前にバッテリーを最低 4 時間充電する必要があります。

バッテリーの推奨事項

- バッテリーはリチウムイオン電池で、満充電でなくとも使用でき、また満放電でなくとも充電でき、バッテリー寿命に影響を与えません。このタイプのバッテリーでは、充放電のコンディショニングを行う必要はありません。
- ホストを使用していないときは、ベースを電源に接続しておいてください。
- スキャナを損傷する恐れがあるため、欠陥のあるバッテリーは直ちに交換してください。
- バッテリーやデバイスを落とさないようにしてください。バッテリーおよび/またはデバイスに損傷があると思われる場合、または電源が断続的で充電に関する問題が発生している場合は、デバイスおよび/またはバッテリーの検査のために、該当するデバイスをハネウェルのサービスセンターに送ってください。
- バッテリーは何度も充電できますが、いずれは消耗します。バッテリーが十分に充電できなくなったら交換してください。
- バッテリーは定期的に交換する必要があります。機器にもよりますが、通常は 2 年で交換します。
- バッテリーまたは充電器が正常に動作しているかどうか不明な場合は、ハネウェル社または認定サービスセンターに送付し、点検を受けてください。追加の情報については、[カスタマーサポート](#) (xvii ページ) を参照してください。



注意事項：このデバイスには、ハネウェル製リチウムイオンバッテリーパック（型番 BAT-SCN11 または BAT-SCN11WC、定格 3.7VDC、7.4Whr）のみを使用してください。ハネウェル以外のバッテリーを使用すると、保証対象外の故障が発生する可能性があります。

リチウム電池に関する安全上のご注意

- ポータブルデバイスのバッテリーメンテナンスの詳細については、honeywell.com/PSS-BatteryMaintenance を参照してください。
- 電池を火の中に入れたり、加熱したりしないでください。
- バッテリーは火気の近くや高温になる場所に保管しないでください。
- バッテリーを金属物と一緒に保管したり、持ち運んだりしないでください。
- バッテリーを水にさらしたり、濡らしたりしないでください。
- 電池のプラス端子とマイナス端子を金属で接続（ショート）させないでください。
- バッテリーを突き刺したり、叩いたり、踏みつけたり、強い衝撃やショックを与えないでください。
- バッテリーを分解したり、改造したりしないでください。



注意事項：バッテリー交換を誤ると爆発の危険があります。
使用済みバッテリーは、バッテリーを廃棄する国の行政機関が指示するバッテリーのリサイクルプログラムに従って廃棄してください。

バッテリーレススーパーキャパシタの情報



注意事項：Xenon Ultra バッテリーレススーパーキャパシタは、Xenon Ultra プレゼンテーション充電/通信ベースまたは水平充電/通信ベースによってのみ充電できます。ハネウェル以外の電源を使用すると、保証対象外の故障が発生する可能性があります。

コードレススキャナへの電力供給は、スキャナハンドルに内蔵された充電式バッテリーレススーパーキャパシタによって行われます。バッテリーレススーパーキャパシタは、初期使用前に充電する必要があります。スキャナを使用しないときは、ベースに戻します。

ビープ音と LED のシーケンスと意味

スキャナには、リンク状態、デコード状態、バッテリー状態またはバッテリーレススーパーキャパシタ状態を示す LED が CCB の上部と後部にあります。ベースには、電源投入、通信、バッテリーの充電状態またはバッテリーレススーパーキャパシタの状態を示す LED がユニット上部にあります。

スキャナの通信とスキャン

スキャナは以下のフィードバックを行い、通信とスキャンの状態を示します。

LED	ビープ音	原因
通常操作		
緑色点滅	1 ビープ音	通信またはリンクの成功
赤色点滅	ラズまたはエラー音	通信障害
メニュー操作		
緑色点滅	2 ビープ音	メニュー変更に成功
赤色点滅	ラズまたはエラー音	メニュー変更に失敗

アクセスポイントの通信とスキャン

アクセスポイント（青色 LED）は以下のフィードバックを行い、通信とスキャンの状態を示します。

LED	通信状況
オフ	USB 停止
継続的にオン	電源オン、システムアイドルリング
複数のパルスで短い点滅。RF モジュールまたはホストポートとのデータ転送中に発生。	データの受信

ベースの通信とスキャン

ベースは以下のフィードバックを行い、通信とスキャンの状態を示します。

LED	通信状況
オフ	USB 停止
赤色 LED 点滅	電源オン、システムアイドルリング (スキャナを接続していない状態)
緑色 LED 点滅	電源オン、システムアイドルリング (スキャナ接続時)
緑色 LED が複数のパルスで短く点滅。RF モジュールまたはホストポートとのデータ転送中に発生。	データの受信

注: バッテリーレススーパーキャパシタスキャナがベースに装着されている間、LED ステータスはオフです。

ベース電源通信インジケータ

ベースまたはアクセスポイントの電源インジケータを表示するには、**ベース電源通信インジケータオン**のバーコードをスキャンします。電源インジケータをオフにするには、**オフ**のバーコードをスキャンします。デフォルト= オン。



BASRED1.

* ベース電源通信
インジケータオン



BASRED0.

ベース電源通信
インジケータオフ

ベース充電状況

充電中、ベースはスキャナがベース内にある間、進行状況を表示します。

充電状況	バッテリー	バッテリーレススーパーキャップ	ワイヤレス充電バッテリー	ワイヤレス充電バッテリーレススーパーキャップ
充電	緑 LED ゆっくり点滅	緑 LED ゆっくり点滅	緑 LED ゆっくり点滅	LED オフ
充電完了	緑色オン	緑色オン	緑色オン	LED オフ

バッテリーLED ステータス

スキャナには、バッテリーやバッテリーレススーパーキャパシタの状態を示す LED がユニット上部に搭載されています。

LED	充電レベル	バッテリーレススーパーキャパシタの電圧
緑	70-100%	4501-5200
アンバー	69-31%	3601-4500
赤	30-6%	3001-3600
赤の点滅	5-0%	0-3000

バッテリーLED 警告

バッテリーLED はニーズに応じてカスタマイズできます。**常にオフ**はバッテリーLED を消灯します。**常にオン**はバッテリーLED を点灯させ、常に表示します。**ベースで常にオン**は、充電レベルが切り替わる 5 秒間と、トリガを 5 秒間押した後、ベース内で白く表示されます。デフォルト = ベースで常にオン。



BTRLED0.

常にオフ



BTRLED1.

常にオン



BTRLED4.

* ベースで常にオン

低電力警告

低電力警告では、充電レベルが低下したときに、バッテリーLEDをさまざまなパターンで点滅させるようにカスタマイズできます。次のバーコードを使用して、設定されている電力範囲、1度の点滅回数、点滅間隔、警告回数、および警告間隔の設定をカスタマイズします。また、ブープ音は無音に設定することも、点滅パターンと同時に鳴らすこともできます。

低電力警告範囲

低電力警告をトリガする電力範囲を設定します。デフォルト=10%。



LPIRG210.

*低電力警告 10%



LPIRG220.

低電力警告 30%



LPIRG230.

低電力警告 30%

低電力警告点滅回数

バッテリーレススキャナのLEDをプログラムして、低電力警告のために最大9回点滅させることができます。低電力警告ブープ音(46ページ)がオンの場合、点滅するたびにブープ音が2回鳴ります。低電力の点滅回数を設定するには、以下のバーコードをスキャンし、次にプログラミングチャート(309ページ以降)の数字(1~9)のバーコードと保存をスキャンします。デフォルト=3回点滅。



LPIFNO.

低電力警告点滅回数

点滅間隔

低電力警告の LED の点滅間隔時間を秒単位で設定します。間隔を設定するには、以下のバーコードをスキャンし、次に**プログラミングチャート**（309 ページ以降）の数字（1～9）のバーコードと**保存**をスキャンします。デフォルト=点滅間隔2 秒。



LPIFDL

点滅間隔

低電力警告の繰り返し

低電力点滅パターン（点灯と間隔）を何回繰り返すかを設定します。回数を設定するには、以下のバーコードをスキャンし、次に**プログラミングチャート**（309 ページ以降）の数字（1～5）のバーコードと**保存**をスキャンします。デフォルト=1。



LPI_NO.

低電力警告の繰り返し

警告間隔

低電力警告の繰り返し（46 ページ）を 1 回を超える数に設定した場合、低電力警告間の時間を秒単位で設定できます。間隔を設定するには、以下のバーコードをスキャンし、次に**プログラミングチャート**（309 ページ以降）の数字（10～120）のバーコードと**保存**をスキャンします。デフォルト=警告間隔10 秒。



LPI_DL

警告間隔

低電力警告ビープ音

低電力警告のビープ音を鳴らしたくない場合は、**低電力警告ビープ音オフ**のバーコードをスキャンします。低電力警告設定は、ビープ音の有無にかかわらず、スキヤナの LED を点滅させます。**低電力警告ビープ音オン**ではバッテリーが 5%以下になるとスキヤナはビープ音を発し、各スキャン後にビープ音が鳴ります。デフォルト = 低電力警告ビープ音オン。



LPIBEP0.

低電力警告ビープ音オフ



LPIBEP1.

*低電力警告ビープ音オン

スキャナのリセット

このバーコードをスキャンするとスキャナが再起動し、ベースまたはアクセスポイントと再リンクします。



RESET.

スキャナのリセット

ベースクレードルでのスキャン

スキャナをベースクレードルに置いたままバーコードをスキャンしたい場合は、以下の**クレードルでのスキャンオン**のバーコードをスキャンしてください。スキャナがベースクレードルから外れているときのみスキャンを許可する場合は、**クレードルでのスキャンオフ**をスキャンします。ベースクレードルにあるときにスキャナをシャットダウンしたい場合は、**クレードルでスキャナをシャットダウン**をスキャンします。プレゼンテーションCCBのデフォルト = クレードルでのスキャンオン。水平CCBのデフォルト=クレードルでのスキャンオフ。



BT_SIC0.

クレードルでのスキャンオフ



BT_SIC1.

クレードルでのスキャンオン



BT_SIC2.

クレードルでスキャナを
シャットダウン

ベース充電モード

ベースに外部電源（補助電源ポートに接続）とホストインターフェースケーブルの両方がある場合、外部電源から電力を供給します。ベースに外部電源がない場合、インターフェースケーブルから電源を供給します。ただし、補助電源が利用可能な場合よりも、ホストインターフェースケーブルからのスキャナの充電は遅くなります。以下の選択肢を使って、ホストインターフェースケーブル経由で供給される電力でスキャナを充電するかどうか指定できます。

ベース充電オフを選択すると、スキャナがベースクレードルにあるとき、スキャナは充電されません。

外部電源またはインターフェースケーブル電源が選択されている場合、スキャナはベースの外部電源から充電されます。ベースに外部電源がない場合、スキャナはインターフェースケーブルから充電します。

外部電源のみを選択すると、スキャナはベースの外部電源からのみ充電されません。外部電源がない場合、スキャナは充電されません。

注: プレゼンテーションモードでコードレスベースを使用している場合、外部電源のみが唯一選択できる設定です。

デフォルト = 外部電源またはインターフェースケーブル電源。



BTRCHG0.

ベース充電オフ



BTRCHG1.

* 外部電源または
インターフェースケーブル電源



BTRCHG2.

外部電源のみ

Find My (ファインドマイ) ボタン

Find My (ファインドマイ) モード

デフォルトでは、ベースまたはアクセスポイントの Find My (ファインドマイ) ボタン (ページボタン) は、そのベースまたはアクセスポイントに関連付けられているスキャナを呼び出します。ベースまたはアクセスポイントの Find My (ファインドマイ) ボタンを無効にしたい場合は、以下の **ファインドマイモードオフ** のバーコードをスキャンしてください。ファインドマイモードがオフの場合、ボタンを押してもベースまたはアクセスポイントはスキャナを検索しなくなります。ベースの赤色 LED またはアクセスポイントの青色 LED は点灯したままとなり、ファインドマイモードがオフであることを示します。(ボタンが押されるとこのランプは消え、離すと再び点灯します)。デフォルト = ファインドマイモードオン。



BEPPGE1.

* ファインドマイモードオン



BEPPGE0.

ファインドマイモードオフ

Find My (ファインドマイ) のピッチ

ベースまたはアクセスポイントの Find My (ファインドマイ) ボタンを押すと、そのベースまたはアクセスポイントに関連付けられているスキャナがビープ音を鳴らし始めます (ファインドマイモード (48 ページ) 参照)。次のいずれかのバーコードをスキャンすることで、スキャナごとにファインドマイのビープ音のピッチを設定できます。デフォルト= 低。



BEPPFQ1000.

* 低 (1000 Hz)



BEPPFQ3250.

中 (3250Hz)



BEPPFQ4200.

高 (4200Hz)

エラーインジケータ

ビープ音ピッチ - ベースのエラー

ホストシステムへの送信トラブルなどのエラーが発生した場合、特定のピッチでビープ音を鳴らすようにベースを設定することができます。ビープ音ピッチコードは、エラー発生時にベースが発するエラー音のピッチ (周波数) を変更します。デフォルト= 低。



BASFQ2250.

* 低/ラズ (250 Hz)



BASFQ23250.

中 (3250Hz)



BASFQ24200.

高 (4200Hz)

ビープ音の数 - ベースのエラー

エラー状態に対してベースが発するビープ音とLED点滅の回数は、1～9の範囲でプログラムできます。たとえば、このオプションにエラービープ音が5回鳴るようにプログラムすると、エラーに反応してエラービープ音が5回、LEDが5回点滅します。エラービープ音の回数を変更するには、以下のバーコードをスキャンし、次に[プログラミングチャート](#)（309ページ以降）の数字（1～9）のバーコードと**保存**をスキャンします。デフォルト=1。



BASERR.

ベースのエラーのビープ音回数/
LED点滅回数

スキャナレポート

以下のバーコードをスキャンすると、接続されているスキャナのレポートが作成されます。レポートには、ポート、ワークグループ、スキャナ名、アドレスが表示されます。スキャナに名前を割り当てるには、[メニューコマンド構文](#)（239ページ）を参照してください。



RPTSCN.

スキャナレポート

スキャナアドレス

以下のバーコードをスキャンして、お使いのスキャナのアドレスを確認してください。



BT_LDA.

スキャナアドレス

ベースまたはアクセスポイントのアドレス

以下のバーコードをスキャンして、お使いのベースまたはアクセスポイントのアドレスを確認してください。



BASLDA.

ベースのアドレス

バッテリーおよびバッテリーレススーパーキャパシタの情報

以下のバーコードをスキャンして、バッテリーまたはバッテリーレススーパーキャパシタかを判断してください。



BTRINF.

バッテリー/バッテリーレススーパーキャパシタの情報

スキャナのモード

お使いのスキャナは、シングルスキャナモード、マルチスキャナモード、またはベースやアクセスポイント以外の Bluetooth デバイスで動作することができます。

充電専用モード

スキャナを充電したいけれどもベースとリンクしたくない場合があるかもしれません。例えば、スキャナがアクセスポイントや他の Bluetooth デバイスにリンクされていて、スキャナを充電する必要があるものの、既存のリンクを維持したい場合です。

ベースを充電専用モードにプログラムするには、スキャナをリンクする必要があります。スキャナがベースにリンクされたら、**充電専用モード**のバーコードをスキャンします。そのベースにその後置かれたスキャナは、ベースにリンクすることなく充電されます。ベースのプログラミングに使用されたスキャナは、ベースにリンクされたままです。このスキャナのリンクを解除するには、**スキャナのリンク解除** (52 ページ) をスキャンします。



BASLNK0.

充電専用モード

注: 充電専用モードでは、スキャナは定期的に起動し、ビープ音が鳴ります。この設定を変更するには、**電源投入時ビープ音** (77 ページ) を参照してください。

充電・リンクモード

スキャナの充電とベースへのリンクを行いたい場合は、充電・リンクモードを使用します。ベースが充電専用モードにプログラムされている場合、充電・リンクモードにプログラムするには、まずスキャナをリンクする必要があります。ベースのリンク用バーコードをスキャンしてスキャナをリンクし、次に**充電・リンクモード**をスキャンします。デフォルト = 充電・リンクモード。



BASLNK1.

*充電・リンクモード

リンクモード

ロック済リンクモードとオープンリンクモードは、異なるアプリケーションに対応するリンクモードです。オープンリンクとロック済リンクのモードの説明にある適切なバーコードをスキャンして、モードを切り替えます。デフォルト=オープンリンクモード。

ロック済リンクモード - シングルスキャナ

ロック済リンクモードを使用してスキャナをベースまたはアクセスポイントにリンクした場合、他のスキャナを誤ってベースに入れたり、アクセスポイントをリンクするバーコードをスキャンしたりすると、リンクがブロックされます。別のスキャナをベースに設置した場合、スキャナの充電は行われますが、スキャナはリンクされません。



BASCON0.DNG1.

ロック済リンクモード
(シングルスキャナ)

別のスキャナを使用するには、**スキャナのリンク解除**のバーコードをスキャンして元のスキャナのリンクを解除する必要があります。(スキャナのリンク解除 (52 ページ) を参照してください。)

オープンリンクモード - シングルスキャナ

出荷時または工場出荷時の設定では、スキャナはベースまたはアクセスポイントにリンクされていません。リンクは、スキャナをベースに置くか、アクセスポイントをリンクするバーコードをスキャンすると確立されます。オープンリンクモードでは、新しいスキャナをベースに置くか、アクセスポイントをリンクするバーコードをスキャンすると、新しいリンクが確立されます。スキャナがベースに設置されるか、アクセスポイントをリンクするバーコードをスキャンするたびに、スキャナはベースまたはアクセスポイントにリンクされ、古いスキャナはリンク解除されます。



BASCON1.DNG1.

* オープンリンクモード
(シングルスキャナ)

スキャナのリンク解除

ベースまたはアクセスポイントにスキャナがリンクされている場合、新しいスキャナをリンクする前に、そのスキャナをリンク解除する必要があります。以前のスキャナのリンクが解除されると、そのスキャナはベースまたはアクセスポイントと通信しなくなります。ベースまたはアクセスポイントからスキャナのリンクを解除するには、以下のスキャナのリンク解除のバーコードをスキャンします。



BT_RMV.

スキャナのリンク解除

ロックされたスキャナの上書き

ベースまたはアクセスポイントにリンクされているスキャナが壊れたり紛失したりして交換する必要がある場合は、新しいスキャナで下の**ロックされたスキャナの上書き**バーコードをスキャンし、そのスキャナをベースに置くか、アクセスポイントをリンクするバーコードをスキャンします。壊れた、または紛失したスキャナとベースまたはアクセスポイントとのリンクは削除され、新しいスキャナがリンクされます。



BT_RPL1.

ロックされたスキャナの上書き
(シングルスキャナ)

圏外アラーム

スキャナがベースから圏外になると、ベースとスキャナの両方からアラームが鳴ります。スキャナがアクセスポイントの圏外にある場合、スキャナのみからアラーム音が鳴ります。スキャナをベースまたはアクセスポイントに近づけたとき、ベースまたはアクセスポイントが別のスキャナに接続したとき、またはアラームの継続時間が終了したときに、アラームは停止します。スキャナまたはベースのアラームオプションを有効にし、アラーム時間を設定するには、以下の該当するバーコードをスキャンし、**プログラミング チャート** (309 ページ以降) で数字をスキャンすることでタイムアウト時間 (0~3000 秒) を設定し、次に**保存**をスキャンします。デフォルト = 0 秒 (アラームなし)。



BASORD.

ベースアラーム時間

注: アクセスポイントにはベースアラームがありません。



BT_ORD.

スキャナアラーム時間

注: バーコードのスキャン時に圏外の場合、アラームを設定していなくてもエラー音が鳴ります。データをベースまたはアクセスポイントまたはホストに送信できなかったため、エラー音が出ます。

アラーム音タイプ

スキャナまたはベースのアラームタイプを変更するには、以下の適切なバーコードをスキャンし、次に **プログラミング チャート** (309 ページ以降) の数字 (0~7) のバーコードと**保存**をスキャンします。デフォルト=0。

サウンドは以下の通りです：

設定	サウンド
0	長いビープ音 3 回、中ピッチ
1	長いビープ音 3 回、高ピッチ
2	短いビープ音 4 回、中ピッチ
3	短いビープ音 4 回、高ピッチ
4	チャープ 1 回、中ピッチ
5	チャープ 2 回、その後チャープ 1 回、 中ピッチ
6	チャープ 1 回、高ピッチ
7	チャープ 2 回、その後チャープ 1 回、 高ピッチ



BASORW.

ベースアラームタイプ



BT_ORW.

スキャナアラームタイプ

スキャナ電源タイムアウトタイマ

指定された時間内にアクティビティがない場合、スキャナは低電力モードに入ります。適切なスキャナ電源タイムアウトバーコードをスキャンして、タイムアウト時間（秒単位）を変更します。

- 注:** ゼロ (0) をスキャンすることは、タイムアウトを設定しないことと同等です。
- タイマー間隔の間にトリガが引かれることがない場合、スキャナはパワーダウンモードに入ります。トリガが有効になるたびに、タイマーはリセットされます。スキャナをベースに入れて充電しているときは、パワーダウンモードになりません。デフォルト=3600 秒。



BT_LPT0.

0 秒



BT_LPT400.

400 秒



BT_LPT3600.

* 3600 秒



BT_LPT200.

200 秒



BT_LPT900.

900 秒



BT_LPT7200.

7200 秒

注: スキャナがパワーダウンモードになっているときは、トリガを押して電源を再投入します。電源投入のピープ音が鳴り、無線が繋がるまで最大数秒の遅延があります。これでスキャナの使用準備は完了です。

パワーセーブモード

注: パワーセーブモードは、*Xenon Ultra* バッテリーレススキャナのみ適用されます。パワーセーブモードを**有効**にすると、スキャナはスリープモードに入ります。デフォルト = 無効。

注: スキャナがパワーセーブモードになったら、トリガを押してユニットの電源を再投入します。無線が繋がるまで最大2秒の遅延があります。これでスキャナの使用準備は完了です。



PWRDWN0.

*無効



PWRDWN1.

有効

スキャナパワーセーブタイムアウトタイマ

注: パワーセーブモードは、*Xenon Ultra* バッテリーレススキャナのみ適用されます。
アクティビティがなく、スキャナが指定時間内にベースから離れると、スキャナはパワーセーブモードに入ります。適切なバーコードをスキャンして、タイムアウト時間(秒)を変更します。 デフォルト= 300 秒。



BLESDT0.

0 秒



BLESDT60.

60 秒



BLESDT120.

120 秒



BLESDT200.

200 秒



BLESDT300.

* 300 秒



BLESDT600.

600 秒

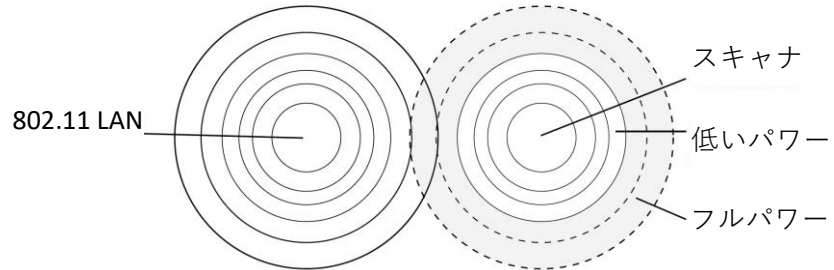


BLESDT900.

900 秒

柔軟な電源管理

ネットワークのパフォーマンスに問題があり、スキャナが他のデバイスと干渉していると思われる場合は、スキャナの出力を下げるすることができます。これにより、以下の図に示すように、スキャナとベースまたはアクセスポイントとの間でパワーが届く範囲が狭くなります：



以下のいずれかのバーコードをスキャンして、スキャナの出力を**フルパワー**（100%）、**中パワー**（35%）、**中低パワー**（5%）、または**低パワー**（1%）に設定します。デフォルト = フルパワー。

Bluetooth クラス 1 動作の場合は、フルパワーを使用してください。

Bluetooth クラス 2 動作の場合は、中パワー以下を使用してください。

BLE 動作の場合は、中パワーを使用してください。



BT_TXP100.

* フルパワー



BT_TXP35.

中パワー



BT_TXP5.

中低パワー



BT_TXP1.

低パワー

バッチモード

バッチモードは、スキャナがベースまたはアクセスポイントの圏外にあるとき、または棚卸を行うときにバーコードデータを保存するために使用されます。データがベースまたはアクセスポイントに送信されるのは、スキャナが圏内に戻ったとき、または手動で記録を送信したときです。

注: バッチモードは、ハネウェル充電通信ベース (CCB) とハネウェルアクセスポイント (AP) のみでサポートされています。バッチモードは、1つのベースまたはアクセスポイントに複数のスキャナを使用する場合に制限があります。コードレスバッテリーシステムを「マルチリンクモード」で使用する場合、最大7台のスキャナを1台のベースまたはアクセスポイントに接続できますが、スキャナが常に圏内に入ったり圏外になったりしていると、蓄積されたスキャンやバッチスキャンの一部が失われる可能性があります。コードレスのバッテリーレススーパーキャパシタシステムを「マルチリンクモード」で使用する場合、最大3台のスキャナを1つのベースまたはアクセスポイントに接続できますが、スキャナが常に圏内に入ったり圏外になったりしていると、蓄積されたスキャンやバッチスキャンの一部が失われる可能性があります。

自動バッチモードは、スキャナがベースまたはアクセスポイントの圏外にあるときにバーコードデータを保存します。スキャナが圏内に戻ると、データは自動的にベースまたはアクセスポイントに送信されます。スキャナのバッファ容量がいっぱいになると、スキャンしたバーコードにエラー音が発生します。再びバーコードをスキャンするには、データを送信できるように、スキャナをベースまたはアクセスポイントの圏内に戻す必要があります。

目録バッチモードでは、ベースまたはアクセスポイントの圏内にいるかどうかにかかわらず、バーコードデータが保存されます。保存されたデータをベースまたはアクセスポイントに送信するには、スキャナをベースに設置するか、[目録記録の送信](#) (63 ページ) をスキャンします。スキャナのバッファ容量がいっぱいになると、スキャンしたバーコードにエラー音が発生します。再度バーコードをスキャンするには、データをベースまたはアクセスポイントに送信する必要があります。データが送信されると、スキャナ内でクリアされます。

持続バッチモードは、ベースまたはアクセスポイントに送信されたデータがスキャナ内に保持される点を除き、目録バッチモードと同じです。複数回送信したい場合は、このモードを使用します。スキャナのバッファをクリアするには、[全コードのクリア](#) (62 ページ) をスキャンする必要があります。

注: 持続バッチモードは、非接触型スキャナでの使用は推奨されません。詳しくは、[テクニカルアシスタンス](#)までお問い合わせください。

デフォルト = バッチモードオフ。



BATENA0.

* バッチモードオフ



BATENA1.

自動バッチモード



BATENA2.

目録バッチモード



BATENA3.

持続バッチモード

バッチモードのビープ音

目録バッチモード（59 ページ）でスキャンする場合、バーコードがスキャンされるたびに、スキャナはビープ音を鳴らします。バッチモードのビープ音が**オン**の場合、各バーコードがホストに送信される時にクリック音が聞こえます。これらのクリック音を聞きたくない場合は、**バッチモードビープオフ**をスキャンしてください。デフォルト = バッチモードビープオン。



BATBEP0.

バッチモードビープ音オフ



BATBEP1.

* バッチモードビープオン

バッチモードストレージ

バッチモード処理中にスキャナがデータを保存する場合、データをフラッシュメモリに保存するか RAM に保存するかを選択できます。

フラッシュストレージ： スキャナは電源を切る前に、未送信のデータをフラッシュメモリに書き込みます。スキャナの電源が入ってもデータは残っています。ただし、パワーダウタイムアウトに達した場合、またはバッテリーまたはバッテリーレススーパーキャパシタの電力が非常に低下した場合、スキャナは未送信のデータがあっても電源が切れます。

RAM ストレージ： スキャナは、ベースまたはアクセスポイントに送信されていないデータを含んでいる間は、パワーダウタイムアウトに達しても、電源が切れません。しかし、スキャナの電源が切れると、パワーダウンとなり、データは失われます。

デフォルト = フラッシュストレージ。



BATNVS1.

* フラッシュストレージ



バッチモード数量

バッチモードでは、1つのバーコードを複数回送信するのではなく、スキャンした複数のバーコードの数を送信したい場合があります。例えば、**バッチモード数量オフ**でXYZというバーコードを3回スキャンした場合、データを送信するとXYZと3回表示されます。**バッチモード数量オン**と数量コード (61 ページ) を使えば、代わりに「XYZ,00003」としてデータを出力することができます。

注: バーコードデータと数量の間にCR やタブを入れるなど、出力をフォーマットしたい場合は、[データフォーマット/キューバusting](#) (129 ページ以降) を参照してください。

デフォルト = バッチモード数量オフ。



*バッチモード数量オフ



バッチモード数量オン

数量の入力

数量コード (61 ページ) では、最後にスキャンした品目の数量を最大 9999 (デフォルト = 1) まで入力できます。数量桁は右から左にシフトされるため、5桁目がスキャンされた場合、最初にスキャンされた桁は破棄され、2桁目、3桁目、4桁目は新しい桁に合わせて左に移動します。

例えば、数量が 1234 に設定された後に数量 5 のバーコードをスキャンすると、1が削除されて数量は 2345 になります。

例: 最後にスキャンした商品の数量を 5 追加します。

1. 品目のバーコードをスキャンします。
2. 数量 5 のバーコードをスキャンします。

例: 最後にスキャンした品目に対し、数量 1,500 を追加します。

1. 品目のバーコードをスキャンします。
2. 数量 1 のバーコードをスキャンします。
3. 数量 5 のバーコードをスキャンします。
4. 数量 0 のバーコードをスキャンします。

5.数量 **0** のバーコードをスキャンします。

例： 103 の数量を **10** に変更します。

誤った数量を訂正するには、数量 **0** のバーコードをスキャンして誤った桁を置き換え、次に正しい数量のバーコードをスキャンします。

1.数量 **0** のバーコードをスキャンして数量を **1030** に変更します。

2.数量 **0** のバーコードをスキャンして数量を **0300** に変更します。

3.数量 **1** のバーコードをスキャンして数量を **3001** に変更します。

4.数量 **0** のバーコードをスキャンして数量を **0010** に変更します。

デフォルト=1。

数量コード



BATNUM0.

0



BATNUM1.

*1



BATNUM2.

2



BATNUM3.

3



BATNUM4.

4



BATNUM5.

5



BATNUM6.

6



BATNUM7.

7

数量コード（続き）



BATNUM8.

8



BATNUM9.

9

バッチモード出力順序

バッチデータを送信する際、**FIFO**（先入れ先出し）または **LIFO**（後入れ先出し）のどちらで送信するかを選択します。 デフォルト = バッチモード *FIFO*。



BATLIFO.

* バッチモード FIFO



BATLIF1.

バッチモード LIFO

全記録

バッチモードでスキャンしたバーコードの総数を出力したい場合は、**全記録**をスキャンします。



BATNRC.

全記録

最後のコードを削除

バッチモードで最後にスキャンしたバーコードを削除したい場合は、**最後のコードを削除**をスキャンします。



BATUND.

最後のコードを削除

全コードを消去

バッチモードで蓄積されたすべてのデータをスキヤナのバッファから消去したい場合は、**全コードを消去**をスキャンします。



BATCLR.

全コードを消去

ホストへの記録送信

目録バッチモード（[目録バッチモード](#)（59 ページ）を参照）で操作する場合、次のバーコードをスキャンして、すべての保存データをホストシステムに送信する必要があります。



BAT_TX.

目録記録の送信

バッチモード送信遅延

蓄積したスキャンをホストシステムに送信するとき、その送信速度が速すぎてアプリケーションが処理できないことがあります。蓄積したスキャン間の送信遅延をプログラムするには、以下の遅延のいずれかをスキャンします。デフォルト= オフ。

注: ほとんどの場合、短い (250ms (ミリ秒)) 遅延が理想的ですが、より長い遅延をプログラムすることもできます。詳しくは、テクニカルサポート ([xvii ページ](#)) までお問い合わせください。



BATDLY0.

* バッチモード送信遅延オフ
(遅延なし)



BATDLY250.

バッチモード送信遅延短
(250ms)



BATDLY500.

バッチモード送信遅延中
(500ms)



BATDLY1000.

バッチモード送信遅延長
(1000ms)

複数のスキャナ操作

注 バッテリースキャナ用のマルチスキャナ操作モードでは、1つのベースまたはアクセスポイントに最大7台のスキャナをリンクできます。7台のスキャナのうち1台のリンクを解除するか、1台のスキャナを圏外に出すまで、8台目のスキャナを加えることはできません。

注 バッテリーレススーパーキャパシタスキャナ用のマルチスキャナオペレーションモードでは、1つのベースまたはアクセスポイントに最大3台のスキャナをリンクできます。3台のスキャナのうち1台のリンクを解除するか、スキャナを圏外に出すまで、4台目のスキャナを加えることはできません。

スキャナをマルチスキャナモードにするには、以下のバーコードをスキャンします。このバーコードをスキャンすると、スキャナはベースまたはアクセスポイントからリンク解除され、再度リンクするためには、ベースに設置するか、アクセスポイントをリンクするバーコードをスキャンする必要があります。



BASCON2,DNG3.

複数のスキャナ操作

スキャナ名

識別のため、使用している各スキャナに名前を付けることができます。例えば、ベースまたはアクセスポイントから送信されるイメージングコマンドを受信するスキャナに、特定の識別子を持たせたい場合があります。

デフォルトの名前は、"ScannerName_Model_SN_XXXXXXXXXX" という形式にします。1つのベースに複数のスキャナがリンクされていて、それらがすべて同じ名前である場合、ベースにリンクされた最初のスキャナがコマンドを受け取ります。同じ名前のスキャナを何台も名前変更する場合は、1台を除いてベースからリンクを解除してください。

65 ページのバーコードを使用するか、シリアルコマン

ド:**ScannerName:BT_NAMNewName.** を送信して、名前の変更操作を実行してください。ここで ScannerName は、スキャナの現在の名前、NewName はスキャナの新しい名前です。追加スキャナの名前を変更したい場合は、スキャナを1つずつリンクし、各スキャナに対してコマンド:**ScannerName:BT_NAMNewName.**を繰り返します。

スキャナの名前を連番の名前に変更するには、以下のバーコードをスキャンしてください。名前を変更するたびに**リセット**コードをスキャンし、スキャナがベースまたはアクセスポイントに再リンクするのを待ってから、次のスキャナの名前を変更するためのバーコードをスキャンします。



BT_NAM0001.

0001



BT_NAM0002.

0002



BT_NAM0003.

0003



BT_NAM0004.

0004



BT_NAM0005.

0005



BT_NAM0006.

0006



BT_NAM0007.

0007



RESET_.

リセット

下の**スキャナ名**バーコードをスキャンして、スキャナ名の番号をスキャンすることもできます。たとえば、リンクしたスキャナに「312」という名前を付けたい場合、下のバーコードをスキャンし、さらに**プログラミング チャート**（309 ページ以降）の**3、1、2**のバーコードと**保存**をスキャンします。**リセット**バーコードをスキャンし、スキャナがベースに再リンクするのを待ちます。



BT_NAM.

スキャナ名

アプリケーションワークグループ

コードレスバッテリーシステムは、1つのベースまたはアクセスポイントに最大7台のスキャナをリンクすることができます。また、最大7つのワークグループを持つことができます。コードレスのバッテリーレススーパーキャパシタシステムは、1つのベースまたはアクセスポイントに最大3台のスキャナをリンクできます。最大3つのワークグループを持つことができます。すべてのスキャナの設定を同じようにプログラムしたい場合は、複数のワークグループを使う必要はありません。各スキャナに固有の設定（ビープ音量、プリフィクス/サフィクス、データフォーマットなど）をしたい場合は、各スキャナを固有のワークグループにプログラムしてスキャナを個別にプログラムできます。例えば、小売/倉庫アプリケーションで複数の作業グループを持ちたい場合、倉庫エリアと小売エリアで使用するバーコードに異なるデータを付加する必要があるかもしれません。小売エリアにあるすべてのスキャナをある作業グループに割り当て、倉庫にあるスキャナを別の作業グループに割り当てることができます。その結果、小売エリアまたは倉庫エリアの一方だけに変更を施すと、それはその特定の作業グループに属するすべてのスキャナに適用されます。

ハネウェルのオンライン設定ツール EZConfig-Scanning (236 ページ) を使用すると、複数のスキャナと複数のワークグループで使用するシステムを簡単にプログラムできます。

スキャナは、使用しているメニュー設定のコピーを保持します。スキャナがベースまたはアクセスポイントに接続または再接続されるたびに、スキャナはそのワークグループのベースまたはアクセスポイントからの最新の設定で更新されます。スキャナは、ベースまたはアクセスポイントによって処理されたメニュー設定変更も受信します。スキャナがベースまたはアクセスポイントから削除され、別のベースに配置された場合、または別のアクセスポイントにリンクされた場合、そのスキャナが以前に割り当てられていたワークグループに対し、新しいベース/アクセスポイント設定でスキャナが更新されます。例えば、スキャナが第 1 ベースにリンクされたワークグループ 1 にあった場合、関連する設定とともに第 2 ベースのワークグループ 1 に配置されます。

アプリケーションワークグループの選定

このプログラミング選択では、以下のバーコードをスキャンすることで、スキャナをワークグループに割り当てることができます。その後、アプリケーションに必要な設定（ビープ音量、プリフィクス/サフィックス、データフォーマットなど）をプログラムすることができます。デフォルト=グループ 0。



GRPSEL0.

* グループ 0



GRPSEL1.

グループ 1



GRPSEL2.

グループ 2



GRPSEL3.

グループ 3



GRPSEL4.

グループ 4



GRPSEL5.

グループ 5



GRPSEL6.

グループ 6

工場出荷時のデフォルトへのリセット：すべてのアプリケーション作業グループ

以下のバーコードは、すべてのワークグループを工場出荷時のデフォルト設定にします。



PAPDFT&

工場出荷時のデフォルト設定：
すべてのワークグループ

工場出荷時のデフォルト設定を確認するには、[メニューコマンド](#)（244 ページ以降）の表を参照してください。各コマンドの標準的な製品のデフォルト設定は、アスタリスク（*）で示されています。

注 このバーコードをスキャンすると、スキャナとベースまたはアクセスポイントの両方がリセットを実行し、リンクが解除されます。リンクを再確立するには、スキャナをベースに設置するか、アクセスポイントをリンクするバーコードをスキャンする必要があります。追加の情報については、[スキャナモード](#)（51 ページ）を参照してください。

スキャナがマルチスキャナモードの場合、すべてのスキャナがベースまたはアクセスポイントに再リンクされ、設定が変更される間、最大 30 秒間ビープ音が鳴ります。

カスタムデフォルトのリセット：すべてのアプリケーション作業グループ

カスタムデフォルト設定をすべてのワークグループに復元したい場合は、以下の**カスタム製品デフォルト設定**バーコードをスキャンしてください。（カスタムデフォルトがない場合、ワークグループは工場出荷時のデフォルトにリセットされます。）カスタムデフォルトの詳細については、7 ページの「カスタムデフォルトの設定」を参照してください。



PAPDFT.

カスタムデフォルト設定：
すべてのワークグループ

注 このバーコードをスキャンすると、スキャナとベースまたはアクセスポイントの両方がリセットを実行し、リンクが解除されます。リンクを再確立するには、スキャナをベースに設置するか、アクセスポイントをリンクするバーコードをスキャンする必要があります。追加の情報については、[スキャナモード](#)（51 ページ）を参照してください。

スキャナがマルチスキャナモードの場合、すべてのスキャナがベースまたはアクセスポイントに再リンクされ、設定が変更される間、最大 30 秒間ビープ音が鳴ります。

Bluetooth デバイスでスキャナを使用する

スキャナは、ベース、アクセスポイント、または他の Bluetooth デバイスのいずれとも使用できます。これらの機器には、パソコン、ノートパソコン、PDA、ハネウェル社のモビリティシステム機器などが含まれます。

Bluetooth セキュアシンプルペアリング (SSP)

セキュアシンプルペアリング (SSP) により、PIN コードを入力することなく (Bluetooth HID キーボード接続の手順に記載)、他の Bluetooth デバイスと簡単かつ安全に接続することができます。SSP は、Bluetooth バージョン 2.1 以上を使用している場合のみ利用可能です。SSP がオンの場合、ペアリングに PIN は必要ありません。互換性のある Bluetooth バージョンを使用していない Bluetooth デバイスに接続する場合は、SSP をオフにします。デフォルト = Bluetooth SSP オン。



BT_SSP1.

* Bluetooth SSP オン



BT_SSP0.

Bluetooth SSP オフ

Bluetooth HID キーボード接続

スキャナは、パソコン、ノートパソコン、タブレットなどの Bluetooth 対応機器とペアリングすることができ、スキャンしたデータは、キーボードで入力したかのように機器の画面に表示されます。Bluetooth デバイスとペアリングするには：

1. 以下の該当する **Bluetooth HID キーボード接続** バルコドをスキャンしてください。



PAPBTH.

Bluetooth HID キーボード接続



PAPJKB.

Bluetooth HID 日本語
キーボード接続

2. パソコン、ノートパソコン、タブレットが他の Bluetooth デバイスを検索するように設定します。(ペアリング方法については、お使いのデバイスのユーザーガイドを参照してください。)
3. デバイス上のスキャナ名を選択します。一部のデバイスは自動的にスキャナとペアリングします。デバイスがスキャナと自動的にペアリングする場合は、ペアリング成功のメッセージが表示され、次のステップに進む必要はありません。

4. デバイスがスキャナと自動的にペアリングしない場合は、PIN が表示されます。この PIN は 60 秒以内にスキャンしなければなりません。以下の **Bluetooth PIN コード** を素早くスキャンし、次に **プログラミングチャート** (309 ページ以降) の適切な数字のバーコードと **保存** をスキャンします。



BT_PIN.

Bluetooth PIN コード

仮想キーボード

スキャナを iPad、スマートフォン、ノートパソコンに直接接続すれば、スキャナのトリガを素早く 2 回引くだけで、デバイスの仮想キーボードを切り替えることができます。

Bluetooth HID キーボードの切断

スキャナを iPad、スマートフォン、またはノートパソコンに直接接続している場合は、ベースまたはアクセスポイントと再度通信するために、接続を解除する必要があります。**Bluetooth HID キーボードの切断** のバーコードをスキャンして、現在リンクされているホストからスキャナのリンクを解除します。ベースまたはアクセスポイントのリンクバーコードをスキャンして、スキャナを再リンクします。



PAPSPP.

Bluetooth HID キーボードの切断

Bluetooth シリアルポート - PC/ノート PC

以下の **非ベース BT 接続** バーコードをスキャンすると、スキャナのリンクが解除され、検出可能な状態になります。スキャナが Bluetooth ホストを検索して接続すると、スキャナは接続をホストデバイスアドレスに保存し、仮想 COM ポートを切り替えます。これにより、接続が失われた場合、スキャナは自動的にホストに再接続することができます。



BT_TRM0;BT_DNG5.

非ベース BT 接続

PDA/モビリティシステムデバイス

PDA やハネウェルモビリティシステムのデバイスでスキャナを使用することもできます。以下のバーコードをスキャンし、Bluetooth 機器に付属の説明書に従ってスキャナを探し、接続してください。



BT_TRM0;BT_DNG1.

BT 接続 - PDA/モビリティシステムデバイス

スキャナの Bluetooth PIN コードを変更する

デバイスによっては、Bluetooth のセキュリティ機能の一部として PIN コードが必要なものもあります。スキャナのデフォルト PIN は **1234** で、PDA または PC に初めて接続するときに入力する必要があります。PIN コードは 1 文字以上 16 文字以下で入力してください。PIN を変更するには、以下のバーコードをスキャンし、次に **プログラミングチャート** (309 ページ以降) の適切な数字のバーコードと **保存** をスキャンします。



BT_PIN.

Bluetooth PIN

Bluetooth/ISM バンドのネットワークアクティビティの最小化

以下に説明する設定では、コードレスエリアイメージングシステムの再リンク動作をカスタマイズできますが、これにより利便性と低干渉性の間で最適な妥協点を探ることができます。

注: ISM バンドは、ワイヤレスネットワーク、コードレス電話、Bluetooth で使用される 2.4 ~2.48GHz の周波数帯を指します。

自動再接続モード

自動再接続は、接続の切断が検出されたときにスキャナが自動的に再接続プロセスを開始するかどうかを制御します。**自動再接続オン**のバーコードをスキャンすると、スキャナはユーザーの介入なしに直ちに再接続プロセスを開始します。デフォルト = **自動再接続オン**。



BT_ACM1.

* 自動再接続オン



BT_ACM0.

自動再接続オフ

以下の表は、自動再接続のオンとオフの設定結果を示しています：

イベント	自動再接続オン	自動再接続オフ
スキャナが圏外	再リンクは自動的に行われます。最大リンク試行回数が失敗した場合は、トリガを引くか、スキャナをベースに置くか、アクセスポイントをリンクするバーコードをスキャンして、スキャナを再リンクする必要があります。（71 ページの「最大リンク試行回数」を参照してください。）	トリガを引くか、アクセスポイントをリンクするバーコードをスキャンすることで、スキャナは再リンクされます。
ベースまたはアクセスポイントのリセット（ファームウェアのアップグレードまたは電源の再投入）	スキャナは圏外にあるかのように動作します。	ベースまたはアクセスポイントの電源がオフの間は、再リンクを試みません。再リンクを開始するにはトリガを引く必要があります。
電源タイムアウトタイマ設定によるスキャナのパワーダウン	再リンクするには、トリガを引くか、アクセスポイントをリンクするバーコードをスキャンするか、スキャナをベースユニットに設置する必要があります。（注:スキャナは電源投入時に再リンクしますが、上記のいずれかの動作により電源が入ります。）	
ファームウェアのアップグレードによるスキャナのリセット	再リンクは自動的に行われます。	
バッテリーまたはバッテリーレススーパーキャパシタの交換によるスキャナのリセット	再リンクは自動的に行われます。	
スキャナを別のベースユニットに設置	新しいベースへの再リンクは自動的に行われます。	

最大リンク試行回数

最大リンク試行回数の設定は、スキャナがベースまたはアクセスポイントとの接続を試行する回数を制御します。接続セットアッププロセス中、スキャナはベースまたはアクセスポイントを検索して接続するために送信を行います。ISM バンドの他のユーザーと干渉する可能性のある連続送信を防ぐため、この設定によって接続の試行回数が制限されます。最大試行回数に達すると、スキャナはベースまたはアクセスポイントへの再接続を試みなくなります。トリガを押すか、アクセスポイントをリンクするバーコードをスキャンするか、スキャナをクレードルに置くと、試行カウントがリセットされ、スキャナは再びリンクを試みます。

最大リンク試行回数のバーコードをスキャンし、次に**プログラミングチャート**（309ページ以降）にある設定のための試行回数（0～100回）と**保存**をスキャンします。デフォルト=0。



BT_MLA

最大リンク試行回数

注: 自動再接続モードがオンの場合、最大リンク試行回数をゼロに設定すると、スキャナは電源タイムアウトタイマの設定が切れるまでリンクを試みます。自動再接続モードがオフの場合、最大リンク試行回数を0に設定すると、スキャナはトリガを押してから1回だけリンクを試みます。

再リンクタイムアウト

再リンクタイムアウトは、再リンク試行間のアイドル時間を制御します。スキャナをベースまたはアクセスポイントにリンクしようとする試みは、通常最大5秒間続きます。これは、スキャナが実際に接触を試みている時間です。再リンクタイムアウトは、1回の接続試行が終了してから次の接続試行が開始されるまでの経過時間を秒単位で制御します。

注: 試行時間は、ベースユニットまたはアクセスポイントに接続されているスキャナの数によって異なります。接続に成功した場合、7秒の延長が必要な場合があります。

再リンクタイムアウトのバーコードをスキャンし、次に**プログラミングチャート**（309ページ以降）にある設定のための秒数（1～100）と**保存**をスキャンします。デフォルト=3秒。



BT_RLT

再リンクタイムアウト

Bluetooth/ISM ネットワークアクティビティの例

デフォルト値

スキャナが圏外になると、スキャナは繰り返しベースユニットまたはアクセスポイントへの接続を試みます。各試行は、約5秒のアクティブタイムと3秒のアイドルタイムで構成されます。1時間後、スキャナの電源は切れ、バッチモードのデータは失われます。

例: 最大リンク試行回数を15に設定
デフォルト設定で他の値

スキャナが圏外になると、ベースユニットまたはアクセスポイントへのリンクを15回試みます。各試行は、約5秒のアクティブタイムと3秒のアイドルタイムで構成されます。15サイクル（ $8 \times 15 = 120$ ）、または約2分後、スキャナはベースまたはアクセスポイントへの接続を停止しますが、バッチモードで保存されたバーコードは保持されます。1時間後、スキャナの電源は切れ、バッチモードのデータは失われます。

例： 自動再接続モードを 0 に設定
最大リンク試行回数を 15 に設定
デフォルト設定で他の値

スキャナが圏外になっても、再接続のためのアクションは行われません。トリガが引かれると、ベースまたはアクセスポイントへのリンクが 15 回試みられます。各試行は、約 5 秒のアクティブタイムと 3 秒のアイドルタイムで構成されます。15 サイクル (8*15=120)、または約 2 分後、スキャナはベースまたはアクセスポイントへの接続を停止しますが、バッチモードで保存されたバーコードは保持されます。1 時間後、スキャナの電源は切れ、バッチモードのデータは失われます。再リンクプロセスを始める他のイベントについては、[自動再接続モード](#) (70 ページ) を参照してください。

例： 自動再接続モードを 1 に設定
最大リンク試行回数を 0 に設定
再リンクタイムアウトを 10 に設定
スキャナ電源のタイムアウトタイマを 1800 に設定

注： [スキャナ電源タイムアウトタイマ](#) (54 ページ) を参照してください。

スキャナは、1 回の試行開始から次の試行開始までの間隔を 15 秒として、ベースまたはアクセスポイントに接続しようとしています。30 分後、スキャナの電源が切れます。

ホストの承認

一部のアプリケーションでは、ホスト端末 (またはサーバ) が受信バーコードデータ (データベース検索) を検証し、処理を続行するかどうかの承認をスキャナに送る必要があります。ホスト ACK モードでは、スキャナは各スキャン後にこの承認を待ちます。視覚的および聴覚的な承認により、スキャン操作者に貴重なフィードバックがもたらされます。ホスト ACK 機能は、スキャナに送信されるあらかじめ定義されたいくつかのエスケープコマンドによって制御され、さまざまな動作をさせることができます。

注： 9600 ボーより低いレートでホスト ACK を使用すると、システム性能が低下します。

ホスト ACK が正しく動作するためには、以下の条件が満たされていなければなりません：

- コードレスシステムは、ホストポート RS232 (ターミナル ID = 000) または USB COM エミュレーション (ターミナル ID = 130) に設定する必要があります。
- RTS/CTS はデフォルトでオフになっています。ホストシステムがそれを要求する場合は、有効にする必要があります。
- ホスト ACK は**オン** (75 ページ) に設定されていなければなりません。
- カンマはターミネータとして使用しなければなりません。

- ホスト端末ソフトウェアは、バーコードデータを解釈し、データ内容に基づいて判断し、スキャナに適切なエスケープコマンドを送信できなければなりません。エスケープコマンドは、「アプリケーションワークグループ」を介してスキャナに送られます。コマンドが送信されると、グループ内のすべてのスキャナがそのコマンドに応答します。このため、ホスト ACK モードでは、各スキャナをそれぞれのグループに割り当てることを推奨します。

スキャナが応答するコマンドは、75 ページにリストアップされています。[ESC]は16進数で1Bです。典型的なコマンド文字列はy [ESC] x です。"y"はアプリケーションワークグループ番号、"[ESC] x"はエスケープコマンド、カンマはターミネータであり、必須です。("y"が指定されない場合、コマンドはデフォルトのアプリケーションワークグループ0に送られます。)

- 例： コマンドをつなげてカスタム応答シーケンスを作成することもできます。コマンド文字列の例を以下に示します。

[ESC]4,[ESC]5,[ESC]6,

上記の例では、アプリケーションワークグループ0のスキャナは、低、中、高の順にビーブ音を鳴らします。

- 例： 読み取り成功ビーブ音は、ファイルされている項目には必要ですが、ファイルされていない項目には、ラズ音またはエラー音が必要です。この場合

[ESC]7,がホストからスキャナへ送信され、ファイルにある製品が表示されます。

[ESC]8,[ESC]8 は、ファイルにない製品に対してホストからスキャナに送信されます。

バーコードがスキャンされると、スキャナは、ホスト ACK シーケンスが受信されるか、タイムアウトが終了するまでタイムアウト期間に入ります（デフォルトでは10秒）。

ホスト ACK を有効にすると、バーコードがスキャンされたとき、システムは次のように動作します：

- スキャナはコードを読み取り、データをベースまたはアクセスポイントに送信してホストシステムに送ります。スキャナがエスケープコマンドを受信するまで、聴覚的・視覚的表示は出されません。読み取りが成功すると、スキャナの読み取り照明が消えます。
- スキャナの操作は、1) ホストシステムから有効なエスケープ文字列を受信するか、2) スキャナがタイムアウトするまで中断されます。
- 上記の条件1または2が満たされると、スキャナは再びスキャンできる状態になり、プロセスが繰り返されます。

スキャナが10秒以内に有効なエスケープコマンドを受信しないと、タイムアウトが発生します。タイムアウトはエラー音で示されます。タイムアウトが発生した場合、操作者はホストシステムをチェックして、スキャナへの応答が受信されなかった理由を理解する必要があります。

ホスト ACK オン/オフ



HSTACK1.

ホスト ACK オン



HSTACK0.

* ホスト ACK オフ

ホスト ACK タイムアウト

ホスト確認応答モードを使用する場合、スキャナが有効なエスケープコマンドを待つ時間のタイムアウトを設定できます。タイムアウトの時間（秒）を設定するには、次のバーコードをスキャンしてから、[プログラミングチャート](#)（309 ページ以降）から数字をスキャンしてタイムアウト（1～90 秒）を設定し、**保存**をスキャンしてください。デフォルト=10。



HSTATO.

ホスト ACK タイムアウト

ホストの ACK 応答

コマンド	動作
[ESC] a,	ダブルビープ音でメニュー変更が成功したことを示します。
[ESC] b,	メニュー変更が失敗したことを示すラズ音またはエラー音を発します。
[ESC] 1,	緑色の LED が 135 ミリ秒間点灯し、その後一時停止します。
[ESC] 2,	緑色の LED が 2 秒間点灯し、その後一時停止します。
[ESC] 3,	緑色の LED が 5 秒間点灯し、その後一時停止します。
[ESC] 4,	低ピッチでビープ音を発します。
[ESC] 5,	中ピッチでビープ音を発します。
[ESC] 6,	高ピッチでビープ音を発します。
[ESC] 7,	デコードに成功し、ホストとの通信に成功したことを示すビープ音を発します。
[ESC] 8,[ESC] 8,	ホストへのデコード/通信が失敗したことを示すラズまたはエラー音を発します。

4

章

入出力設定

電源投入時ビープ音

スキャナは電源投入時にビープ音を鳴らすようにプログラムできます。コードレスシステムをお使いの場合、電源投入時にベースがビープ音を鳴らすようにプログラムすることもできます。電源投入時のビープ音が鳴らないようにするには、**オフ**のバーコードをスキャンします。デフォルト= 電源投入時ビープ音がオン - スキャナ。



BEPPWR0.

電源投入時ビープ音が
オフ - スキャナ



BEPPWR1.

*電源投入時ビープ音が
オン - スキャナ



BASPWR0.

電源投入時ビープ音が
オフ -コードレスベース



BASPWR1.

電源投入時ビープ音が
オン -コードレスベース

BEL 文字ビープ音

ホストから送信されたコマンドに応じて、スキャナがビープ音を鳴らすようにすることができます。**BEL 文字ビープ音オン**のバーコードをスキャンすると、スキャナはホストから BEL 文字を受信するたびにビープ音を鳴らします。デフォルト= BEL 文字ビープ音オフ。



*BEL 文字ビープ音オフ



BEL 文字ビープ音オン

トリガクリック

スキャナのトリガが押されるたびにクリック音を発するようになるには、以下の**トリガクリックオン**バーコードをスキャンします。クリック音を止めたい場合は、**トリガクリックオフ**のコードをスキャンしてください。(この機能はシリアルトリガや自動トリガには影響しません。) デフォルト = トリガクリックオフ。



*トリガクリックオフ



トリガクリックオン

読み取り成功時とエラー時のインジケータ

ビープ音 - 読み取り成功時

読み取り成功時には、ビープ音が**オン**または**オフ**にプログラムされます。このオプションをオフにすると、読み取り成功時のビープ音応答のみがオフになります。エラーとメニューのビープ音はすべて鳴り続けます。デフォルト= ビープ音 - 読み取り成功時オン。



ビープ音 - 読み取り成功時オフ



* ビープ音 - 読み取り成功時オン

ビープ音量 - 読み取り成功時

ビープ音量コードは、読み取り成功時にスキャナが発するビープ音の音量を変更します。デフォルト=196xg/196xli スキャナは高、196xh スキャナは低。



BEPLVL1.

* 低



BEPLVL2.

中



BEPLVL3.

* 高



BEPLVL0.

オフ

ビープ音ピッチ - 読み取り成功時

読み取り成功時にスキャナが発するビープ音のピッチ（周波数）を変更するためのビープ音ピッチコードです。デフォルト=中。



BEPFQ11600.

低(1600 Hz)



BEPFQ12700.

* 中 (2700 Hz)



BEPFQ14200.

高 (4200 Hz)

ビープ音ピッチ - エラー時

読み取り不良やエラーが発生したときにスキャナが発する音のピッチ（周波数）を変更するためのビープ音ピッチコードです。デフォルト= ラズ。



BEPFQ2250.

* ラズ (250 Hz)



BEPFQ23250.

中 (3250 Hz)



BEPFQ24200.

高 (4200 Hz)

ビープ時間 - 読み取り成功時

読み取り成功時にスキャナが発するビープ音の長さは、ビープ時間コードによって変更されます。デフォルト=ノーマル。



BEPBIP0.

* ノーマルビープ



BEPBIP1.

ショートビープ

LED - 読み取り成功時

LED インジケータは、読み取り成功に対して**オン**または**オフ**をプログラムできます。デフォルト= オン。



BEPLED1.

* LED - 読み取り成功時オン



BEPLED0.

LED - 読み取り成功時オフ

ビープ音回数 - 読み取り成功時

読み取り成功時のビープ音回数は、1~9 までプログラムできます。読み取り成功時には、ビープ音の回数と同じ数が LED にも適用されます。たとえば、このオプションにビープ音回数として 5 回をプログラムすると、読み取り成功に応じてビープ音が 5 回鳴り、LED が 5 回点滅します。ビープ音と LED の点滅は互いに同期していません。

ビープ音の回数を変更するには、以下のバーコードをスキャンし、次に**プログラミングチャート**（309 ページ以降）の数字（1～9）のバーコードと**保存**をスキャンします。デフォルト=1。



BEPRPT.

読み取り成功時のビープ音回数/LED 点滅回数

ビープ音回数 - エラー時

読み取り不良やエラーのためにスキャナから発せられるビープ音と LED 点滅の回数を 1～9 の間でプログラムできます。たとえば、このオプションにエラービープ音が 5 回鳴るようにプログラムすると、エラーに回答してエラービープ音が 5 回、LED が 5 回点滅します。エラービープ音の回数を変更するには、以下のバーコードをスキャンし、次に**プログラミングチャート**（309 ページ以降）の数字（1～9）のバーコードと**保存**をスキャンします。デフォルト=1。



BEPERR.

エラー時のビープ音回数/LED 点滅回数

読み取り成功時の遅延時間

スキャナが別のバーコードを読み取るまでの最短時間を設定します。デフォルト=0 ミリ秒（遅延なし）。



DLYGRD0.

* 遅延なし



DLYGRD500.

短い遅延（500 ミリ秒）



DLYGRD1000.

中程度の遅延（1000 ミリ秒）



DLYGRD1500.

長い遅延（1500 ミリ秒）

ユーザー指定の読み取り成功時の遅延時間

読み取り成功時の遅延時間を独自に設定するには、以下のバーコードをスキャンし、次に**プログラミングチャート**（309 ページ以降）から数字をスキャンすることで遅延時間（0～30,000 ミリ秒）を設定し、次に**保存**をスキャンします。



ユーザー指定の読み取り成功時の遅延時間

トリガモード

マニュアルトリガ

手動トリガモードでは、スキャナはバーコードが読み取られるまで、またはトリガが離されるまでスキャンします。**ノーマル**と**エンハンスド**の2つのモードがあります。ノーマルモードは、良好なスキャン速度と最長の作業範囲（被写界深度）を提供します。エンハンスドモードでは、可能な限り高速なスキャンが得られますが、作業範囲はノーマルモードよりわずかに小さくなります。エンハンスドモードは、非常に速いスキャン速度を必要とし、幅広い作業範囲を必要としない場合に最適です。デフォルト = マニュアルトリガ-ノーマル。



* マニュアルトリガ-ノーマル



マニュアルトリガ-エンハンスド

トリガトグル

トリガトグルモードでは、トリガを素早く2～3回押して、スキャナをイメージングモードまたはセンタリングモードに切り替え、その後スキャンに戻すことができます。したがって、マウスのダブルクリックのように、次のスキャナの動作をコントロールすることができます。例えば、トリガを2回押してイメージングモードにし、次にトリガを押すと撮影できます。スキャナはスキャンモードに戻ります。以下のコードを使用して、トリガトグルモード時にスキャナが取るアクションを設定します。



トリガトグルオフ



TRGTGM1.

トリガトグル - 画像キャプチャ



TRGTGM3.

トリガトグル-センタリング

トリガ回数

これは、トリガトグルモードをアクティブにするために必要な、トリガを押す回数を設定します。



TRGTPC2.

2回のクイックトリガ



TRGTPC3.

3回のクイックトリガ



TRGTPC4.

4回のクイックトリガ

トリガのタイミング

これは、通常のトリガプレスではなく、トリガトグルとして認識されるようにトリガプレスのタイミングを設定します。**トリガのタイミング**バーコードをスキャンした後、**プログラミングチャート** (309 ページ以降) の数字をスキャンすることでタイムアウト時間 (50~2,000 ミリ秒) を設定し、次に**保存**をスキャンします。デフォルト=400 ミリ秒。



TRGTTI.

トリガのタイミング

トリガトグルタイムアウト

これは、スキャナがスキャンモードに戻る前にトリガトグルモードに留まる時間の長さを設定します。**トリガトグルタイムアウト**バーコードをスキャンした後、**プログラミングチャート** (309 ページ以降) の数字をスキャンすることでタイムアウト時間 (0~65 秒) を設定し、次に**保存**をスキャンします。デフォルト=5 秒。

注: これが0 に設定されている場合、デフォルトのスキャンモードに戻るには、トグルシーケンスを繰り返す必要があります。例えば、トリガを素早く2回押すと、スキャナはセンタリングモードになり、トリガのタイミングが0であれば、デフォルトのスキャンモードに戻るには、もう一度素早く2回押す必要があります。



TRGTGT.

トリガトグルタイムアウト

シリアルトリガ

スキャナを起動するには、トリガを押すか、シリアルトリガコマンド (**トリガコマンド** (242 ページ) 参照) を使ってください。シリアルトリガを使用するには、シリアルインターフェースモードでなければなりません。詳しくは、**RS232 シリアルポート** (10 ページ) または **USB シリアル** (11 ページ) を参照してください。シリアルモードの場合、スキャナはバーコードが読み取られるまで、または非アクティブ化コマンドが送信されるまで、スキャンします。スキャナは、指定した時間が経過した後、自動的にオフになるように設定することもできます (以下の**読み取りタイムアウト**参照)。

読み取りタイムアウト

このオプションにより、シリアルコマンドを使ってスキャナをトリガするときのスキャナのトリガのタイムアウト (ミリ秒) を設定します。スキャナがタイムアウトになったら、トリガを押すか、シリアルトリガコマンドを使用してスキャナを起動することができます。**読み取りタイムアウト**バーコードをスキャンした後、**プログラミングチャート** (309 ページ以降) の数字をスキャンすることでタイムアウト時間 (0~300,000 ミリ秒) を設定し、次に**保存**をスキャンします。デフォルト=30,000 ミリ秒。



TRGSTO.

読み取りタイムアウト

プレゼンテーションモード

プレゼンテーションモードでは、環境光とスキャナ照明を使用してバーコードを検出します。プレゼンテーションモードになると、バーコードがスキャナに示されるまで LED が暗いままになり、その後照準器がオンになり、LED が点灯してコードを読み取ります。室内の照明レベルが十分でない場合は、プレゼンテーションモードが正しく機能しない可能性があります。

注: プレゼンテーションモードで USB ベースを使用している場合、電源がベースの補助電源ポートに接続されていないとバッテリーは充電されません。

次のバーコードをスキャンして、プレゼンテーションモード用にデバイスをプログラムします。



PAPTPR.

プレゼンテーションモード

カメラモーションプレゼンテーションモード

カメラモーションプレゼンテーションモードは、スキャナがマグネットスタンドに設置されている間、カメラセンサーを使用してスキャナの視野内に物体があることを検出します。**オフ**にすると、スキャナは赤外線 (IR) を使用する **物体検出モード**に戻ります。デフォルト= オフ。



TRGCAM1.

カメラモーションオン



TRGCAM0.

*オフ

物体検出モード

物体検出モードは、赤外線 (IR) ビームを使用して、スキャナの視野内に物体があることを検出します。物体が検出されると、スキャナはバーコードのスキャンを試みます。**近距離**コードをスキャンして、約 3 インチ (8cm) 離れているターゲットを探します。または、**中距離**コードをスキャンして、約 6 インチ (15cm) 離れたターゲットを探します。デフォルト = 物体検出 - 近距離。



AOSRNG1.

* 物体検出 - 近距離



AOSRNG2.

物体検出 - 中距離

デコード後のプレゼンテーション LED の動作

スキャナがプレゼンテーションモードの場合、LED 照準器はバーコードがデコードされてから 30 秒後に消灯します。バーコードをデコードした直後に LED 照準器を暗くしたい場合は、以下の **LED オフ** バーコードをスキャンします。デフォルト=LED オン。



TRGPCK1.

* LED オン



TRGPCK0.

LED オフ

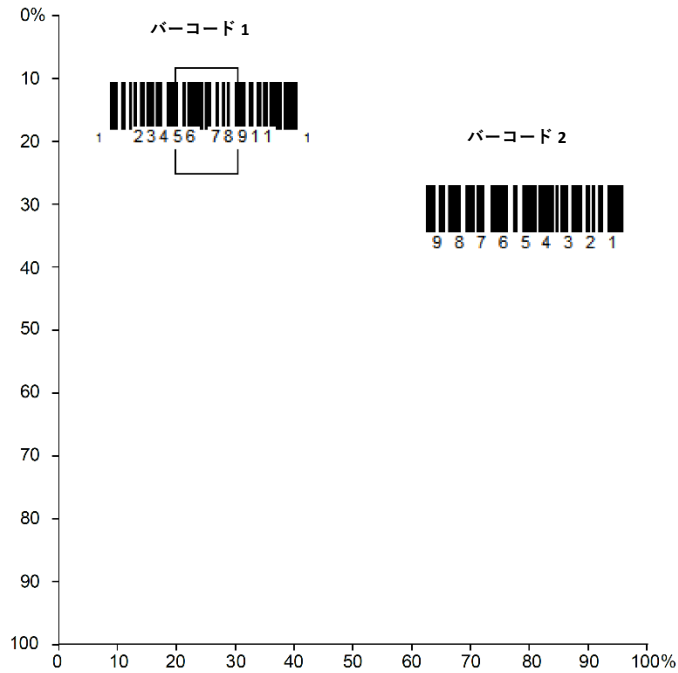
プレゼンテーションセンタリング

スキャナがスタンドにあるとき、プレゼンテーションセンタリングを使用してスキャナの視野を狭め、スキャナがユーザーの意図したバーコードのみを読み取るようにします。例えば、複数のコードが密接に配置されている場合、プレゼンテーションセンタリングは、必要なコードのみを読むようにします。

注: スキャナを手で持っているときにセンタリングを調整するには、[センタリング](#) (97 ページ) を参照してください。

バーコードがあらかじめ定義されたウィンドウに触れていない場合、スキャナによるデコードや出力は行われません。**プレゼンテーションセンタリングオン**をスキャンしてプレゼンテーションセンタリングをオンにすると、スキャナは**プレゼンテーションセンタリングウィンドウの上、プレゼンテーションセンタリングウィンドウの下、プレゼンテーションセンタリングウィンドウの左および右**のバーコードを使用して、指定したセンタリングウィンドウを通過するコードのみを読み取ります。

下の例では、白いボックスがセンタリングウィンドウです。センタリングウィンドウが左 20%、右 30%、上 8%、下 25%に設定されました。バーコード 1 はセンタリングウィンドウを通過するため、読み取れます。バーコード 2 はセンタリングウィンドウを通らないため、読み取れません。



注: バーコードは、センタリングウィンドウに触れていれば読み取れます。センタリングウィンドウを完全に通過する必要はありません。

プレゼンテーションセンタリングオンをスキャンしてから、以下のバーコードのいずれかをスキャンし、センタリングウィンドウの上、下、左、右を変更します。次に、**プログラミングチャート**（309 ページ以降）でセンタリングウィンドウのシフト量のパーセンテージと**保存**をスキャンします。デフォルトのプレゼンテーションセンタリング= 上と左が40%、下と右が60%。



PDCWIN1.

プレゼンテーションセンタリングオン



PDCWIN0.

* プレゼンテーションセンタリングオフ



PDCTOP.

プレゼンテーションセンタリングウィンドウの上



PDCBOT.

プレゼンテーションセンタリングウィンドウの下



PDCLFT.

プレゼンテーションセンタリング
ウィンドウの左



PDCRGT.

プレゼンテーションセンタリング
ウィンドウの右

プレゼンテーション再読み込み制御

これにより、プレゼンテーションモードで同じバーコードが誤って再読み取りされるのを防ぐことができます。これらのコマンドは **プレゼンテーションモード**(85 ページ参照)でのみ機能します。デフォルト = **履歴を記憶し、スキャンセッション中に実行**。

履歴を忘れ、常に実行

トリガが開始されると、バーコードの履歴は忘れられ、スキャンセッションの合間を含め、**再読み取り遅延**が常に実行されます。



TRGRRC0.

履歴を忘れ、常に実行

履歴を記憶し、常に実行

トリガが開始されると、バーコードの履歴は記憶され、スキャンセッションの合間を含め、**再読み取り遅延**が常に実行されます。



TRGRRC1.

履歴を記憶し、常に実行

履歴を忘れ、スキャンセッション中に実行

トリガが開始されると、バーコードの履歴は忘れられ、**再読み取り遅延**はスキャンセッション中にだけ実行されます。



TRGRRC2.

履歴を忘れ、
スキャンセッション中に実行

履歴を記憶し、スキャンセッション中に実行

トリガが開始されると、バーコードの履歴は記憶され、再読取り遅延はスキャンセッションの間だけに実行されます。



* 履歴を記憶し、
スキャンセッション中に実行

スタンド内センサモード

この機能は、スキャナがスタンドから取り外されたことを検知し、手動トリガを開始するよう指示します。**センサーオン**が有効な場合、スキャナがスタンドから取り外されると、デフォルトで手動トリガモードになります。デフォルト = センサーオン。



* センサーオン



センサーオフ

注: 画像を撮影する場合 (**イメージングコマンド** (215 ページ以降) を参照)、スタンド内センサーを**オフ**にする必要があります。

低品質コード

低品質 1 次元コード

この設定により、損傷していたり印刷が悪かったりするリニアバーコードの読み取り能力が向上します。**低品質 1D 読み取りオン**をスキャンすると、低品質の PDF コードの読み取りは改善されますが、スキャナの迅速性が低下するため、高品質なバーコードを読み取る際に作業が遅くなります。この設定は 2D バーコードの読み取りには影響しません。デフォルト = 低品質 1D 読み取りオフ。



低品質 1D 読み取りオン



* 低品質 1D 読み取りオフ

低品質 PDF コード

この設定により、複数の画像からの情報を組み合わせることで、損傷や印刷不良のある PDF コードを読み取るスキヤナの能力が向上します。1 枚の画像でバーコード全体を確認できない場合に便利です。この設定は 1D バーコード読み取りには影響しません。デフォルト= 低品質 PDF 読み取りオン。



PDFXPR10.

*低品質 PDF 読み取りオン



PDFXPR0.

低品質 PDF 読み取りオフ

低解像度 PDF コード

この設定は、低解像度の PDF コードを読み取るスキヤナの能力を向上させます。低解像度 PDF コードオンをスキャンすると、低品質の PDF コードの読み取りは改善されますが、スキヤナの迅速性が低下するため、高品質なバーコードを読み取るときに作業が遅くなります。この設定は 1D バーコード読み取りには影響しません。デフォルト= 低解像度 PDF コードオフ。



PDFDMI1.

低解像度 PDF コードオン



PDFDMI0.

低解像度 PDF コードオフ

CodeGate™

CodeGate が On の場合、デコードされたデータをホストシステムに送信するためにトリガを使用します。スキヤナはオンのままでバーコードをスキャンしてデコードしますが、トリガが押されるまでバーコードデータは送信されません。CodeGate がオフの場合、バーコードデータはデコードされると送信されます。デフォルト = スタンド外で CodeGate オフ



AOSCGD0.

* スタンド外で CodeGate オフ



AOSCGD1.

スタンド外で
CodeGate オン

ストリーミングプレゼンテーションモード

ストリーミングプレゼンテーションモードの場合、バーコードを継続的に検索するため、スキャン照明は常時点灯します。**ノーマル**と**エンハンスド**の2つのモードがあります。ノーマルモードは、良好なスキャン速度と最長の作業範囲（被写界深度）を提供します。エンハンスドモードでは、可能な限り高速なスキャンが得られますが、作業範囲はノーマルモードよりわずかに小さくなります。エンハンスドモードは、非常に速いスキャン速度を必要とし、幅広い作業範囲を必要としない場合に最適です。



PAPSPN.

ストリーミング
プレゼンテーションモード-ノーマル



PAPSPE.

ストリーミン
グプレゼンテーションモード-エ
ンハンスド

優先記号（99 ページ）を使用する場合、ストリーミングプレゼンテーションモードで読み取るには、優先順位の低い記号を照準パターンの中央に配置する必要があります。

注: USB ベースを使用する場合、ストリーミングプレゼンテーションが正しく動作するためには、外部電源が Aux ポートに接続されている必要があります。

スタンド内でのストリーミングプレゼンテーション

このオプションは **スタンド内センサーモード**（89 ページ）で利用できます。スタンド内スキャンには特定のストリーミングプレゼンテーションモードを、スタンド外スキャンにはマニュアルトリガモードをプログラムすることができます。これを行うには、まず希望するストリーミングプレゼンテーションモード（ノーマルまたはエンハンスド）をスキャンし、次に使用したいマニュアルトリガモード（ノーマルまたはエンハンスド）をスキャンする必要があります。

ハンズフリータイムアウト

スキャンスタンドモードとプレゼンテーションモードは、「ハンズフリー」モードと呼ばれています。ハンズフリーモード使用中にスキャナのトリガが引かれると、スキャナは手動トリガモードに切り替わります。ハンズフリータイムアウトを設定することで、スキャナがマニュアルトリガモードに留まる時間を設定できます。タイムアウト値に達すると（それ以上トリガを引かなかった場合）、スキャナは元のハンズフリーモードに戻ります。

ハンズフリータイムアウトのバーコードをスキャンし、**プログラミングチャート** (309 ページ以降) でタイムアウト時間 (0~300,000 ミリ秒) と**保存**をスキャンします。デフォルト=5000 ミリ秒。



TRGPTO.

ハンズフリータイムアウト

再読み取り遅延

これは、スキャナが同じバーコードを2回目に読み取るまでの時間を設定します。再読み取り遅延を設定すると、同じバーコードを誤ってもう一度読み取ることがないようになります。長い遅延は、誤って再び読み取ることを最小限に抑えるのに効果的です。バーコードの繰り返しスキャンが必要なアプリケーションでは、より短い遅延を使用します。再読み取り遅延は、**プレゼンテーションモード** (85 ページ参照) の場合にのみ機能します。デフォルト=中。



DLYRRD500.

短 (500 ミリ秒)



DLYRRD750.

*中 (750 ミリ秒)



DLYRRD1000.

長 (1000 ミリ秒)



DLYRRD2000.

超長 (2000 ミリ秒)

ユーザー指定再読み取り遅延

再読み取り時の遅延時間を独自に設定するには、以下のバーコードをスキャンし、次に**プログラミングチャート** (309 ページ以降) から数字をスキャンすることで遅延時間 (0~30,000 ミリ秒) を設定し、次に**保存**をスキャンします。



DLYRRD.

ユーザー指定再読み取り遅延

2D 再読み取り遅延

2次元バーコードは、他のバーコードに比べて読み取りに時間がかかることがあります。2D バーコードの再読み取り遅延を個別に設定したい場合は、次のプログラミングコードのいずれかをスキャンしてください。2D 再読み取り遅延オフは、再読み取り遅延に設定された時間が 1D および 2D バーコードの両方に使用されることを意味します。デフォルト = 2D 再読み取り遅延オフ。



DLY2RR0.

* 2D 再読み取り遅延オフ



DLY2RR1000.

短 (1000 ミリ秒)



DLY2RR2000.

中 (2000 ミリ秒)



DLY2RR3000.

長 (3000ms)



DLY2RR4000.

超長 (4000ms)

文字アクティベーション

スキャンを開始するために、ホストから送信された文字を使ってスキャナをトリガすることができます。アクティベーション文字を受信すると、文字アクティベーション LED タイムアウト (94 ページ) の時間に達するか、アクティベーション解除文字を受信する (アクティベーション解除文字 (95 ページ) 参照) か、バーコードが送信されるまで、スキャナはスキャンを続けます。オンのバーコードをスキャンして文字アクティベーションを使用し、アクティベーション文字 (94 ページ) を使って、スキャンを開始するためにホストから送信する文字を選択します。デフォルト = オフ。



HSTCEN0.

* オフ



HSTCEN1.

オン

アクティベーション文字

文字アクティベーションモード使用時にスキャンをトリガするのに使う文字を設定します。[ASCII 変換チャート \(コードページ 1252\)](#) (298 ページ) で、スキャンのトリガに使用する文字を表す Hex 値を見つけます。以下のバーコードをスキャンし、[プログラミングチャート](#)を使用して、ASCII 文字を表す英数字の組み合わせを読み込みます。**保存**をスキャンして完了します。デフォルト = 12 [DC2]。



HSTACH.

アクティベーション文字

読み取り成功後に終了する文字アクティベーション

バーコードが正常に検出され、スキャナから読み取られた後、LED は、オンのままでスキャンを続けるか、あるいはオフにするかのいずれかにプログラムすることができます。

読み取り成功後に終了する文字アクティベーションが有効になっている場合、LED は消灯し、読み取り成功後にスキャンを停止します。**読み取り成功後に終了しない文字アクティベーション**をスキャンすると、読み取り成功後も LED が点灯したままになります。



HSTCGD0.

読み取り成功後に終了しない文字
アクティベーション



HSTCGD1.

読み取り成功後に終了する文字
アクティベーション

文字アクティベーションタイムアウト

文字アクティベーションモードを使用しているときに、LED がオンのままで、バーコードをデコードしようとする時間のタイムアウトを設定できます。タイムアウトの長さ (ミリ秒) を設定するには、次のバーコードをスキャンしてから、[プログラミングチャート](#) (309 ページ以降) から数字をスキャンすることでタイムアウト (1~300,000 ミリ秒) を設定し、**保存**をスキャンします。デフォルト= 30,000 ミリ秒。



HSTCDT.

文字アクティベーションタイムアウト

文字アクティベーション解除

スキャンを開始するためにホストから文字を送信してスキャナをトリガした場合は、スキャンを停止するためにアクティベーション解除文字を送信することもできます。次の**オン**のバーコードをスキャンして文字アクティベーション解除を使用します。次に**アクティベーション解除文字**を使って、スキャンを終了するためにホストから送信する文字を選択します。デフォルト= オフ。



HSTDEN0.

* オフ



HSTDEN1.

オン

アクティベーション解除文字

文字アクティベーション解除モードの使用時に、スキャンを終了するために使用する文字を設定します。[ASCII 変換チャート \(コードページ 1252\)](#) (298 ページ) で、スキャンの停止に使用する文字を表す Hex 値を見つけます。以下のバーコードをスキャンし、[プログラミングチャート](#) (309 ページ以降) を使用して、ASCII 文字を表す英数字の組み合わせを読み込みます。**保存**をスキャンして完了します。デフォルト = 14 [DC4]。



HSTDCH.

アクティベーション解除文字

照明ライト

バーコードの読み取り中に照明ライトをオンにしたい場合は、以下の**ライトオン**のバーコードをスキャンしてください。ただし、ライトをオフにしたい場合は、**ライトオフ**のバーコードをスキャンします。デフォルト= ライトオン。

注: この設定は照準器ライトには影響しません。照準器ライトは[照準器モード](#) (96 ページ) を使って設定できます。



SCNLED1.

*ライトオン



SCNLED0.

ライトオフ

照準器遅延

照準器遅延は、撮影前にオペレータがスキャナの照準を合わせるための遅延時間を設定します。これらのコードを使用して、トリガが引かれてから撮影されるまでの時間を設定します。遅延時間中、エイマーランプは点灯しますが、LED は遅延時間が終わるまで点灯しません。デフォルト= オフ。



SCNDLY1.

1 ミリ秒



SCNDLY250.

250 ミリ秒



SCNDLY500.

500 ミリ秒



SCNDLY0.

* オフ (遅延なし)

ユーザー指定照準器遅延

遅延時間の長さを独自に設定したい場合は、以下のバーコードをスキャンし、次に **プログラミングチャート** (309 ページ以降) から数字をスキャンすることでタイムアウト (0~4,000 ミリ秒) を設定し、**保存**をスキャンします。



SCNDLY.

遅延時間

照準器モード

この機能により、照準器のオンとオフを切り替えることができます。**インターレース**バーコードをスキャンすると、照準器と照明 LED がインターレースされます。デフォルト = インターレース。



SCNAIM0.

オフ



SCNAIM2.

* インターレース

プレゼンテーション照準器モード

この機能により、スキャナがプレゼンテーションモード、プレゼンテーション - 携帯電話、ストリーミングプレゼンテーションモード、またはストリーミングプレゼンテーション - 携帯電話のときに、照準器のオン/オフを切り替えることができます。**インターレース**のバーコードをスキャンすると、照準器と照明 LED がインターレースされます。デフォルト = 照準器オフ。



PDCAIM2.

インターレース



PDCAIM0.

* オフ

センタリング

センタリングを使用してスキャナの視野を狭めることで、スキャナがハンドヘルドの場合に、ユーザーの意図したバーコードのみを読み取るようにします。例えば、複数のコードが密接に配置されている場合、センタリングは、必要なコードのみが読まれるようにします。(複数のコードが近接して配置されるアプリケーションでエラーを最小限に抑えるため、センタリングは**照準器遅延** (96 ページ) と併用できます。照準器遅延とセンタリング機能を使用すると、スキャナは、リニアレーザーバーコードスキャナのような古いシステムの動作をエミュレートすることができます。)

注: スキャナがスタンドにあるときにセンタリングを調整するには、[プレゼンテーションセンタリング](#) (86 ページ) を参照してください。

シングルコードセンタリング

シングルコードセンタリングをスキャンして、画像の中心に最も近いバーコードをターゲットにします。このようにバーコードを特定することで、複数のバーコードが近くにある場合のスキャン精度が向上します。



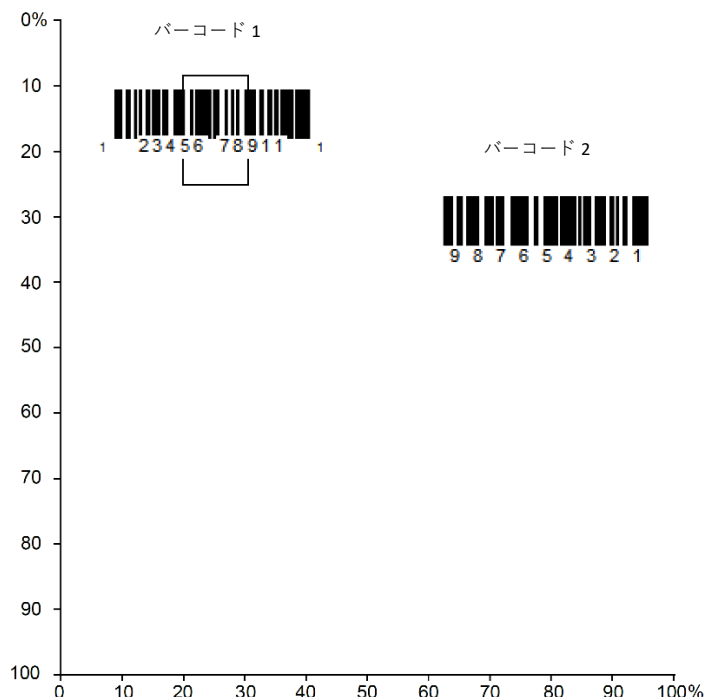
シングルコードセンタリング

カスタムセンタリング

以下の設定を使用して、センタリングウィンドウをカスタマイズしてください。バーコードがあらかじめ定義されたウィンドウに触れていない場合、スキャナによるデコードや出力は行われません。

センタリングオンをスキャンしてセンタリングをオンにすると、スキャナはセンタリングウィンドウの上、センタリングウィンドウの下、センタリングウィンドウの左および右のバーコードを使用して、指定したセンタリングウィンドウを通過するコードのみを読み取ります。

例： 下の例では、白いボックスがセンタリングウィンドウです。センタリングウィンドウが左 20%、右 30%、上 8%、下 25% に設定されました。バーコード 1 はセンタリングウィンドウを通過するため、読み取れます。バーコード 2 はセンタリングウィンドウを通らないため、読み取れません。



注： バーコードは、センタリングウィンドウに触れていれば読み取れます。センタリングウィンドウを完全に通過する必要はありません。

センタリングオンをスキャンしてから、以下のバーコードのいずれかをスキャンし、センタリングウィンドウの上、下、左、右を変更します。次に、[プログラミングチャート](#)（309 ページ以降）の数字を使ってセンタリングウィンドウのシフト量のパーセンテージと保存をスキャンします。デフォルトのセンタリング= 上と左が 40%、下と右が 60%。



DECWIN1.

センタリングオン



DECWIN0.

*センタリングオフ



DECTOP.

センタリングウィンドウの上



DECBOT.

センタリングウィンドウの下



DECLFT.

センタリングウィンドウの左



DECRGT.

センタリングウィンドウの右

優先記号

スキャナは、2つのバーコード記号が同じラベルに表示されていて、しかも優先順位の低い記号を無効にできない場合に、1つの記号を他の記号よりも高い優先順位として指定するようにプログラムします。

たとえば、U.P.C.の記号を読み取るのにスキャナを小売店向けの設定で使用しているかもしれませんが、運転免許証のコードを読む必要がある場合があります。一部の免許証には Code 39 記号と PDF417 記号があるため、優先記号を用いて、Code 39 の代わりに PDF417 記号を読み取るように指定できます。

優先記号は、各記号を高優先順位、低優先順位、または未指定のタイプとして分類します。低優先順位の記号がある場合、スキャナは高優先順位記号を検索する際に、設定された時間（[優先記号タイムアウト](#)（100 ページ）を参照）、低優先記号を無視します。この時間内に優先順位の高い記号が配置された場合、そのデータはただちに読み取られます。

優先順位の高い記号が読み取られる前にタイムアウト時間が経過した場合は、スキャナは視界内のすべてのバーコードを読み取ります（低優先順位の記号や未指定の記号）。タイムアウト時間が経過してもスキャナの視界にバーコードがない場合は、データは報告されません。

注: 低優先記号は、読み取る照準パターンの中心に配置する必要があります。

以下のバーコードをスキャンして、優先記号を有効または無効にします。デフォルト= 優先記号オフ。



PRFENA1.

優先記号オン



PRFENA0.

* 優先記号オフ

高優先記号

高優先記号を指定するには、下の**高優先記号**バーコードをスキャンします。[記号チャート](#) (295 ページ) で、優先順位を高く設定する記号を見つけます。その記号の Hex 値を探し、[プログラミングチャート](#) (309 ページ以降) から 2 桁の Hex 値と**保存**をスキャンします。デフォルト= なし。



PRFCOD.

高優先記号

低優先記号

低優先記号を指定するには、下の**低優先記号**バーコードをスキャンします。[記号チャート](#) (295 ページ) で、優先順位を低く設定したい記号を見つけます。その記号の Hex 値を探し、[プログラミングチャート](#) (309 ページ以降) から 2 桁の Hex 値をスキャンします。

低優先記号を追加で設定する場合は、**FF** をスキャンし、[プログラミングチャート](#) (309 ページ以降) から次の記号の 2 桁の Hex 値をスキャンします。低優先記号は 5 つまでプログラムできます。**保存**をスキャンして、選択内容を保存します。デフォルト= なし。



PRFBLK.

低優先記号

優先記号タイムアウト

優先記号を有効にして、優先記号の優先度の高低を入力したら、タイムアウト時間を設定する必要があります。

これは、優先度の低いバーコードが検出された後にスキャナが優先度の高いバーコードを検索する時間です。以下のバーコードをスキャンし、[プログラミングチャート](#)（309 ページ以降）から数字を読み取って遅延時間（1～3,000 ミリ秒）を設定して、**保存**をスキャンしてください。デフォルト=500 ミリ秒。



PRFPTO.

優先記号タイムアウト

優先記号のデフォルト

以下のバーコードをスキャンして、すべての優先記号エントリをデフォルト値に設定します。



PRFDFT.

優先記号のデフォルト

出力シーケンスの概要

出力シーケンスエディタ

このプログラミングの選択により、（複数の記号をスキャンする場合）バーコードのスキャン順に関係なく、アプリケーションが必要とする順序でデータを出力するようスキャナをプログラムすることができます。1つの出力シーケンスに最大 15 個のバーコードを定義できます。

注: 出力シーケンスエディタを選択するには、アプリケーションに必要なコード ID、コード長、および文字の一致を把握しておく必要があります。[プログラミングチャート](#)（309 ページ以降）の英数字記号を使用します。シーケンスの各バーコードを読み取る間、トリガを保持する必要があります。

出力シーケンスを追加するには

スキャナに送信されるシリアルコマンドの文字列を使って出力シーケンスが作成されます。この文字列は、EZConfig ソフトウェアツールを使うとスキャナに最も簡単に送信できます（[スキャンング用 EZConfig の概要](#)（237 ページ）を参照）。これは、英数字のバーコードをスキャンして行うこともできます（[プログラミングチャート](#)（309 ページ以降）を参照）。

1. バーコードを使用して出力シーケンスを作成する場合は、[出力シーケンスの作成](#)（105 ページ）をスキャンします。
2. **コード ID**
[記号チャート](#)（295 ページ）で、出力シーケンスフォーマットを適用する記号を見つけます。その記号の Hex 値をメモします。バーコードを使用して出力シーケンスを作成する場合は、[プログラミングチャート](#)（309 ページ以降）から 2 桁の Hex 値をスキャンします。

3. 長さ

この記号で許容されるデータ出力の長さ（最大 9999 文字）を指定します。長さをメモします。バーコードを使用して出力シーケンスを作成する場合は、[プログラミングチャート](#)（309 ページ以降）から 4 桁のデータ長をスキャンします。

（注:50 文字を **0050** と入力します。9999 はユニバーサル番号で、すべての長さを表します。）長さを計算するときは、プログラムされたプリフィクス、サフィックス、またはフォーマットされた文字を長さの一部として数える必要がありません（9999 を使用する場合を除く）。

4. 文字一致シーケンス

[ASCII 変換チャート](#)（[コードページ 1252](#)）（298 ページ）で、一致させたい文字を表す Hex 値を見つけます。文字の Hex 値をメモします。バーコードを使用して出力シーケンスを作成する場合は、[プログラミングチャート](#)（309 ページ以降）を使って ASCII 文字を表す英数字の組み合わせを読み取ります。（99 はユニバーサル番号で、すべての文字を表します。）

5. 終了出力シーケンスエディタ

この文字列を終了するか、別の出力シーケンスを開始するには、**FF** を使用します。バーコードを使用している場合は、**FF** をスキャンします。**保存**をスキャンして、入力内容を保存します。

その他のプログラミング選択

バーコードを使用して出力シーケンスを作成している場合は、出力シーケンスの変更を保存せずに終了するために、**破棄**（[310 ページ](#)）をスキャンします。

出力シーケンスエディタコマンド

SEQBLK	シーケンスエディタ起動コマンドです。
SEQPRE	プリフィクスを追加して出力シーケンスを完成させます。
SEQSUF	サフィックスを追加して出力シーケンスを完成させます。
SEQSEP	セパレータを追加して出力シーケンスを完成させます。
SEQTTS1	部分シーケンスを送信します。
SEQSAT	全出力シーケンスの良好なサブセットを定義します。
SEQTIM	SEQSAT 使用時のシーケンスメンバーのためのタイムアウト。
SEQIPR	部分出力シーケンスにプリフィクスを追加します。
SEQISU	部分出力シーケンスにサフィックスを追加します。
SEQISE	部分出力シーケンスにセパレータを追加します。
TRGSTO	部分出力シーケンスのタイムアウト。
FF	終端文字列。
SEQ_EN1	出力シーケンスの要求がオン/不要

- SEQ_EN2** 出力シーケンスの要求が必要
- BEPSINO** 読み取り成功ビープ音 - シーケンスの各コード。
- BEPSIN1** 読み取り成功クリック - シーケンスの各コード
- BEPISE0** 読み取り成功ビープ音 - 部分シーケンス出力。
- BEPISE1** エラー音 - 部分シーケンス出力。

これらのコマンドの使い方の概略を示す例を以下に示します。

出力シーケンス例 1-3 つの記号



この例では、PDF417、Code 128、Code 39 のバーコードをスキャンしていますが、スキャナに最初に Code 39、2 番目に Code 128、3 番目に PDF417 を出力させたいとします。

次のコマンドラインでシーケンスエディタを設定します。

- | | |
|---------------|---|
| SEQBLK | シーケンスエディタ起動コマンド |
| 62 | コード 39 のコード識別子 |
| 9999 | コード 39 で一致しなければならないコード長 (9999=すべての長さ) |
| 43 | コード 39 に対する文字列一致開始、43h = 「C」 |
| FF | 最初のコードの終端文字列 |
| 6A | Code 128 のコード識別子 |
| 9999 | Code 128 で一致しなければならないコード長 (9999=すべての長さ) |
| 54 | Code 128 に対する文字列一致開始、54h = 「T」 |
| FF | 最初のコードの終端文字列 |
| 72 | PDF417 のコード識別子 |
| 9999 | PDF417 で一致しなければならないコード長 (9999=すべての長さ) |
| 4D | PDF417 に対する文字列一致開始、4Dh = 「M」 |
| FF | 3 番目のコードの終端文字列 |

コマンドライン全体は次のようになります。

SEQBLK62999943FF6A999954FF7299994DFF.



SEQDFT;SEQ_EN1;SEQBLK6299...

SEQDFT;SEQ_EN1;SEQBLK62999943FF6A999954FF7299994DFF.

データは次のように出力されます:

CODE39SMPLTSTMSGCODE128MSGPDF417

出力シーケンス例 2 - <>のセパレータを使った 3 つの記号

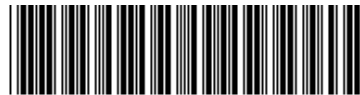
この例では、同じ 3 つのバーコードをスキャンしていますが、<>のブラケットとキャリッジリターンとラインフィードを使って出力を分離しています。



MSGPDF417



TSTMSGCODE128



CODE39SMPL

シーケンスエディタは、[出力シーケンスの例 1-3 つの記号](#) (103 ページ) に示すのと同じコマンドラインを使用します。

SEQBLK	シーケンスエディタ起動コマンド
62	コード 39 のコード識別子
9999	コード 39 で一致しなければならないコード長 (9999=すべての長さ)
43	コード 39 に対する文字列一致開始、43h = 「C」
FF	最初のコードの終端文字列
6A	Code 128 のコード識別子
9999	Code 128 で一致しなければならないコード長 (9999=すべての長さ)
54	Code 128 に対する文字列一致開始、54h = 「T」
FF	最初のコードの終端文字列
72	PDF417 のコード識別子
9999	PDF417 で一致しなければならないコード長 (9999=すべての長さ)
4D	PDF417 に対する文字列一致開始、4Dh = 「M」

FF 3 番目のコードの終端文字列

ただし、シーケンスごとに<>のセパレータを追加します。

SEQSEP99 各シーケンスのセパレータ (99 = すべての記号)

3C 左ブラケット (<)

3E 右ブラケット (>)

そして、サフィックスとしてキャリッジリターンとラインフィードを追加します。

SEQSUF99 サフィックスのセパレータ (99 = すべての記号)

0D キャリッジリターン

0A ラインフィード

コマンドライン全体は次のようになります。

SEQBLK62999943FF6A999954FF7299994DFF;SEQSEP993C3E;SEQSUF990D0A.



SEQDFT;SEQ_EN1;SEQBLK6299...

SEQDFT;SEQ_EN1;SEQBLK62999943FF6A999954FF7299994DFF;SEQSEP993C3E;SEQSUF990D0A.

データは次のように出力されます。

CODE39SMPL<>TSTMSGCODE128<>MSGPDF417 [CR] [LF]

出力シーケンスの作成

バーコードを使用して出力シーケンスを作成する場合は、**出力シーケンスの作成**をスキャンして文字列のスキャンを開始します。



SEQBLK.

出力シーケンスの作成

部分シーケンス

すべての出力シーケンス条件が満たされる前に出力シーケンスの動作が終了すると、その時点までに取得されたバーコードデータは「部分シーケンス」になります。出力シーケンスの作成に使用したのと同じタイプのコマンド文字列を使用して、部分シーケンスの出力方法を定義できます。

部分シーケンスの例-<>のセパレータを持ち、損傷したコードを持つ3つの記号

この例では、PDF417、Code 128、Code 39 のバーコードをスキャンしています。次に示すように、スキャナに最初に Code 39、2 番目に Code 128、3 番目に PDF417 を括弧で囲んで出力させたいとします。しかし、Code 39 のバーコードは損傷しており、出力できません。



出力シーケンスの例 2 -<>のセパレータを使用した3つの記号（104 ページ）と同じコマンドラインを使用します。

SEQBLK	シーケンスエディタ起動コマンド
62	コード 39 のコード識別子
9999	コード 39 で一致しなければならないコード長 (9999=すべての長さ)
43	コード 39 に対する文字列一致開始、43h = 「C」
FF	最初のコードの終端文字列
6A	Code 128 のコード識別子
9999	Code 128 で一致しなければならないコード長 (9999=すべての長さ)
54	Code 128 に対する文字列一致開始、54h = 「T」
FF	最初のコードの終端文字列
72	PDF417 のコード識別子
9999	PDF417 で一致しなければならないコード長 (9999=すべての長さ)
4D	PDF417 に対する文字列一致開始、4Dh = 「M」
FF	3 番目のコードの終端文字列

ただし、シーケンスごとに<>のセパレータを追加します。

SEQISE99	各シーケンスのセパレータ (99 = すべての記号)
3C	左ブラケット (<)
3E	右ブラケット (>)

そして、サフィックスとしてキャリッジリターンとラインフィードを追加します。

SEQISU99	サフィックスのセパレータ (99 = すべての記号)
0D	キャリッジリターン
0A	ラインフィード

また、部分的なシーケンスをメモするためのプリフィクスとして**>PARTIAL<**を追加します。

SEQTTS1	部分シーケンスを送信します。
SEQIPR99	部分シーケンスプリフィクスの追加 (99 = すべての記号)
3E	右ブラケット (>)
50	P
41	A
52	R
54	T
49	I
41	A
4C	L
3C	左ブラケット (<)

コマンドライン全体は次のようになります。

SEQBLK62999943FF6A999954FF7299994DFF;SEQISE993C3E;SEQISU990D0A;SEQTTS1;SEQIPR993E5041525449414C3C.



SEQDFT;SEQ_EN1;SEQBLK6299...

SEQDFT;SEQ_EN1;SEQBLK62999943FF6A999954FF7299994DFF;SEQISE993C3E;SEQISU990D0A;SEQTTS1;SEQIPR993E5041525449414C3C.

データは次のように出力されます。

>PARTIAL<TSTMSGCODE128<>MSGPDF417 [CR] [LF]

部分出力シーケンスの破棄

出力シーケンス動作が終了してから完了するまでの間に、部分シーケンスを破棄したい場合は、**部分シーケンスの破棄**をスキャンします。



SEQTTS0.

* 部分シーケンスの破棄

出力シーケンスのタイムアウト

SEQBLK コマンドで定義された出力シーケンスのコードごとにタイムアウトを設定できます。スキャナは、現在のトリガセッション中に読み取られたコードのいずれかに対応する最短のタイムアウトを適用します。タイムアウトが切れると、スキャナは読み取ったすべてのコードを SEQBLK で定義された順序で送信します。

タイムアウトを指定するには、SEQTIM コマンドの後にミリ秒単位のタイムアウトのリストを続けます。各タイムアウトは、FF で終わる 4 桁の数字で指定されます。タイムアウト値 9999 は特殊で、そのコードのタイムアウトが「無限」であることを表します。

指定されたタイムアウトの数は、SEQBLK で定義されたシーケンスのコード数に対応する必要があります。このタイムアウトは、シーケンスのどのメンバーにも一致しないコードに適用されます。出力シーケンスの要求が**オン/不要**の場合に便利です。定義されたシーケンスにないコードに対して追加のタイムアウトを指定しない場合、SEQTIM で指定した最後のタイムアウトが適用されます。

出力シーケンスのタイムアウト例

例えば、SEQBLK が 4 コードシーケンスを定義している場合、**SEQTIM5000FF6000FF7000FF8000FF** というコマンドを使って、コード 1~4 に対してそれぞれ 5 秒、6 秒、7 秒、8 秒のタイムアウトを指定することができます。この場合、定義されたシーケンスに含まれないコードには、8 秒のタイムアウト（リストの最後のタイムアウト）が暗黙のうちに割り当てられます。このようなコードのタイムアウトを明示的に指定するため、リストの最後にもう 1 つタイムアウトを含めることができます。例えば、非シーケンスコードに 1 秒のタイムアウトを含めるには、コマンド **SEQTIM5000FF6000FF7000FF8000FF1000FF** を使用します。

全シーケンスの良好なサブセット

SEQBLK で指定された完全なシーケンスから、1 つまたは複数のバーコードのサブセットを定義できます。これらのサブセットの 1 つからコードをすべてスキャンすると、スキャナはそのシーケンスで読み取ったすべてのコードを送信します。スキャナは SEQBLK で定義された順序でコードを送信します。

注: 良好なサブセット機能を使用するには、SEQTIM を使ってシーケンス内の各コードにタイムアウトを与える必要があります。

全シーケンスの良好なサブセットのタイムアウト例

サブセットを指定するには、SEQSAT コマンドを使用してそのメンバーをリストアップし、各サブセットの終わりには FF を付けます。各サブセットのメンバーは、全シーケンス内のインデックスに対応する 1 つの 16 進数で指定し、1 を最初とします。例えば、最初のサブセットがシーケンス内の 1 番目と 2 番目のコードで構成され、2 番目のサブセットが 2 番目と 3 番目のコードで構成される場合、その 2 つのサブセットを指定するにはコマンド **SEQSAT12FF23FF** を用います。

奇数のコードを持つサブセットを定義するには、最後のコードインデックスの前に 0 を挿入します。例えば、第 1、第 2、第 3 コードからなる 3 コードのサブセットを定義するには、コマンド **SEQSAT1203FF** を使用します。

この例では、コマンド **SEQBLK62999943FF6A999954FF7299994DFF** は、シーケンスの最初のコードを Code 39 "C" に、2 番目のコードを Code 128 "T" に、3 番目のコードを PDF417 "M" に設定します。

SEQSAT01FF23FF コマンドは、ポジション 1 がスキャンされた場合、またはポジション 2 と 3 がスキャンされた場合にシーケンスを満たし、ポジション 1 のバーコードまたはポジション 2 と 3 のバーコードをすぐに送信します。



SEQDFT;SEQ_EN1;SEQBLK6299...

SEQDFT;SEQ_EN1;SEQBLK62999943FF6A999954FF7299994DFF;SEQSEP993D3E;SEQSUF990D0A;
SEQSAT01FF23FF;SEQTIM5000FF6000FF7000FF8000FF.

以下の組み合わせの出力シーケンスを確認します：

1. Code 39 をスキャンします。出力 **CODE39SMPL**
2. Code 128 をスキャンし、次に Code 39 をスキャンしてタイムアウトを待ちます。出力 **CODE39SMPLTSTMSGCODE128**
3. PDF417 をスキャンし、次に Code 39 をスキャンしてタイムアウトを待ちます。出力 **CODE39SMPLMSGPD417**
4. Code 128 をスキャンし、次に PDF417 をスキャンします。出力 **TSTMSGCODE128MSGPDF417**
5. PDF417 をスキャンし、次に Code 128 をスキャンします。出力 **TSTMSGCODE128MSGPDF417**



SEQDFT;SEQ_EN1;SEQBLK6299...

SEQDFT;SEQ_EN1;SEQBLK62999943FF6A999954FF7299994DFF;SEQSEP993D3E;SEQSUF990D0A;
SEQSAT01FF23FF;SEQTIM5000FF6000FF7000FF8000FF;SEQTTS1.

SEQTTS1 との組み合わせを確認します：

1. 最初に Code 39 をスキャンします。出力 **CODE39SMPL**
2. 最初に Code 128 をスキャンし、次に Code 39 をスキャンしてタイムアウトを待ちます。出力 **CODE39SMPLTSTMSGCODE128**
3. 最初に PDF417 をスキャンし、次に Code 39 をスキャンしてタイムアウトを待ちます。出力 **CODE39SMPLMSGPDF417**

- 最初に Code 128 をスキャンし、次に PDF417 をスキャンします。出力
TSTMSGCODE128MSGPDF417
- 最初に PDF417 をスキャンし、次に Code 128 をスキャンします。出力
TSTMSGCODE128MSGPDF417

デフォルト出力シーケンス

デフォルトシーケンスは、スキャナをすべてのユニバーサル値にプログラムします。**デフォルトシーケンス**記号を読む前に、すべてのフォーマットを削除するか、クリアしてください。



デフォルトシーケンス

出力シーケンスの要求

出力シーケンスが**必要**な場合、すべての出力データは編集されたシーケンスに適合する必要があります。適合しない場合、スキャナは出力データをホストデバイスに送信しません。**オン/不要**の場合、スキャナは出力データを編集されたシーケンスに適合させるように試みますが、適合させることができない場合、スキャナはすべての出力データをそのままホストデバイスに送信するか、あるいは部分シーケンス出力フォーマットに従ってすべての出力データをフォーマットします（**部分シーケンス**（105 ページ）を参照）。

出力シーケンスが**オフ**の場合、スキャナがデコードするときにバーコードデータがホストに出力されます。 デフォルト= オフ。

注 このオプションは、複数記号の選択がオンになっている場合は使用できません。



必要



オン/不要



*オフ

読み取り成功音 - 出力シーケンス

スキャナは、出力シーケンスの各バーコードの読み取り成功に 응답してビーブ音またはクリック音を発するか、あるいは部分シーケンスに対してビーブ音またはエラー音を発するようにプログラムすることができます。デフォルト = **読み取り成功クリック - シーケンスの各コードとエラー音 - 部分シーケンス出力**。



BEPSIN0.

読み取り成功ビープ音 -
シーケンスの各コード



BEPSIN1.

* 読み取り成功クリック -
シーケンスの各コード



BEPISE0.

読み取り成功ビープ音 -
部分シーケンス出力



BEPISE1.

* エラー音 -
部分シーケンス出力

複数記号

このプログラミング選択を**オン**にすると、スキャナのトリガを1回引くだけで複数の記号を読み取ることができます。トリガを押し続け、スキャナを一連の記号に向けると、ユニークな記号を1回ずつ読み取り、読み取られるたびにビープ音と振動（オンになっている場合）が発生します。トリガが引かれている間、スキャナは新しい記号を見つけてデコードしようとします。読み取るバーコードの最大数は128です。このプログラミング選択を**オフ**にすると、スキャナは照準ビームに最も近い記号のみを読み取ります。デフォルト= オフ。



SHOTGN1.

オン



SHOTGN0.

* オフ

複数記号カウント

複数記号カウントの設定は、複数記号モードでトリガを1回引いたときにスキャナが読み取るバーコードの数を制御します。カウントが0に設定されている場合、複数記号モードがオフになり、トリガが離されるまでスキャナの電源はオフになります。カウントが1以上に設定されている場合、カウントが正常にデコードされた後、スキャナの電源がオフになります。

複数記号カウントのバーコードをスキャンし、プログラミングチャート（309 ページ）の数字をスキャンすることでカウント（0～128）を設定し、保存をスキャンします。デフォルト=0（オフ）。



複数記号カウント

読み取りなし

読み取りなしをオンにすると、スキャナはコードを読み取れない場合に通知します。EZConfig-スキャニングツールスキャンデータウィンドウ（237 ページ参照）を使用している場合、コードが読み取れないときは「NR」と表示されます。読み取りなしがオフの場合、「NR」は表示されません。デフォルト= オフ。



オン



* オフ

「エラー」や「不良コード」など、「NR」とは別の表現にしたい場合は、出力メッセージを編集できます（データフォーマット/キューバusting（129 ページ以降）参照）。読み取りなしの記号の Hex コードは 9C です。

ビデオ反転

ビデオ反転は、反転したバーコードをスキャナが読み取れるようにするために使います。以下のビデオ反転オフのバーコードは、このタイプのバーコードの一例です。ビデオ反転のみをスキャンして、反転したバーコードのみを読み取ります。両方の種類のコードを読み取るには、ビデオ反転および標準バーコードをスキャンします。

注: ビデオ反転のみのスキャン後は、メニューバーコードを読み取ることができません。メニューバーコードを読み取るには、ビデオ反転オフまたはビデオ反転および標準バーコードをスキャンする必要があります。

注: 本機から取り込んだ画像は反転しません。これはデコード専用の設定です。



ビデオ反転のみ



VIDREV2.

ビデオ反転および
標準バーコード



*ビデオ反転オフ

作業方向

バーコードの中には、スキャン方向に依存するものがあります。たとえば、KIX コードや OCR は、横向きにスキャンしたり、逆さまにスキャンしたりすると誤読されることがあります。通常、方向に依存するコードがスキャナに対して正しい向きに表示されない場合は、作業方向設定を使用します。デフォルト=正しい向き。

正しい向き：



上下反転：



縦向き、上から下：
(90°時計回り回転)



縦向き、下から上：
(90°反時計回り回転)



ROTATN0.

*正しい向き



ROTATN2.

上下反転



ROTATN1.

縦向き、下から上



ROTATN3.

縦向き、上から下

抽出遅延

メッセージ文字列内の各バーコードの送信の間に、最大 5000 ミリ秒（5 ミリ秒単位）の抽出遅延を設けることができます。以下の**遅延抽出**バーコードをスキャンして、次に 5 ミリ秒の遅延の回数をスキャンし、**プログラミングチャート**（309 ページ以降）で**保存**バーコードをスキャンします。

注: 抽出遅延は、設定されている既存の遅延に追加されます。



EXTDLY.

抽出遅延

5

章

ヘルスケア設定

以下の設定は、ヘルスケア環境でのスキャンを強化するために開発されました。これらの設定は、Xenon Ultra 1960h スキャナと Xenon Ultra 1962h スキャナおよびベースでのみサポートされています。ストリーミングプレゼンテーションを素早く設定したり、安静にしている患者の邪魔にならないようにスキャナとベースをスキャン用の静音モードに設定したりすることができます。

静穏操作 - コンビネーションコード

以下の組み合わせコードは、1つのプログラミングコードを使用して、ヘルスケアスキャナとベースを無音または静音設定用にプログラムします。これらの静音設定を個別にプログラムしたい場合は、[静音操作 - LED と音量設定](#)、(117 ページ以降)を参照してください。

LED 点滅を伴うサイレントモード

以下のバーコードをスキャンすると、スキャナとベースが完全に消音します。スキャナのビープ音、ベースのビープ音、ベースとスキャナのパワーアップビープ音、およびスキャナのリンク音はすべて消えます。バーコードがスキャンされると、LED と照準器が5回点滅します。緑は良好なスキャン、赤は不良なスキャンを示す。



LED 点滅を伴うサイレントモード -
コードレススキャナとベース



LED 点滅を伴うサイレントモード -
コード付き スキャナ

LED 点灯を伴うサイレントモード

以下のバーコードをスキャンすると、スキャナとベースが完全に消音します。スキャナのビープ音、ベースのビープ音、ベースとスキャナのパワーアップビープ音、およびスキャナのリンク音はすべて消えます。バーコードがスキャンされると、LEDと照準器が 1 秒間点灯します。緑は良好なスキャン、赤は不良なスキャンを示す。



LED 点灯を伴うサイレントモード -
コードレススキャナとベース



LED 点灯を伴うサイレントモード -
コード付きスキャナ

超低ビープ音（夜間モード）

以下のバーコードはベースを消音し、バーコードを読み取るときにスキャナを非常に低いビープ音に設定します。このコードをスキャンすると、ベースのビープ音、ベースとスキャナのパワーアップビープ音、およびスキャナのリンク音はすべて消音されます。バーコードがスキャンされると、スキャナは非常にソフトなビープ音を発します。



夜間モード -
コードレススキャナとベース



夜間モード -
コード付きスキャナ

低ビープ音（昼間モード）

以下のバーコードは、すべてのサウンドをオンに設定しますが、音量は小さくなります。スキャナのビープ音、ベースのビープ音、ベースとスキャナのパワーアップビープ音、およびスキャナのリンク音はすべて小音量に設定されています。



昼間モード -
コードレススキャナとベース



昼間モード -
コード付きスキャナ

スキャナとベースをデフォルトのサウンドにリセットするには、[カスタムデフォルトのリセット](#)（243ページ）を参照してください。

静音操作 - LED と音量設定

スキャナとベースの音を消音またはミュートしている場合は、Bluetoothリンク音、スキャン音、ページング音、圏外アラーム音のビジュアル（LED）インジケータを調整することができます。

LED の色と音をリンクさせる

注 この設定は *Xenon Ultra 1960h* スキャナではサポートされていません。

通常操作では、ベースまたはアクセスポイントにリンクするとスキャナはチャープ音を発し、ベースとスキャナの両方の LED が緑色に点滅します。すべてのサウンドを無音にし、リンク状態を示す赤色 LED を点滅させたい場合は、以下の**赤色 LED 点滅 / サイレント**のバーコードをスキャンしてください。リンク中は LED が赤色に点滅し、その後緑色に点滅してベースとスキャナがリンクされていることを示します。デフォルトの LED の色とサウンドに戻るには、**緑 LED 点滅 / サウンド**をスキャンします。デフォルト = 緑 LED 点滅 / サウンド。



BEPPAR1.

* 緑 LED 点滅 / サウンド



BEPPAR0.

赤 LED 点滅 / サイレント

LED 点滅回数

スキャナのビープ音を消している場合は、バーコード読み取り時に LED が点滅する回数を設定できます。デフォルト = LED点滅1回。

注 **LED 固定点灯 (点滅なし)** (119 ページ) を**オフ**に設定した場合、その設定はLED点滅の設定よりも優先されます。その場合は、**LED 固定点灯オフ**のバーコードをスキャンしてこの機能をオフにしてから、使用したいLED点滅のバーコードをスキャンしてください。



BEPLFN0.

* LED 点滅 1 回



BEPLFN5.

LED 点滅 5 回



BEPLFN10.

LED 点滅 10 回



BEPLFN25.

LED 点滅 25 回

LED 点滅速度

スキャナのビープ音を消した場合は、バーコード読み取り時の LED の点滅速度を設定できます。デフォルト = 高速点滅。



BEPLFR50.

* 高速点滅



BEPLFR250.

中速点滅



BEPLFR500.

低速点滅

LED 固定点灯（点滅なし）

通常の操作では、スキャナの LED が 1 回点滅し、読み取り成功を示します。LED は、読み取り成功後、点滅せずに一定時間点灯し続けるように設定することもできます。デフォルト = LED 固定点灯オフ（点滅再開）。



BEPLOT0.

* LED 固定点灯オフ
(点滅再開)



BEPLOT1.

LED 固定点灯 1 秒



BEPLOT3.

LED 固定点灯 3 秒



BEPLOT5.

LED 固定点灯 5 秒

バーコードをスキャンしてからLEDが消灯するのを待ちたくない場合は、トリガをもう一度押すとLEDが消灯します。そうすれば次のバーコードをスキャンすることができます。

ファインドマイ音量制御

注:この設定は Xenon Ultra 1960h スキャナではサポートされていません。

ベースまたはアクセスポイントの Find My（ファインドマイ）ボタン（ページボタン）を押すと、そのベースまたはアクセスポイントに関連付けられているスキャナが応答してビープ音を鳴らし始めます。ビープ音に反応しているスキャナのトリガを押すか、ベースまたはアクセスポイントの Find My（ファインドマイ）ボタンをもう一度押すと、関連するすべてのスキャナのビープ音が止まります。以下の設定は、バーコードをスキャンするときに使用される音量とは別に、ページング音量を設定します。デフォルト= 低。



BEPPGV0.

ファインドマイの音量オフ



BEPPGV1.

* ファインドマイの音量低



BEPPGV2.

ファインドマイの音量中



BEPPGV3.

ファインドマイ音量高

圏外アラーム音量

注: この設定は *Xenon Ultra 1960h* スキャナではサポートされていません。

スキャナがベースから圏外になると、ベースとスキャナの両方からアラームが鳴ります。スキャナがアクセスポイントの圏外にある場合、スキャナのみからアラーム音が鳴ります。スキャナをベースまたはアクセスポイントに近づけたとき、ベースまたはアクセスポイントが別のスキャナに接続したとき、またはアラームの継続時間が終了したときに、アラームが停止します（[圏外遅延](#)（121 ページ）参照）。以下の設定は、バーコードのスキャン時に使用される音量とは関係なく、ベースとスキャナの圏外アラームを設定します。デフォルト = ベースアラーム音量低、スキャナアラーム音量低。



BASORV0.

ベースアラーム音オフ



BT_ORV0.

スキャナアラーム音オフ



BASORV1.

* ベースアラーム音量低



BT_ORV1.

* スキャナアラーム音量低



BASORV2.

ベースアラーム音量中



BT_ORV2.

スキャナのアラーム音量中



BASORV3.

ベースアラーム音量高



BT_ORV3.

スキャナアラーム音量高

圏外遅延

注: この設定は Xenon Ultra 1960h スキャナではサポートされていません。

圏外アラーム設定を使用する場合、アラームの遅延時間は**圏外遅延**で設定されます。スキャナがベースまたはアクセスポイントの圏外にある場合、アラームは設定された時間遅延してから鳴ります。タイムアウトの長さ（秒）を設定するには、次のバーコードをスキャンしてから、**プログラミングチャート**（309 ページ以降）の数字をスキャンしてタイムアウト（0～3,000 秒）を設定し、**保存**をスキャンしてください。デフォルト = 遅延なし。



BT_ORY.

圏外遅延

振動 - 読み取り成功

バーコードが正常に読み取られるとスキャナは 1 回振動し、プログラミングバーコードが正常に読み取られるとスキャナは 2 回振動します。プログラミングバーコードが失敗すると、スキャナは長い振動を 1 回（2 倍の振動時間）行います。**振動 - 読み取り成功オフ**をスキャンすると、スキャナが振動しなくなります。デフォルト = 振動 - 読み取り成功オフ。



TFBGRD0.

* 振動 - 読み取り成功オフ



TFBGRD1.

振動 - 読み取り成功オン

振動時間

読み取り成功時の振動時間を設定するには、以下のバーコードをスキャンし、次に [プログラミングチャート](#) (309 ページ以降) から数字をスキャンして時間 (100～2,000 ミリ秒) を設定し、さらに**保存**をスキャンします。デフォルト=100 ミリ秒。



TFBDUR.

振動時間

6

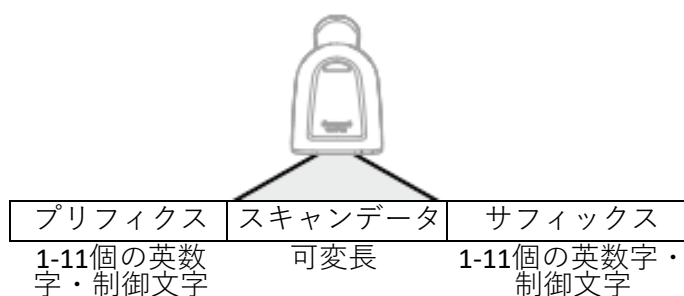
章

データ編集

プリフィクス／サフィックスの概要

バーコードを読み取ると、追加情報がバーコードデータとともにホストコンピュータに送信されます。このバーコードデータと追加のユーザー定義データを合わせたものを、「メッセージ文字列」と呼びます。本節のオプションは、ユーザー定義データをメッセージ文字列に組み込むために使います。

プリフィクス文字とサフィックス文字は、スキャンデータの前後に送信できるデータ文字です。すべての記号において送信するか、特定の記号でのみ送信するかを指定できます。次の図は、メッセージ文字列の内訳を示しています：



留意点

- メッセージ文字列を一から構築する必要はありません。本章のオプションは、デフォルト設定を変更する場合にのみ使用します。デフォルトプリフィクス= なし。デフォルトサフィックス= なし。
- プリフィクスまたはサフィックスは、1つの記号またはすべての記号に対して追加または削除できます。
- [ASCII 変換チャート \(コードページ 1252\)](#) (298 ページ以降)、コード ID、AIM ID から任意のプリフィクスまたはサフィックスを追加できます。
- 複数の記号に対して一度に複数のエントリを文字列化できます。

- プリフィクスとサフィックスは、出力に表示する順序で入力します。
- (すべての記号ではなく) 特定の記号に対して設定する場合、特定の記号の ID 値は追加されたプリフィクスまたはサフィックス文字としてカウントされます。
- プリフィクスまたはサフィックス構成の最大サイズは 200 文字で、これにはヘッダー情報が含まれます。

プリフィクスまたはサフィックスを追加する

ステップ 1. **プリフィクスの追加**または**サフィックスの追加**の記号をスキャンします (125 ページ)。

ステップ 2. プリフィクスまたはサフィックスを適用する記号については、**記号チャート** (295 ページ以降) から 2 桁の Hex 値を決定します。たとえば、Code 128 の場合、Code ID は「j」、Hex ID は「6A」です。

ステップ 3. **プログラミングチャート** (309 ページ以降) から 2 桁の Hex 値をスキャンするか、すべての記号に対し **9,9** をスキャンします。

Code ID を追加するには、**5, C, 8, 0** をスキャンします。

AIM ID を追加するには、**5, C, 8, 1** をスキャンします。

シリアル番号を追加するには、**5, C, 8, 8** をスキャンします。

バックslash (¥) を追加するには、**5, C, 5, C** をスキャンします。

注: バックslash (¥) を追加する場合は、**5C** を 2 回スキャンします。1 回は先頭のバックslashを作成し、もう 1 回はバックslash自体を作成します。

ステップ 4. すべてのプリフィクスまたはサフィックス文字について、ステップ 2 と 3 を繰り返します。

ステップ 5. **保存**をスキャンして、終了および保存を行うか、あるいは**破棄**をスキャンして、保存せずに終了します。

上記のステップを繰り返して、別の記号のプリフィクスまたはサフィックスを追加していきます。

例：すべての記号にタブサフィックスを追加

ステップ 1. **サフィックスの追加**をスキャンします。

ステップ 2. **プログラミングチャート** (309 ページ以降) の **9,9** をスキャンして、このサフィックスをすべての記号に適用します。

ステップ 3. **プログラミングチャート** (309 ページ以降) の **0,9** をスキャンします。これは、**ASCII 変換チャート (コードページ 1252)** (298 ページ以降) に示す水平タブの Hex 値に対応します。

ステップ 4. **保存**をスキャンするか、あるいは**破棄**をスキャンして、保存せずに終了します。

1 つまたはすべてのプリフィクスまたはサフィックスを消去

単一のプリフィクスまたはサフィックスを消去したり、記号に含まれるすべてのプリフィクスとサフィックスを消去したりできます。単一の記号にプリフィクスとサフィックスを入力している場合は、**1 つのプリフィクス (サフィックス) を消去**を使用して、記号から特定の文字を削除できます。**すべてのプリフィクス (サフィックス) を消去**を使うと、記号のすべてのプリフィクスまたはサフィックスが削除されます。

- ステップ 1 **1つのプリフィクスを消去**または**1つのサフィックスを消去**の記号をスキャンします。
- ステップ 2. プリフィクスまたはサフィックスを消去する記号について、記号チャート（**記号チャート**（295 ページ以降）にあります）から 2 桁の Hex 値を決定します。
- ステップ 3. **プログラミングチャート**（309 ページ以降）から 2 桁の Hex 値をスキャンするか、すべての記号に対して **9,9** をスキャンします。
- 変更内容が自動的に保存されます。

すべての記号にキャリッジリターンのサフィックスを追加

キャリッジリターンサフィックスをすべての記号に一度に追加する場合は、次のバーコードをスキャンします。この操作では、まず現在のサフィックスをすべて消去し、その後、すべての記号に対してキャリッジリターンのサフィックスをプログラムします。



デフォルトの有効化と CR サフィックスの追加

カスタム/工場出荷時のデフォルト設定にリセットし、バーコードの後にキャリッジリターンを追加するには、**デフォルトの有効化と CR サフィックスの追加**のバーコードをスキャンします。



プリフィクスの選択



サフィックスの選択



SUFBK2.

サフィックスの追加



SUFCL2.

1つのサフィックスを消去



SUFCA2.

すべてのサフィックスを消去

ファンクションコード送信

デフォルトでは、すべての ASCII 制御文字がバーコードデータとともに送信されます。これらの印刷不可文字は、定義済みのキーストローク、または CTRL+X 関数に変換されます ([ASCII 変換チャート \(コードページ 1252\)](#) (298 ページ以降) 参照)。これらのキーストロークがホストのソフトウェアアプリケーションに干渉する場合は、**無効**をスキャンして、これらの ASCII 制御文字が送信されないようにします。デフォルト= 有効。



RMVFNC0.

*有効



RMVFNC1.

無効

注: カスタムデータフォーマット ([データフォーマット/キューバusting](#) (129 ページ以降) 参照) を使用して、これらの文字をより意味のある出力に変換することもできます。

文字間、機能間、メッセージ間の遅延

端末によっては、データが速すぎると情報 (文字) を受け取り損ねることがあります。文字間、機能間、メッセージ間の遅延により、データの送信が遅くなり、データの整合性が向上します。

文字間遅延

スキャンされたデータの各キャラクタの送信間に、最大 5000 ミリ秒（5 ミリ秒単位）の文字間遅延を置くことができます。以下の**文字間遅延**バーコードをスキャンし、次に**プログラミングチャート**（309 ページ以降）から 5 ミリ秒遅延の回数と**保存**をスキャンします。



この遅延を削除するには、**文字間遅延**バーコードをスキャンしてから、遅延数を 0 に設定します。**プログラミングチャート**（309 ページ以降）で**保存**のバーコードをスキャンします。

注: 文字間遅延は、USB シリアルエミュレーションではサポートされません。

ユーザー指定の文字間遅延

スキャンされたデータの特定の文字の送信後、最大 5000 ミリ秒（5 ミリ秒単位）の文字間遅延を置くことができます。以下の**遅延長**バーコードをスキャンし、次に**プログラミングチャート**（309 ページ以降）から 5 ミリ秒遅延の回数と**保存**をスキャンします。

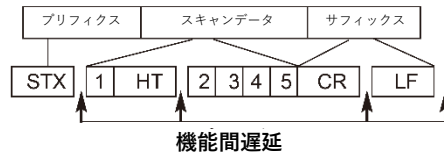
次に、**遅延をトリガする文字**のバーコードをスキャンし、遅延をトリガする印刷可能な文字に対する 2 桁の Hex 値をスキャンします（**下位 ASCII 参照表**（299 ページ）参照）。



この遅延を取り除くには、**遅延長**バーコードをスキャンし、遅延数を 0 に設定します。**プログラミングチャート**（309 ページ以降）で**保存**のバーコードをスキャンします。

機能間遅延

メッセージ文字列の各制御文字の送信間には、最大 5000 ミリ秒 (5 ミリ秒単位) の機能間遅延を置くことができます。以下の**機能間遅延**バーコードをスキャンし、5 ミリ秒の遅延の回数をスキャンし、**プログラミングチャート** (309 ページ以降) で**保存**バーコードをスキャンします。



DLYFNC.

機能間遅延

この遅延を削除するには、**機能間遅延**バーコードをスキャンしてから、遅延数を **0** に設定します。**プログラミングチャート** (309 ページ以降) で**保存**のバーコードをスキャンします。

メッセージ間遅延

各スキャン送信の間に最大 5000 ミリ秒 (5 ミリ秒単位) のメッセージ間遅延を置くことができます。以下の**メッセージ間遅延**バーコードをスキャンし、5 ミリ秒の遅延の回数をスキャンし、**プログラミングチャート** (309 ページ以降) で**保存**バーコードをスキャンします。



DLYMSG.

メッセージ間遅延

この遅延を削除するには、**メッセージ間遅延**バーコードをスキャンしてから、遅延数を **0** に設定します。**プログラミングチャート** (309 ページ以降) で**保存**のバーコードをスキャンします。

7

章

データフォーマット/ キューバusting

データフォーマットエディタの概要

データフォーマットエディタを使用して、スキャナの出力を変更できます。たとえば、データフォーマットエディタを使用して、スキャン時にバーコードデータの特定のポイントに文字を挿入できます。以下のページのオプションは、出力を変更する場合にのみ使用します。デフォルトのデータフォーマット設定= なし。

通常、バーコードをスキャンすると自動的に出力されます。ただし、フォーマットを作成する場合は、データ出力のフォーマットプログラム内で「送信」コマンド（送信コマンド（132 ページ）参照）を使う必要があります。

複数のフォーマットをスキャナにプログラムすることができます。複数のフォーマットは、入力された順番に積み重ねられていきます。ただし、フォーマットの適用順を次のリストに示します。

1. 特定の端末 ID、実際のコード ID、実際の長さ
2. 特定の端末 ID、実際のコード ID、ユニバーサル長
3. 特定の端末 ID、ユニバーサルコード ID、実際の長さ
4. 特定の端末 ID、ユニバーサルコード ID、ユニバーサル長
5. ユニバーサル端末 ID、実際のコード ID、実際の長さ
6. ユニバーサル端末 ID、実際のコード ID、ユニバーサル長
7. ユニバーサル端末 ID、ユニバーサルコード ID、実際の長さ
8. ユニバーサル端末 ID、ユニバーサルコード ID、ユニバーサル長

データフォーマット設定の最大サイズは 2000 バイトで、これにはヘッダー情報が含まれます。

最初のデータフォーマットに合わないバーコードが読み取られると、次のデータフォーマットがあれば、そのバーコードデータに対して使用されます。他のデータフォーマットがない場合は、raw データが出力されます。

データフォーマットの設定を変更し、すべてのフォーマットをクリアして工場出荷時のデフォルトに戻したい場合は、以下の**デフォルトデータフォーマット**のコードをスキャンしてください。



DFMDF3.

* デフォルトデータフォーマット

データフォーマットの表示

以下のバーコードをスキャンして、現在のデータフォーマット設定を表示します。



DFMBK3?.

データフォーマット設定

データフォーマットの追加

ステップ 1. **データフォーマットの入力記号**をスキャンします (131 ページ)。

ステップ 2. **プライマリ/代替フォーマット**の選択

それをプライマリデータフォーマットとするか、3つの代替フォーマットの一つとするか、決定します。これにより、合計4つの異なるデータフォーマットを保存できます。プライマリフォーマットをプログラムするには、**プログラミングチャート** (309 ページ以降) で **0** をスキャンします。代替フォーマットをプログラミングする場合は、プログラミングする代替フォーマットに応じて、**1**、**2**、または **3** をスキャンします。(詳細については、**プライマリ/代替データフォーマット** (147 ページ) を参照してください。)

ステップ 3. **端末タイプ**

端末 ID 表 (132 ページ) を参照し、お使いの PC の端末 ID 番号を確認します。**プログラミングチャート** (309 ページ以降) から 3 つの数字バーコードをスキャンし、端末 ID 用にスキャナをプログラムします (3桁の数字を入力する必要があります)。たとえば、AT ウェッジの場合は **003** をスキャンします。

注: **099** は全端末タイプを示します。

ステップ 4 **コード ID**

記号チャート (295 ページ) で、データフォーマットを適用する記号を見つけます。その記号の Hex 値を探し、**プログラミングチャート** (309 ページ以降) から 2桁の Hex 値をスキャンします。

一部の特定の記号を除き、すべての記号のデータフォーマットを作成する場合は、**B8** (145 ページ) を参照してください。

バッチモード数量のデータフォーマットを作成する場合は、コード ID に **35** を使用します。

注: **99** はすべての記号を表します。

ステップ 5. **長さ**

この記号で許容されるデータの長さ (最大 9999 文字) を指定します。**プログラミングチャート** (309 ページ以降) から 4桁のデータ長をスキャンします。たとえば、50 文字は **0050** と入力します。

注: 9999 はすべての長さを表します。

ステップ 6. **エディタコマンド**

データフォーマットエディタコマンド (132 ページ) を参照してください。入力したいコマンドを表す記号をスキャンします。

ステップ 7. **保存** をスキャンしてデータフォーマットを保存するか、**破棄** をスキャンして変更を保存せずに終了します。



DFMBK3.

データフォーマットの入力



MNUSAV.

保存



MNUABT.

破棄

その他のプログラミング選択

- **1つのデータフォーマットの消去**

これにより、1つの記号に対して1つのデータフォーマットが削除されます。プライマリフォーマットを消去する場合は、**プログラミングチャート** (309 ページ以降) から **0** をスキャンします。代替フォーマットを消去する場合は、消去するフォーマットに応じて **1**、**2**、または **3** をスキャンします。端末タイプとコード ID (**記号チャート** (295 ページ) 参照) と、削除する特定のデータフォーマットのバーコードデータ長をスキャンします。他のすべてのフォーマットは影響を受けません。

- **すべてのデータフォーマットの消去**

すべてのデータフォーマットを消去します。

• **保存**

データフォーマットの変更を終了し、保存します。

- **破棄**

データフォーマットの変更を保存せずに終了します。



DFMCL3.

1つのデータフォーマットの
消去



DFMCA3.

すべてのデータフォーマットの
消去



MNUSAV.

保存



MNUABT.

破棄

端末 ID 表

端末	モデル	端末 ID
USB	PC キーボード (HID)	124
	Mac キーボード	125
	PC キーボード (日本語)	134
	シリアル (COM ドライバが必要)	130
	HID POS	131
	USB SurePOS ハンドヘルド	128
	USB SurePOS テーブルトップ	129
シリアル	RS232 TTL	000
	RS232 True	000
	RS485 (IBM-HHBCR 1+2, 46xx)	予備
キーボード	PS2 互換	003
	AT 互換機	002

データフォーマットエディタコマンド

データフォーマットエディタを使用すると、入力データ文字列に沿って仮想カーソルが移動します。以下のコマンドは、このカーソルを別の位置に移動したり、最終出力の選択や置換、最終出力へのデータの挿入のために使用します。

送信コマンド

すべての文字を送信

- F1** 出力メッセージには、現在のカーソル位置から始まる入力メッセージのすべての文字を含まれ、挿入文字が続きます。構文 = **F1xx**。ここで、**xx** は挿入文字の ASCII コードの Hex 値を表します。10 進数、16 進数、文字コードについては、[ASCII 変換チャート \(コードページ 1252\)](#) (298 ページ以降) を参照してください。

いくつかの文字を送信

F2 出力メッセージには、いくつかの文字とそれに続いて挿入文字が含まれます。現在のカーソル位置から始まり、「nn」個の文字または入力メッセージの最後の文字まで続き、その後、文字「xx」が続きます。構文 = **F2nnxx**。nn は文字数 (00~99) を表し、xx は挿入文字の ASCII コードの Hex 値を表します。10 進数、16 進数、文字コードについては、[ASCII 変換チャート \(コードページ 1252\)](#) (298 ページ以降) を参照してください。

F2 の例：いくつかの文字を送信



上記のバーコードから最初の 10 文字を送信し、その後にキャリッジリターンを送信します。コマンド文字列：F2100D

F2 は「いくつかの文字を送信」コマンド

10 は送信する文字数

0D は CR の Hex 値

データは次のように出力されます。1234567890

F2 と F1 の例:文字を 2 行に分割する

上記のバーコードから最初の 10 文字を送信し、その後にキャリッジリターンを送り、残りの文字を送信します。

コマンド文字列：F2100DF10D

F2 は「いくつかの文字を送信」コマンド

10 は最初の行に送信する文字数

0D は CR の Hex 値

F1 は「すべての文字を送信」コマンド

0D は CR の Hex 値

データは次のように出力されます。

1234567890

ABCDEFGHIJ

<CR>

特定の文字までのすべての文字を送信

- F3** 入力メッセージのうち、現在のカーソル位置の文字から始まり、検索文字「ss」（ただしこれを含めません）までのすべての文字、およびそれに続けて挿入文字を、出力メッセージに含めます。カーソルが「ss」文字に移動します。構文 = **F3ssxx**。ここで、ss は検索文字の ASCII コードの Hex 値を表し、xx は挿入文字の ASCII コードの Hex 値を表します。10 進数、16 進数、文字コードについては、[ASCII 変換チャート（コードページ 1252）](#)（298 ページ以降）を参照してください。

F3 の例:特定の文字までのすべての文字を送信



上記のバーコードを使用して、「D」までのすべての文字を送信し、その後にキャリッジリターンを送信します。

コマンド文字列：**F3440D**

F3 は「特定の文字まですべての文字を送信」コマンド

44 は「D」に対する Hex 値

0D は CR の Hex 値

データは次のように出力されます。

1234567890ABC
<CR>

文字列までのすべての文字を送信

- B9** 入力メッセージのうち、現在のカーソル位置の文字から始まり、検索文字列「s...s」（ただしこれを含めません）までのすべての文字を、出力メッセージに含めます。カーソルが「s...s」文字列の先頭に移動します。構文 = **B9nnns...s**。nnnn は文字列の長さを表し、s...s は一致する文字列を表します。文字列は、文字列内の文字を Hex 値で表したもので構成します。10 進数、16 進数、文字コードについては、[ASCII 変換チャート（コードページ 1252）](#)（298 ページ以降）を参照してください。

B9 の例:定義された文字列までのすべての文字を送信



上記のバーコードを使用して、「AB」までのすべての文字を送信します（「AB」を除く）。

コマンド文字列：**B900024142**

B9 は「文字列までのすべての文字を送信」コマンド

0002 は文字列の長さ（2 文字）

41 は A の Hex 値

42 は B の Hex 値

データは次のように出力されます。1234567890

最後の文字以外をすべて送信

- E9** 出力メッセージには、現在のカーソル位置から、最後の「nn」個の文字以外のすべての文字を含めます。カーソルは、出力に含める最後の入力メッセージ文字の 1 つ先に移動します。構文 = E9nn。nn は、メッセージの最後において、送信されない文字の数 (00~99) を表します。

文字を複数回挿入

- F4** 出力メッセージに「xx」文字を「nn」回送信し、カーソルを現在の位置に残します。構文 = F4xxnn。ここで、xx は ASCII コードの挿入文字の Hex 値を表し、nn は送信回数 (00~99) です。10 進数、16 進数、文字コードについては、[ASCII 変換チャート \(コードページ 1252\)](#) (298 ページ以降) を参照してください。

E9 と F4 の例:最後の文字を除くすべての文字を送信し、その後に 2 つのタブを送信



上記のバーコードから最後の 8 文字を除くすべての文字を送信し、その後に 2 つのタブを送信します。

コマンド文字列: **E908F40902**

E9 は「最後の文字以外をすべて送信」コマンド

08 は無視する最後の文字数

F4 は「1 文字を複数回挿入」コマンド

09 は水平タブの Hex 値

02 はタブ文字の送信回数

データは次のように出力されます。1234567890AB <tab><tab>

文字列の挿入

- BA** 出力メッセージに長さ「nn」の文字列「ss」を送信し、カーソルを現在の位置に残します。構文 = BAnnnns...s。nnnn は文字列の長さを表し、s...s は文字列を表します。文字列は、文字列内の文字を Hex 値で表したもので構成します。10 進数、16 進数、文字コードについては、[ASCII 変換チャート \(コードページ 1252\)](#) (298 ページ以降) を参照してください。

B9 と BA の例:文字列「AB」を探し、2つのアスタリスク (**) を挿入



上記のバーコードを使用して、「AB」までのすべての文字を送信します（「AB」を除く）。その位置に2つのアスタリスクを挿入し、残りのデータとその後にキャリッジリターンを送信します。

コマンド文字列：**B900024142BA00022A2AF10D**

B9 は「文字列までのすべての文字を送信」コマンド

0002 は文字列の長さ（2文字）

41 は A の Hex 値

42 は B の Hex 値

BA は「文字列の挿入」コマンド

0002 は追加する文字列の長さ（2文字）

2A はアスタリスクの Hex 値 (*)

2A はアスタリスクの Hex 値 (*)

F1 は「すべての文字を送信」コマンド

0D は CR の Hex 値

データは次のように出力されます。

1234567890ABCDEFGHIJ**

<CR>

記号名の挿入

- B3** カーソルを移動せずに、バーコードの記号名を出力メッセージに挿入します。ハネウェル ID を持つ記号のみが含まれます（[記号チャート](#)（295 ページ）参照）。10 進数、16 進数、文字コードについては、[ASCII 変換チャート](#)（[コードページ 1252](#)）（298 ページ以降）を参照してください。

バーコード長の挿入

- B4** カーソルを動かさずに、バーコードの長さを出力メッセージに挿入します。長さは数値文字列で表され、先頭のゼロは含まれません。

B3 と B4 の例:記号名と長さを挿入



上記のバーコードからバーコードデータの前に記号名と長さを送信します。挿入したものはスペースで分けます。キャリッジリターンで終了します。

コマンド文字列：**B3F42001B4F42001F10D**

B3 は「記号名の挿入」コマンド
F4 は「1文字を複数回挿入」コマンド
20 はスペースの Hex 値
01 はスペース文字の送信回数
B4 は「バーコード長の挿入」コマンド
F4 は「1文字を複数回挿入」コマンド
20 はスペースの Hex 値
01 はスペース文字の送信回数
F1 は「すべての文字を送信」コマンド
0D は CR の Hex 値
 データは次のように出力されます。
Code128 20 1234567890ABCDEFGHIJ
<CR>

キーストロークの挿入

B5 キーストロークまたはキーストロークの組み合わせを挿入します。キーストロークはキーボードによって異なります（[キーボードのキーリファレンス](#)（305 ページ）参照）。矢印キーやファンクションキーを含む任意のキーを挿入できます。構文= **5CB5xxssnn**。ここで、**xx** は押されたキーの数（キー修飾子除く）、**ss** は下表のキー修飾子、**nn** は [キーボードのキーリファレンス](#)（305 ページ）にあるキー番号です。

キー修飾子	Hex
キー修飾子なし	00
左シフト	01
右シフト	02
左 Alt	04
右 Alt	08
左コントロール	10
右コントロール	20

たとえば、**B501021F** では、**104** キーを持つ U.S.スタイルのキーボードで「A」が挿入されます。**B5** = コマンド、**01** = キーを押したイベントの数（キー修飾子除く）、**02** は右シフトのキー修飾子、**1F** は「a」キーです。小文字の「a」を挿入する場合は、**B501001F** を入力します。

3つのキーストロークがある場合、構文は1つのキーストロークに対する B5xxssnn から B5xxssnnssnn に変わります。「abc」を挿入する例は次のとおりです：
B503001F00320030F833.

注: キー修飾子は、必要に応じて追加できます。合計は16進数に変換されます。

例: コントロール左+シフト左=17、16進数に変換すると=11。

移動コマンド

カーソルを数文字先に移動

F5 カーソルを現在のカーソル位置から「nn」文字先に移動します。
構文= F5nn。nn は、カーソルを先に移動する文字数（00～99）です。

F5 の例：カーソルを先に移動し、データを送信



カーソルを3文字前方に移動し、上記のバーコードから残りのバーコードデータを送信します。キャリッジリターンで終了します。

コマンド文字列：**F503F10D**

F5 は「カーソルを数文字先に移動」コマンド

03 はカーソルを移動する文字数

F1 は「すべての文字を送信」コマンド

0D は CR の Hex 値

データは次のように出力されます。

4567890ABCDEFGHIJ

<CR>

カーソルを数文字後に移動

F6 カーソルを現在のカーソル位置から「nn」文字後方に移動します。
構文= F6nn。nn は、カーソルを後ろに戻す文字数（00～99）です。

カーソルを先頭に移動

F7 入力メッセージの最初の文字にカーソルを移動します。構文 = F7。

FE および F7 の例：1 で始まるバーコードに対する操作



1 で始まるバーコードを探します。対象となるバーコードがあった場合は、カーソルをデータの先頭に戻し、6 文字後にキャリッジリターンを送信します。上記のバーコードを使用します。

コマンド文字列：**FE31F7F2060D**

FE は「文字の比較」コマンド

31 は 1 の Hex 値

F7 は「カーソルを先頭に移動」コマンド

F2 は「いくつかの文字を送信」コマンド

06 は送信する文字数

0D は CR の Hex 値

データは次のように出力されます。

123456

<CR>

カーソルを末尾に移動

EA 入力メッセージの最後の文字にカーソルを移動します。構文 = EA。

検索コマンド

文字の前方探索

F8 現在のカーソル位置から文字「xx」を前方に検索し、カーソルは「xx」文字を指すようにします。構文 = F8xx。ここで、xx は検索文字の ASCII コードの Hex 値を表します。

10 進数、16 進数、文字コードについては、[ASCII 変換チャート \(コードページ 1252\)](#) (298 ページ以降) を参照してください。

F8 の例:特定の文字の後から始まるバーコードデータを送信



バーコード内の文字「D」を検索し、「D」を含む後続のすべてのデータを送信します。上記のバーコードを使用します。

コマンド文字列：**F844F10D**

F8 は「文字の前方検索」コマンド

44 は「D」の Hex 値

F1 は「すべての文字を送信」コマンド

0D は CR の Hex 値

データは次のように出力されます。

DEFGHIJ

<CR>

文字の後方検索

F9 現在のカーソル位置から文字「xx」を後方に検索し、カーソルは「xx」文字を指すようにします。構文 = F9xx。ここで、xx は検索文字の ASCII コードの Hex 値を表します。

10 進数、16 進数、文字コードについては、[ASCII 変換チャート \(コードページ 1252\)](#) (298 ページ以降) を参照してください。

文字列の前方検索

B0 現在のカーソル位置から文字列「s」を前方検索し、カーソルは文字列「s」を指したままにします。構文 = B0nnnnS。nnnn は文字列の長さ (9999 まで) で、S は一致文字列の各文字の ASCII Hex 値で構成されます。例えば、B0000454657374 は最初に出現する 4 文字の文字列「Test」を前方検索します。

10 進数、16 進数、文字コードについては、[ASCII 変換チャート \(コードページ 1252\)](#) (298 ページ以降) を参照してください。

B0 の例：文字列の後から始まるバーコードデータを送信



バーコードの「FGH」の文字を検索し、「FGH」を含む後続のすべてのデータを送信します。上記のバーコードを使用します。

コマンド文字列：**B00003464748F10D**

B0 は「文字列の前方検索」コマンド

0003 は文字列長 (3 文字)

46 は「F」の Hex 値

47 は「G」の Hex 値

48 は「H」の Hex 値

F1 は「すべての文字を送信」コマンド

0D は CR の Hex 値

データは次のように出力されます。

FGHIJ

<CR>

文字列の後方検索

- B1** 現在のカーソル位置から文字列「s」を後方検索し、カーソルは文字列「s」を指したままにします。構文 = B1nnnnS。nnnn は文字列の長さ (9999 まで) で、S は一致文字列の各文字の ASCII Hex 値で構成されます。例えば、B1000454657374 は最初に出現する 4 文字の文字列「Test」を後方検索します。
10 進数、16 進数、文字コードについては、[ASCII 変換チャート \(コードページ 1252\)](#) (298 ページ以降) を参照してください。

一致しない文字を前方検索

- E6** 現在のカーソル位置から「xx」ではない最初の文字を前方検索し、カーソルは「xx」ではない文字を指すようにします。構文 = E6xx。ここで、xx は検索文字の ASCII コードの Hex 値を表します。10 進数、16 進数、文字コードについては、[ASCII 変換チャート \(コードページ 1252\)](#) (298 ページ以降) を参照してください。

E6 の例：バーコードデータの先頭のゼロを削除



この例は、ゼロが含まれているバーコードを示しています。ゼロを無視して、後続のすべてのデータを送信することができます。E6 は、ゼロ以外の最初の文字を前方検索し、その後すべてのデータを送信し、続けてキャリッジリターンを送信します。上記のバーコードを使用します。

コマンド文字列：**E630F10D**

E6 は「一致しない文字を前方検索」コマンド

30 は 0 の Hex 値

F1 は「すべての文字を送信」コマンド

0D は CR の Hex 値

データは次のように出力されます。

37692

<CR>

一致しない文字を後方検索

- E7** 現在のカーソル位置から「xx」ではない最初の文字を後方検索し、カーソルは「xx」ではない文字を指すようにします。構文 = E7xx。ここで、xx は検索文字の ASCII コードの Hex 値を表します。10 進数、16 進数、文字コードについては、[ASCII 変換チャート \(コードページ 1252\)](#) (298 ページ以降) を参照してください。

その他のコマンド

文字の抑制

FB カーソルが他のコマンドによって進められる中、現在のカーソル位置から開始して、最大 15 個の異なる文字の出現をすべて抑制します。FC コマンドが検出されると、抑制機能は終了します。FB コマンドではカーソルは移動しません。
構文= FBnnxyy .. zz。nn はリスト内の抑制文字数、xyy..zz は抑制する文字のリストです。

FB の例：バーコードデータのスペースを削除



この例は、データにスペースがあるバーコードを示しています。データを送信する前にスペースを削除することができます。上記のバーコードを使用します。

コマンド文字列：**FB0120F10D**

FB は「文字の抑制」コマンド

01 は抑制する文字種の数

20 はスペースの Hex 値

F1 は「すべての文字を送信」コマンド

0D は CR の Hex 値

データは次のよう出力されます。

34567890

<CR>

文字の抑制の停止

FC 抑制フィルタを無効にし、すべての抑制した文字を解除します。Syntax = FC。

文字の置換

E4 出力メッセージの最大 15 文字を、カーソルを移動せずに置換します。
E5 のコマンドが出るまで置換し続けます。構文 = E4nnxx₁xx₂yy₁yy₂...zz₁zz₂。nn はリスト内の文字数（置換される文字と置換文字）の合計です。xx₁ は置換される文字を、xx₂ は置換文字をそれぞれ定義し、それが zz₁ と zz₂ まで続きます。

E4 の例：バーコードデータのゼロを CR に置換



バーコードにホストアプリケーションが含めてほしくない文字が含まれている場合は、E4 コマンドを使ってそれらの文字を他の文字に置き換えることができます。この例では、上記のバーコードのゼロをキャリッジリターンに置き換えます。

コマンド文字列：**E402300DF10D**

E4 は「文字の置換」コマンド

02 は、置換される文字と置換文字の合計数（0 を CR に置換するため、合計文字数=2）

30 は 0 の Hex 値

0D は、CR（0 を置き換える文字）の Hex 値

F1 は「すべての文字を送信」コマンド

0D は CR の Hex 値

データは次のように出力されます。

1234

5678

ABC

<CR>

文字の置換の中止

E5 文字の置換を終了します。構文 = E5。

文字の比較

FE 現在のカーソル位置の文字を文字「xx」と比較します。文字が等しい場合は、カーソルを 1 つ先に移動します。構文 = FExx。xx は、比較文字の ASCII コードの Hex 値を表します。

10 進数、16 進数、文字コードについては、[ASCII 変換チャート（コードページ 1252）](#)（298 ページ以降）を参照してください。

文字列の比較

B2 入力メッセージの文字列を文字列「s」と比較します。文字列が等しい場合は、カーソルを文字列の末尾の先に移動します。構文 = B2nnnnS。nnnn は文字列の長さ（9999 まで）で、S は一致文字列の各文字の ASCII Hex 値で構成されます。例えば、B2000454657374 は、現在のカーソル位置の文字列を 4 文字の文字列「Test」と比較します。

10 進数、16 進数、文字コードについては、[ASCII 変換チャート（コードページ 1252）](#)（298 ページ以降）を参照してください。

数字の確認

EC 現在のカーソル位置に ASCII 数があることを確認します。文字が数字でない場合、フォーマットは破棄されます。

EC の例：バーコードが数字で始まる場合のみデータを出力

数字で始まるバーコードデータのみが必要な場合は、EC を使って数字をチェックできます。

コマンド文字列：**ECF10D**

EC は「数字の確認」コマンド

F1 は「すべての文字を送信」コマンド

0D は CR の Hex 値



このバーコードが読み取られた場合、**AB1234** 次のデータフォーマットが

あれば、そのデータが使用されます。他のフォーマットがない場合、フォーマット

は失敗し、生データは **AB1234** として出力されます。



このバーコード **1234AB** が読み取られると、次のデータが出力されます。

1234AB

<CR>

数字以外の文字の確認

ED 現在のカーソル位置に数字以外の ASCII 文字があることを確認します。文字が数字の場合、フォーマットは破棄されます。

ED の例：バーコードが文字で始まる場合のみデータを出力

文字で始まるバーコードデータのみ必要な場合は、ED を使って文字をチェックできます。

コマンド文字列：**EDF10D**

ED は「数字以外の文字の確認」コマンド

F1 は「すべての文字を送信」コマンド

0D は CR の Hex 値



このバーコードが読み取られた場合、**1234AB** 次のデータフォーマットが

あれば、そのデータが使用されます。他のフォーマットがない場合、フォーマット

は失敗し、生データは **1234AB** として出力されます。



このバーコード **AB1234** が読み取られると、次のデータが出力されます。

AB1234

<CR>

遅延の挿入

EF 現在のカーソル位置から、最大 49,995 ミリ秒（5 の倍数）の遅延を挿入します。構文 = EFnnnn。ここで、nnnn は 9999 までの 5 ミリ秒単位の遅延を表します。このコマンドは、キーボードエミュレーションでのみ使用できます。

データの破棄

B8 さまざまなデータを破棄します。たとえば、文字 A で始まる Code 128 バーコードを破棄する場合を考えます。ステップ 4（130 ページ）で 6A（Code 128 の場合）を選択し、ステップ 5 で 9999（すべての長さ）を選択します。FE41B8 と入力して、文字 A で始まる Code 128 バーコードを比較し、破棄します。構文 = B8。

注 コマンド B8 は他のすべてのコマンドの後に入力する必要があります。
B8 コマンドを動作させるには、データフォーマットが必要（145 ページ参照）です。データフォーマットがオンでも不要（146 ページ）である場合、B8 フォーマットを満たすバーコードデータがスキャンされ、通常どおりに出力されます。データフォーマットは B8 コマンドに対してオンで必要（146 ページ）の場合、廃棄したいすべてのバーコードと出力したいすべてのバーコードのデータフォーマットを入力する必要があります。その他のデータフォーマット設定は、B8 コマンドに影響します。データフォーマット不一致エラー音（146 ページ）がオンの場合、スキャナはエラー音を発します。データフォーマット不一致エラー音がオフの場合、コードは読み取り不可となり、音は鳴りません。

データフォーマット

データフォーマットをオフにすると、プリフィクスとサフィックスを含むバーコードデータが読み取り済みとしてホストに出力されます。



DFM_EN0.

データフォーマットオフ

作成し保存したデータフォーマットにデータを適合させたい場合があります。次の設定をデータフォーマットに適用できます：

- **データフォーマットオン、不要、プリフィクス／サフィックスの保持**
スキャンしたデータはデータフォーマットに応じて変更され、プリフィクスとサフィックスが送信されます。
- **データフォーマットオン、不要、プリフィクス／サフィックスの除去**
スキャンしたデータは、データフォーマットに応じて変更されます。特定の記号に対するデータフォーマットがある場合、それらのプリフィクスとサフィックスは送信されません。その記号に対するデータフォーマットがない場合、プリフィクスとサフィックスが送信されます。
- **データフォーマット必要、プリフィクス／サフィックスの保持**
スキャンしたデータはデータフォーマットに応じて変更され、プリフィクスとサフィックスが送信されます。データフォーマットの要件に一致しないデータはエラー音を生成し、そのバーコードのデータは送信されません。エラー音を生成せずにこのタイプのバーコードを処理したい場合は、[データフォーマット不一致エラー音](#)を参照してください。
- **データフォーマット必要、プリフィクス／サフィックスの除去**

スキャンしたデータは、データフォーマットに応じて変更されます。特定の記号に対するデータフォーマットがある場合、それらのプリフィクスとサフィックスは送信されません。データフォーマットの要件に一致しないデータがあると、エラー音が発生されます。エラー音を生成せずにこのタイプのバーコードを処理したい場合は、**データフォーマット不一致エラー音**を参照してください。

次のオプションから1つを選択します。デフォルト= データフォーマットオン、不要、プリフィクス/サフィックスの保持。



DFM_EN1.

* データフォーマットオン、
不要、プリフィクス/
サフィックスの保持



DFM_EN3.

データフォーマットオン、
不要、プリフィクス/
サフィックスの除去



DFM_EN2.

データフォーマット必要、
プリフィクス/サフィックスの
保持



DFM_EN4.

データフォーマット必要、
プリフィクス/サフィックスの
除去

データフォーマット不一致エラー音

必要なデータフォーマットに一致しないバーコードが検出されると、スキャナは通常エラー音を生成します。ただし、エラー音を出さずにバーコードのスキャンを続けたい場合もあります。**データフォーマット不一致エラー音オフ**のバーコードをスキャンすると、データフォーマットに適合しないデータは送信されず、エラー音も鳴りません。一致しないバーコードが見つかったときにエラー音を鳴らす場合は、**データフォーマット不一致エラー音オン**のバーコードをスキャンします。デフォルト= データフォーマット不一致エラー音オン。



DFMDEC0.

*データフォーマット不一致エラ
ー音オン



DFMDEC1.

データフォーマット不一致エラ
ー音オフ

プライマリ/代替データフォーマット

最大4つのデータフォーマットを保存し、これらのフォーマットを切り替えることができます。プライマリデータフォーマットは0に保存されます。他の3つのフォーマットは、1、2、3に保存されます。これらのフォーマットのいずれかを使用するようにデバイスを設定するには、以下のバーコードのいずれかをスキャンします。



ALTFNM0.

プライマリデータ
フォーマット



ALTFNM1.

データフォーマット 1



ALTFNM2.

データフォーマット 2



ALTFNM3.

データフォーマット 3

シングルスキャンデータフォーマット変更

1回のスキャンでデータフォーマットを切り替えることもできます。次のバーコードは代替データフォーマットを使用してスキャンされ、上で選択したフォーマット（プライマリ、1、2、3のいずれか）に戻ります。

たとえば、デバイスをデータフォーマット3として保存したデータフォーマットに設定したとします。以下のシングルスキャンデータフォーマット1のバーコードをスキャンすることで、データフォーマット1に切り替えて1回のトリガプルを行うことができます。次にスキャンされるバーコードは、データフォーマット1を使用し、その後はデータフォーマット3に戻ります。



VSAF_0.

シングルスキャン-
プライマリデータフォーマット



VSAF_2.

シングルスキャンデータ
フォーマット 2



VSAF_1.

シングルスキャンデータ
フォーマット 1



VSAF_3.

シングルスキャンデータ
フォーマット 3

キューバスティング抽出

次のセクションでは、キューバスティングのバーコードを作成できます。キューバスティングは、複数の 1 次元バーコードを取り込み、セパレータで照合して 2 次元バーコードを作成します。このセクションでは、2 次元バーコードからホストシステムに 1 次元バーコードを抽出することもできます。デフォルト = 無効。

キューバスティング記号

照合するバーコードの 2 次元バーコード記号を選択します。照合バーコード用に作成したいキューバスティング記号バーコードをスキャンします。



EXTBAR0.

* 無効



EXTBAR1.

PDF417



EXTBAR2.

Aztec



EXTBAR3.

Data Matrix



EXTBAR4.

QR コード

抽出コード ID

照合するバーコードの 1 次元バーコード記号を選択します。**抽出コード ID** バーコードをスキャンし、次に**プログラミングチャート** (309 ページ以降) から数字 (1~9) バーコードと**保存**をスキャンします。



EXTCID.

抽出コード ID

抽出セパレータ

各バーコードの間に使用するセパレータを設定します。以下の**抽出セパレータ**バーコードをスキャンし、次に**プログラミングチャート** (309 ページ以降) から数字 (1~9) バーコードと**保存**をスキャンします。



EXTSEP.

抽出セパレータ

抽出遅延

メッセージ文字列内の各バーコードの送信の間に、最大 5000 ミリ秒 (5 ミリ秒単位) の抽出遅延を設けることができます。以下の**抽出遅延**バーコードをスキャンして、5 ミリ秒の遅延の回数をスキャンし、**プログラミングチャート** (309 ページ以降) を使用して**保存**バーコードをスキャンします。



EXTDLY.

抽出遅延

8

章

記号

このプログラミングセクションには、次のメニュー選択が含まれています。設定と初期値については、[第 11 章](#)を参照してください。

- すべての記号
- Aztec コード
- China Post (Hong Kong 2 of 5)
- Chinese Sensible (Han Xin) コード
- Codabar
- Codablock A
- Codablock F
- Code 11
- Code 128
- Code 32 Pharmaceutical (PARAF)
- Code 39
- Code 93
- クーポン GS1 DataBar 出力
- Data Matrix
- Digimarc Barcode™
- DotCode
- EAN/JAN-13
- EAN/JAN-8
- GS1 Composite Codes
- GS1 DataBar 拡張
- GS1 DataBar Limited
- GS1 DataBar Omnidirectional
- GS1 エミュレーション
- GS1-128
- Interleaved 2 of 5
- Korea Post
- ラベルコード
- Matrix 2 of 5
- MacroPDF417
- MaxiCode
- MicroPDF417
- MSI
- NEC 2 of 5
- 郵便番号- 2D
- 郵便番号- 1D
- PDF417
- QR コード
- Straight 2 of 5 IATA (two-bar start/ stop)
- Straight 2 of 5 Industrial (three-bar start/stop)
- TCIF Linked Code 39 (TLC39)
- Telepen
- Trioptic Code
- UPC-A
- 拡張クーポンコード付き UPC-A/EAN-13
- UPC-E0
- UPC-E1

すべての記号

最高のスキャナ性能を得るには、必要な記号のみを有効にしてください。すべての記号を無効にするには、**すべての記号をオフ**をスキャンしてから、各記号に対して**オン**のバーコードをスキャンして必要な記号を有効にします。



ALLENA0.

すべての記号をオフ

メッセージ長の説明

バーコード記号の有効な読み取り長を設定できます。スキャナが固定長のバーコードデータを強制的に読み取るために、最小長と最大長に同じ値を設定したい場合があります。これにより、誤読の可能性を減らすことができます。

例： 9～20 文字のバーコードのみをデコードします。

最小長=09

最大長=20

例： 15 文字のバーコードのみをデコードします。

最小長=15

最大長=15

メッセージのデフォルトの最小長および最大長以外の長さの場合は、記号の説明に含まれているバーコードをスキャンし、次にメッセージ長の数値をスキャンし、[プログラミングチャート](#) (309 ページ以降) の**保存**バーコードをスキャンします。最小長と最大長、およびデフォルトは、それぞれの記号に含まれています。

Codabar

<Codabar のすべての設定のデフォルト値>



CBRDFT.

Codabar オン／オフ



CBRENA1.

* オン



CBRENA0.

オフ

Codabar 開始／停止文字

開始／停止文字は、バーコードの先頭と末尾を識別します。開始／停止文字を送信することも、しないこともできます。デフォルト= 送信しない。



CBRSSX1.

送信する



CBRSSX0.

* 送信しない

Codabar チェックキャラクタ

Codabar チェックキャラクタは、異なる「モジュロ」を使用して作成されます。Modulo 16 チェックキャラクタで Codabar のバーコードだけを読み取るようスキャナをプログラムすることができます。デフォルト= チェックキャラクタなし。

チェックキャラクタなしは、スキャナがチェックキャラクタの有無にかかわらずバーコードデータを読み取り、送信することを示します。

チェックキャラクタを**有効化して送信**に設定すると、スキャナはチェックキャラクタが印刷された Codabar バーコードのみを読み取り、読み取ったデータの最後にこのチェックキャラクタを送信します。

チェックキャラクタを**有効化、ただし送信しない**に設定すると、チェックキャラクタが印刷された Codabar バーコードのみを読み取りますが、スキャンしたデータとチェックキャラクタは送信しません。



CBRCK20.

* チェックキャラクタなし



CBRCK21.

Modulo 16 有効化、
ただし送信しない



CBRCK22.

Modulo 16 有効化して送信

Codabar 連結

Codabar は記号の連結をサポートしています。連結を有効にすると、スキャナは「D」停止文字を持つ記号に隣接した「D」開始文字を持つ Codabar 記号を探します。この場合、2つのメッセージは「D」文字が省略して1つに連結されます。



スキャナが連結相手なしで単一の「D」Codabar 記号をデコードしないようにするには、**必要**を選択します。この選択は、「D」の停止文字／開始文字を持たない Codabar 記号には影響しません。



Codabar のメッセージ長

以下のバーコードを読み取り、メッセージの長さを変更します。詳細については、[メッセージ長の説明](#) (152 ページ) を参照してください。最小長と最大長= 2-60。最小デフォルト= 4、最大デフォルト= 60。



Code 39

<Code 39 のすべての設定のデフォルト値>



Code 39 オン/オフ



Code 39 バーコードを読み取るときは、Codablock A は無効にしておく必要があります。Codablock A ([Codablock A](#) (192 ページ) 参照) を有効にする場合、Code 39 は無効にする必要があります。

Code39 開始/停止文字

開始/停止文字は、バーコードの先頭と末尾を識別します。開始/停止文字を送信することも、しないこともできます。デフォルト= 送信しない。



Code 39 チェックキャラクタ

チェックキャラクタなしは、スキャナがチェックキャラクタの有無にかかわらずバーコードデータを読み取り、送信することを示します。

チェックキャラクタを**有効化、ただし送信しない**に設定すると、チェックキャラクタが印刷された Code39 バーコードのみを読み取りますが、スキャンしたデータとチェックキャラクタは送信しません。

チェックキャラクタを**有効化して送信**に設定すると、スキャナはチェックキャラクタが印刷された Code39 バーコードのみを読み取り、読み取ったデータの最後にこのチェックキャラクタを送信します。デフォルト= チェックキャラクタなし。



C39CK20.

*チェックキャラクタなし



C39CK21.

有効化、ただし送信しない



C39CK22.

有効化して送信

Code 39 メッセージ長

以下のバーコードを読み取り、メッセージの長さを変更します。詳細については、[メッセージ長の説明](#) (152 ページ) を参照してください。最小長と最大長= 0-48。最小デフォルト= 0、最大デフォルト= 48。



C39MIN.

最小メッセージ長



C39MAX.

最大メッセージ長

コード 39 付加

この機能により、スキャナは複数の Code 39 バーコードのデータをホストコンピュータに送信する前に、それらのデータをまとめて付加していきます。スキャナは、付加トリガ文字を持つ Code 39 バーコードに遭遇すると、付加トリガを持たない Code 39 バーコードを読み取るまで、Code 39 バーコードをバッファします。その後、バーコードが読み取られた順序でデータが送信されます (FIFO)。デフォルト= オフ。



C39APP1.

オン



C39APP0.

* オフ

Code 32 Pharmaceutical (PARAF)

Code 32 Pharmaceutical は、イタリアの薬局で使われている Code 39 記号の形式です。この記号は PARAF と呼ばれます。

注: *Trioptic Code* (192 ページ) は、Code 32 Pharmaceutical コードをスキャンしている間はオフにする必要があります。



C39B321.

オン



C39B320.

* オフ

Full ASCII

Full ASCII Code 39 のデコードが有効になっている場合、バーコード記号内の特定の文字ペアは 1 文字として解釈されます。例えば、\$V は ASCII 文字の SYN としてデコードされ、/C は ASCII 文字の # としてデコードされます。デフォルト= オフ。

Full ASCII 表															
NUL	%U	DLE	\$P	SP	スペース	0	0	@	%V	P	P	'	%W	p	+P
SOH	\$A	DC1	\$Q	!	/A	1	1	A	A	Q	Q	a	+A	q	+Q
STX	\$B	DC2	\$R	"	/B	2	2	B	B	R	R	b	+B	r	+R
ETX	\$C	DC3	\$S	#	/C	3	3	C	C	S	S	c	+C	s	+S
EOT	\$D	DC4	\$T	\$	/D	4	4	D	D	T	T	d	+D	t	+T
ENQ	\$E	NAK	\$U	%	/E	5	5	E	E	U	U	e	+E	u	+U
ACK	\$F	SYN	\$V	&	/F	6	6	F	F	V	V	f	+F	v	+V
BEL	\$G	ETB	\$W	'	/G	7	7	G	G	W	W	g	+G	w	+W
BS	\$H	CAN	\$X	(/H	8	8	H	H	X	X	h	+H	x	+X
HT	\$I	EM	\$Y)	/I	9	9	I	I	Y	Y	i	+I	y	+Y
LF	\$J	SUB	\$Z	*	/J	:	/Z	J	J	Z	Z	j	+J	z	+Z
VT	\$K	ESC	%A	+	/K	;	%F	K	K	[%K	k	+K	{	%P
FF	\$L	FS	%B	,	/L	<	%G	L	L	¥	%L	l	+L		%Q
CR	\$M	GS	%C	-	-	=	%H	M	M]	%M	m	+M	}	%R
SO	\$N	RS	%D	.	.	>	%I	N	N	^	%N	n	+N	~	%S
SI	\$O	US	%E	/	/O	?	%J	O	O	_	%O	o	+O	DEL	%T

文字ペア/M と/N は、それぞれマイナス記号とピリオドとしてデコードされます。文字ペア/P から/Y までは、0 から 9 までとしてデコードされます。



C39ASC1.

Full ASCII オン



Code 39 コードページ

コードページは、文字コードから文字へのマッピングを定義します。受信したデータが適切な文字で表示されない場合は、スキャン中のバーコードが、ホストプログラムが予期しているものとは異なるコードページを使用して作成された可能性があります。この場合は、以下のバーコードをスキャンし、バーコードの作成に用いたコードページを選択し（[ISO 2022/ISO 646 文字置換](#)（302 ページ）参照）、その値をスキャンし、[プログラミングチャート](#)（309 ページ以降）で**保存**バーコードをスキャンします。データ文字が正しく表示されます。



Code 39 の抑制

Code 39 バーコードと Codablock A バーコードを混在させないことをお勧めしますが、Code 39 バーコードと Codablock A バーコードを同時にスキャンする必要がある場合は、**Code 39 を抑制しない**のバーコードをスキャンしてください。デフォルト= *Code 39 を抑制しない*。



Interleaved 2 of 5

<Interleaved 2 of 5 のすべての設定のデフォルト値>



Interleaved 2 of 5 オン／オフ



チェックディジット

チェックディジットなしは、スキャナがチェックディジットの有無にかかわらずバーコードデータを読み取り、送信することを示します。

チェックディジットを**有効化、ただし送信しない**に設定すると、チェックディジットが印刷された Interleaved 2 of 5 のバーコードのみを読み取りますが、スキャンしたデータとチェックディジットは送信しません。

チェックディジットを**有効化して送信**に設定すると、スキャナはチェックディジットが印刷された Interleaved 2 of 5 のバーコードのみを読み取り、読み取ったデータの最後にこのチェックディジットを送信します。デフォルト= チェックディジットなし。



Interleaved 2 of 5 メッセージ長

以下のバーコードを読み取り、メッセージの長さを変更します。詳細については、[メッセージ長の説明](#)（152 ページ）を参照してください。最小長と最大長= 2-80。最小デフォルト= 6、最大デフォルト= 80。



I25MIN.

最小メッセージ長



I25MAX.

最大メッセージ長

FEBRABAN デコード

以下のバーコードをスキャンして、FEBRABAN Boletto デコードのオン/オフを切り替えてください。デフォルト= オフ。



I25PAY1.

FEBRABAN デコードオン



I25PAY0.

*FEBRABAN デコードオフ

NEC 2 of 5

<NEC 2 of 5 のすべての設定のデフォルト値>



N25DFT.

NEC 2 of 5 オン/オフ



N25ENA1.

* オン



N25ENA0.

オフ

チェックディジット

チェックディジットなしは、スキャナがチェックディジットの有無にかかわらずバーコードデータを読み取り、送信することを示します。

チェックディジットを**有効化、ただし送信しない**に設定すると、チェックディジットが印刷された NEC 2 of 5 のバーコードのみを読み取りますが、スキャンしたデータとチェックディジットは送信しません。

チェックディジットを**有効化して送信**に設定すると、スキャナはチェックディジットが印刷された NEC 2 of 5 のバーコードのみを読み取り、読み取ったデータの最後にこのチェックディジットを送信します。 デフォルト= **チェックディジットなし**。



N25CK20.

* チェックディジットなし



N25CK21.

有効化、ただし送信しない



N25CK22.

有効化して送信

NEC 2 of 5 メッセージ長

以下のバーコードを読み取り、メッセージの長さを変更します。詳細については、[メッセージ長の説明](#) (152 ページ) を参照してください。最小長と最大長= 2-80。最小デフォルト= 4、最大デフォルト= 80。



N25MIN.

最小メッセージ長



N25MAX.

最大メッセージ長

Code 93

<Code 93 のすべての設定のデフォルト値>



C93DFT.

Code 93 オン/オフ



C93ENA1.

* オン



C93ENA0.

オフ

Code 93 メッセージ長

以下のバーコードを読み取り、メッセージの長さを変更します。詳細については、[メッセージ長の説明](#)（152 ページ）を参照してください。最小長と最大長= 0-80。最小デフォルト= 0、最大デフォルト= 80。



C93MIN.

最小メッセージ長



C93MAX.

最大メッセージ長

コード 93 付加

この機能により、スキャナは複数の Code 93 バーコードのデータをホストコンピュータに送信する前に、それらのデータをまとめて付加していきます。この機能が有効になっている場合、スキャナはスペースで始まる Code 93 バーコード（開始記号と停止記号を除く）を保存し、データをすぐには送信しません。スキャナはバーコードを読み取った順にデータを保存し、それぞれから最初のスペースを削除します。スキャナは、スペース以外の文字で始まる Code 93 バーコードを読み取ると、付加されたデータを送信します。デフォルト= オフ。



C93APP1.

オン



C93APP0.

* オフ

Code 93 コードページ

コードページは、文字コードから文字へのマッピングを定義します。受信したデータが適切な文字で表示されない場合は、スキャン中のバーコードが、ホストプログラムが予期しているものとは異なるコードページを使用して作成された可能性があります。この場合は、以下のバーコードをスキャンし、バーコードの作成に用いたコードページを選択し（[ISO 2022/ISO 646 文字置換](#)（302 ページ）参照）、その値をスキャンし、[プログラミングチャート](#)（309 ページ以降）で**保存**バーコードをスキャンします。データ文字が正しく表示されます。



C93DCP.

Code 93 コードページ

Straight 2 of 5 Industrial (three-bar start/stop)

<Straight 2 of 5 Industrial のすべての設定のデフォルト値>



R25DFT.

Straight 2 of 5 Industrial オン／オフ



R25ENA1.

オン



R25ENA0.

* オフ

Straight 2 of 5 Industrial メッセージ長

以下のバーコードを読み取り、メッセージの長さを変更します。詳細については、[メッセージ長の説明](#)（152 ページ）を参照してください。最小長と最大長= 1-48。最小デフォルト= 4、最大デフォルト= 48。



R25MIN.

最小メッセージ長



R25MAX.

最大メッセージ長

Straight 2 of 5 IATA (two-bar start/stop)

<Straight 2 of 5 IATA のすべての設定のデフォルト値>



A25DFT.

Straight 2 of 5 IATA オン／オフ



A25ENA1.

オン



A25ENA0.

* オフ

Straight 2 of 5 IATA 冗長性

Straight 2 of 5 IATA のバーコード読み取りにおいてエラーに遭遇した際、冗長性を調整したい場合があります。冗長性は、送信前にバーコードがデコードされる回数を調整するため、エラーの回数が減少する可能性があります。冗長性カウントが高いほど、バーコードのデコードにかかる時間が長くなることに注意してください。

冗長性を調整するには、以下の Straight 2 of 5 IATA 冗長性バーコードをスキャンし、[プログラミングチャート](#)（309 ページ以降）で 0~10 の冗長性カウントをスキャンします。次に**保存**バーコードをスキャンします。デフォルト=0。



A25VOT.

Straight 2 of 5 IATA 冗長性

Straight 2 of 5 IATA メッセージ長

以下のバーコードを読み取り、メッセージの長さを変更します。詳細については、[メッセージ長の説明](#)（152 ページ）を参照してください。最小長と最大長=1-48。最小デフォルト=4、最大デフォルト=48。



A25MIN.

最小メッセージ長



A25MAX.

最大メッセージ長

Matrix 2 of 5

<Matrix 2 of 5 のすべての設定のデフォルト値>



X25DFT.

Matrix 2 of 5 オン／オフ



X25ENA1.

オン



X25ENA0.

* オフ

Matrix 2 of 5 メッセージ長

以下のバーコードを読み取り、メッセージの長さを変更します。詳細については、[メッセージ長の説明](#)（152 ページ）を参照してください。最小長と最大長= 1-80。最小デフォルト= 4、最大デフォルト= 80。



X25MIN.

最小メッセージ長



X25MAX.

最大メッセージ長

Code 11

<Code 11 のすべての設定のデフォルト値>



C11DFT.

Code 11 オン / オフ



C11ENA1.

オン



C11ENA0.

* オフ

チェックディジットの必要性

このオプションは、Code 11 バーコードで1つまたは2つのチェックディジットが必要かどうかを設定します。デフォルト= 2 つのチェックディジット。



C11CK20.

1つのチェックディジット



C11CK21.

* 2つのチェックディジット

Code 11 メッセージ長

以下のバーコードを読み取り、メッセージの長さを変更します。詳細については、[メッセージ長の説明](#)（152 ページ）を参照してください。最小長と最大長= 1-80。最小デフォルト= 4、最大デフォルト= 80。



C11MIN.

最小メッセージ長



C11MAX.

最大メッセージ長

Code 128

<Code 128 のすべての設定のデフォルト値>



128DFT.

Code 128 オン / オフ



128ENA1.

* オン



128ENA0.

オフ

Code 128 バーコードを読み取る場合、Codablock F は無効のままにしておきます。Codablock F ([Codablock F](#) (193 ページ) 参照) を有効にする場合、Code 128 は無効にする必要があります。

ISBT 128 連結

1994 年、国際輸血学会 (ISBT) は、重要な血液情報を統一的な方法で伝達するための基準を批准しました。ISBT フォーマットを使用するには、有料ライセンスが必要です。ISBT 128 適用仕様には以下が記載されています。1)血液製品にラベルを付けるための重要なデータ要素、2)その高度なセキュリティと空間効率的な設計により、Code 128 を使用することを現在推奨、3)隣接する記号の連結をサポートする Code 128 の変形版、4)血液製品ラベル上のバーコードの標準レイアウト。

連結をオンまたはオフにするには、以下のバーコードを使用します。 デフォルト=オフ。



ISBENA1.

オン



ISBENA0.

* オフ

Code 128 冗長性

Code 128 のバーコード読み取りにおいてエラーに遭遇した際、冗長性を調整したい場合があります。冗長性は、送信前にバーコードがデコードされる回数を調整するため、エラーの回数が減少する可能性があります。冗長性カウントが高いほど、バーコードのデコードにかかる時間が長くなることに注意してください。冗長性を調整するには、以下の Code 128 冗長性のバーコードをスキャンし、[プログラミングチャート](#)（309 ページ以降）で 0~10 の冗長性カウントをスキャンします。次に**保存**バーコードをスキャンします。デフォルト=0。



128VOT.

Code 128 冗長性

Code 128 メッセージ長

以下のバーコードを読み取り、メッセージの長さを変更します。詳細については、[メッセージ長の説明](#)（152 ページ）を参照してください。最小長と最大長=0-80。最小デフォルト=0、最大デフォルト=80。



128MIN.

最小メッセージ長



128MAX.

最大メッセージ長

Code 128 付加

この機能により、スキャナは複数の Code 128 バーコードのデータをホストコンピュータに送信する前に、それらのデータをまとめて付加していきます。スキャナは、付加トリガ文字を持つ Code 128 バーコードに遭遇すると、付加トリガを持たない Code 128 バーコードを読み取るまで、Code 128 バーコードをバッファします。

その後、バーコードが読み取られた順序でデータが送信されます（FIFO）。デフォルト= オフ。



Code 128 コードページ

コードページは、文字コードから文字へのマッピングを定義します。受信したデータが適切な文字で表示されない場合は、スキャン中のバーコードが、ホストプログラムが予期しているものとは異なるコードページを使用して作成された可能性があります。この場合は、以下のバーコードをスキャンし、バーコードの作成に用いたコードページを選択し（[ISO 2022/ISO 646 文字置換](#)（302 ページ）参照）、その値をスキャンし、[プログラミングチャート](#)（309 ページ以降）で**保存**バーコードをスキャンします。データ文字が正しく表示されます。



GS1-128

<GS1-128 のすべての設定のデフォルト値>



GS1-128 オン／オフ



GS1-128 メッセージ長

以下のバーコードを読み取り、メッセージの長さを変更します。詳細については、[メッセージ長の説明](#)（152 ページ）を参照してください。最小長と最大長= 1-80。最小デフォルト= 1、最大デフォルト= 80。



GS1MIN.

最小メッセージ長



GS1MAX.

最大メッセージ長

GS1 デジタルリンク

Sunrise 2027 イニシアチブにより、ハネウェルは Web URI バーコード（QR コード、Data Matrix など）を GS1 要素文字列に変換する設定を作成し、ほとんどのホストシステムで簡単に読み取れるようにしました。GS1 要素文字列を作成するには、まず **GS1 デジタルリンク** バーコードをスキャンし、次に Web URI バーコードをスキャンします。デフォルト= オフ。

注: 現在サポートされている Web URI バーコードは、QR コードと Data Matrix バーコードのみです。



GS1DLE1.

GS1 デジタルリンク



GS1DLE0.

*オフ

Telepen

<Telepen のすべての設定のデフォルト値>



TELDFT.

Telepen オン/オフ



TELENA1.

オン



TELENA0.

* オフ

Telepen 出力

スキャナは **AIM Telepen 出力** を使用して開始/停止パターン 1 の記号を読み取り、標準のフル ASCII (開始/停止パターン 1) としてデコードします。**オリジナル Telepen 出力** を選択すると、スキャナは開始/停止パターン 1 の記号を読み取り、オプションのフル ASCII (開始/停止パターン 2) の圧縮数値としてデコードします。デフォルト= AIM Telepen 出力。



TELOLD0.

* AIM Telepen 出力



TELOLD1.

オリジナル Telepen 出力

Telepen メッセージ長

以下のバーコードを読み取り、メッセージの長さを変更します。詳細については、[メッセージ長の説明](#) (152 ページ) を参照してください。最小長と最大長= 1-60。最小デフォルト= 1、最大デフォルト= 60。



TELMIN.

最小メッセージ長



TELMAX.

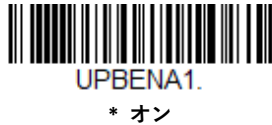
最大メッセージ長

UPC-A

<UPC-A のすべての設定のデフォルト値>



UPC-A オン／オフ



注: UPC-A バーコードを EAN-13 に変換するには、[UPC-A を EAN-13 に変換 \(179 ページ\)](#) を参照してください。

UPC-A チェックディジット

読み取ったデータの最後にチェックディジットを送信するかどうかを設定できます。デフォルト= オン。



UPC-A ナンバーシステム

U.P.C.記号の数字システムディジットは、通常、スキャンしたデータの先頭に送信されますが、送信されないようにプログラムすることができます (**オフ**)。デフォルト= オン。



UPC-A 追加

これを選ぶと、スキャンされたすべての UPC-A データの最後に 2 桁または 5 桁が追加されます。

デフォルト= 2 桁と 5 桁の追加について、どちらもオフ。



UPAAD21.

2 桁追加オン



UPAAD20.

* 2 桁追加オフ



UPAAD51.

5 桁追加オン



UPAAD50.

* 5 桁追加オフ

UPC-A 追加必要

必要をスキャンすると、スキャナは追加部分を持つ UPC-A バーコードのみを読み取ります。次に、[173 ページ](#)に記載されている 2 桁または 5 桁の追加をオンにする必要があります。

デフォルト= 不要。



UPAARQ1.

必要



UPAARQ0.

* 不要

追加タイムアウト

スキャナが追加部分を探す時間を設定できます。この時間内に追加部分が見つからない場合は、[UPC-A 追加必要](#)に使用している設定に基づいて、データを送信するか破棄することができます。

タイムアウトの長さ（ミリ秒単位）を設定するには、以下のバーコードをスキャンし、次に本マニュアルの**プログラミングチャート**（309 ページ以降）から数字をスキャンしてタイムアウト（0～500 ミリ秒）を設定し、**保存**をスキャンしてください。デフォルト= 120。

注: 追加タイムアウト設定は、すべての追加部分とクーポンコードの検索に適用されません。



DLYADD.

追加タイムアウト

UPC-A 追加セパレーター

この機能を**オン**にすると、バーコードのデータと追加部分のデータの間スペースが入れます。**オフ**にすると、スペースは入れられません。デフォルト= オン。



UPAADS1.

* オン



UPAADS0.

オフ

拡張クーポンコード付き UPC-A/EAN-13

拡張クーポンコード付きの **UPC-A** と **EAN-13** を有効または無効にするには、次のコードを使用します。デフォルト設定（**オフ**）のままにした場合、スキャナはクーポンコードと拡張クーポンコードを単一バーコードとして扱います。

連結を許可のコードをスキャンすると、スキャナはクーポンコードと拡張クーポンコードを 1 回のスキャンで検出し、両方を 1 つの記号として送信します。それ以外の場合は、読み取った最初のクーポンコードを送信します。

連結を要請のコードをスキャンすると、スキャナはデータを送信するためにクーポンコードと拡張クーポンコードを 1 回の読み取りで検出・読み取りする必要があります。両方のコードを読み取らない限り、データは出力されません。デフォルト= オフ。



CPNENA0.

* オフ



CPNENA1.

連結を許可



CPNENA2.

連結を要請

追加タイムアウト

スキャナが追加部分を探す時間を設定できます。この時間内に追加部分が見つからない場合は、**拡張クーポンコード付き UPC-A/EAN-13** に使用している設定に基づいて、データを送信するか破棄することができます。タイムアウトの長さ（ミリ秒単位）を設定するには、以下のバーコードをスキャンし、次に本マニュアルの**プログラミングチャート**（309 ページ以降）から数字をスキャンしてタイムアウト（0～500 ミリ秒）を設定し、**保存**をスキャンしてください。デフォルト=120。

注: 追加タイムアウト設定は、すべての追加部分とクーポンコードの検索に適用されません。



DLYADD.

追加タイムアウト

クーポン GS1 DataBar 出力

UPC と GS1 DataBar の両方のコードがあるクーポンをスキャンする場合は、**GS1 DataBar** コードからデータのみをスキャンして出力することができます。下記の**GS1 出力オン**のコードをスキャンし、**GS1 DataBar** コードデータのみを出力します。デフォルト=**GS1 出力オフ**。



CPNGS10.

* GS1 出力オフ



CPNGS11.

GS1 出力オン

UPC-E0

<UPC-E のすべての設定のデフォルト値>



UPC-E0 オン/オフ

ほとんどの U.P.C.バーコードは、0 ナンバーシステムで始まります。これらのコードを読み取るには、**UPC-E0 オン**を選びます。1 ナンバーシステムで始まるコードを読み取る必要がある場合は、**UPC-E1** (178 ページ) を使用します。デフォルト= オン。



UPC-E0 拡張

UPC-E 拡張は、UPC-E コードを 12 桁の UPC-A 形式に拡張します。デフォルト= オフ。



UPC-E0 追加必要

必要をスキャンすると、スキャナは追加部分を持つ UPC-E バーコードのみを読み取ります。デフォルト= **不要**。



追加タイムアウト

スキャナが追加部分を探す時間を設定できます。この時間内に追加部分が見つからない場合は、**UPC-E0 追加必要**に使用している設定に基づいて、データを送信するか破棄することができます。タイムアウトの長さ（ミリ秒単位）を設定するには、以下のバーコードをスキャンし、次に本マニュアルの**プログラミングチャート**（309ページ以降）から数字をスキャンしてタイムアウト（0～500ミリ秒）を設定し、**保存**をスキャンしてください。デフォルト=120。

注: 追加タイムアウト設定は、すべての追加部分とクーポンコードの検索に適用されません。



DLYADD.

追加タイムアウト

UPC-E0 追加セパレータ

この機能を**オン**にすると、バーコードのデータと追加部分のデータの間スペースが入れます。**オフ**にすると、スペースは入れられません。デフォルト= オン。



UPEADS1.

* オン



UPEADS0.

オフ

UPC-E0 チェックディジット

チェックディジットは、スキャンデータの最後にチェックディジットを送信するかどうかを指定します。デフォルト= オン。



UPECKX1.

* オン



UPECKX0.

オフ

UPC-E0 リーディングゼロ

この機能により、スキャンされたデータの開始時に先頭のゼロ (0) を送信できます。送信をしないときは、**オフ**をスキャンします。デフォルト= オン。



UPENSX1.

* オン



UPENSX0.

オフ

UPC-E0 追加

これを選ぶと、スキャンされたすべての UPC-E データの最後に 2 桁または 5 桁が追加されます。デフォルト= 2 桁と 5 桁の追加について、どちらもオフ。



UPEAD21.

2 桁追加オン



UPEAD20.

* 2 桁追加オフ



UPEAD51.

5 桁追加オン



UPEAD50.

* 5 桁追加オフ

UPC-E1

ほとんどの U.P.C.バーコードは、0 ナンバーシステムで始まります。これらのコードについては、**UPC-E0** (176 ページ) を使用します。1 ナンバーシステムで始まるコードを読み取る必要がある場合は、**UPC-E1 オン**を選びます。デフォルト= オフ。



UPEEN11.

UPC-E1 オン



UPEEN10.

* UPC-E1 オフ

EAN/JAN-13

<EAN/JAN のすべての設定のデフォルト値>



E13DFT.

EAN/JAN-13 オン/オフ



E13ENA1.

* オン



E13ENA0.

オフ

UPC-A を EAN-13 に変換

UPC-A を EAN-13 に変換を選択すると、UPC-A バーコードは前にゼロを追加して 13 桁の EAN-13 コードに変換されます。**UPC-A を変換しない**を選択すると、UPC-A コードは UPC-A として読み込まれます。



UPAENA0.

UPC-A を EAN-13 に変換



UPAENA1.

* UPC-A を変換しない

EAN/JAN-13 チェックディジット

読み取ったデータの最後にチェックディジットを送信するかどうかを設定できます。デフォルト= オン。



E13CKX1.

* オン



E13CKX0.

オフ

EAN/JAN-13 追加

これを選ぶと、スキャンされたすべての EAN/JAN-13 データの最後に 2 桁または 5 桁が追加されます。

デフォルト= 2 桁と 5 桁の追加について、どちらもオフ。



E13AD21.

2 桁追加オン



E13AD20.

* 2 桁追加オフ



E13AD51.

5 桁追加オン



E13AD50.

* 5 桁追加オフ

EAN/JAN-13 追加必要

必要をスキャンすると、スキャナは追加部分を持つ EAN/JAN-13 バーコードのみを読み取ります。デフォルト= 不要。



E13ARQ1.

必要



E13ARQ0.

* 不要

290 で始まる EAN-13 追加必要

この設定は、290 で始まる EAN-13 バーコードのみに 5 桁の追加を要求するようスキャナをプログラムします。以下の設定がプログラムできます。

5 桁の追加必要：290 で始まるすべての EAN-13 バーコードには 5 桁の追加が必要です。5 桁の追加部分を持つ EAN-13 バーコードは、1 つの連結バーコードとして送信されます。追加タイムアウト時間内に 5 桁の追加部分が見つからない場合、EAN-13 バーコードは破棄されます。

注：290 で始まる EAN-13 追加必要(181 ページ)を使用している場合は、この設定が優先されます。

5 桁の追加不要：5 桁の追加必要を選んだあとでこの機能を無効にする場合は、5 桁の追加不要のスキャンを行います。EAN-13 バーコードは、EAN/JAN-13 追加必要に使用する設定に応じて送信されます。

デフォルト= 5 桁の追加不要。



ARQ2900.

* 5 桁の追加不要



ARQ2901.

5 桁の追加必要

378/379 で始まる EAN-13 追加必要

この設定は、378 または 379 で始まる EAN-13 バーコードに 2 桁の追加または 5 桁の追加の任意の組み合わせを要求するようスキャナをプログラムします。以下の設定がプログラムできます。

追加必要：378 または 379 で始まるすべての EAN-13 バーコードには、2 桁の追加、5 桁の追加、またはこれらの追加の組み合わせがなければなりません。追加部分のある EAN-13 バーコードは、1 つの連結バーコードとして送信されます。追加タイムアウト時間内に必要な追加部分が見つからない場合、EAN-13 バーコードは破棄されます。

追加不要：追加必要を選んだあとでこの機能を無効にする場合は、追加不要のスキャンを行います。EAN-13 バーコードは、EAN/JAN-13 追加必要に使用する設定に応じて送信されます。

デフォルト= 追加不要。



ARQ3780.

* 追加不要



ARQ3781.

2桁の追加必要



ARQ3782.

5桁の追加必要



ARQ3783.

2桁または5桁の追加必要

414/419 で始まる EAN-13 追加必要

この設定は、414 または 419 で始まる EAN-13 バーコードに 2 桁の追加または 5 桁の追加の任意の組み合わせを要求するようスキャナをプログラムします。以下の設定がプログラムできます。

追加必要： 414 または 419 で始まるすべての EAN-13 バーコードには、2 桁の追加、5 桁の追加、またはこれらの追加の組み合わせがなければなりません。追加部分のある EAN13 バーコードは、1 つの連結バーコードとして送信されます。追加タイムアウト時間内に必要な追加部分が見つからない場合、EAN-13 バーコードは破棄されます。

追加不要： 追加必要を選んだあとでこの機能を無効にする場合は、追加不要のスキヤンを行います。EAN-13 バーコードは、EAN/JAN-13 追加必要に使用する設定に応じて送信されます。

デフォルト= 追加不要。



ARQ4140.

* 追加不要



ARQ4141.

2桁の追加必要



ARQ4142.

5桁の追加必要



ARQ4143.

2桁または5桁の追加必要

434/439 で始まる EAN-13 追加必要

この設定は、434 または 439 で始まる EAN-13 バーコードに 2 桁の追加または 5 桁の追加の任意の組み合わせを要求するようスキャナをプログラムします。以下の設定がプログラムできます。

追加必要： 434 または 439 で始まるすべての EAN-13 バーコードには、2 桁の追加、5 桁の追加、またはこれらの追加の組み合わせがなければなりません。追加部分のある EAN-13 バーコードは、1 つの連結バーコードとして送信されます。追加タイムアウト時間内に必要な追加部分が見つからない場合、EAN-13 バーコードは破棄されます。

追加不要： 追加必要を選んだあとでこの機能を無効にする場合は、追加不要のスキヤンを行います。EAN-13 バーコードは、EAN/JAN-13 追加必要に使用する設定に応じて送信されます。

デフォルト= 追加が不要。



ARQ4340.

* 追加不要



ARQ4341.

2 桁の追加必要



ARQ4342.

5 桁の追加必要



ARQ4343.

2 桁または 5 桁の追加必要

977 で始まる EAN-13 追加必要

この設定は、977 で始まる EAN-13 バーコードのみに 2 桁の追加を要求するようスキャナをプログラムします。以下の設定がプログラムできます。

2 桁の追加必要： 977 で始まるすべての EAN-13 バーコードには 2 桁の追加が必要です。2 桁の追加部分を持つ EAN-13 バーコードは、1 つの連結バーコードとして送信されます。追加タイムアウト時間内に 2 桁の追加部分が見つからない場合、EAN-13 バーコードは破棄されます。

2桁の追加不要：2桁の追加必要を選んだあとでこの機能を無効にする場合は、**2桁の追加不要**のスキャンを行います。EAN-13 バーコードは、[EAN/JAN-13 追加必要](#)に使用する設定に応じて送信されます。

デフォルト=2桁の追加が不要。



ARQ9770.

*2桁の追加不要



ARQ9771.

2桁の追加必要

978 で始まる EAN-13 追加必要

この設定は、978 で始まる EAN-13 バーコードのみに5桁の追加を要求するようスキヤナをプログラムします。以下の設定がプログラムできます。

5桁の追加必要：978 で始まるすべての EAN-13 バーコードには5桁の追加が必要です。5桁の追加部分を持つ EAN-13 バーコードは、1つの連結バーコードとして送信されます。[追加タイムアウト](#)時間内に5桁の追加部分が見つからない場合、EAN-13 バーコードは破棄されます。

5桁の追加不要：5桁の追加必要を選んだあとでこの機能を無効にする場合は、**5桁の追加不要**のスキャンを行います。EAN-13 バーコードは、[EAN/JAN-13 追加必要](#)に使用する設定に応じて送信されます。

デフォルト=5桁の追加が不要。



ARQ9780.

*5桁の追加不要



ARQ9781.

5桁の追加必要

979 で始まる EAN-13 追加必要

この設定は、979 で始まる EAN-13 バーコードのみに5桁の追加を要求するようスキヤナをプログラムします。以下の設定がプログラムできます。

5桁の追加必要：979 で始まるすべての EAN-13 バーコードには5桁の追加が必要です。5桁の追加部分を持つ EAN-13 バーコードは、1つの連結バーコードとして送信されます。[追加タイムアウト](#)時間内に5桁の追加部分が見つからない場合、EAN-13 バーコードは破棄されます。

5桁の追加不要：5桁の追加必要を選んだあとでこの機能を無効にする場合は、**5桁の追加不要**のスキャンを行います。EAN-13 バーコードは、**EAN/JAN-13 追加必要**に使用する設定に応じて送信されます。

デフォルト= 5 桁の追加不要。



ARQ9790.

* 5 桁の追加不要



ARQ9791.

5 桁の追加必要

追加タイムアウト

スキヤナが追加部分を探す時間を設定できます。この時間内に追加部分が見つからない場合は、**EAN/JAN-13 追加必要**に使用している設定に基づいて、データを送信するか破棄することができます。タイムアウトの長さ（ミリ秒単位）を設定するには、以下のバーコードをスキャンし、次に本マニュアルの**プログラミングチャート**（309 ページ以降）から数字をスキャンしてタイムアウト（0～500 ミリ秒）を設定し、**保存**をスキャンしてください。デフォルト= 120。

注: 追加タイムアウト設定は、すべての追加部分とクーポンコードの検索に適用されません。



DLYADD.

追加タイムアウト

EAN/JAN-13 追加セパレータ

この機能をオンにすると、バーコードのデータと追加部分のデータの間にスペースが入れます。オフにすると、スペースは入れられません。デフォルト= オン。



E13ADS1.

* オン



E13ADS0.

オフ

注: 拡張クーポンコード付き EAN13 を有効または無効にする場合は、**拡張クーポンコード付き UPC-A/EAN-13**（174 ページ）を参照してください。

ISBN 変換

オンをスキャンすると、EAN-13 Bookland 記号が同等の ISBN 番号フォーマットに変換されます。デフォルト= オフ。



E13ISB1.

オン



E13ISB0.

* オフ

EAN/JAN-8

<EAN/JAN-8 のすべての設定のデフォルト値>



EA8DFT.

EAN/JAN-8 オン/オフ



EA8ENA1.

* オン



EA8ENA0.

オフ

EAN/JAN-8 チェックディジット

読み取ったデータの最後にチェックディジットを送信するかどうかを設定できます。デフォルト= オン。



EA8CKX1.

* オン



EA8CKX0.

オフ

EAN/JAN-8 追加

これを選ぶと、スキャンされたすべての EAN/JAN-8 データの最後に 2 桁または 5 桁が追加されます。

デフォルト= 2 桁と 5 桁の追加について、どちらもオフ。



EA8AD21.

2 桁追加オン



EA8AD20.

* 2 桁追加オフ



EA8AD51.

5 桁追加オン



EA8AD50.

* 5 桁追加オフ

EAN/JAN-8 追加必要

必要をスキャンすると、スキャナは追加部分を持つ EAN/JAN-8 バーコードのみを読み取ります。デフォルト= 不要。



EA8ARQ1.

必要



EA8ARQ0.

* 不要

追加タイムアウト

スキャナが追加部分を探す時間を設定できます。この時間内に追加部分が見つからない場合は、[EAN/JAN-8 追加必要](#)に使用している設定に基づいて、データを送信するか破棄することができます。タイムアウトの長さ（ミリ秒単位）を設定するには、以下のバーコードをスキャンし、次に本マニュアルの[プログラミングチャート](#)（309 ページ以降）から数字をスキャンしてタイムアウト（0～500 ミリ秒）を設定し、**保存**をスキャンしてください。デフォルト= 120。

注: 追加タイムアウト設定は、すべての追加部分とクーポンコードの検索に適用されま
す。



DLYADD.

追加タイムアウト

EAN/JAN-8 追加セパレーター

この機能を**オン**にすると、バーコードのデータと追加部分のデータの間スペース
が入れます。**オフ**にすると、スペースは入れられません。デフォルト= オン。



EA8ADS1.

* オン



EA8ADS0.

オフ

MSI

<MSI のすべての設定のデフォルト値>



MSIDFT.

MSI オン/オフ



MSIENA1.

オン



MSIENA0.

*オフ

MSI チェックキャラクタ

MSI バーコードでは、さまざまなタイプのチェックキャラクタが使われます。タイプ 10 のチェックキャラクタで MSI バーコードを読み取るようスキャナをプログラムすることができます。デフォルト= タイプ 10 を有効化、ただし送信しない。

チェックキャラクタが**タイプ 10/11 を有効化し送信**に設定されている場合、スキャナは指定されたタイプチェックキャラクタで印刷された MSI バーコードのみを読み取り、スキャンしたデータの最後にキャラクタを送信します。

チェックキャラクタを**タイプ 10/11 を有効化、ただし送信しない**に設定すると、チェックキャラクタが印刷された MSI バーコードのみを読み取りますが、スキャンしたデータとチェックキャラクタは送信しません。



MSICLK0.

* タイプ 10 を有効化、
ただし送信しない



MSICLK1.

タイプ 10 を有効化し送信



MSICLK2.

2 つのタイプ 10 文字を有効化、た
だし送信しない



MSICLK3.

2 つのタイプ 10 文字を
有効化し送信



MSICLK4.

タイプ 11 文字、次にタイプ 10 文
字を有効化、ただし送信しない



MSICLK5.

タイプ 11 文字、次にタイプ 10
文字を有効化し送信



MSICLK6.

MSI チェックキャラクタの無効化

MSI メッセージ長

以下のバーコードを読み取り、メッセージの長さを変更します。詳細については、[メッセージ長の説明](#)（152 ページ）を参照してください。最小長と最大長= 4-48。最小デフォルト= 4、最大デフォルト= 48。



MSIMIN.

最小メッセージ長



MSIMAX.

最大メッセージ長

GS1 DataBar Omnidirectional

<GS1 DataBar Omnidirectional のすべての設定のデフォルト値>



RSSDFT.

GS1 DataBar Omnidirectional オン/オフ



RSSENA1.

* オン



RSSENA0.

オフ

GS1 DataBar Limited

<GS1 DataBar Limited のすべての設定のデフォルト値>



GS1 DataBar Limited オン / オフ



GS1 DataBar 拡張

<GS1 DataBar 拡張のすべての設定のデフォルト値>



GS1 DataBar 拡張 オン / オフ



GS1 DataBar 拡張メッセージ長

以下のバーコードを読み取り、メッセージの長さを変更します。詳細については、[メッセージ長の説明](#) (152 ページ) を参照してください。最小長と最大長= 4-74。最小デフォルト= 4、最大デフォルト= 74。



RSEMIN.

最小メッセージ長



RSEMAX.

最大メッセージ長

Trioptic Code

注: *Code 32 Pharmaceutical* コード (157 ページ) をスキャンする場合は、*Trioptic Code* をオフにする必要があります。

Trioptic Code は、磁気記憶媒体のラベルに使用されます。



TRIENA1.

オン



TRIENA0.

* オフ

Codablock A

<Codablock A のすべての設定のデフォルト値>



CBADFT.

Codablock A オン/オフ



CBAENA1.

オン



CBAENA0.

* オフ

Code 39 バーコードを読み取るときは、Codablock A は無効にしておく必要があります。Codablock A を有効にしているときは、Code 39 を無効にする必要があります (Code 39 (155 ページ) 参照)。

Codablock A メッセージ長

以下のバーコードを読み取り、メッセージの長さを変更します。詳細については、[メッセージ長の説明](#) (152 ページ) を参照してください。最小長と最大長= 1-600。
最小デフォルト= 1、最大デフォルト= 600。



CBAMIN.

最小メッセージ長



CBAMAX.

最大メッセージ長

Codablock F

<Codablock F のすべての設定のデフォルト値>



CBFDFT.

Codablock F オン/オフ



CBFENA1.

オン



CBFENA0.

* オフ

Code 128 バーコードを読み取る場合、Codablock F は無効のままにしておきます。Codablock F を有効にしているときは、Code 128 を無効にする必要があります (Code 128 (167 ページ) 参照)。

Codablock F メッセージ長

以下のバーコードを読み取り、メッセージの長さを変更します。詳細については、[メッセージ長の説明](#) (152 ページ) を参照してください。最小長と最大長= 1-2048。
最小デフォルト= 1、最大デフォルト= 2048。



CBFMIN.

最小メッセージ長



CBFMAX.

最大メッセージ長

ラベルコード

標準のラベルコードはライブラリで使用されます。デフォルト= オフ。



LBLENA1.

オン



LBLENA0.

*オフ

PDF417

<PDF417 のすべての設定のデフォルト値>



PDFDFT.

PDF417 オン/オフ



PDFENA1.

オン



PDFENA0.

*オフ

PDF417 メッセージ長

以下のバーコードを読み取り、メッセージの長さを変更します。詳細については、[メッセージ長の説明](#)（152 ページ）を参照してください。最小長と最大長= 1-2750。
最小デフォルト= 1、最大デフォルト= 2750。



PDFMIN.

最小メッセージ長



PDFMAX.

最大メッセージ長

MacroPDF417

MacroPDF417 は、非常に大量のデータを複数の PDF417 バーコードにエンコードできる PDF417 の実装です。このオプションを有効にすると、これらの複数のバーコードが 1 つのデータ文字列にまとめられます。デフォルト= オン。



PDFMAC1.

* オン



PDFMAC0.

オフ

MicroPDF417

<MicroPDF417 のすべての設定のデフォルト値>



MPDDFT.

MicroPDF417 オン/オフ



MPDENA1.

オン



MicroPDF417 メッセージ長

以下のバーコードを読み取り、メッセージの長さを変更します。詳細については、[メッセージ長の説明](#)（152 ページ）を参照してください。最小長と最大長= 1-366。
最小デフォルト= 1、最大デフォルト= 366。



GS1 Composite Codes

1次元コードを独自の 2D 複合コンポーネントと組み合わせることで、GS1 Composite 記号と呼ばれる新しいタイプが作られています。GS1 Composite 記号を使うと、すでに使用している記号も共存できます。デフォルト= オフ。



UPC/EAN Version

UPC/EAN version オンのバーコードをスキャンして、U.P.C.またはEANの1次元コンポーネントを持つGS1 Composite 記号をデコードします。(GS1-128 やGS1の1次元コンポーネントを持つGS1 Composite 記号には影響しません。) デフォルト=UPC/EAN version オフ。



COMUPC1.

UPC/EAN version オン



COMUPC0.

* UPC/EAN version オフ

注: UPC とGS1 DataBar の両方のコードがあるクーポンをスキャンする場合は、GS1 DataBar コードからデータのみをスキャンして出力することができます。詳細は、[クーポンGS1 DataBar 出力 \(175 ページ\)](#) を参照してください。

GS1 Composite Code メッセージ長

以下のバーコードを読み取り、メッセージの長さを変更します。詳細については、[メッセージ長の説明 \(152 ページ\)](#) を参照してください。最小長と最大長=1-2435。最小デフォルト=1、最大デフォルト=2435。



COMMIN.

最小メッセージ長



COMMAX.

最大メッセージ長

GS1 エミュレーション

スキャナは、任意のGS1 データキャリアからの出力を自動的にフォーマットして、等価なGS1-128 またはGS1 DataBar 記号にエンコードされるものをエミュレートすることができます。GS1 のデータキャリアには、UPC-A およびUPC-E、EAN-13 とEAN-8、ITF-14、GS1-128、GS1 DataBar、GS1 Composites があります。(GS1 データを受け入れるアプリケーションは、1つのデータキャリアタイプのみを認識すればよいため、単純化することができます。)

GS1-128 エミュレーションをスキャンすると、すべての小売コード (U.P.C.、UPC-E、EAN8、EAN13) が16桁に拡張されます。AIM ID が有効な場合、その値はGS1-128 AIM ID, Jc1 ([記号チャート \(295 ページ\)](#) 参照)。

GS1 DataBar エミュレーションをスキャンすると、すべての小売コード (U.P.C.、UPC-E、EAN8、EAN13) が16桁に拡張されます。AIM ID が有効な場合、その値はGS1-DataBar AIM ID, jem ([記号チャート \(295 ページ\)](#) 参照)。

GS1 コード拡張オフをスキャンすると、小売コードの拡張が無効になり、UPC-E の拡張は **UPC-E0 の拡張** (176 ページ) の設定で制御されます。AIM ID が有効な場合、その値は GS1-128 AIM ID, JCI (記号チャート (295 ページ) 参照)。

EAN8 から EAN13 への変換をスキャンすると、すべての EAN8 バーコードが EAN13 フォーマットに変換されます。

デフォルト= GS1 エミュレーションオフ。



EANEMU1.

GS1-128 エミュレーション



EANEMU2.

GS1 DataBar エミュレーション



EANEMU3.

GS1 Code 拡張オフ



EANEMU4.

EAN8 から EAN13 への変換



EANEMU0.

* GS1 エミュレーションオフ

TCIF Linked Code 39 (TLC39)

Code 39 の 1 次元コンポーネントと MicroPDF417 のスタックコードコンポーネントを持つため、このコードは **Composite** (複合) コードです。すべてのバーコードリーダーは、Code 39 の 1 次元コンポーネントを読み取ることができます。MicroPDF417 のコンポーネントは、TLC39 **オン**が選択されている場合にのみデコードできます。1 次元コンポーネントは、TLC39 がオフであっても Code 39 としてデコードされることがあります。デフォルト= オフ。



T39ENA1.

オン



T39ENA0.

* オフ

QR コード

<QR コードのすべての設定のデフォルト値>



QR コードオン／オフ

このオプションは、QR コードと Micro QR コードの両方に適用されます。



QR コードメッセージ長

以下のバーコードを読み取り、メッセージの長さを変更します。詳細については、[メッセージ長の説明](#)（152 ページ）を参照してください。最小長と最大長= 1-7089。最小デフォルト= 1、最大デフォルト= 7089。



QR コード付加

この機能により、スキャナは複数の QR コードバーコードのデータをホストコンピュータに送信する前に、それらのデータをまとめて付加していきます。スキャナは、付加トリガ文字を含む QR Code バーコードを検出すると、それらのバーコードにエンコードされた情報で決められた QR Code バーコードの数をバッファリングします。適切な数のコードに達すると、データはバーコードで指定された順序で出力されます。付加された QR コードのスキャンには 3 つの方法があります：

ワンスキャン： トリガを 1 回引き、同じ画像内のすべての付加 QR コードをデコードします。

スワイプ： トリガを引き続け、付加されたすべての QR コードをスキャンします。スキャナは、スキャンされバッファリングされる部分的な QR コードごとに短いビープ音を発します。最後の QR コードをスキャンしてデータが完了すると、長いビープ音が 1 回鳴ります。プレゼンテーションモードには対応していません。

ポイントアンドシュート： それぞれの画像に対してトリガを 1 回引きます。スキャナは、スキャンされバッファリングされる部分的な QR コードごとに短いビープ音を発します。最後の QR コードをスキャンしてデータが完了すると、長いビープ音が 1 回鳴ります。プレゼンテーションモードには対応していません。

デフォルト= ワンスキャン。



QRCAPP1.

*ワンスキャン



QRCAPP2.

スワイプ



QRCAPP3.

ポイントアンドシュート



QRCAPP0.

オフ

QR コードページ

QR コードページは、文字コードの文字へのマッピングを定義します。受信したデータが適切な文字で表示されない場合は、スキャン中のバーコードが、ホストプログラムが予期しているものとは異なるコードページを使用して作成された可能性があります。この場合は、以下のバーコードをスキャンし、バーコードの作成に用いたコードページを選択し ([ISO 2022/ISO 646 文字置換](#) (302 ページ) 参照)、その値をスキャンし、[プログラミングチャート](#) (309 ページ以降) で**保存**バーコードをスキャンします。データ文字が正しく表示されます。



QRCDP.

QR コードページ

ウェブリンク付き QR コードの禁止

"http"または "https"を含む QR コードのスクランを無効または有効にするには、この機能を使用します。



QRCWEB1.

*オン
(ウェブリンク付き
QR コードの禁止)



QRCWEB0.

オフ
(ウェブリンク付き
QR コードの許可)

DotCode

<DotCode のすべての設定のデフォルト値>



DOTDFT.

DotCode オン／オフ



DOTENA1.

オン



DOTENA0.

* オフ

低品質 DotCodes

この設定により、損傷したり印刷不良の DotCode を読み取るスキャナの能力が向上します。デフォルト = 低品質 DotCodes オフ。



DOTXS1.

低品質 DotCodes オン



DOTXS0.

* 低品質 DotCodes オフ

DotCode メッセージ長

以下のバーコードを読み取り、メッセージの長さを変更します。詳細については、[メッセージ長の説明](#)（152 ページ）を参照してください。最小長と最大長= 1-2400。最小デフォルト= 1、最大デフォルト= 2400。



DOTMIN.

最小メッセージ長



DOTMAX.

最大メッセージ長

Digimarc Barcode™

Digimarc デコーダの試行

以下のバーコードをスキャンして試行回数を設定し、本マニュアルの[プログラミングチャート](#)（309 ページ以降）で数字をスキャンし、試行回数（0～10）を設定し、**保存**をスキャンしてください。最小～最大試行回数=0～10 回。デフォルト= 3。



DIGSTR.

Digimarc デコーダの試行

Digimarc Barcode

この設定は、Digimarc および ID デコーダを使用して Digimarc Barcode をデコードするようにスキャナをプログラムします。Digimarc Barcode が**オン**に設定されている場合、ほとんどのフレームで Digimarc デコーダが使用され、ID デコーダは 5 フレームごとに読み取られます。

Digimarc Barcode が **ID デコーダそして両方のデコーダを使用** に設定されている場合、ID デコーダは Digimarc デコーダの試行で設定された試行回数を読み取り、その後 ID と Digimarc の両方のデコーダを使用します。Digimarc Barcode が **Digimarc デコーダそして両方のデコーダを使用** に設定されている場合、Digimarc デコーダは Digimarc デコーダの試行で設定された試行回数を読み取り、その後 ID と Digimarc の両方のデコーダを使用します。

Digimarc Barcode が **ID デコーダそして交互にデコーダを使用** に設定されている場合、ID デコーダは Digimarc デコーダの試行で設定された試行回数を読み取り、ID デコーダと Digimarc デコーダを交互に使用します。Digimarc Barcode が **Digimarc デコーダそして交互にデコーダを使用** に設定されている場合、Digimarc デコーダは Digimarc デコーダの試行で設定された試行回数を読み取り、その後 ID と Digimarc デコーダを交互に使用します。

デフォルト = Digimarc デコーダそして両方のデコーダを使用。



DIGENA0.

オフ



DIGENA1.

オン



DIGENA2.

ID デコーダそして両方の
デコーダを使用



DIGENA3.

* Digimarc デコーダそして
両方のデコーダを使用



DIGENA4.

ID デコーダそして交互に
デコーダを使用



DIGENA5.

Digimarc デコーダそして
交互にデコーダを使用

Data Matrix

<Data Matrix のすべての設定のデフォルト値>



IDMDFT.

Data Matrix オン / オフ



IDMENA1.

* オン



IDMENA0.

オフ

Direct Part Marking デコーディング

Direct Part Marking (DPM) バーコードの読み取りに問題がある場合は、Dotpeen コード用に **Dotpeen DPM デコーディング** をスキャンするか、反射 (エッチング) コード用に **反射 (エッチング) DPM デコーディング** をスキャンしてください。デフォルト = DPM デコーディングを無効にする。



DPMENA1.

Dotpeen DPM
デコーディング



DPMENA0.

* DPM デコーディングを
無効にする



DPMENA2.

反射型 (エッチング) DPM
デコーディング

Data Matrix メッセージ長

以下のバーコードを読み取り、メッセージの長さを変更します。詳細については、[メッセージ長の説明](#) (152 ページ) を参照してください。最小長と最大長 = 1-3116。最小デフォルト = 1、最大デフォルト = 3116。



IDMMIN.

最小メッセージ長



IDMMAX.

最大メッセージ長

Data Matrix コードページ

Data Matrix コードページは、文字コードから文字へのマッピングを定義します。受信したデータが適切な文字で表示されない場合は、スキャン中のバーコードが、ホストプログラムが予期しているものとは異なるコードページを使用して作成された可能性があります。

この場合は、以下のバーコードをスキャンし、バーコードの作成に用いたコードページを選択し（[ISO 2022/ISO 646 文字置換](#)（302 ページ）参照）、その値をスキャンし、[プログラミングチャート](#)（309 ページ以降）で**保存**バーコードをスキャンします。データ文字が正しく表示されます。



IDMDCP.

Data Matrix コードページ

MaxiCode

<MaxiCode のすべての設定のデフォルト値>



MAXDFT.

MaxiCode オン/オフ



MAXENA1.

オン



MAXENA0.

* オフ

MaxiCode メッセージ長

以下のバーコードを読み取り、メッセージの長さを変更します。詳細については、[メッセージ長の説明](#)（152 ページ）を参照してください。最小長と最大長= 1-150。
最小デフォルト= 1、最大デフォルト= 150。



MAXMIN.

最小メッセージ長



MAXMAX.

最大メッセージ長

Aztec コード

<Aztec コードのすべての設定のデフォルト値>



Aztec コードオン/オフ



* オン



オフ

Aztec コードのメッセージ長

以下のバーコードを読み取り、メッセージの長さを変更します。詳細については、[メッセージ長の説明](#)（152 ページ）を参照してください。最小長と最大長= 1-3832。最小デフォルト= 1、最大デフォルト= 3832。



最小メッセージ長



最大メッセージ長

Aztec Append

この機能により、スキャナは複数の Aztec バーコードのデータをホストコンピュータに送信する前に、それらのデータをまとめて付加していきます。スキャナは、付加トリガ文字を含む Aztec バーコードを検出すると、それらのバーコードにエンコードされた情報で決められた Aztec バーコードの数をバッファリングします。適切な数のコードに達すると、データはバーコードで指定された順序で出力されます。デフォルト= オン。



* オン



AZTAPP0.

オフ

Aztec コードページ

Aztec コードページは、文字コードから文字へのマッピングを定義します。受信したデータが適切な文字で表示されない場合は、スキャン中のバーコードが、ホストプログラムが予期しているものとは異なるコードページを使用して作成された可能性があります。この場合は、以下のバーコードをスキャンし、バーコードの作成に用いたコードページを選択し（[ISO 2022/ISO 646 文字置換](#)（302 ページ）参照）、その値をスキャンし、[プログラミングチャート](#)（309 ページ以降）で**保存**バーコードをスキャンします。データ文字が正しく表示されます。



AZTDCP.

Aztec コードページ

Chinese Sensible (Han Xin) コード

< Han Xin のすべての設定のデフォルト値 >



HX_DFT.

Han Xin Code オン / オフ



HX_ENA1.

オン



HX_ENA0.

* オフ

Han Xin Code メッセージ長

以下のバーコードを読み取り、メッセージの長さを変更します。詳細については、[メッセージ長の説明](#)（152 ページ）を参照してください。最小長と最大長= 1-7833。最小デフォルト= 1、最大デフォルト= 7833。



HX_MIN.

最小メッセージ長



HX_MAX.

最大メッセージ長

郵便番号 - 2D

以下に、可能な 2D 郵便番号および 2D 郵便番号の組み合わせを示します。一度にアクティブにできる 2D 郵便番号のオプションは 1 つだけです。2 番目の 2D 郵便番号オプションをスキャンすると、最初のオプションが上書きされます。デフォルト= 2D 郵便番号オフ。



POSTAL0.

* 2D 郵送番号オフ

シングル 2D 郵便番号：



POSTAL1.

Australian Post オン



POSTAL7.

British Post オン



POSTAL30.

Canadian Post オン



POSTAL10.

Intelligent Mail Barcode オン



POSTAL3.

日本郵便オン



POSTAL4.

KIX Post オン



POSTAL5.

Planet Code オン

Planet Code チェックディジット
(211 ページ) も参照してください。



POSTAL9.

Postal-4i オン



POSTAL6.

Postnet オン

Postnet チェックディジット
(212 ページ) も参照してください。



POSTAL11.

Postnet with B and B' Fields オン



POSTAL2.

InfoMail オン

2D 郵便番号の組み合わせ：



POSTAL8.

InfoMail と British Post オン



POSTAL20.

Intelligent Mail Barcode と
Postnet with B and B' Fields オン



POSTAL14.

Postnet と Postal-4i オン



POSTAL17.

Postal-4i と Intelligent Mail
Barcode オン



POSTAL12.

Planet Code と Postnet オン



POSTAL13.

Planet Code と Postal-4i オン



POSTAL21.

Planet Code、Postnet、
および Postal-4i オン



POSTAL16.

Postnet と Intelligent Mail Barcode
オン



POSTAL19.

Postal-4i と Postnet with B and B'
Fields オン



POSTAL18.

Planet Code と Postnet with B and B'
Fields オン



POSTAL15.

Planet Code と Intelligent Mail
Barcode



POSTAL22.

Planet Code、Postnet、および
Intelligent Mail Barcode オン



POSTAL23.

Planet Code、Postal-4i、および
Intelligent Mail Barcode オン



POSTAL24.

Postnet、Postal-4i、および
Intelligent Mail Barcode オン



POSTAL25.

Planet Code、Postal-4i、および
Postnet with B and B' Fields オン



POSTAL26.

Planet Code、Intelligent Mail
Barcode、および Postnet with B and
B' Fields オン



POSTAL27.

Postal-4i、Intelligent Mail Barcode、お
よび Postnet with B and B' Fields オン



POSTAL28.

Planet Code、Postal-4i、Intelligent
Mail Barcode、および Postnet オン



POSTAL29.

Planet Code、Postal-4i、Intelligent
Mail Barcode、および Postnet with B
and B' Fields オン

Planet Code チェックディジット

これにより、Planet Code データの最後にチェックディジットを送信するかどうかを
指定できます。デフォルト= 送信しない。



PLNCKX1.

チェックディジットを送信



PLNCKX0.

*チェックディジットを送信しない

Postnet チェックディジット

これにより、Postnet データの最後にチェックディジットを送信するかどうかを指定できます。デフォルト= 送信しない。



NETCKX1.

チェックディジットを送信



NETCKX0.

*チェックディジットを送信しない

Australian Post の解釈

このオプションは、オーストラリアの 4-State 記号の顧客フィールドをどのように解釈するかを制御します。

バー出力では、バーパターンを「0123」フォーマットで一覧表示します。

数値 N 表を使用すると、そのフィールドは数値データとして解釈されます。

英数字 C 表を使用すると、そのフィールドは英数字データとして解釈されます。

Australian Post 仕様表を参照してください。

C 表と N 表の組み合わせを使用すると、そのフィールドは C 表または N 表のいずれかを使って解釈されます。



AUSINT0.

* バー出力



AUSINT1.

数値 N 表



AUSINT2.

英数字 C 表



AUSINT3.

C表とN表の組み合わせ

Postal Codes - 1D

以下に 1D 郵便番号を示します。1D 郵便番号のオプションを任意に組み合わせたものを一度に有効化することができます。

China Post (Hong Kong 2 of 5)

<China Post (Hong Kong 2 of 5) のすべての設定のデフォルト値>



CPCDFT.

China Post (Hong Kong 2 of 5) オン / オフ



CPCENA1.

オン



CPCENA0.

* オフ

China Post (Hong Kong 2 of 5) のメッセージ長

以下のバーコードを読み取り、メッセージの長さを変更します。詳細については、[メッセージ長の説明](#)（152 ページ）を参照してください。最小長と最大長= 2-80。
最小デフォルト= 4、最大デフォルト= 80。



CPCMIN.

最小メッセージ長



CPCMAX.

最大メッセージ長

Korea Post

<Korea Post のすべての設定のデフォルト値>



KPCDFT.

Korea Post



KPCENA1.

オン



KPCENA0.

* オフ

Korea Post のメッセージ長

以下のバーコードを読み取り、メッセージの長さを変更します。詳細については、[メッセージ長の説明](#)（152 ページ）を参照してください。最小長と最大長= 2-80。
最小デフォルト= 4、最大デフォルト= 48。



KPCMIN.

最小メッセージ長



KPCMAX.

最大メッセージ長

Korea Post のチェックディジット

これにより、チェックディジットを送信するかどうかを指定できます。デフォルト=送信しない。



KPCCHK1.

チェックディジットを送信



KPCCHK0.

*チェックディジットを送信しない

9

章

イメージングコマンド

スキャナは、画像の取り込み、操作、転送の仕方がデジタルカメラに似ています。次のコマンドを使用すると、スキャナがこれらの機能を実行する方法を変更できます。

注 スキャナをスタンドで使用する場合、画像を撮影するには、スタンド内センサモードをオフに設定する必要があります（[スタンド内センサモード](#)（89 ページ）参照）。

1 回使用を基本

修飾子を使ったイメージングコマンドは、1 回使用をベースとしてスキャナに指示を送り、1 回のイメージキャプチャで有効になります。キャプチャが完了すると、スキャナはイメージングのデフォルト設定に戻ります。設定を恒久的に変更する場合は、シリアルデフォルトコマンドを使用する必要があります（[第 11 章](#)参照）。シリアルデフォルトコマンドを使用すると、その選択がスキャナの新しい恒久的な設定になります。

コマンド構文

1 つのシーケンス内で複数の修飾子とコマンドを発行できます。同じコマンドにさらなる修飾子を適用する場合は、そのコマンドに修飾子を追加するだけです。たとえば、イメージングスタイルを 1P に設定し、トリガ待ちを 1T にするなど、2 つの修飾子をイメージスナップコマンドに追加するには、**IMG SNP1P1T** と入力します。

注 *画像取り込みコマンド*（**IMG SNP** または **IMG BOX**）を処理した後、端末でそれを表示したい場合は、それに続いて **IMG SHP** コマンドを実行する必要があります。

シーケンスにコマンドを追加するには、それぞれの新規のコマンドをセミコロンで区切ります。たとえば、上記のシーケンスに画像送信コマンドを追加するには、**IMG SNP1P1T;IMG SHP** と入力します。

イメージングコマンドは以下のとおりです。

[スナップ画像 - IMG SNP](#)（216 ページ）

[画像送信 - IMGSHIP](#) (219 ページ)

[インテリジェントシグネチャキャプチャ - IMGBOX](#) (228 ページ)

これらのコマンドそれぞれに対する修飾子は、コマンドの記述に従います。

注: 各コマンドの説明に含まれる画像は、単なる例です。得られる結果が、本マニュアルに含まれているものとは異なる場合があります。受信する出力の品質は、照明、キャプチャされる初期画像／対象物の品質、および画像／対象物からのスキャナの距離によって変わります。高品質の画像を実現するには、キャプチャする画像／対象物からスキャナを4-6 インチ (10.2-15.2cm) 離して配置することをお勧めします。

ステップ 1 - IMGSNP を使用した写真の撮影

スナップ画像- IMGSNP

ハードウェアトリガが押された場合や、スナップ画像 (IMGSNP) コマンドが処理された場合は、画像が撮影されます。

画像スナップコマンドには、メモリ内の画像の外観を変更するのに使えるさまざまな修飾子があります。IMGSNP コマンドには、任意の数の修飾子を付加できます。

例: 次のコマンドを使用すると、画像を撮り、ゲインを上げ、撮影が完了したらビープ音を鳴らすことができます。IMGSNP2G1B

IMGSNP 修飾子

P- イメージングスタイル

画像のスナップスタイルを設定します。

- 0P **デコードスタイル。** この処理により、露出パラメータが満たされるまで、数フレームを撮影することができます。最後のフレームをその後の処理に使うことができます。
- 1P **フォトスタイル (デフォルト)。** これは単純なデジタルカメラを模倣したもので、視覚的に最適化された画像になります。
- 2P **マニュアルスタイル。** 熟練のユーザーのみが使用すべき高度なスタイルです。スキャナの設定を最も自由に行うことができ、自動露出はありません。

B - ビープ音

画像がスナップされた後にビープ音が鳴ります。

- 0B ビープ音なし (デフォルト)
- 1B 画像が撮影されると、「ピッ」と音がします。

T - トリガ待ち

ハードウェアトリガが押されるのを待ってから画像を撮影します。これはフォトスタイル (1P) 使用時のみ有効です。

- 0T 画像をすぐに撮影 (デフォルト)
- 1T トリガが押されるのを待ってから画像を撮影します

L - LED 状態

LED をオンにするかオフにするか、またいつ行うかを決定します。周囲照明 (0L) は、特にスキャナがスタンドにある場合に、ID カードなどのカラー文書の写真撮影に適しています。スキャナがハンドヘルドの場合は、LED 照明 (1L) を推奨します。デコードスタイル (0P) を使用している場合、この LED 状態のオプションは利用できません。

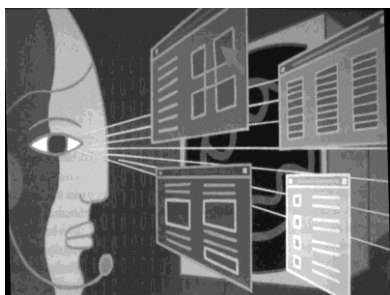
- 0L LED オフ (デフォルト)
- 1L LED オン

E - 露出

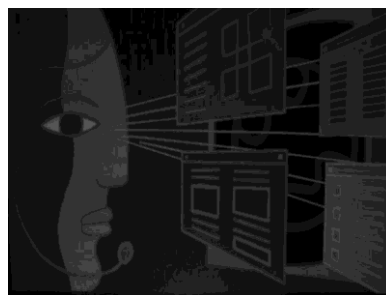
露出はマニュアルスタイル (2P) でのみ使用され、露出時間を設定できます。これは、カメラのシャッター速度を設定するのと似ています。露光時間は、スキャナが画像を記録するのにどれくらいの時間をかけるかを決定します。明るい日には、画像の記録に役立つ光が十分にあるため、露光時間は非常に短くなる可能性があります。夜間は、光がほとんどないため、露光時間が非常に長くなる可能性があります。単位は 127 マイクロ秒です。(デフォルト= 7874)

- nE 範囲：1 - 7874

例： 7874E での蛍光灯による露光：



100E での蛍光灯による露光：



G- ゲイン

ゲインは、マニュアルスタイルでのみ使用します (2P)。音量制御と同様に、ゲイン調整器は信号を増幅し、ピクセル値を増大させます。ゲインを上げると、イメージのノイズも増幅されます。

1G ゲインなし (デフォルト)

2G ゲイン中程度

4G ゲイン大

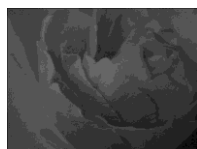
8G 最大ゲイン

例：

1G のゲイン：



4G のゲイン：



8G のゲイン：



W- 目標ホワイト値

取り込まれた画像のグレースケール中央値の目標を設定します。高コントラスト原稿の近接画像を撮影するときは、75 などの低めの設定をおすすめします。設定を高くすると露出時間が長くなり、画像が明るくなりますが、設定を高くしすぎると、露出オーバーになることがあります。目標ホワイト値は、フォトスタイル (1P) 使用時のみ使用できます。(デフォルト=125)

nW 範囲：0 - 255

例：

75W のホワイト値：



125W のホワイト値：



200W のホワイト値：



D- 許容範囲

ホワイト値設定の許容範囲を設定します (W- ターゲットホワイト値参照)。デルタはフォトスタイル (1P) 使用時のみ使用できます。(デフォルト=25)

nD 範囲：0 - 255

U - 更新試行数

これにより、スキャナが **D - 許容範囲** に到達するのに必要な最大フレーム数が設定されます。更新試行数は、フォトスタイル (1P) を使用している場合にのみ使用できます。(デフォルト = 6)

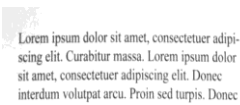
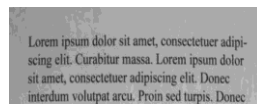
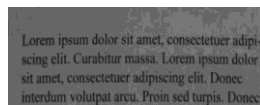
nU 範囲：0 - 10

% - 目標設定値割合

取り込んだ画像の明暗値の目標ポイントを設定します。75%に設定すると、ピクセルの75%が目標のホワイト値またはそれ以下になり、ピクセルの25%が目標のホワイト値を超える値になります。この設定をデフォルトから変更することは、通常の状態ではおすすしめしません。グレースケール値を変更するには、**W - 目標ホワイト値**を使用します。(デフォルト= 50)

n% 範囲：1 - 99

例： 97%の目標設定値割合： 50%の目標設定値割合： 40%の目標設定値割合：



ステップ 2 - IMGSHR を使用した画像送信

画像送信- IMGSHR

トリガが押された場合や、スナップ画像 (IMGSNP) コマンドが処理された場合は、画像が撮影されます。最後の画像は常にメモリに保存されます。IMGSHR コマンドを使用すると、画像を送信できます。

画像送信コマンドには、画像出力の外観を変更するのに使えるさまざまな多くの修飾子があります。修飾子は、送信される画像に影響しますが、メモリ内の画像には影響しません。IMGSHR コマンドには、任意の数の修飾子を追加できます。

例： 次のコマンドを使用して、ガンマ補正と文書画像フィルタリングを含むビットマップ画像を撮影して送信できます。IMGSNP;IMGSHR8F75K26U

IMGSHP の修飾子

A- 無限遠フィルタ

非常に長い距離（10 フィートまたは 3m 以上）から撮影した写真を強調します。無限遠フィルタは、[IMGSNP 修飾子](#)（216 ページ）と併せて使用しないでください。

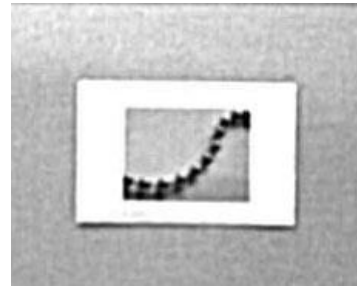
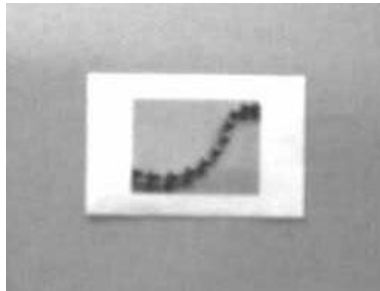
0A 無限遠フィルタオフ（デフォルト）

1A 無限遠フィルタオン

例：

約 12 フィート（3.66m）離れた位置からの撮影に対し無限遠フィルタをオフ（0A）：

約 12 フィート（3.66m）離れた位置からの撮影に対し無限遠フィルタをオン（1A）：



C- 補正

画像全体に渡る照明の変化を考慮するため、画像をフラットにします。

0C 補正無効（デフォルト）

1C 補正有効

例：

0C の補正：

1C の補正：



D- ピクセル深度

送信画像のピクセルあたりのビット数を示します（KIM または BMP フォーマットのみ）。

8D 8 ビット／ピクセル、グレースケール画像（デフォルト）

1D 1 ビット／ピクセル、白黒画像

E- エッジシャープ

エッジシャープフィルタは、画像のエッジをクリーンにし、よりクリーンでシャープな外観にします。エッジをシャープにするとイメージがよりきれいに見えますが、元のイメージから細かいディテールもいくらか除去されます。エッジシャープフィルタの強度は 1~24 の範囲で入力できます。**23E** を入力すると、最もシャープなエッジが得られますが、画像のノイズも増えます。

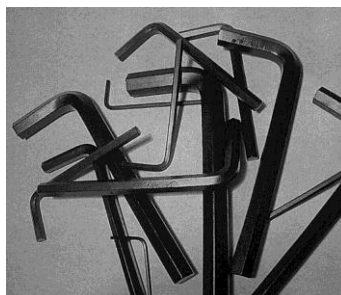
- 0E 画像をシャープにしない（デフォルト）
- 14E 一般的な画像にエッジシャープを適用
- ne 強度 n ($n=1-24$) を用いてエッジシャープを適用

例：

0E でエッジシャープ：



24E でエッジシャープ：



F- ファイルフォーマット

画像の目的のフォーマットを示します。

- 0F KIM フォーマット
- 1F TIFF バイナリ
- 2F TIFF バイナリグループ 4、圧縮
- 3F TIFF グレースケール
- 4F 非圧縮バイナリ（左上から右下、1 ピクセル/ビット、行末に 0 を埋め込み）
- 5F 非圧縮グレースケール（左上から右下、ビットマップフォーマット）
- 6F JPEG 画像（デフォルト）
- 8F BMP フォーマット（右下から左上、非圧縮）
- 15F BMP 非圧縮の raw 画像

H- ヒストグラム伸張

送信画像のコントラストを上げます。一部の画像フォーマットでは使用できません。

0H ストレッチなし（デフォルト）

1H ヒストグラム伸張

例：

0Hのヒストグラムストレッチ：



1Hのヒストグラムストレッチ：



I- 画像反転

画像反転は、X軸またはY軸を中心にイメージを回転させるために使用されます。

1ix X軸を中心に反転（画像を上下逆に反転）

1iy Y軸を中心に反転（左から右に画像を反転）

例：

画像反転なし：



画像反転を 1ix に設定した画像：



画像反転を 1iy に設定した画像：



IF - ノイズリダクション

画像内の細かいノイズを低減するのに使います。

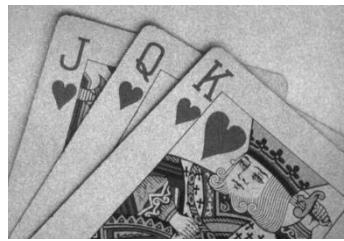
0if 細かいノイズの低減なし（デフォルト）

1if 細かいノイズを低減

例： ノイズリダクションオフ (0if) :



ノイズリダクションオン (1if) :



IR - 画像回転

0ir 撮影されたままの画像（正しい向き）（デフォルト）

1ir 画像を右に 90 度回転

2ir 画像を 180 度回転（上下逆）

3ir 画像を左に 90 度回転

例： 画像回転を 0ir に設定：



画像回転を 1ir に設定：



画像回転を 2ir に設定：



画像回転を 3ir に設定：



J - JPEG 画質

JPEG 画像フォーマットを選択したときの画質を設定します。数値が大きいほど高画質になりますが、ファイルサイズが大きくなります。数値が小さいほど、大量の非可逆圧縮が行われ、伝送時間が短くなり、品質は低下しますが、ファイルサイズが小さくなります。(デフォルト=50)

- nJ 画像は、品質係数を n ($n = 0 - 100$) に保ったまま、可能な限り圧縮されません。
- 0J 最低品質 (最小ファイルサイズ)
- 100J 最高品質 (最大ファイルサイズ)

K - ガンマ補正

ガンマは、画像によって生成されるミッドトーン値の輝度を表します。ガンマ補正を使って画像を明るくしたり暗くしたりできます。ガンマ補正を高くすると全体的に明るい画像になります。設定値が低いほど、画像が暗くなります。文字画像に最適な設定は 50K です。

- 0K ガンマ補正オフ (デフォルト)
- 50K 典型的な文書画像を明るくするときはこのガンマ補正值を適用します。
- nK ガンマ補正係数 n ($n = 0 - 1,000$) を適用

例：

0K に設定したガンマ補正：



50K に設定したガンマ補正：



255K に設定したガンマ補正：



L, R, T, B, M - 画像切り抜き

左、右、上、下のピクセル座標を指定して画像のウィンドウを取り出します。デバイスの列の番号は 0~1279 で、デバイスの行の番号は 0~959 です。

- nL 取り出す画像の左端が、メモリ内の画像の n 列に対応します。範囲：000 - 843 (デフォルト=0)
- nR 取り出す画像の右端が、メモリ内の画像の $n-1$ 列に対応します。範囲：000 - 843 (デフォルト=すべての列)
- nT 取り出す画像の上端が、メモリ内の画像の n 行に対応します。範囲：000 - 639 (デフォルト=0)

nB 取り出す画像の上端が、メモリ内の画像の n-1 行に対応します。範囲：000 - 639 (デフォルト= すべての行)

例： 切り抜き前の画像： **300R** に設定した画像切り抜き： **300L** に設定した画像切り抜き：



200B に設定した画像切り抜き： **200T** に設定した画像切り抜き：



あるいは、画像の外側のマージンからカットするピクセル数を指定すると、中央のピクセルのみが送信されます。

nM マージン：左から n 列、右から n+1 列、上から n 行、下から n+1 行をカットします。中央にある残りのピクセルを取り出します。範囲：0 - 238 (デフォルト=0、またはフル画像)

例： **238M** に設定した画像切り抜き：



P- プロトコル

画像の送信に使用します。プロトコルは、ホストに送信される画像データの 2 つの機能をカバーしています。すなわち、データ送信に使われるプロトコル (追加のヘッダー情報を持つ Xmodem 1K の別の形である Hmodem) と、送信される画像データのフォーマットを扱います。

- 0P なし (raw データ)
- 2P なし (USB の場合デフォルト)
- 3P Hmodem 圧縮 (RS232 の場合デフォルト)
- 4P Hmodem

S- ピクセル送信

ピクセル送信は、画像を元のサイズに比例してサイズ調整します。一定の規則正しい間隔のピクセルのみを送信することで、画像を間引きます。

例： 4S は、4 行ごとに 4 ピクセル目を送信します。

送信するピクセル数が少ないほど画像は小さくなりますが、あるところを超えると画像が使えなくなります。

- 1S 各ピクセルを送信 (デフォルト)
- 2S 水平方向、垂直方向ともに 2 ピクセル目毎に送信します。
- 3S 水平方向、垂直方向ともに 3 ピクセル目毎に送信します。

例：

1S に設定した
ピクセル送信：



2S に設定した
ピクセル送信：



3S に設定したピ
クセル送信：



4S に設定したピ
クセル送信：



U- 文書画像フィルタ

エッジをシャープにしたり、画像内のテキストのエッジ間の領域を滑らかにするためのパラメータを入力できます。このフィルタは、スキャナをスタンドに置いた状態でガンマ補正 (224ページ参照) と共に使用します。また次のコマンドで撮影した画像と共に使用します。

IMGSP1POL168W90%32D

このフィルタは、通常、標準のE-エッジシャープコマンド (227ページ参照) よりも優れたJPEG圧縮を行います。このフィルタは、純粋な白黒画像 (ピクセルあたり1ビット) を送信するときにも適切に機能します。最適な設定は26Uです。

- 0U 文書画像フィルタオフ (デフォルト)
- 26U 典型的な文書画像に対して文書画像フィルタを適用します。
- nU グレースケールのしきい値 n を使って文書画像フィルタを適用します。画像のコントラストが低い場合は、低い数値を使用してください。1U は、E-エッジシャープ (221 ページ) を 22e に設定したのと似た効果を発揮します。範囲：0-255.

例：

0U に設定した文書画像フィルタ：



26U に設定した文書画像フィルタ：



V - 画像のぼかし

画像内の定義された線や影の部分のハードエッジの横にあるピクセルを平均化することで、滑らかに変わるようにします。

0V ぼかしなし (デフォルト)

1V ぼかし

例： 画像のぼかしオフ (0V)：



画像のぼかしオン (1V)：



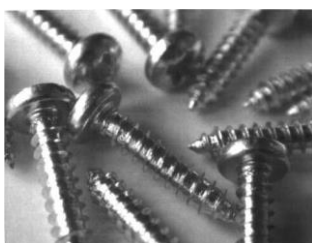
W - ヒストグラム送信

ヒストグラムは、画像の色調範囲や画調を簡単に表示するものです。画調の低い画像ではシャドウ部にディテールが集中し、画調の高い画像ではハイライト部にディテールが集中し、画調が平均的な画像ではミッドトーン部にディテールが集中します。この修飾子は画像のヒストグラムを送信します。

0W ヒストグラムを送信しない (デフォルト)

1W ヒストグラムを送信する

例： ヒストグラムに使用する画像：



画像のヒストグラム：



画像サイズ適合性

画像送信が正確に640x480ピクセルを返すと想定しているアプリケーションがある場合は、強制VGA解像度バーコードをスキャンします。デフォルト= ネイティブ解像度。



IMGVGA1.

強制 VGA 解像度



IMGVGA0.

*ネイティブ解像度

インテリジェント署名キャプチャ - IMGBOX

IMGBOXでは、バーコードに近い署名キャプチャ領域のサイズと位置を設定できます。これにより、署名キャプチャ領域を特定の形式に合わせて調整できます。IMGBOXを使用するには、署名ボックスの場所がバーコードに相対的な既知の場所にあるセットフォームが必要です。署名領域の全体的なサイズを入力したり、バーコードからの署名領域の垂直方向および水平方向の距離を指定したりできます。署名キャプチャ画像の最終出力の解像度とファイルフォーマットを設定することもできます。

注: IMGBOX コマンドは、次のいずれかのタイプのバーコードによってのみトリガできます：*PDF417, Code 39, Code 128, Aztec, Codabar, Interleaved 2 of 5*。これらの記号の1つが読み取られると、IMGBOX コマンドが発せられる可能性があるために、画像は保持されません。

署名キャプチャ最適化

スキャナを使って署名を頻繁にキャプチャする場合は、この目的に合わせて最適化する必要があります。ただし、このモードを有効にするとバーコードの読み取り速度が遅くなる場合があります。デフォルト= オフ。



DECBND1.

最適化オン



DECBND0.

*最適化オフ

以下は、署名キャプチャアプリケーションの例です。この例では、照準器が署名キャプチャ領域の中央に配置され、トリガが押されています。ピープ音が1回鳴り、スキャナが Code 128 のバーコードを読み取り、データがホストに転送されたことを示しています。これで、ホストから IMGBOX コマンドを送信して、そのコードの下での署名キャプチャ領域の座標を指定し、署名を含む領域のみを画像としてホストに転送することを指示することができます。

この例を確認するには、照準器を（バーコードではなく）署名領域に合わせ、トリガを押します。

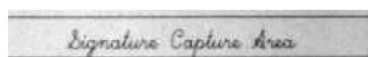


トリガ押下後、以下の IMGBOX コマンド文字列を送信します：

例：IMGBOX245w37h55y

注： このコマンド文字列では大文字と小文字は重要ではありません。ここではわかりやすさのために大文字と小文字を使用しています。

以下の画像が撮影されます。



IMGBOXコマンドには、スキャナが出力する署名画像のサイズと外観を変更するために使用できるさまざまな多くの修飾子があります。修飾子は、送信される画像に影響しますが、メモリ内の画像には影響しません。IMGBOXコマンドには、任意の数の修飾子を付加することができます。

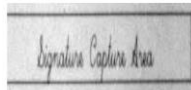
注： ウィンドウサイズ（幅と高さ）を指定しない限り、IMGBOXコマンドはNAKを返しません。H-署名キャプチャ領域の高さ（231ページ）およびW-署名キャプチャ領域の幅（232ページ）を参照してください。

IMGBOX 修飾子

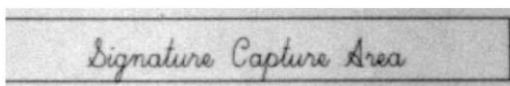
A - 出力画像の幅

このオプションは、画像を水平方向にサイズ調整するために使用します。このオプションを使用する場合は、解像度（R）をゼロに設定します。

例： 200A に設定した画像幅：



600A に設定した画像幅：



B- 出力画像の高さ

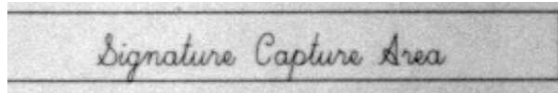
このオプションは、画像を垂直方向にサイズを調整するために使用します。このオプションを使用する場合は、解像度 (R) をゼロに設定します。

例：

50B に設定した画像の高さ：



100B に設定した画像の高さ：



D- ピクセル深度

これは、伝送された画像のピクセルあたりのビット数を示し、それがグレースケールになるか、白黒になるかを定義します。

- 8D 8ビット/ピクセル、グレースケール画像 (デフォルト)
- 1D 1ビット/ピクセル、白黒画像

F- ファイルフォーマット

このオプションは、画像を保存するファイルフォーマットの種類を表します。

- 0F KIMフォーマット
- 1F TIFFバイナリ
- 2F TIFFバイナリグループ4、圧縮
- 3F TIFFグレースケール
- 4F 非圧縮バイナリ
- 5F 非圧縮グレースケール
- 6F JPEG画像 (デフォルト)
- 7F 輪郭線画像
- 8F BMP フォーマット

H- 署名キャプチャ領域の高さ

署名キャプチャ領域の高さは、インチを0.01で割った値で測定する必要があります。たとえば、キャプチャされる領域の高さが3/8インチ（0.95cm）の場合、値は $H = 0.375/0.01 = 37.5$ になります。

例：IMGBOX245w37h55y

K- ガンマ補正

ガンマは、画像によって生成されるミッドトーン値の輝度を表します。ガンマ補正を使って画像を明るくしたり暗くしたりできます。ガンマ補正を高くすると全体的に明るい画像になります。設定値が低いほど、画像が暗くなります。文字画像に最適な設定は50Kです。

0K ガンマ補正オフ（デフォルト）

50K 典型的な文書画像を明るくするときにこのガンマ補正值を適用します。

nK ガンマ補正係数 n ($n = 1-255$) を適用

例：

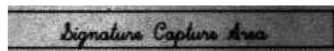
0K に設定したガンマ補正：



50K に設定したガンマ補正：



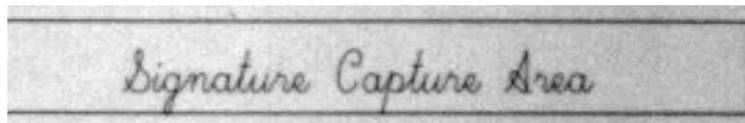
255K に設定したガンマ補正：



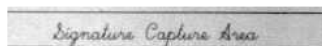
R- 署名キャプチャ領域の解像度

解像度は、最小バー幅あたりにスキャナが出力するピクセル数です。R の値が大きいほど画質は高くなりますが、ファイルサイズも大きくなります。値は1000から始まります。スキャナは1桁目と2桁目の間に自動的に小数点を挿入します。たとえば、解像度を2.5に指定するには値を2500とします。AとBの修飾子を使う場合は、ゼロに設定します（A-出力画像の幅およびB-出力画像の高さ（230ページ）を参照）。

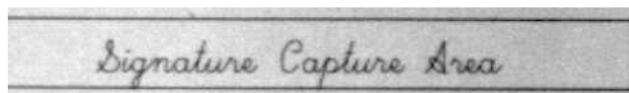
例： OR に設定した解像度：



1000R に設定した解像度：



2000R に設定した解像度：



S - バーコードアスペクト比

IMGBOXで使用するすべての寸法は、バーコードの最小要素サイズの倍数として測定されます。バーコードアスペクト比を使用すると、バーコードの高さと細い要素の幅の比率を設定できます。たとえば、細い要素の幅を0.010インチ、バーコードの高さを0.400インチとすると、アスペクト比は $S = 0.4/0.01 = 40$ となります。

W - 署名キャプチャ領域の幅

署名キャプチャ領域の幅は、インチを0.01で割った値で測定する必要があります。たとえば、キャプチャされる領域の幅が2.4インチ（6.1cm）の場合、値は $W = 2.4/0.01 = 240$ になります。（この例では、わずかに広い画像領域に対応するために、245の値が使用されました。）

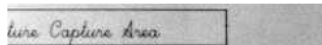
例：IMGBOX245w37h55y

X - 水平バーコードオフセット

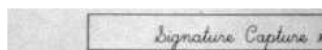
水平バーコードオフセットでは、署名キャプチャ領域の水平方向の中心をオフセットできます。正の値は水平方向の中央が右に移動することを表し、負の値は左に移動することを表します。測定値は、最小バー幅の倍数として表されます。

例：

75X に設定した水平オフセット：



-75X に設定した水平オフセット：



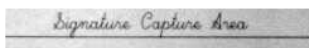
Y- 垂直バーコードオフセット

垂直バーコードオフセットでは、署名キャプチャ領域の垂直方向の中心をオフセットできます。負の値は、署名キャプチャがバーコードの上にあることを表し、正の値は、その領域がバーコードの下にあることを表します。測定値は、最小バー幅の倍数として表されます。

例： -7Y に設定した垂直オフセット：



65Y に設定した垂直オフセット：



RF デフォルトイメージングデバイス

スキャナはイメージングコマンド処理 (IMGSHF、IMGSNP、IMGBOX) をサポートしているので、EZConfig for Scanning (237 ページ参照) やその他のアプリケーションは、スキャナと直接通信しているかのように画像処理機能を実行できます。これを実現するために、スキャナは RF_DID (RF Default Imaging Device) と呼ばれるメニューコマンドを使用します。RF_DID は、イメージングコマンドを受信するスキャナ (BT_NAM) の名前です。RF_DID のデフォルトは "*" で、関連するすべてのスキャナにイメージングコマンドを送信することを表しています。特定のスキャナに送信されるようにするには、この設定を RF_DIDscanner_name に変更します。「[スキャナレポート](#)」 (50 ページ) を参照し、各スキャナのポート、ワークグループ、スキャナ名、アドレスを含むレポートを作成してください。各スキャナに個別の名前をつけるには、「[スキャナ名](#)」 (64 ページ) を参照してください。

10

章

ユーティリティ

テストコード ID の追加すべての記号に対するプリフィクス

このオプションにより、解読された記号の前にコード ID を送信することができます。(各記号を識別する単一文字コードについては、[記号チャート](#) (295 ページ以降) を参照してください。) この操作では、まず現在のプリフィクスをすべて消去し、その後、すべての記号に対してコード ID をプログラムします。これは、本体の電源を入れ直すと削除される一時的な設定です。



PRECA2,BK2995C80!

コード ID の追加すべての記号に対するプリフィクス (一時的)

ソフトウェアの改定の表示

以下のバーコードをスキャンして、スキャナとベースに関して現在のソフトウェアの改定、ユニットシリアル番号、その他の製品情報を出力します。



REVINF.

ソフトウェアの改定の表示

試験メニュー

試験メニュー オンのコードをスキャンしてから本マニュアルのプログラミングコードをスキャンすると、スキャナはプログラミングコードの内容を表示します。プログラミング機能が動作するだけでなく、さらにそのプログラミングコードの内容が端末に出力されます。

注: この機能は、通常のスキャナ動作時には使用しないでください。



TSTMNU1.

オン



TSTMNU0.

* オフ

TotalFreedom

TotalFreedom は、オープンなシステムアーキテクチャであり、これを使うとスキャナ上にアプリケーションを作成することができます。TotalFreedom を使用すると、デコードアプリとデータフォーマットアプリを作成できます。TotalFreedom について詳しくは、当社のウェブサイト sps.honeywell.com をご覧ください。

アプリケーションプラグイン (アプリ)

以下のバーコードをスキャンすることで、お使いのアプリをオフにしたり、オンにしたりできます。アプリはデコード用とフォーマット用にグループ分けされて保存されます。以下のグループのオンまたはオフのバーコードをスキャンすることで、これらのグループのアプリを有効または無効にできます。アプリリストのバーコードをスキャンして、すべてのアプリのリストを出力することもできます。



PLGDCE1.

* デコードアプリオン



PLGDCE0.

デコードアプリオフ



PLGFOE1.

* フォーマットアプリオン



PLGFOE0.

フォーマットアプリオフ



PLGINF.

アプリリスト

注: アプリの設定を有効にするには、デバイスをリセットする必要があります。

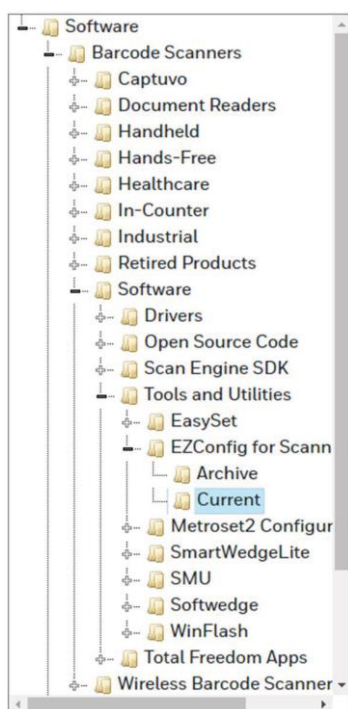
スキャンング用 EZConfig の概要

スキャンング用EZConfigは、PCに接続されたスキャナで実行できるPCベースのプログラミング機能を幅広く提供します。スキャンング用EZConfigでは、スキャナのファームウェアへのアップグレードのダウンロード、プログラムされたパラメータの変更、プログラミングバーコードの作成と印刷が可能です。スキャンング用EZConfigを使用すると、プログラミングパラメータを保存したり開いたりすることもできます。この保存されたファイルは電子メールで送信することも、必要に応じて、カスタマイズされたすべてのプログラミングパラメータを含む単一のバーコードを作成し、そのバーコードを任意の場所にメールまたはファックスで送信することもできます。他の場所にいるユーザーはバーコードをスキャンして、カスタマイズしたプログラミングにロードできます。

スキャンング用 EZConfig で設定

スキャンング用EZConfigツールを使用して、スキャナをオンラインで設定します。

1. honeywell.com/PSSsoftware-downloadsにあるHoneywell Technical Support Downloads Portal（ハネウェルテクニカルサポートダウンロードポータル）にアクセスします。
2. **Software**（ソフトウェア） > **Barcode Scanners**（バーコードスキャナ） > **Software**（ソフトウェア） > **Tools and Utilities**（ツールとユーティリティ） > **EZConfig for Scanning**（スキャンング用EZConfig） > **Current**（現在）にアクセスします。



3. スキャンング用EZConfigの**Setup**（セットアップ）バージョンをダウンロードします。
4. EZConfigを開いてスキャナを設定します。

工場出荷時のデフォルトへのリセット



注意事項：このオプションにより、すべての設定が消去され、スキャナが工場出荷時のデフォルト設定にリセットされます。また、すべてのプラグインを無効にします。

スキャナのプログラミングオプションが不明な場合や、いくつかのオプションを変更し、スキャナを工場出荷時のデフォルト設定に戻したい場合は、最初に**カスタムデフォルトの削除**バーコードをスキャンしてから、**デフォルトの有効化**をスキャンします。これによりスキャナが工場出荷時の設定にリセットされます。



DEFOVR.

カスタムデフォルトの削除



DEFAULT.

デフォルトの有効化

注:コードレスシステムを使用している場合、**デフォルトの有効化**バーコードをスキャンすると、スキャナとベースまたはアクセスポイントの両方がリセットされ、リンクが解除されます。セットアップコードを入力する前に、リンクを再確立するためにスキャナをベースに置く必要があります。アクセスポイントを使用する場合は、リンクバーコードをスキャンする必要があります。詳しい情報については、[コードレスシステムの操作](#) (35 ページ) を参照してください。

メニューコマンド (244 ページ以降) は、各コマンドの工場出荷時のデフォルト設定 (プログラミングページのアスタリスク (*) で示されています) をリストアップしています。

11

章

シリアルプログラミングコマンド

シリアルプログラミングコマンドは、プログラミングバーコードの代わりに使用できます。シリアルコマンドとプログラミングバーコードのどちらでもスキャナをプログラミングできます。各シリアルプログラミングコマンドの詳細な説明と例については、このマニュアルの該当するプログラミングバーコードを参照してください。

機器は RS232 インターフェースに設定する必要があります (10 ページ参照)。端末エミュレーションソフトウェアを使用して、PC の COM ポート経由で以下のコマンドを送信できます。

表記

以下の表記規則が、メニューおよびクエリコマンドの説明に使われています。

パラメータ コマンドの一部として送信する実際の値を表すラベル。

[オプション] コマンドのオプション部分。

{データ} コマンドにおける選択肢。

太字 画面に表示されるメニュー、メニューコマンド、ボタン、ダイアログボックス、ウィンドウの名前。

メニューコマンド構文

メニューコマンドの構文は次のとおりです (スペースはわかりやすくするためにのみ使用されています) :

プリフィクス **[Name:]** タグ サブタグ {データ} [, サブタグ {データ}] ; タグ サブタグ {データ} [...] ストレージ

プリフィクス ASCII 文字 3 文字 : SYN M CR (ASCII 22,77,13)

:名前: このコマンドはコードレス機器でのみ使用されます。これは、ベースと通信するのかスキャナと通信するのかを指定するために使用します。(ベースがホストに接続された状態で) スキャナに情報を送信するには、:Xenon:を使用します。Xenon XP スキャナの工場出荷時の初期設定は Xenon スキャナです。この設定は、英数字を受け入れる BT_NAM コマンドを使って変更します。名前がわからない場合は、ワイルドカード (*) を使用できます : *

注: ベースはすべてのワークグループ設定を保存し、リンクされるとスキャナに転送されるため、変更は通常ベースに対して行われ、スキャナに対しては行われません。

タグ 目的のメニューコマンドグループを識別する、大文字と小文字を区別しない3文字のフィールド。たとえば、すべてのRS232構成設定は**232**のタグで識別されます。

サブタグ タググループ内の目的のメニューコマンドを識別する、大文字と小文字を区別しない3文字のフィールド。たとえば、RS232ボーレートのサブタグは**BAD**です。

データ メニュー設定の新しい値。タグとサブタグで識別されます。

ストレージ コマンドが適用されるストレージテーブルを指定する単一文字。感嘆符(!)は、デバイスの揮発のメニュー構成テーブルに対してコマンドの操作を実行します。ピリオド(.)は、デバイスの不揮発のメニュー構成テーブルに対してコマンドの操作を実行します。不揮発テーブルは、電源を切ってから再度入れたときに保存されていてほしい半恒久的な変更のみ使用してください。

クエリコマンド

いくつかの特殊文字を使って、デバイスの設定をクエリすることができます。

^ 設定のデフォルト値は何ですか。

> PAPサブコマンドとは何ですか。

注: >を使用する場合、他のコマンドはすべて**NAK**を返します。

? 設定に対するデバイスの現在値は何ですか。

***** 設定可能な値の範囲は何ですか。(デバイスの応答ではダッシュ(-)を使用して値の連続範囲を示します。パイプ(|)は、連続しない値のリストの中で項目を分けます。)

:名前:フィールドの使用法 (オプション)

このコマンドは、スキャナからクエリ情報を返します。

タグフィールドの使用

クエリがタグフィールドの代わりに使用される場合、クエリは、コマンドのストレージフィールドによって示される特定のストレージテーブルで使用可能なコマンドセット全体に適用されます。この場合、サブタグとデータフィールドはデバイスに無視されるため、使用しないでください。

サブタグフィールドの使用法

クエリがサブタグフィールドの代わりに使用される場合、クエリは、タグフィールドに一致する使用可能なコマンドのサブセットにのみ適用されます。この場合、データフィールドはデバイスに無視されるため、使用しないでください。

データフィールドの使用

クエリがデータフィールドの代わりに使用される場合、クエリは、タグおよびサブタグフィールドによって識別される特定のコマンドにのみ適用されます。

複数コマンドの連結

1つのプリフィクス/ストレージシーケンス内で複数のコマンドを発行できます。シーケンス内の各コマンドに対して繰り返す必要があるのは、タグ、サブタグ、データのフィールドのみです。同じタグにさらなるコマンドを適用する場合、新しいコマンドシーケンスはカンマ (,) で区切られ、追加のコマンドのサブタグおよびデータのフィールドのみが発行されます。追加コマンドに別のタグフィールドが必要な場合、コマンドはセミコロン (;) を使って前のコマンドと区切られます。

応答

デバイスはシリアルコマンドに以下の3つのいずれかで応答します。

ACK	処理が行われた正常なコマンドを表します。
ENQ	無効なタグまたはサブタグのコマンドを表します。
NAK	コマンドは正常ですが、データフィールドの入力がこのタグとサブタグの組み合わせの許容範囲外であったことを示しています。たとえば、フィールドが2文字しか受け入れないところに、最小メッセージ長を100と入力した場合などです。

デバイスが応答する際、コマンドシーケンスをエコーバックし、コマンド内の各句読点（ピリオド、感嘆符、カンマ、またはセミコロン）の直前にステータス文字を挿入します。

クエリコマンドの例

以下の例では、括弧付きの表記[]は、表示不可能な応答を表しています。

例： Codabar コード化有効の可能な値の範囲は？

入力： **cbrena***
応答： **CBRENA0-1[ACK]**

この応答は、Codabar コード化有効 (CBRENA) が 0 から 1 (オフとオン) の範囲の値を持つことを示します。

例： Codabar コード化有効のデフォルト値は？

入力： **Cbrena^**

応答： **CBRENA1[ACK]**

この応答は、Codabar コード化有効 (CBRENA) のデフォルト設定が 1 すなわちオンであることを表しています。

例： デバイスの Codabar コード化有効の現在の設定は？

入力： **cbrena^**

応答： **CBRENA1[ACK]**

この応答は、デバイスの Codabar コード化有効 (CBRENA) が 1 すなわちオンに設定されていることを表しています。

例： すべての Codabar オプションに対するデバイスの設定は？

入力： **cbr?**

応答： **CBRENA1[ACK]、
SSX0[ACK]、
CK20[ACK]、
CCT1[ACK]、
MIN2[ACK]、
MAX60[ACK]、
DFT[ACK]。**

この応答は、デバイスの Codabar コード化有効 (CBRENA) が 1 すなわちオンに設定されていることを表しています。

開始/停止文字 (SSX) が 0 すなわち送信しないに設定されている；

チェックキャラクタ (CK2) が 0 すなわち不要に設定されている；

連結 (CCT) が 1 すなわち有効に設定されている；

最小メッセージ長 (MIN) は 2 文字に設定されている；

最大メッセージ長 (MAX) は 60 文字に設定されている；

初期設定 (DFT) には値がない。

トリガコマンド

シリアルトリガコマンドでスキャナを起動および停止することができます。まず、手動トリガモードバーコード (82 ページ) をスキャンするか、トリガ用のシリアルメニューコマンド (84 ページ) を送信して、スキャナを手動トリガモードにする必要があります。スキャナがシリアルトリガモードになると、次のコマンドを送信してトリガを有効化および無効化させます：

有効化： **SYN T CR**

無効化： **SYN U CR**

スキャナは、バーコードが読み取られるか、無効化コマンドが送信されるか、シリアルタイムアウトに達するまで、スキャンします（説明については、[読み取りタイムアウト](#)（84 ページ）とシリアルコマンド（[255 ページ](#)）を参照）。

カスタムデフォルトのリセット

スキャナにカスタムデフォルト設定を復元する場合は、以下の**カスタムデフォルトの有効化**バーコードをスキャンします。これにより、スキャナがカスタムデフォルト設定にリセットされます。カスタムデフォルトがない場合、スキャナは工場出荷時のデフォルト設定にリセットされます。カスタムデフォルトで指定されていない設定項目は、工場出荷時のデフォルト設定になります。



カスタムデフォルトの有効化

注: コードレスシステムを使用している場合、このバーコードをスキャンすると、スキャナとベースまたはアクセスポイントの両方がリセットされ、リンクが解除されます。リンクを再確立するには、スキャナをベースに設置する必要があります。アクセスポイントを使用する場合は、リンクバーコードをスキャンする必要があります。詳しい情報については、[コードレスシステムの操作](#)（35 ページ）を参照してください。

以下のページの表では、各コマンドの工場出荷時のデフォルト設定（プログラミングページでアスタリスク（*）により示されています）がリストアップされています。

メニューコマンド

オプション	設定 *はデフォルトを表しています。	シリアルコマンド #は数値入力を表しています。	ページ
製品のデフォルト設定			
カスタムデフォルトの設定	カスタムデフォルトの設定	MNUCDP	7
	カスタムデフォルトの保存	MNUCDS	7
カスタムデフォルトのリセット	カスタムデフォルトの有効化	DEFAULT	8
工場出荷時のデフォルトをリセット - コードレススキャナ	工場出荷時のデフォルト設定： すべてのアプリケーショングループ	PAPDFT&	67
カスタムデフォルトのリセット - コードレススキャナ	カスタムデフォルト設定： すべてのアプリケーショングループ	PAPDFT	67
インターフェースをプログラムする			
プラグアンドプレイコード	キーボードウェッジ： IBM PC AT、および CR サフィックス付 き互換機	PAP_AT	9
	CR サフィックス付きノートブックダ イレクトコネク	PAPLTD	10
	RS232 シリアルポート	PAP232	10
プラグアンドプレイコード： IBM SurePos	USB IBM SurePos ハンドヘルド	PAPSPH	10
	USB IBM SurePos テーブルトップ	PAPSPT	10
プラグアンドプレイコード：USB	USB キーボード (PC)	PAP124	11
	USB キーボード (Mac)	PAP125	11
	USB 日本語キーボード (PC)	TRMUSB134	11
	USB HID	PAP131	11
	USB シリアル	TRMUSB130	12
	CTS/RTS エミュレーションオン	USBCTS1	12
	*CTS/RTS エミュレーションオフ	USBCTS0	12
	ACK/NAK モードオン	USBACK1	12
	*ACK/NAK モードオフ	USBACK0	12
	*高速オフ	USBSPD0	12
	高速オン	USBSPD1	13
プラグアンドプレイコード	Verifone Ruby 端末	PAPRBY	13
	Gilbarco 端末	PAPGLB	13
	ハネウェルバイオプティック Aux ポ ート	PAPBIO	14
	Datalogic Magellan Aux ポート	PAPMAG	14
	Wincor Nixdorf 端末	PAPWNX	14
	Wincor Nixdorf Beetle	PAPBTL	15
	Wincor Nixdorf RS232 モード A	PAPWMA	15
国別キーボードプログラム	*U.S.A.	KBDCTY0	16
	Albania	KBDCTY35	16

オプション	設定 *はデフォルトを表しています。	シリアルコマンド #は数値入力を表しています。	ページ
	Azeri (Cyrillic)	KBDCTY81	16
	Azeri (Latin)	KBDCTY80	16
	Belarus	KBDCTY82	16
	Belgium	KBDCTY1	16
	Bosnia	KBDCTY33	16
	Brazil	KBDCTY16	16
	Brazil (MS)	KBDCTY59	16
	Bulgaria (Cyrillic)	KBDCTY52	16
	Bulgaria (Latin)	KBDCTY53	17
	Canada (French legacy)	KBDCTY54	17
	Canada (French)	KBDCTY18	17
	Canada (Multilingual)	KBDCTY55	17
	Croatia	KBDCTY32	17
	Czech	KBDCTY15	17
	Czech (Programmers)	KBDCTY40	17
	Czech (QWERTY)	KBDCTY39	17
	Czech (QWERTZ)	KBDCTY38	17
	Denmark	KBDCTY8	17
	Dutch (Netherlands)	KBDCTY11	17
	Estonia	KBDCTY41	17
	Faroese	KBDCTY83	18
	Finland	KBDCTY2	18
	France	KBDCTY3	18
	Gaelic	KBDCTY84	18
	Germany	KBDCTY4	18
	Greek	KBDCTY17	18
	Greek (220 Latin)	KBDCTY64	18
	Greek (220)	KBDCTY61	18
	Greek (319 Latin)	KBDCTY65	18
	Greek (319)	KBDCTY62	18
	Greek (Latin)	KBDCTY63	18
	Greek (MS)	KBDCTY66	18
	Greek (Polytonic)	KBDCTY60	19
	Hebrew	KBDCTY12	19
	Hungarian (101 key)	KBDCTY50	19
	Hungary	KBDCTY19	19
	Iceland	KBDCTY75	19

オプション	設定 *はデフォルトを表しています。	シリアルコマンド #は数値入力を表しています。	ページ
	Irish	KBDCTY73	19
	Italian (142)	KBDCTY56	19
	Italy	KBDCTY5	19
	Japan ASCII	KBDCTY28	19
	Kazakh	KBDCTY78	19
	Kyrgyz (Cyrillic)	KBDCTY79	19
	Latin America	KBDCTY14	19
	Latvia	KBDCTY42	20
	Latvia (QWERTY)	KBDCTY43	20
	Lithuania	KBDCTY44	20
	Lithuania (IBM)	KBDCTY45	20
	Macedonia	KBDCTY34	20
	Malta	KBDCTY74	20
	Mongolian (Cyrillic)	KBDCTY86	20
	Norway	KBDCTY9	20
	Poland	KBDCTY20	20
	Polish (214)	KBDCTY57	20
	Polish (Programmers)	KBDCTY58	20
	Portugal	KBDCTY13	20
	Romania	KBDCTY25	21
	Russia	KBDCTY26	21
	Russian (MS)	KBDCTY67	21
	Russian (Typewriter)	KBDCTY68	21
	SCS	KBDCTY21	21
	Serbia (Cyrillic)	KBDCTY37	21
	Serbia (Latin)	KBDCTY36	21
	Slovakia	KBDCTY22	21
	Slovakia (QWERTY)	KBDCTY49	21
	Slovakia (QWERTZ)	KBDCTY48	21
	Slovenia	KBDCTY31	21
	Spain	KBDCTY10	21
	Spanish variation	KBDCTY51	22
	Sweden	KBDCTY23	22
	Switzerland (French)	KBDCTY29	22
	Switzerland (German)	KBDCTY6	22
	Tatar	KBDCTY85	22
	Turkey F	KBDCTY27	22

オプション	設定 *はデフォルトを表しています。	シリアルコマンド #は数値入力を表しています。	ページ
オプション	Turkey Q	KBDCTY24	22
	Ukrainian	KBDCTY76	22
	United Kingdom	KBDCTY7	22
	United Stated (Dvorak right)	KBDCTY89	22
	United States (Dvorak left)	KBDCTY88	22
	United States (Dvorak)	KBDCTY87	22
	United States (International)	KBDCTY30	23
	Uzbek (Cyrillic)	KBDCTY77	23
ALT モード	* オフ	KBDALTO	23
	3 文字	KBDALT6	23
	4 文字	KBDALT7	23
キーボードスタイル	*標準	KBDSTY0	24
	Caps Lock	KBDSTY1	24
	Shift Lock	KBDSTY2	24
	自動 Caps Lock	KBDSTY6	24
	Num ロックによるオートキャップ	KBDSTY7	24
	外部キーボードエミュレーション	KBDSTY5	24
キーボード変換	*キーボード変換オフ	KBDCNV0	25
	すべての文字を大文字に変換	KBDCNV1	25
	すべての文字を小文字に変換	KBDCNV2	25
文字出力制御	*制御文字出力オフ	KBDNPE0	25
	文字出力制御オン	KBDNPE1	25

オプション	設定 *はデフォルトを表しています。	シリアルコマンド #は数値入力を表しています。	ページ
キーボード修飾子	*Control + X オフ	KBDCAS0	26
	DOS モード Control + X	KBDCAS1	26
	Windows モード Control + X	KBDCAS2	26
	Windows モードのプリフィクス/サフィックスオフ	KBDCAS3	26
	DOS モードコントロール+X モードオン (Windows モードプリフィクス/サフィックス付き)	KBDCAS4	26
	ALT 3 桁 HEX モードをサポート	KBDCAS5	26
	*ターボモードオフ	KBDTMD0	27
	ターボモードオン	KBDTMD1	27
	*テンキーオフ	KBDNPS0	27
	テンキーオン	KBDNPS1	27
	*自動ダイレクトコネクトオフ	KBDADC0	27
	自動ダイレクトコネクトオン	KBDADC1	27
ボーレート	300 BPS	232BAD0	28
	600 BPS	232BAD1	28
	1200 BPS	232BAD2	28
	2400 BPS	232BAD3	28
	4800 BPS	232BAD4	28
	9600 BPS	232BAD5	28
	19200 BPS	232BAD6	28
	38400 BPS	232BAD7	28
	57600 BPS	232BAD8	28
	*115200 BPS	232BAD9	29
ワード長:データビット、ストップビット、パリティ	7 データ、1 ストップ、パリティ偶数	232WRD3	29
	7 データ、1 ストップ、パリティなし	232WRD0	29
	7 データ、1 ストップ、パリティ奇	232WRD6	29
	7 データ、2 ストップ、パリティ偶	232WRD4	29
	7 データ、2 ストップ、パリティなし	232WRD1	29
	7 データ、2 ストップ、パリティ奇	232WRD7	29
	8 データ、1 ストップ、パリティ偶	232WRD5	29
	*8 データ、1 ストップ、パリティなし	232WRD2	29
	8 データ、1 ストップ、パリティ奇	232WRD8	30
	8 データ、1 ストップ、パリティマーク	232WRD14	30
RS232 受信機タイムアウト	範囲 0~300 秒*0	232LPT###	30

オプション	設定 *はデフォルトを表しています。	シリアルコマンド #は数値入力を表しています。	ページ
RS232 ハンドシェイク	*RTS/CTS オフ	232CTS0	31
	フロー制御、タイムアウトなし	232CTS1	30
	2方向フロー制御	232CTS2	30
	タイムアウト付きフロー制御	232CTS3	31
	RS232 タイムアウト (1~5100 ミリ秒)	232DEL####	31
	*XON/XOFF オフ	232XON0	31
	XON/XOFF オン	232XON1	31
	*ACK/NAK オフ	232ACK0	32
ACK/NAK オン	232ACK1	32	
スキャナ-バイオプティックパケットモード	*パケットモードオフ	232PKT0	32
	パケットモードオン	232PKT2	32
スキャナ-バイオプティック ACK/NAKモード	*バイオプティック ACK/NAK オフ	232NAK0	33
	バイオプティック ACK/NAK オン	232NAK1	33
スキャナ-バイオプティック ACK/NAK タイムアウト	ACK/NAK タイムアウト (1~30000 ミリ秒) *5100	232DLK#####	33
コードレスシステムの操作			
リンクスキャナの交換	ロックされたスキャナの上書き (シングルスキャナ)	BT_RPL1	36
一時ストリーミングプレゼンテーションモード	*一時ストリーミングプレゼンテーションモードオン	BEPPGE2	39
	*10 秒タイムアウト	TRGTPM10000	40
	30 秒タイムアウト	TRGTPM30000	40
ベースでのプレゼンテーションモード	*無効	BT_PIB0	40
	有効	BT_PIB1	40
ベース電源通信インジケータ	*オン	.*:BASRED1	43
	オフ	.*:BASREDO	43
バッテリーLED 警告	常にオフ	BTRLED0	44
	常にオン	BTRLED1	44
	ベースで常時オン	BTRLED4	44
低電力警告	*低電力警告 10%	LPIRG210	45
	低電力警告 20%	LPIRG220	45
	低電力警告 30%	LPIRG230	45
	低電力警告点滅回数 (1~9) *3	LPIFNO#	45
	点滅間隔 (1~9) *2	LPIFDL#	46
	低電力警告の繰り返し(1-5) *1	LPI_NO#	46
	警告間隔 (10-120) *10	LPI_DL###	46

オプション	設定 *はデフォルトを表しています。	シリアルコマンド #は数値入力を表しています。	ページ
	低電力警告ビープ音オフ	LPIBEP0	46
	*低電力警告ビープ音オン	LPIBEP1	47
	スキャナのリセット	RESET_	47
ベースクレードルでのスキャン	スキャンインクレードルオフ (水平 CCB のデフォルト)	BT_SIC0	47
	スキャンインクレードルオン (プレゼンテーション CCB のデフォルト)	BT_SIC1	47
	クレードルでスキャナをシャットダウン	BT_SIC2	47
ベース充電モード	ベース充電オフ	BTRCHG0	48
	*外部またはインターフェースケーブル電源	BTRCHG1	48
	外部電源のみ	BTRCHG2	48
ファインドマイモード	*オン	BEPPGE1	48
	オフ	BEPPGE0	49
ページピッチ	* 低 (1000Hz)	BEPPFQ1000	49
	中 (3250Hz)	BEPPFQ3250	49
	高 (4200Hz)	BEPPFQ4200	49
ビープ音ピッチ - ベースのエラー	*低/ラズ (250 Hz) (最小 200 Hz)	BASFQ2250	49
	中 (3250Hz)	BASFQ23250	49
	高 (4200 Hz) (最大 9000 Hz)	BASFQ24200	49
ビープ音の数 - ベースのエラー	*1 (範囲 1~9)	BASERR#	50
スキャナレポート	スキャナレポート	RPTSCN	50
スキャナアドレス	スキャナアドレス	BT_LDA	50
ベースのアドレス	ベースのアドレス	BASLDA	50
バッテリーおよびバッテリーレススーパーキャパシタの情報		BTRINF	51
スキャナのモード	充電専用モード	BASLNK0	51
	*充電・リンクモード	BASLNK1	51
	ロック済リンクモード	BASCON0,DNG1	52
	*オープンリンクモード	BASCON1,DNG1	52
	スキャナのリンク解除	BT_RMV	52
	ロックされたスキャナの上書き	BT_RPL1	53
圏外アラーム	ベースアラーム時間 (範囲 1~ 3000 秒) *0	BASORD####	53
	スキャナアラーム時間 (範囲 1~ 3000 秒) *0	BT_ORD####	53
アラーム音タイプ	ベースアラームタイプ (0~7) *0	BASORW#	54
	スキャナアラームタイプ (0~7) *0	BT_ORW#	54

オプション	設定 *はデフォルトを表しています。	シリアルコマンド #は数値入力を表しています。	ページ
スキャナ電源タイムアウトタイマ	0 秒	BT_LPT0	55
	200 秒	BT_LPT200	55
	400 秒	BT_LPT400	55
	900 秒	BT_LPT900	55
	*3600 秒	BT_LPT3600	55
	7200 秒	BT_LPT7200	55
パワーセーブモード	*無効	PWRDWN0	55
	有効	PWRDWN1	55
スキャナパワーセーブタイムアウト タイマ	0 秒	BLESDT0	56
	60 秒	BLESDT60	56
	120 秒	BLESDT120	56
	200 秒	BLESDT200	56
	300 秒	*BLESDT300	56
	600 秒	BLESDT600	56
	900 秒	BLESDT900	56
Xenon XP 1952g/1952h 用フレキシブル パワーマネージメント	*フルパワー (100%)	BT_TXP100	57
	中パワー (35%)	BT_TXP35	57
	中低パワー (5%)	BT_TXP5	57
	低パワー (1%)	BT_TXP1	57
バッチモード	自動バッチモード	BATENA1	58
	*バッチモードオフ	BATENA0	58
	目録バッチモード	BATENA2	59
	持続バッチモード	BATENA3	59
バッチモードのビープ音	オフ	BATBEP0	59
	*オン	BATBEP1	59
バッチモードストレージ	*フラッシュストレージ	BATNVS1	59
	RAM ストレージ	BATNVS0	60
バッチモード数量	*オフ	BATQTY0	60
	オン	BATQTY1	60

オプション	設定 *はデフォルトを表しています。	シリアルコマンド #は数値入力を表しています。	ページ
数量コード	0	BATNUM0	61
	*1	BATNUM1	61
	2	BATNUM2	61
	3	BATNUM3	61
	4	BATNUM4	61
	5	BATNUM5	61
	6	BATNUM6	61
	7	BATNUM7	61
	8	BATNUM8	62
	9	BATNUM9	62
バッチモード出力順序	*FIFO	BATLIF0	62
	LIFO	BATLIF1	62
全記録	全記録	BATNRC	62
最後のコードを削除	最後のコードを削除	BATUND	62
すべてのコードを消去	すべてのコードを消去	BATCLR	63
ホストへの記録送信	目録記録の送信	BAT_TX	63
バッチモード送信遅延	*オフ（遅延なし）	BATDLY0	63
	短（250 ミリ秒）	BATDLY250	63
	中（500 ミリ秒）	BATDLY500	63
	長（1000 ミリ秒）	BATDLY1000	63
複数のスキャナ操作	複数のスキャナ操作	BASCON2,DNG3	64
スキャナ名	0001	BT_NAM0001	64
	0002	BT_NAM0002	64
	0003	BT_NAM0003	65
	0004	BT_NAM0004	65
	0005	BT_NAM0005	65
	0006	BT_NAM0006	65
	0007	BT_NAM0007	65
	リセット	RESET_	65
	スキャナ名	BT_NAM	65

オプション	設定 *はデフォルトを表しています。	シリアルコマンド #は数値入力を表しています。	ページ
アプリケーションワークグループの 選択	*グループ 0	GRPSEL0	66
	グループ 1	GRPSEL1	66
	グループ 2	GRPSEL2	66
	グループ 3	GRPSEL3	66
	グループ 4	GRPSEL4	66
	グループ 5	GRPSEL5	66
	グループ 6	GRPSEL6	66
	グループ 7	GRPSEL7	66
工場出荷時のデフォルトへのリセット： すべてのアプリケーション作業 グループ	工場出荷時のデフォルト設定：すべての ワークグループ	PAPDFT&	67
カスタムデフォルトのリセット：す べてのアプリケーション作業グル ープ	カスタムデフォルト設定：すべてのワ ークグループ	PAPDFT	68
Bluetooth 接続	*Bluetooth SSP オン	BT_SSP1	68
	Bluetooth SSP オフ	BT_SSP0	68
	Bluetooth HID キーボード接続	PAPBTH	68
	Bluetooth HID 日本語キーボード接続	PAPJKB	69
	Bluetooth HID キーボードの切断	PAPSPP	69
Bluetooth シリアルポート - PC/ ノ ートパソコン	非ベース BT 接続	BT_TRM0;BT_DNG5	69
PDA/モビリティシステムデバイス	BT 接続 - PDA/モビリティシステムデ バイス	BT_TRM0;BT_DNG1	70
スキャナの Bluetooth PIN コードを変 更する	Bluetooth PIN コード	BT_PIN	70
自動再接続モード	*自動再接続オン	BT_ACM1	70
	自動再接続オフ	BT_ACM0	70
最大リンク試行回数	最大リンク試行回数 (0-100) *0	BT_MLA###	72
再リンクタイムアウト	再リンクタイムアウト (1~100) *3	BT_RLT###	75
ホストコマンド確認	ホスト ACK オン	HSTACK1	75
	*ホスト ACK オフ	HSTACK0	75
	ホスト ACK タイムアウト (1-90) *10	HSTATO##	75
入出力選択			
電源投入時ビープ音	電源投入時ビープ音がオフ - スキャ ナ	BEPPWRO	77
	*電源投入時ビープ音がオン - スキ ャナ	BEPPWR1	77
	電源投入時ビープ音がオフ - コード レスベース	BASPWRO	77
	電源投入時ビープ音がオン - コード レスベース	BASPWR1	77

オプション	設定 *はデフォルトを表しています。	シリアルコマンド #は数値入力を表しています。	ページ
BEL 文字ビープ音	BEL 文字ビープ音オン	BELBEP1	78
	*BEL 文字ビープ音オフ	BELBEP0	78
トリガクリック	オン	BEPTRG1	78
	*オフ	BEPTRG0	78
ビープ音 - 読み取り成功時	オフ	BEPBEP0	78
	*オン	BEPBEP1	78
ビープ音量-読み取り成功時	オフ	BEPLVL0	78
	*低 (デフォルト-196xh)	BEPLVL1	79
	中	BEPLVL2	79
	*高 (デフォルト-196xg/196xli)	BEPLVL3	79
ビープ音ピッチ- 読み取り成功時 (周波数)	低 (1600 Hz) (最小 400 Hz)	BEPFQ11600	79
	*中 (2700Hz)	BEPFQ12700	79
	高 (4200 Hz) (最大 9000 Hz)	BEPFQ14200	79
ビープ音ピッチ - エラー時 (周波数)	*ラズ (250Hz) (最低 200Hz)	BEPFQ2250	79
	中 (3250Hz)	BEPFQ23250	80
	高 (4200 Hz) (最大 9000 Hz)	BEPFQ24200	80
ビープ時間- 読み取り成功時	*通常のビープ音	BEPBIP0	80
	短いビープ音	BEPBIP1	80
LED - 読み取り成功時	オフ	BEPLED0	80
	*オン	BEPLED1	80
ビープ音回数- 読み取り成功時	(範囲 1~9) *1	BEPRPT#	81
ビープ音回数 - エラー時	(範囲 1~9) *1	BEPERR#	81
読み取り成功時の遅延時間	*遅延なし	DLYGRD0	81
	短い遅延 (500 ミリ秒)	DLYGRD500	81
	中程度の遅延 (1000 ミリ秒)	DLYGRD1000	81
	長い遅延 (1500 ミリ秒)	DLYGRD1500	81
ユーザー指定の読み取り成功時の遅延時間	範囲 0~30,000 ミリ秒	DLYGRD#####	82
トリガモード	*マニュアルトリガ-通常	PAPHHF	82
	マニュアルトリガ-エンハンスド	PAPHHS	82
トリガトグル	*トリガトグルオフ	TRGTGM0	82
	トリガトグル - 画像キャプチャ	TRGTGM1	83
	トリガトグルオフ-センタリング	TRGTGM3	83
トリガ回数	2回のクイックトリガ	TRGTPC2	83
	3回のクイックトリガ	TRGTPC3	83
	4回のクイックトリガ	TRGTPC4	83
トリガのタイミング	トリガのタイミング (範囲 50 - 2000) *400	TRGTTI####	83

オプション	設定 *はデフォルトを表しています。	シリアルコマンド #は数値入力を表しています。	ページ
トリガトグルタイムアウト	トリガトグルタイムアウト (範囲 0 - 65) *5	TRGTGT##	84
シリアルトリガモード	読み取りタイムアウト (0~300,000 ミリ秒) *30,000	TRGSTO####	84
プレゼンテーションモード	プレゼンテーションモード	PAPTPR	85
カメラモーションプレゼンテーションモード	カメラモーションオン	TRGCAM1	85
	*オフ	TRGCAM0	85
物体検出モード	*近距離	AOSRNG1	85
	中距離	AOSRNG2	85
プレゼンテーションモード照準器	環境光のみ	PDCLED0	97
	*環境光とスキャナライト	PDCLED1	97
デコード後のプレゼンテーション LED 作動	*LED 点灯	TRGPCK1	86
	LED オフ	TRGPCK0	86
プレゼンテーションセンタリングウィンドウ	プレゼンテーションセンタリングオン	PDCWIN1	87
	*プレゼンテーションセンタリングオフ	PDCWIN0	87
	プレゼンテーションセンタリングウィンドウの左 (*40%)	PDCLFT###	88
	プレゼンテーションセンタリングウィンドウの右 (*60%)	PDCRGT###	88
	プレゼンテーションセンタリングウィンドウの上 (*40%)	PDCTOP###	87
	プレゼンテーションセンタリングウィンドウの下 (*60%)	PDCBOT###	87
プレゼンテーション再読み込み制御	履歴を忘れ、常に実行	TRGRRCO	88
	履歴を記憶し、常に実行	TRGRRC1	88
	履歴を忘れ、スキャンセッション中に実行	TRGRRC2	88
	履歴を記憶し、スキャンセッション中に実行	TRGRRC3	89
スタンド内センサモード	*センサーオン	TRGSSW1	89
	センサーオフ	TRGSSW0	89
低品質コード	低品質な 1D 読み取りオン	DECLDI1	89
	*低品質な 1D 読み取りオフ	DECLDI0	89
	*低品質 PDF 読み取りオン	PDFXPR10	90
	低品質 PDF 読み取りオフ	PDFXPRO	90
	低解像度の PDF コードオン	PDFDMI1	90
	*低解像度 PDF コードオフ	PDFDMI0	90
CodeGate	*スタンド外で CodeGate オフ	AOSCGD0	90
	スタンド外で CodeGate オン	AOSCGD1	91

オプション	設定 *はデフォルトを表しています。	シリアルコマンド #は数値入力を表しています。	ページ
ストリーミングプレゼンテーション	ストリーミングプレゼンテーション モード-ノーマル	PAPSPN	91
	ストリーミングプレゼンテーション モード-エンハンスド	PAPSPE	91
ハンズフリータイムアウト	範囲 (0~300,000ms) *5000ms	TRGPT0#####	92
再読み取り遅延	短 (500 ミリ秒)	DLYRRD500	92
	*中 (750 ミリ秒)	DLYRRD750	92
	長 (1000 ミリ秒)	DLYRRD1000	92
	超長 (2000 ミリ秒)	DLYRRD2000	92
ユーザー指定	範囲 0~30,000 ミリ秒	DLYRRD#####	92
2D 再読み取り遅延	*2D 再読み取り遅延オフ	DLY2RR0	93
	短 (1000 ミリ秒)	DLY2RR1000	93
	中 (2000 ミリ秒)	DLY2RR2000	93
	長 (3000ms)	DLY2RR3000	93
	超長 (4000ms)	DLY2RR4000	93
文字アクティベーションモード	*オフ	HSTCEN0	93
	オン	HSTCEN1	93
	アクティベーション文字 (範囲 0~ 255) *12 [DC2]	HSTACH###	94
	読み取り成功後に終了しない文字ア クティベーション	HSTCGD0	94
	読み取り成功後に終了する文字ア クティベーション	HSTCGD1	94
	文字アクティベーションタイムアウ ト (範囲 1~300,000) *30,000 ミリ 秒	HSTCDT#####	94
文字アクティベーション解除モード	*オフ	HSTDEN0	95
	オン	HSTDEN1	95
	アクティベーション解除文字 (範囲 0~255) *14 [DC4]	HSTDCH###	95
照明ライト	*ライトオン	SCNLED1	95
	ライトオフ	SCNLED0	95
照準器遅延	1 ミリ秒	SCNDLY1	96
	250 ミリ秒	SCNDLY250	96
	500 ミリ秒	SCNDLY500	96
	*オフ (遅延なし)	SCNDLY0	96
ユーザー指定照準器遅延	範囲 0~4,000 ミリ秒	SCNDLY#####	96
照準器モード	オフ	SCNAIM0	96
	*インターレース	SCNAIM2	96
シングルコードセンタリング	シングルコードセンタリング	DECWIN1;DECTOP49;DECBOT 51;DECRGT51;DECLFT49	97

オプション	設定 *はデフォルトを表しています。	シリアルコマンド #は数値入力を表しています。	ページ
センタリングウィンドウ	センタリングオン	DECWIN1	98
	*センタリングオフ	DECWIN0	98
	センタリングウィンドウの左 (*40%)	DECLFT###	99
	センタリングウィンドウの右 (*60%)	DECRGT###	99
	センタリングウィンドウの上 (*40%)	DECTOP###	99
	センタリングウィンドウの下 (*60%)	DECBOT###	99
優先記号	オン	PRFENA1	100
	*オフ	PRFENA0	100
	高優先記号*なし	PRFCOD##	100
	低優先記号*なし	PRFBLK##	100
	優先記号タイムアウト (範囲 100~3000) *500	PRFPTO####	101
	優先記号のデフォルト	PRFDFT	101
出力シーケンスエディタ	出力シーケンスの作成	SEQBLK	102
	プリフィクスを追加して出力シーケンスを完成	SEQPRE	102
	サフィックスを追加して出力シーケンスを完成	SEQSUF	102
	セパレータを追加して出力シーケンスを完成	SEQSEP	102
	終了文字列	FF	102
部分シーケンス	部分出力シーケンスを送信	SEQTTS1	102
	部分出力シーケンスにプリフィクスを追加	SEQIPR	102
	部分出力シーケンスにサフィックスを追加	SEQISU	102
	部分出力シーケンスにセパレータを追加	SEQISE	102
	終了文字列	FF	102
	良好なサブセットを定義	SEQSAT	102
	SEQSAT のタイムアウト	SEQTIM	102
	*部分出力シーケンスを破棄	SEQTTS0	107
	デフォルト出力シーケンス	SEQDFT	110
出力シーケンスの要求	必要	SEQ_EN2	110
	オン/不要	SEQ_EN1	110
	*オフ	SEQ_EN0	110
読み取り成功音 - 出力シーケンス	読み取り成功ビープ音 - シーケンスの各コード	BEPSIN0	111
	*読み取り成功クリック - シーケンスの各コード	BEPSIN1	111

オプション	設定 *はデフォルトを表しています。	シリアルコマンド #は数値入力を表しています。	ページ
	読み取り成功ビープ音 - 部分シーケンス出力	BEPISE0	111
	*エラー音 - 部分シーケンス出力	BEPISE1	111
複数記号	オン	SHOTGN1	111
	*オフ	SHOTGN0	111
複数記号カウント	複数記号カウント (範囲 0 - 128) *0	SHOCNT	111
読み取りなし	オン	SHWNRD1	112
	*オフ	SHWNRD0	112
ビデオ反転	ビデオ反転のみ	VIDREV1	112
	ビデオ反転および標準バーコード	VIDREV2	113
	*ビデオ反転オフ	VIDREV0	113
作業方向	*正しい向き	ROTATN0	113
	縦向き、下から上 (反時計回り 90°回転)	ROTATN1	113
	上下反転	ROTATN2	113
	縦向き、上から下 (時計回り 90°回転)	ROTATN3	114
抽出遅延	抽出遅延	EXTDLY	114
ヘルスケアの選択			
静穏操作 - コンビネーションコード	LED 点滅を伴うサイレントモード - コードレススキャナとベース	bepfn5;bepfr50;beppar0;baspwr0;beppwr0;baslv0;beplv0;be pbip0;bepFQ12700;beplot0	115
	LED 点滅を伴うサイレントモード - コード付きスキャナ	bepfn5;bepfr50;beppwr0;beplv0;bepbip0;bepFQ12700;beplot 0	115
	LED 点灯を伴うサイレントモード - コードレススキャナとベース	bepfn0;bepfr10;beppar0;baspwr0;beppwr0;baslv0;beplv0;be pbip0;bepFQ12700;beplot1	116
	LED 点灯を伴うサイレントモード - コード付きスキャナ	bepfn0;bepfr10;beppwr0;beplv0;bepbip0;bepFQ12700;beplot 1	116
	超低ビープ音 (夜間モード) - コードレススキャナとベース	bepfn0;bepfr10;beppar0;baspwr0;beppwr1;baslv1;beplv1;be pbip1;bepFQ14200;beplot0	116
	超低ビープ音 (夜間モード) - コード付きスキャナ	bepfn0;bepfr10;beppwr1;beplv1;bepbip1;bepFQ14200;beplot 0	116
	低ビープ音 (昼間モード) - コードレススキャナとベース	bepfn0;bepfr10;beppar1;baspwr1;beppwr1;baslv1;beplv1;be pbip0;bepFQ12700;beplot0	117

オプション	設定 *はデフォルトを表しています。	シリアルコマンド #は数値入力を表しています。	ページ
	低ピープ音（昼間モード） -コード付きスキャナ	bepfn0;bepflr10;bepplr1;bepvl1;bepbip0;bepFQ12700;bepplot 0	117
静音操作 - LED と音量設定			
LED の色と音をリンクさせる	*緑色 LED 点滅/サウンド	BEPPAR1	117
	赤色 LED 点滅/サイレント	BEPPAR0	117
LED 点滅回数	*LED 点滅 1 回	BEPLFN0	118
	LED 点滅 5 回	BEPLFN5	118
	LED 点滅 10 回	BEPLFN10	118
	LED 点滅 25 回	BEPLFN25	118
LED 点滅速度	*高速点滅	BEPLFR50	118
	中速点滅	BEPLFR250	118
	低速点滅	BEPLFR500	118
LED 固定点灯（点滅なし）	*LED 固定点灯オフ（点滅再開）	BEPLOT0	119
	LED 固定点灯 1 秒	BEPLOT1	119
	LED 固定点灯 3 秒	BEPLOT3	119
	LED 固定点灯 5 秒	BEPLOT5	119
ページ音量制御	ページ音量オフ	BEPPGV0	119
	*ページ音量低	BEPPGV1	119
	ページ音量中	BEPPGV2	120
	ページ音量高	BEPPGV3	120
圏外アラーム音量	ベースアラーム音オフ	BASORV0	120
	スキャナアラーム音オフ	BT_ORV0	120
	*ベースアラーム音量低	BASORV1	120
	*スキャナアラーム音量低	BT_ORV1	120
	ベースアラーム音量中	BASORV2	120
	スキャナアラーム音量中	BT_ORV2	121
	ベースアラーム音量大	BASORV3	121
	スキャナアラーム音量大	BT_ORV3	121
圏外遅延	圏外遅延（範囲 0~3000）*0	BT_ORY####	121
振動 - 読み取り成功	*読み取り成功オフ	TFBGRD0	121
	読み取り成功オン	TFBGRD1	121
	振動時間	TFBGRD2	122
プリフィクス/サフィックスのオプション			
すべての記号に CR サフィックスを追加		VSUFRCR	125
デフォルトの有効化と CR サフィックスの追加		DEFAULT;VSUFRCR	125

オプション	設定 *はデフォルトを表しています。	シリアルコマンド #は数値入力を表しています。	ページ
プリフィクス	プリフィクスの追加	PREBK2##	125
	1つのプリフィクスを消去	PRECL2	125
	すべてのプリフィクスを消去	PRECA2	125
サフィックス	サフィックスの追加	SUFBK2##	126
	1つのサフィックスを消去	SUFCL2	126
	すべてのサフィックスを消去	SUFCA2	126
ファンクションコード送信	*有効	RMVFNC0	126
	無効	RMVFNC1	126
文字間遅延	範囲 0~5000 (5 ミリ秒単位)	DLYCHR#####	127
ユーザー指定	遅延長	DLYCRX#####	127
文字間遅延	0~5000 (5 ミリ秒単位)		
	遅延をトリガする文字	DLY_XX##	127
機能間遅延	範囲 0~5000 (5 ミリ秒単位)	DLYFNC#####	128
メッセージ間遅延	範囲 0~5000 (5 ミリ秒単位)	DLYMSG#####	128
データフォーマットの選択			
データフォーマットエディタ	*デフォルトデータフォーマット (なし)	DFMDF3	130
	データフォーマット設定の表示	DFMBK3?	130
	データフォーマットの入力	DFMBK3##	131
	1つのデータフォーマットの消去	DFMCL3	131
	すべてのデータフォーマットの消去	DFMCA3	131
データフォーマット	データフォーマットオフ	DFM_EN0	145
	*データフォーマットオン、不要、プリフィクス/サフィックス保持	DFM_EN1	146
	データフォーマット必要、プリフィクス/サフィックスの保持	DFM_EN2	146
	データフォーマットオン、不要、プリフィクス/サフィックス削除	DFM_EN3	146
	データフォーマット必要、プリフィクス/サフィックスの除去	DFM_EN4	146
データフォーマット不一致エラー音	*データフォーマット不一致エラー音オン	DFMDEC0	146
	データフォーマット不一致エラー音オフ	DFMDEC1	147
プライマリ/代替データフォーマット	プライマリデータフォーマット	ALTFNM0	147
	データフォーマット 1	ALTFNM1	147
	データフォーマット 2	ALTFNM2	147
	データフォーマット 3	ALTFNM3	147

オプション	設定 *はデフォルトを表しています。	シリアルコマンド #は数値入力を表しています。	ページ
シングルスキャンデータフォーマット変更	シングルスキャンプライマリデータフォーマット	VSAF_0	147
	シングルスキャンデータフォーマット 1	VSAF_1	148
	シングルスキャンデータフォーマット 2	VSAF_2	148
	シングルスキャンデータフォーマット 3	VSAF_3	148
キューバ스팅抽出	*無効	EXTBAR0	148
	PDF417	EXTBAR1	148
	Aztec	EXTBAR2	148
	Data Matrix	EXTBAR3	148
	QR コード	EXTBAR4	148
	抽出コード ID	EXTCID	149
	抽出セパレータ	EXTSEP	149
	抽出遅延	EXTDLY	149
記号			
すべての記号	すべての記号オフ	ALLENA0	152
Codabar	Codabar のすべての設定のデフォルト値	CBRDFT	152
	オフ	CBRENA0	152
	*オン	CBRENA1	152
Codabar スタート/ストップ文字	*送信しない	CBRSSX0	153
	送信	CBRSSX1	153
Codabar チェックキャラクタ	*チェックキャラクタなし	CBRCK20	153
	有効化、ただし送信しない	CBRCK21	153
	有効化して送信	CBRCK22	153
Codabar 連結	*オフ	CBRCCT0	154
	オン	CBRCCT1	154
	必要	CBRCCT2	154
Codabar のメッセージ長	最小 (2~60) *4	CBRMIN##	154
	最大 (2~60) *60	CBRMAX##	154
Code 39	Code 39 のすべての設定のデフォルト値	C39DFT	155
	オフ	C39ENA0	155
	*オン	C39ENA1	155
Code 39 スタート/ストップ文字	*送信しない	C39SSX0	155
	送信	C39SSX1	155

オプション	設定 *はデフォルトを表しています。	シリアルコマンド #は数値入力を表しています。	ページ
Code 39チェックキャラクタ	*チェックキャラクタなし	C39CK20	156
	有効化、ただし送信しない	C39CK21	156
	有効化して送信	C39CK22	156
Code 39メッセージ長	最小 (0~48) *0	C39MIN##	156
	最大 (0~48) *48	C39MAX##	156
コード39付加	*オフ	C39APP0	156
	オン	C39APP1	156
Code 32 Pharmaceutical (PARAF)	*オフ	C39B320	157
	オン	C39B321	157
Code 39フルASCII	*オフ	C39ASC0	158
	オン	C39ASC1	157
	Code 39コードページ	C39DCP	158
Code 39の抑制	*Code 39を抑制する	C39SCC1	158
	Code 39を抑制しない	C39SCC0	158
Interleaved 2 of 5	Interleaved 2 of 5のすべての設定のデフォルト値	I25DFT	159
	オフ	I25ENA0	159
	*オン	I25ENA1	159
Interleaved 2 of 5チェックディジット	*チェックディジットなし	I25CK20	159
	有効化、ただし送信しない	I25CK21	159
	有効化して送信	I25CK22	159
Interleaved 2 of 5メッセージ長	最小 (2~80) *6	I25MIN##	160
	最大 (2~80) *80	I25MAX##	160
	*FEBRABANデコードオフ	I25PAY0	160
	FEBRABANデコードオン	I25PAY1	160
NEC 2 of 5	NEC 2 of 5のすべての設定のデフォルト値	N25DFT	160
	オフ	N25ENA0	160
	*オン	N25ENA1	160
NEC 2 of 5チェックディジット	*チェックディジットなし	N25CK20	161
	有効化、ただし送信しない	N25CK21	161
	有効化して送信	N25CK22	161
NEC 2 of 5メッセージ長	最小 (2~80) *4	N25MIN##	161
	最大 (2~80) *80	N25MAX##	161

オプション	設定 *はデフォルトを表しています。	シリアルコマンド #は数値入力を表しています。	ページ
Code 93	Code 93のすべての設定のデフォルト値	C93DFT	162
	オフ	C93ENA0	162
	*オン	C93ENA1	162
Code 93メッセージ長	最小 (0~80) *0	C93MIN##	162
	最大 (0~80) *80	C93MAX##	162
コード93付加	オン	C93APP1	162
	*オフ	C93APP0	162
Code 93コードページ	Code 93コードページ	C93DCP	163
Straight 2 of 5 Industrial	Straight 2 of 5 Industrialのすべての設定のデフォルト値	R25DFT	163
	*オフ	R25ENA0	163
	オン	R25ENA1	163
Straight 2 of 5 Industrialメッセージ長	最小 (1~48) *4	R25MIN##	164
	最大 (1~48) *48	R25MAX##	164
Straight 2 of 5 IATA	Straight 2 of 5 IATAのすべての設定のデフォルト値	A25DFT	164
Straight 2 of 5 IATA	*オフ	A25ENA0	164
	オン	A25ENA1	164
Straight 2 of 5 IATA冗長性	レンジ (0~10) *0	A25VOT##	165
Straight 2 of 5 IATAメッセージ長	最小 (1~48) *4	A25MIN##	165
	最大 (1~48) *48	A25MAX##	165
Matrix 2 of 5	Matrix 2 of 5のすべての設定のデフォルト値	X25DFT	165
	*オフ	X25ENA0	165
	オン	X25ENA1	165
Matrix 2 of 5メッセージ長	最小 (1~80) *4	X25MIN##	166
	最大 (1-80) *80	X25MAX##	166
Code 11	Code 11のすべての設定のデフォルト値	C11DFT	166
	*オフ	C11ENA0	166
	オン	C11ENA1	166
Code 11チェックディジットの必要性	1つのチェックディジット	C11CK20	166
	*2つのチェックディジット	C11CK21	166
Code 11メッセージ長	最小 (1~80) *4	C11MIN##	167
	最大 (1-80) *80	C11MAX##	167

オプション	設定 *はデフォルトを表しています。	シリアルコマンド #は数値入力を表しています。	ページ
Code 128	Code 128のすべての設定のデフォルト値	128DFT	167
	オフ	128ENA0	167
	*オン	128ENA1	167
ISBT連結	*オフ	ISBENA0	168
	オン	ISBENA1	168
Code 128冗長性	レンジ (0~10) *0	128VOT##	168
Code 128メッセージ長	最小 (0~80) *0	128MIN##	168
	最大 (0~80) *80	128MAX##	168
Code 128付加	オン	128APP1	169
	*オフ	128APP0	169
Code 128 コードページ	Code 128 コードページ (*2)	128DCP##	169
GS1-128	GS1-128のすべての設定のデフォルト値	GS1DFT	169
	*オン	GS1ENA1	169
	オフ	GS1ENA0	169
GS1-128メッセージ長	最小 (1~80) *1	GS1MIN##	170
	最大 (0~80) *80	GS1MAX##	170
GS1デジタルリンク	GS1デジタルリンク	GS1DLE1	170
	*オフ	GS1DLE0	170
Telepen	Telepenのすべての設定のデフォルト値	TELDFT	170
	*オフ	TELENA0	170
	オン	TELENA1	170
Telepen出力	*AIM Telepen出力	TELOLD0	171
	オリジナルTelepen出力	TELOLD1	171
Telepenメッセージ長	最小 (1~60) *1	TELMIN##	171
	最大 (1~60) *60	TELMAX##	171
UPC-A	UPC-Aのすべての設定のデフォルト値	UPADFT	172
	オフ	UPBENA0	172
	*オン	UPBENA1	172
UPC-Aチェックディジット	オフ	UPACKX0	172
	*オン	UPACKX1	172
UPC-Aナンバーシステム	オフ	UPANSX0	172
	*オン	UPANSX1	172
UPC-A 2桁追加	*オフ	UPAAD20	173
	オン	UPAAD21	173

オプション	設定 *はデフォルトを表しています。	シリアルコマンド #は数値入力を表しています。	ページ
UPC-A 5桁追加	*オフ	UPAAD50	173
	オン	UPAAD51	173
UPC-A追加必要	*不要	UPAARQ0	173
	必要	UPAARQ1	173
追加タイムアウト	範囲 (0~500) *120	DLYADD#####	174
UPC-A追加セパレータ	オフ	UPAADS0	174
	*オン	UPAADS1	174
拡張クーポンコード付きUPC-A/EAN-13	*オフ	CPNENA0	174
	連結を許可	CPNENA1	174
	連結を要請	CPNENA2	175
追加タイムアウト	範囲 (0~500) *120	DLYADD#####	175
クーポンGS1 DataBar出力	*GS1出力オフ	CPNGS10	175
	GS1出力オン	CPNGS11	175
UPC-E0	UPC-Eのすべての設定のデフォルト値	UPEDFT	176
	オフ	UPEEN00	176
	*オン	UPEEN01	176
UPC-E0拡張	*オフ	UPEEXP0	176
	オン	UPEEXP1	176
UPC-E0追加必要	必要	UPEARQ1	176
	*不要	UPEARQ0	176
追加タイムアウト	範囲 (0~500) *120	DLYADD#####	177
UPC-E0追加セパレータ	*オン	UPEADS1	177
	オフ	UPEADS0	177
UPC-E0チェックディジット	オフ	UPECKX0	177
	*オン	UPECKX1	177
UPC-E0リーディングゼロ	オフ	UPENSX0	178
	*オン	UPENSX1	178
UPC-E0追加	2桁追加オン	UPEAD21	178
	*2桁追加オフ	UPEAD20	178
	5桁追加オン	UPEAD51	178
	*5桁追加オフ	UPEAD50	178
UPC-E1	*オフ	UPEEN10	179
	オン	UPEEN11	178
EAN/JAN-13	EAN/JANのすべての設定のデフォルト値	E13DFT	179
	オフ	E13ENA0	179
	*オン	E13ENA1	179

オプション	設定 *はデフォルトを表しています。	シリアルコマンド #は数値入力を表しています。	ページ
UPC-AをEAN-13に変換	UPC-AをEAN-13に変換	UPAENA0	179
	*UPC-Aを変換しない	UPAENA1	179
EAN/JAN-13チェックディジット	オフ	E13CKX0	180
	*オン	E13CKX1	180
EAN/JAN-13追加	2桁追加オン	E13AD21	180
	*2桁追加オフ	E13AD20	180
	5桁追加オン	E13AD51	180
	*5桁追加オフ	E13AD50	180
EAN/JAN-13追加必要	*不要	E13ARQ0	180
	必要	E13ARQ1	180
290で始まるEAN-13追加必要	*5桁の追加が不要	ARQ2900	181
	5桁の追加必要	ARQ2901	181
378/379で始まるEAN-13追加必要	*追加が不要	ARQ3780	182
	2桁の追加必要	ARQ3781	182
	5桁の追加必要	ARQ3782	182
	2桁または5桁の追加必要	ARQ3783	182
414/419で始まるEAN-13追加必要	*追加が不要	ARQ4140	182
	2桁の追加必要	ARQ4141	182
	5桁の追加必要	ARQ4142	182
	2桁または5桁の追加必要	ARQ4143	183
434/439で始まるEAN-13追加必要	*追加が不要	ARQ4340	183
	2桁の追加必要	ARQ4341	183
	5桁の追加必要	ARQ4342	183
	2桁または5桁の追加必要	ARQ4343	183
977で始まるEAN-13追加必要	*2桁追加が不要	ARQ9770	184
	2桁の追加必要	ARQ9771	184
978で始まるEAN-13追加必要	*5桁の追加が不要	ARQ9780	184
	5桁の追加必要	ARQ9781	184
979で始まるEAN-13追加必要	*5桁の追加が不要	ARQ9790	185
	5桁の追加必要	ARQ9791	185
追加タイムアウト	範囲 (0~500) *120	DLYADD#####	185
EAN/JAN-13追加セパレータ	オフ	E13ADS0	185
	*オン	E13ADS1	185
ISBN変換	*オフ	E13ISB0	186
	オン	E13ISB1	186

オプション	設定 *はデフォルトを表しています。	シリアルコマンド #は数値入力を表しています。	ページ
EAN/JAN-8	EAN/JAN-8のすべての設定のデフォルト値	EA8DFT	186
	オフ	EA8ENA0	186
	*オン	EA8ENA1	186
EAN/JAN-8チェックディジット	オフ	EA8CKX0	186
	*オン	EA8CKX1	186
EAN/JAN-8追加	*2桁追加オフ	EA8AD20	187
	2桁追加オン	EA8AD21	187
	*5桁追加オフ	EA8AD50	187
	5桁追加オン	EA8AD51	187
EAN/JAN-8追加必要	*不要	EA8ARQ0	187
	必要	EA8ARQ1	187
追加タイムアウト	範囲 (0~500) *120	DLYADD#####	188
EAN/JAN-8追加セパレータ	オフ	EA8ADS0	188
	*オン	EA8ADS1	188
MSI	MSIのすべての設定のデフォルト値	MSIDFT	188
	*オフ	MSIENA0	188
	オン	MSIENA1	188
MSIチェックキャラクタ	* タイプ10を有効化、ただし送信しない	MSICK0	189
	タイプ10を有効化し送信	MSICK1	189
	2つのタイプ10文字を有効化、ただし送信しない	MSICK2	189
	2つのタイプ10文字を有効化し送信	MSICK3	189
	タイプ11文字、次にタイプ10文字を有効化、ただし送信しない	MSICK4	189
	タイプ11文字、次にタイプ10文字を有効化し送信	MSICK5	189
	MSIチェックキャラクタの無効化	MSICK6	189
MSIメッセージ長	最小 (4~48) *4	MSIMIN##	190
	最大 (4~48) *48	MSIMAX##	190
GS1 DataBar Omnidirectional	GS1 DataBar Omnidirectionalのすべての設定のデフォルト値	RSSDFT	190
	オフ	RSENA0	190
	*オン	RSENA1	190

オプション	設定 *はデフォルトを表しています。	シリアルコマンド #は数値入力を表しています。	ページ
GS1 DataBar Limited	GS1 DataBar Limitedのすべての設定のデフォルト値	RSLDFT	191
	オフ	RSLENA0	191
	*オン	RSLENA1	191
GS1 DataBar拡張	GS1 DataBar拡張のすべての設定のデフォルト値	RSEDFT	191
	オフ	RSEENA0	191
	*オン	RSEENA1	191
GS1データバー拡張メッセージ長	最小 (4~74) *4	RSEMIN##	192
	最大 (4~74) *74	RSEMAX##	192
Trioptic Code	*オフ	TRIENA0	192
	オン	TRIENA1	192
Codablock A	Codablock Aのすべての設定のデフォルト値	CBADFT	192
	*オフ	CBAENA0	192
	オン	CBAENA1	192
コーダブロックAメッセージ長	最小 (1~600) *1	CBAMIN###	193
	最大 (1~600) *600	CBAMAX###	193
Codablock F	Codablock Fのすべての設定のデフォルト値	CBFDFT	193
	*オフ	CBFENA0	193
	オン	CBFENA1	193
コーダブロックFメッセージ長	最小 (1~2048) *1	CBFMIN####	194
	最大 (1~2048) *2048	CBFMAX####	194
ラベルコード	オン	LBLENA1	194
	*オフ	LBLENA0	194
PDF417	PDF417のすべての設定のデフォルト値	PDFDFT	194
	*オン	PDFENA1	194
	オフ	PDFENA0	194
PDF417メッセージ長	最小 (1~2750) *1	PDFMIN####	195
	最大 (1~2750) *2750	PDFMAX####	195
MacroPDF417	*オン	PDFMAC1	195
	オフ	PDFMAC0	195
MicroPDF417	MicroPDF417のすべての設定のデフォルト値	MPDDFT	195
	オン	MPDENA1	195
	*オフ	MPDENA0	196
MicroPDF417メッセージ長	最小 (1~366) *1	MPDMIN###	196
	最大 (1~366) *366	MPDMAX###	196
GS1 Composite Codes	オン	COMENA1	196
	*オフ	COMENA0	196

オプション	設定 *はデフォルトを表しています。	シリアルコマンド #は数値入力を表しています。	ページ
UPC/EAN Version	オン	COMUPC1	197
	*オフ	COMUPC0	197
GS1 Composite Codesメッセージ長	最小 (1~2435) *1	COMMIN####	197
	最大 (1~2435) *2435	COMMAX####	197
GS1エミュレーション	GS1-128エミュレーション	EANEMU1	198
	GS1 DataBarエミュレーション	EANEMU2	198
	GS1 Code拡張オフ	EANEMU3	198
	EAN8からEAN13への変換	EANEMU4	198
	*GS1エミュレーションオフ	EANEMU0	198
TCIF Linked Code 39	オン	T39ENA1	198
	*オフ	T39ENA0	198
QRコード	QRコードのすべての設定のデフォルト値	QRCDFT	199
	*オン	QRCENA1	199
	オフ	QRCENA0	199
QRコードメッセージ長	最小 (1~7089) *1	QRCMIN####	199
	最大 (1~7089) *7089	QRCMAX####	199
QRコード付加	*ワンスキャン	QRCAPP1	200
	スワイプ	QRCAPP2	200
	ポイントアンドシュート	QRCAPP3	200
	オフ	QRCAPP0	200
QRコードページ	QRコードページ (*3)	QRCDCP##	200
ウェブリンク付きQRコードの禁止	*オン	QRCWEB1	201
	オフ	QRCWEB0	201
DotCode	DotCodeのすべての設定のデフォルト値	DOTDFT	201
	オン	DOTENA1	201
	*オフ	DOTENA0	201
低品質DotCodes	低品質DotCodesオン	DOTEXS1	201
	*低品質DotCodesオフ	DOTEXS0	201
DotCodeメッセージ長	最小 (1~2400) *1	DOTMIN####	202
	最大 (1~2400) *2400	DOTMAX####	202

オプション	設定 *はデフォルトを表しています。	シリアルコマンド #は数値入力を表しています。	ページ
Digimarc Barcode	デコーダ試行 (0~10) *3	DIGSTR##	202
	オフ	DIGENA0	202
	オン	DIGENA1	202
	IDデコーダそして両方のデコーダを使用	DIGENA2	203
	* Digimarcデコーダそして両方のデコーダを使用	DIGENA3	203
	IDデコーダそして交互にデコーダを使用	DIGENA4	203
	Digimarcデコーダそして交互にデコーダを使用	DIGENA5	203
Data Matrix	Data Matrixのすべての設定のデフォルト値	IDMDFT	203
	*オン	IDMENA1	203
	オフ	IDMENA0	203
Direct Part Marking (DPM)デコーディング	Dotpeen DPMデコーディング	DPMENA1	204
	*DPMデコーディングを無効にする	DPMENA0	204
	反射型 (エッチング) DPMデコーディング	DPMENA2	204
Data Matrixメッセージ長	最小 (1~3116) *1	IDMMIN####	204
	最大 (1~3116) *3116	IDMMAX####	204
Data Matrixコードページ	Data Matrixコードページ (*51)	IDMDCP##	205
MaxiCode	MaxiCodeのすべての設定のデフォルト値	MAXDFT	205
	オン	MAXENA1	205
	*オフ	MAXENA0	205
MaxiCodeメッセージ長	最小 (1~150) *1	MAXMIN###	205
	最大 (1~150) *150	MAXMAX###	205
Aztecコード	Aztecコードのすべての設定のデフォルト値	AZTDFT	206
	*オン	AZTENA1	206
	オフ	AZTENA0	206
Aztecコードメッセージ長	最小 (1~3832) *1	AZTMIN####	206
	最大 (1~3832) *3832	AZTMAX####	206
Aztec Append	*オン	AZTAPP1	207
	オフ	AZTAPP0	207
Aztecコードページ	Aztecコードページ (*51)	AZTDCP##	207
Chinese Sensible (Han Xin) コード	Han Xin Codeのすべての設定のデフォルト値	HX_DFT	207
	オン	HX_ENA1	207
	*オフ	HX_ENA0	207
Chinese Sensible (Han Xin) コードメッセージ長	最小 (1~7833) *1	HX_MIN####	208
	最大 (1~7833) *7833	HX_MAX####	208

オプション	設定 *はデフォルトを表しています。	シリアルコマンド #は数値入力を表しています。	ページ
郵便番号- 2D			
2D郵便番号	*オフ	POSTAL0	208
シングル2D郵便番号	Australian Postオン	POSTAL1	208
	British Postオン	POSTAL7	208
	Canadian Postオン	POSTAL30	208
	Intelligent Mail Barcodeオン	POSTAL10	208
	日本郵便オン	POSTAL3	209
	KIX Postオン	POSTAL4	209
	Planet Codeオン	POSTAL5	209
	Postal-4iオン	POSTAL9	209
	Postnetオン	POSTAL6	209
	Postnet with B and B' Fieldsオン	POSTAL11	209
InfoMailオン	POSTAL2	209	
組み合わせ2D郵便番号	InfoMailとBritish Postオン	POSTAL8	209
	Intelligent Mail BarcodeとPostnet with B and B' Fieldsオン	POSTAL20	209
	PostnetとPostal-4iオン	POSTAL14	210
	PostnetとIntelligent Mail Barcodeオン	POSTAL16	210
	Postal-4iとIntelligent Mail Barcodeオン	POSTAL17	210
	Postal-4iとPostnet with B and B' Fieldsオン	POSTAL19	210
	PlanetとPostnetオン	POSTAL12	210
	PlanetとPostnet with B and B' Fieldsオン	POSTAL18	210
	PlanetとPostal-4iオン	POSTAL13	210
	PlanetとIntelligent Mail Barcodeオン	POSTAL15	210
	Planet、Postnet、およびPostal-4iオン	POSTAL21	210
	Planet、Postnet、およびIntelligent Mail Barcodeオン	POSTAL22	210
	Planet、Postal-4i、およびIntelligent Mail Barcodeオン	POSTAL23	211
	Postnet、Postal-4i、およびIntelligent Mail Barcodeオン	POSTAL24	211
	Planet、Postal-4i、およびPostnet with B and B' Fieldsオン	POSTAL25	211
	Planet、Intelligent Mail Barcode、およびPostnet with B and B' Fieldsオン	POSTAL26	211

オプション	設定 *はデフォルトを表しています。	シリアルコマンド #は数値入力を表しています。	ページ
オプション	Postal-4i、Intelligent Mail Barcode、 およびPostnet with B and B' Fieldsオン	POSTAL27	211
	Planet、Postal-4i、Intelligent Mail Barcode、およびPostnetオン	POSTAL28	211
	Planet、Postal-4i、Intelligent Mail Barcode、およびPostnet with B and B' Fieldsオン	POSTAL29	211
	Planet Codeチェックディジット	送信 *送信しない	PLNCKX1 PLNCKX0
Postnetチェックディジット	送信 *送信しない	NETCKX1 NETCKX0	212 212
	Australian Postの解釈	*バー出力 数値N表 英数字C表 組合せNとC表	AUSINT0 AUSINT1 AUSINT2 AUSINT3
郵便番号- 1D			
China Post (Hong Kong 2 of 5)	China Post (Hong Kong 2 of 5) のす べての設定のデフォルト値	CPCDFT	213
	*オフ	CPCENA0	213
	オン	CPCENA1	213
China Post (Hong Kong 2 of 5) メッセージ 長	最小 (2~80) *4	CPCMIN##	213
	最大 (2~80) *80	CPCMAX##	213
Korea Post	Korea Postのすべての設定のデフ ォルト値	KPCDFT	214
	*オフ	KPCENA0	214
	オン	KPCENA1	214
Korea Postメッセージ長	最小 (2~80) *4	KPCMIN##	214
	最大 (2~80) *48	KPCMAX##	214
Korea Postのチェックディジット	チェックディジットを送信	KPCCHK1	214
	*チェックディジットを送信しない	KPCCHK0	214
デフォルトのイメージングコマンド			
スナップ画像	すべてのデフォルトのイメージング コマンド	IMGDFT	215
	イメージングスタイル - デコーデ ィング	SNPSTY0	216
	*イメージングスタイル - 写真	SNPSTY1	216
	イメージングスタイル - マニユ アル	SNPSTY2	216
	ビープ音オン	SNPBEP1	216
	*ビープ音オフ	SNPBEP0	216
	*トリガ待ちオフ	SNPTRG0	217
	トリガ待ちオン	SNPTRG1	217

オプション	設定 *はデフォルトを表しています。	シリアルコマンド #は数値入力を表しています。	ページ
	*LED状態 - オフ	SNPLED0	217
	LED状態 - オン	SNPLED1	217
	露光 (1~7874マイクロ秒) *7874	SNPEXP	217
	*ゲイン- なし	SNPGAN1	218
	ゲイン-中	SNPGAN2	218
	ゲイン-大	SNPGAN4	218
	ゲイン-最大	SNPGAN8	218
	目標ホワイト値 (0~255) *125	SNPWHT###	218
	許容範囲 (0~255) *25	SNPDEL###	218
	更新試行数 (0~10) *6	SNPTRY##	219
	目標設定値割合 (1~99) *50	SNPPCT##	219
画像送信	*無限遠フィルタ- オフ	IMGINFO	220
	無限遠フィルタ- オン	IMGINF1	220
	*補正オフ	IMGCOR0	220
	補正オン	IMGCOR1	220
	*ピクセル深度- 8ビット/ピクセル (グレースケール)	IMGBPP8	220
	ピクセル深度- 1ビット/ピクセル (白黒)	IMGBPP1	220
	*エッジをシャープにしない	IMGEDG0	221
	エッジをシャープにする (0~23)	IMGEDG##	221
	*ファイルフォーマット- JPEG	IMGFMT6	221
	ファイルフォーマット- KIM	IMGFMT0	221
	ファイルフォーマット- TIFFバイナリ	IMGFMT1	221
	ファイルフォーマット- TIFFバイナリグループ4、圧縮	IMGFMT2	221
	ファイルフォーマット- TIFFグレースケール	IMGFMT3	221
	ファイルフォーマット- 非圧縮バイナリ	IMGFMT4	221
	ファイルフォーマット- 非圧縮グレースケール	IMGFMT5	221
	ファイルフォーマット- BMP	IMGFMT8	221
	*ヒストグラム伸張オフ	IMGHIS0	222
	ヒストグラム伸張オン	IMGHIS1	222
	*ノイズリダクションオフ	IMGFSP0	223
	ノイズリダクションオン	IMGFSP1	223
	X軸を中心に画像を反転	IMGNVX1	222
	Y軸を中心に画像を反転	IMGNVY1	222

オプション	設定 *はデフォルトを表しています。	シリアルコマンド #は数値入力を表しています。	ページ
	*画像の回転なし	IMGROT0	223
	画像を右に90°回転	IMGROT1	223
	画像を右に180°回転	IMGROT2	223
	画像を左に90°回転	IMGROT3	223
	JPEG画質 (0~100) *50	IMGJQF###	224
	*ガンマ補正オフ	IMGGAM0	224
	ガンマ補正オン (0~1000)	IMGGAM###	224
	画像切り抜き- 左 (0~843) *0	IMGWNL###	224
	画像切り抜き- 右 (0~843) *843	IMGWNR###	224
	画像切り抜き - 上 (0~639) *0	IMGWNT###	224
	画像切り抜き- 下 (0-639) *639	IMGWNB###	225
	画像切り抜き- マージン (1~238) *0	IMGMAR###	225
	プロトコル- なし (raw)	IMGXFR0	225
	プロトコル - なし (デフォルト USB)	IMGXFR2	225
	プロトコル - Hmodem圧縮 (デフォ ルトRS232)	IMGXFR3	225
	プロトコル- Hmodem	IMGXFR4	225
	*各ピクセルを送信	IMGSUB1	226
	2番目のピクセルごとに送信	IMGSUB2	226
	3番目のピクセルごとに送信	IMGSUB3	226
	*文書画像フィルタオフ	IMGUSH0	226
	文書画像フィルタオン (0-255)	IMGUSH###	226
	*ヒストグラムを送信しない	IMGHST0	227
	ヒストグラムを送信する	IMGHST1	227
画像サイズ適合性	強制VGA解像度	IMGVGA1	227
	*ネイティブ解像度	IMGVGA0	228
インテリジェント署名キャプチャ	最適化オン	DECBND1	228
	*最適化オフ	DECBND0	228
ユーティリティ			
	コードIDの追加すべての記号に対するプリフィクス (一時的)	PRECA2,BK2995C80!	235
	ソフトウェアの改定の表示	REVINF	235
試験メニュー	オン	TSTMNU1	236
	*オフ	TSTMNU0	236

オプション	設定 *はデフォルトを表しています。	シリアルコマンド #は数値入力を表しています。	ページ
アプリケーションプラグイン(アプリ)	*デコードアプリオン	PLGDCE1	236
	デコードアプリオフ	PLGDCE0	236
	*フォーマットアプリオン	PLGFOE1	236
	フォーマットアプリオフ	PLGFOE0	236
	アプリリスト	PLGINF	236
工場出荷時のデフォルトへのリセット	カスタムデフォルトの削除	DEFOVR	238
	デフォルトの有効化	DEFAULT	238

12

章

製品仕様

注: Xenon Ultra のアクセサリの仕様については、sps.honeywell.com にある Xenon Ultra 196x Series Accessories User Guide (Xenon Ultra 196x シリーズアクセサリユーザーガイド) 照してください。

Xenon Ultra 製品仕様

パラメータ	仕様
機器	
高さ	6.3 インチ (160.2mm)
長	4.3 インチ (108.2mm)
幅	2.8 インチ (70.4mm)
重量	147.2 グラム (5.2 オンス)
電気	
電圧要件 (コード付きのみ)	スキャナの入力で 4.75~5.25 VDC
電流値	スキャンング MAX 500mA @ 5VDC
照明LED： ピーク波長	442nm、552nm (白色LED) IEC 62471:"免除リスクグループ"
照準： ピーク波長 LED	525nm + 18nm (緑色LED) IEC 62471:"免除リスクグループ"
バッテリー リチウムイオン スキャン数 予想動作時間 予想充電時間	最低3300 mAHr 1回の充電につき最大80,000 22 4.5時間
バッテリーレススーパーキャパシタ	
スキャン数	450
無線	

パラメータ (続き)	仕様
周波数	2.4GHz (ISM バンド) 周波数ホッピング Bluetooth 4.2
範囲	33 フィート (10m) (適応型周波数ホッピングの場合) クラス 1: 100m (見通し、デフォルト)。 クラス 2 にプログラム可能: 10m (見通し)。 BLE 利用可。
環境	
温度範囲: 動作時 保管 (コードレス、バッテリー付き) *	+32°F~+122°F (0°C~50°C) -4°F~95°F (-20°C~35°C) (90日までの保管) -4°F~68°F (-20°C~20°C) (365日までの保管)
保管 (コード付きおよびコードレス、バッテリーなし)	-40°F~158°F (-40°C~70°C)
湿度	0~95%、結露なし
機械的落下	6フィート (1.8m) からコンクリートに 50回落下後に操作可能 コード付き: 10' MIL 落下仕様 コードレス: 8' MIL 落下仕様
ESD 耐性	最大15kV、直接空気 最大 8kV、間接結合板
シーラント定格	IP52
画像	
画像サイズ	1280 x 1080ピクセル
スキャン性能	
スキュー角	+65°
ピッチ角	+65°
動作許容範囲	最適な焦点に対して13 mil UPCで最大4.0 m/s (157 in/s)
記号のコントラスト	15%以上 (グレード A)
スキャン角度 (最小)	
小売SR	横: 42°、縦: 36°
ヘルスケアSR	横: 42°、縦: 36°
ヘルスケアHD	横: 42°、縦: 36°
軽工業 XD	横: 30°、縦: 25°

*この温度範囲外で保管すると、バッテリーの寿命に悪影響を及ぼす可能性があります。

被写界深度チャート

小売/ヘルスケア用途での通常性能

フォーカス		標準レンジ		高密度	
記号		近距離	遠距離	近距離	遠距離
2 mil Code 39	mm	-	-	-	-
	インチ	-	-	-	-
3 mil Code 39	mm	34	174	18	174
	インチ	1.34	6.85311	0.71	6.85
5 mil Code 39	mm	23	311	7	295
	インチ	0.91	12.24	0.28	11.61
10 mil Code 39	mm	0	697	0	548
	インチ	0	27.44	0	21.57
13 mil UPC	mm	0	654	0	502
	インチ	0	25.75	0	19.76
7.5 mil Code 128	mm	6	367	0	345
	インチ	0.24	14.45	0	13.58
15 mil Code 128	mm	0	728	0	563
	インチ	0	28.66	0	22.17
20 mil Code 39	mm	4	1115	4	814
	インチ	0.16	43.9	0.16	32.05
5 mil PDF417	mm	45	176	22	173
	インチ	1.77	6.93	0.87	6.81
6.7 mil PDF417	mm	22	249	8	237
	インチ	0.87	9.80	0.31	9.33
5 mil Data Matrix	mm	-	-	35	113
	インチ	-	-	1.38	4.45
7.5 mil Data Matrix	mm	34	188	16	183
	インチ	1.34	7.40	0.63	7.20
10 mil Data Matrix	mm	12	273	2	249
	インチ	0.47	10.75	0.08	9.8
4 mil QR コード	mm	-	-	-	-
	インチ	-	-	-	-
10 mil QR コード	mm	11	262	1	230
	インチ	0.43	10.32	0.04	9.06
20 mil QR コード	mm	0	495	0	392
	インチ	0	19.49	0	15.43

フォーカス (続き)		標準レンジ		高密度	
記号 (続き)		近距離	遠距離	近距離	遠距離
解像度 (1D)		2.5 mil		2 mil	
解像度 (2D)		5 mil		5 mil	

小売／ヘルスケア用途での保証パフォーマンス

フォーカス		標準レンジ		高密度	
記号		近距離	遠距離	近距離	遠距離
2 mil Code 39	mm	-	-	-	-
	インチ	-	-	-	-
3 mil Code 39	mm	52	154	28	144
	インチ	2.05	6.06	1.1	5.67
5 mil Code 39	mm	30	283	13	258
	インチ	1.81	11.14	0.51	10.16
10 mil Code 39	mm	0	651	0	427
	インチ	0	25.63	0	16.81
13 mil UPC	mm	0	569	0	355
	インチ	0	22.4	0	13.98
7.5 mil Code 128	mm	16	338	0	292
	インチ	0.63	13.31	0	11.5
15 mil Code 128	mm	0	657	0	395
	インチ	0	25.87	0	15.55
20 mil Code 39	mm	6	973	7	563
	インチ	0.24	38.31	0.28	22.17
5 mil PDF417	mm	69	168	32	164
	インチ	2.71	6.61	1.26	6.46
6.7 mil PDF417	mm	38	241	16	227
	インチ	1.5	9.49	0.63	8.94
5 mil Data Matrix	mm	-	-	43	104
	インチ	-	-	1.7	4.09
7.5 mil Data Matrix	mm	49	178	23	172
	インチ	1.93	7.01	0.91	6.77
10 mil Data Matrix	mm	26	262	6	227
	インチ	1.02	10.32	0.24	8.94
4 mil QR コード	mm	-	-	-	-
	インチ	-	-	-	-
10 mil QR コード	mm	22	248	4	210
	インチ	0.87	9.76	0.16	8.27
20 mil QR コード	mm	0	460	0	332
	インチ	0	18.11	0	13.07

軽工業用途での通常性能

フォーカス		超高密度	
記号		近距離	遠距離
2 mil Code 39	mm	5	75
	インチ	0.2	2.95
3 mil Code 39	mm	0	101
	インチ	0	3.98
5 mil Code 39	mm	0	127
	インチ	0	5
10 mil Code 39	mm	0	225
	インチ	0	8.86
13 mil UPC	mm	26	199
	インチ	1.02	7.83
7.5 mil Code 128	mm	0	129
	インチ	0	5.08
15 mil Code 128	mm	25	222
	インチ	0.98	8.74
20 mil Code 39	mm	32	354
	インチ	1.26	13.94
5 mil PDF417	mm	11	96
	インチ	0.43	3.78
6.7 mil PDF417	mm	5	113
	インチ	0.2	4.45
5 mil Data Matrix	mm	3	81
	インチ	0.12	3.19
7.5 mil Data Matrix	mm	0	109
	インチ	0	4.29
10 mil Data Matrix	mm	3	121
	インチ	0.12	4.76
4 mil QR コード	mm	6	63
	インチ	0.24	2.48
10 mil QR コード	mm	8	111
	インチ	0.31	4.37
20 mil QR コード	mm	11	179
	インチ	0.43	7.05
解像度 (1D)		2 mil	
解像度 (2D)		4 mil	

軽工業用途での性能保証

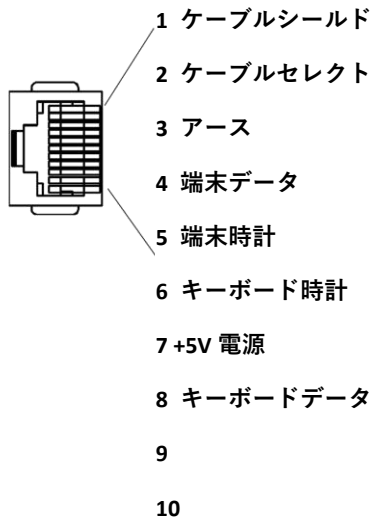
フォーカス		超高密度	
記号		近距離	遠距離
2 mil Code 39	mm	10	61
	インチ	0.39	2.4
3 mil Code 39	mm	0	90
	インチ	0	3.54
5 mil Code 39	mm	0	110
	インチ	0	4.33
10 mil Code 39	mm	0	199
	インチ	0	7.83
13 mil UPC	mm	30	180
	インチ	1.18	7.09
7.5 mil Code 128	mm	0	104
	インチ	0	4.09
15 mil Code 128	mm	28	196
	インチ	1.1	7.72
20 mil Code 39	mm	35	323
	インチ	1.38	12.72
5 mil PDF417	mm	20	81
	インチ	0.79	3.19
6.7 mil PDF417	mm	10	95
	インチ	0.4	3.74
5 mil Data Matrix	mm	6	61
	インチ	0.24	2.4
7.5 mil Data Matrix	mm	0	90
	インチ	0	3.54
10 mil Data Matrix	mm	8	102
	インチ	0.31	4.02
4 mil QR コード	mm	9	54
	インチ	0.35	2.13
10 mil QR コード	mm	17	98
	インチ	0.67	3.86
20 mil QR コード	mm	20	164
	インチ	0.79	6.5

標準コネクタのピン配列

注: 以下のピン割り当ては、ハネウェルの旧製品の一部とは互換性がありません。ピン配列が適切でないケーブルを使用すると、本機が損傷する可能性があります。製造元から提供されていないケーブルを使用すると、保証の対象とならない損傷が発生する可能性があります。

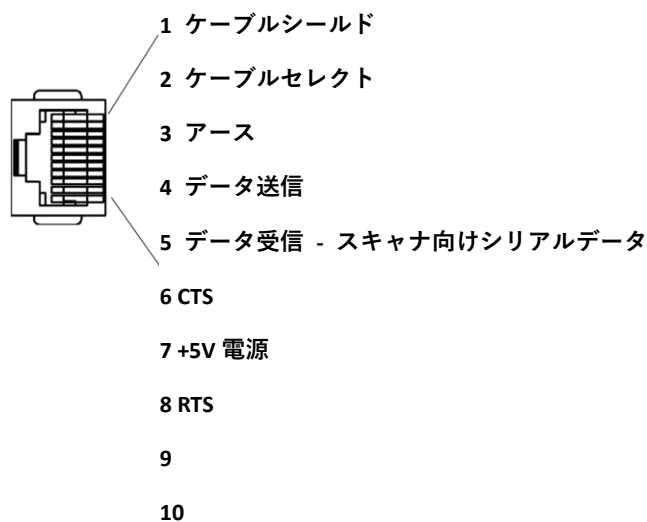
キーボードウェッジ

10 ピン RJ41 モジュラープラグ - ベースに接続



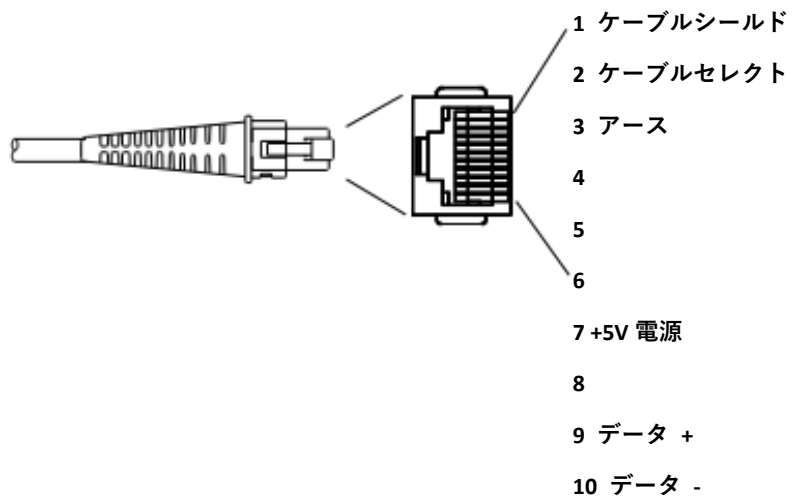
シリアル出力

10 ピン RJ41 モジュラープラグ - ベースに接続

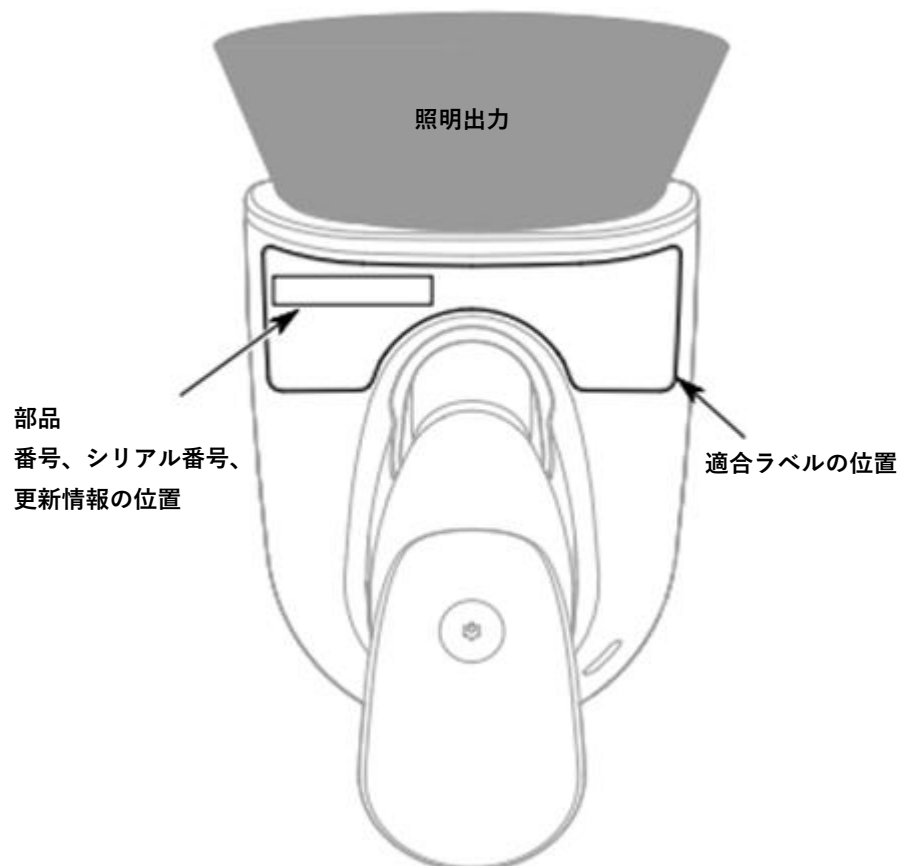


USB

10ピンモジュラープラグ - ベースに接続



必要な安全ラベル



13

章

メンテナンスとトラブルシューティング

修理

本製品の修理および/またはアップグレードは行わないでください。これらのサービスは、認定サービスセンターのみが行うことができます（[カスタマーサポート](#)（xvii ページ）参照）。

メンテナンス

お使いのデバイスは、最小限の手入れで信頼性の高い効率的な操作を提供します。具体的なメンテナンスは必要ありませんが、以下では、信頼性の高い動作を確保するための定期点検について説明します。

スキャナのクリーニング

スキャナまたはベースのハウジングとスキャナの窓は、水または中性洗剤水溶液で湿らせた柔らかい布で拭くことができます。中性洗剤溶液を使用した場合は、水で湿らせたきれいな布でスキャナまたはベースを拭き、洗剤の残りを取り除きます。

注： スキャナの窓がきれいでない、読み取り性能が低下する可能性があります。窓が目に見えて汚れている場合、またはスキャナがうまく動作していない場合は、窓をクリーニングします。



注意事項： スキャナを水や洗剤液に浸さないでください。スキャナの窓に研磨剤入りのワイプや布を使用しないでください。研磨剤で拭くと、窓に傷がつくことがあります。ハウジングや窓に溶剤（アセトンなど）を絶対に使用しないでください。溶剤は表面仕上げや窓を傷つける恐れがあります。

注意事項： スキャナを充電用アクセサリやその他の周辺機器と接続する前に、すべてのコンポーネントが乾いていることを確認してください。濡れたコンポーネントを取り付けると、保証対象外の故障が発生する可能性があります。

消毒対応モデルについて

Xenon Ultra スキャナは、過酷な化学薬品に耐えるよう設計された外部プラスチックハウジングと、ヘルスケアおよび汎用市場向けの消毒対応ハウジング（DRH）を備えています。

sps.honeywell.com のデバイスの製品ページにある **General Purpose Disinfectant-Ready Housing Cleaning Guide**（汎用消毒剤対応ハウジングクリーニングガイド）を参照してください。

sps.honeywell.com のデバイスの製品ページにある **Healthcare Disinfectant-Ready Housing Cleaning Guide**（ヘルスケア消毒剤対応ハウジングクリーニングガイド）を参照してください。

コードとコネクタの点検

インターフェースケーブルとコネクタに磨耗やその他の損傷の兆候がないか検査します。ケーブルの磨耗やコネクタの損傷は、スキャナの動作を妨げます。ケーブルの交換については、販売店にお問い合わせください。ケーブルの交換手順については、[288 ページ](#)にあります。

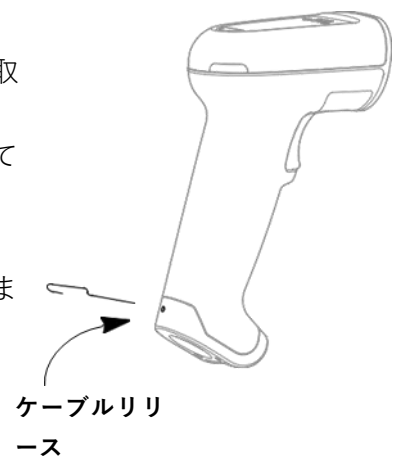
コード付きスキャナのケーブル交換

標準インターフェースケーブルは、10 ピンモジュラーコネクタでスキャナに接続します。正しく装着されると、コネクタは柔らかい固定タブによってスキャナのハンドルに固定されます。インターフェースケーブルは現場交換可能なように設計されています。

- 交換用ケーブルは、ハネウェルまたは正規代理店にご注文ください。
- 交換用ケーブルを注文する際は、元のインターフェースケーブルのケーブル部品番号を指定してください。

インターフェースケーブルの交換

1. ホストシステムの電源を切ります。
2. スキャナのケーブルを端末またはコンピュータから取り外します。
3. スキャナのハンドルの背面にある小さな穴を見つけてください。これがケーブルリリースです。
4. ペーパークリップの片方をまっすぐに伸ばします。
5. ペーパークリップの端を小さな穴に差し、押し込みます。保持タブが押し下げられ、コネクタが外れます。ペーパークリップを押さえたままコネクタを引き出し、ペーパークリップを外します。
6. 新しいケーブルと交換します。



コネクタを開口部に挿入し、しっかりと押し込みます。コネクタは一方向にしか入らないようになっており、カチッと音がします。

コードレスシステムのケーブルとバッテリーの交換

ベースのインターフェースケーブルの交換

1. ホストシステムの電源をオフにします。
2. ベースのケーブルを端末またはコンピュータから取り外します。
3. ベースを逆さまにします。
4. コネクタリリースクリップを押しながらコネクタを引き抜きます。
5. 新しいケーブルと交換します。コネクタを開口部に挿入し、しっかりと押し込みます。コネクタは一方向にしか入らないようになっており、カチッと音がします。

プレゼンテーション CCB

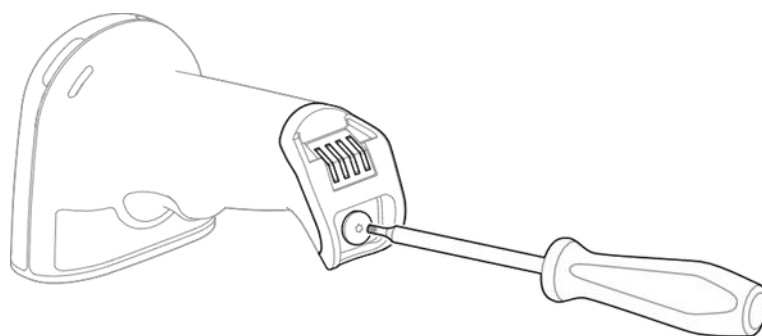


水平 CCB

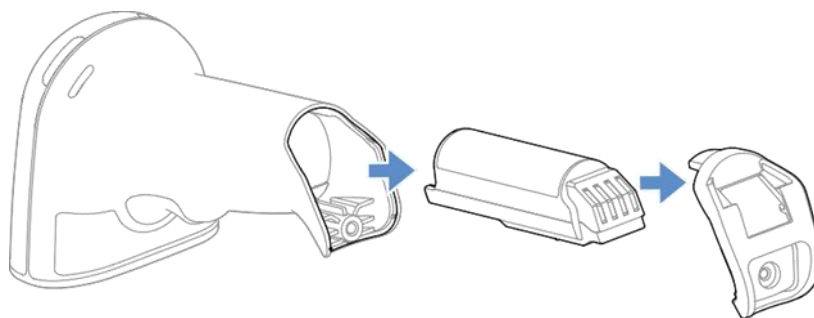


接点バッテリーまたはバッテリーレススーパーキャパシタの交換

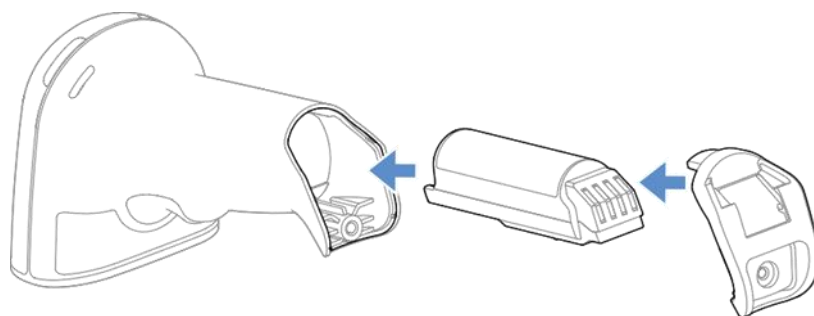
1. T10 torx でスキャナ底部のネジを外します。ネジは近くに置いておきます。



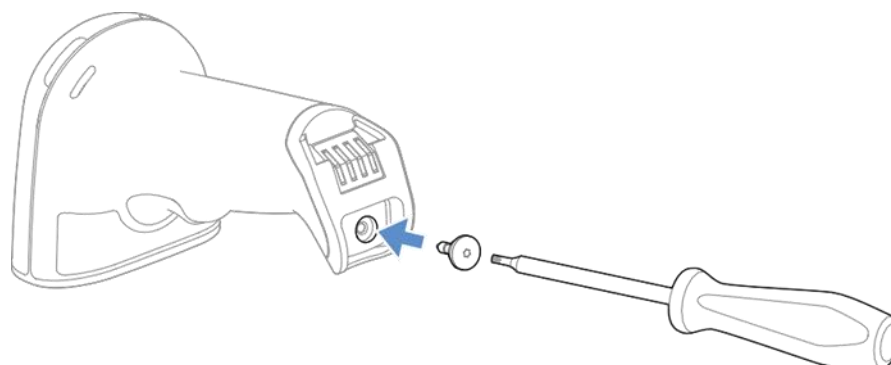
2. エンドキャップを外し、バッテリーまたはバッテリーレススーパーキャパシタをハンドルから取り外します。



3. 交換用のバッテリーまたはバッテリーレススーパーキャパシタを挿入します。

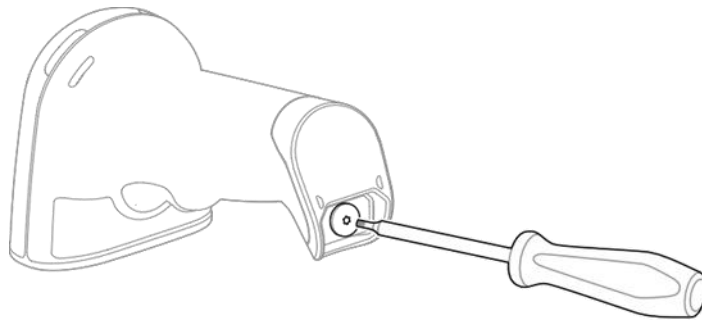


4. エンドキャップを交換し、ねじ込みます。

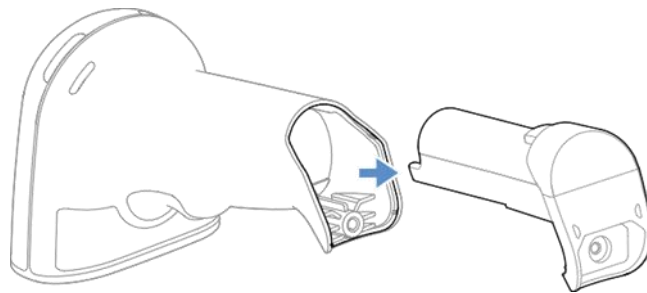


無接点バッテリーまたはバッテリーレススーパーキャパシタの交換

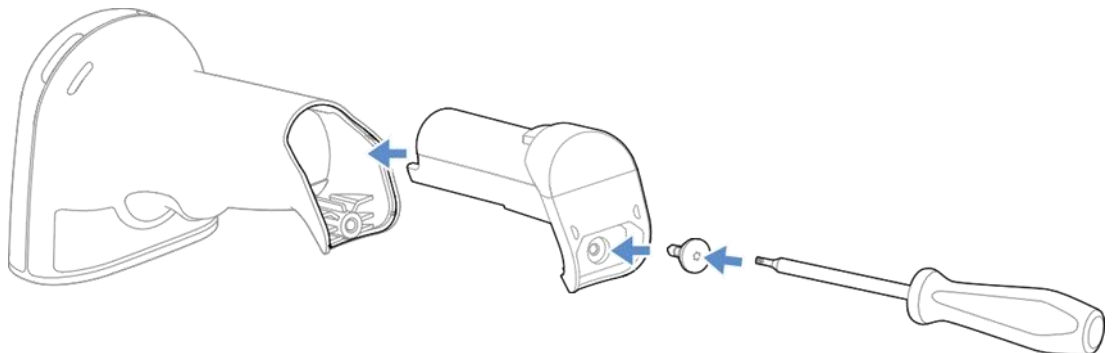
1. T10 torx でスキャナ底部のネジを外します。ネジは近くに置いておきます。



2. エンドキャップ/バッテリーまたはバッテリーレススーパーキャパシタをハンドルから取り外します。



3. エンドキャップ/バッテリーまたはバッテリーレススーパーキャパシタを交換し、ネジで固定します。



コード付きスキャナのトラブルシューティング

スキャナは、電源を入れるたびに自動的にセルフテストを実行します。スキャナが正常に機能していない場合は、以下のトラブルシューティングガイドを参照して、問題を絞り込んでください。

電源は入っていますか?照準器はオンになっていますか?

照準器が点灯していない場合は、次のことを確認します：

- ケーブルが正しく接続されている。

- ホストシステムの電源がオンになっている（外部電源を使用していない場合）。
- トリガが機能する

スキャナの記号の読み取りに問題がありますか？

スキャナが記号を適切に読み込んでいない場合は、記号が以下の状態にあることを確認

- 汚れ、ざらつき、傷、隙間がない
- 表面に霜や水滴が付着していない
- スキャナまたはスキャナが接続されているデコーダに使用できるものである

バーコードは表示されているのに入力が行われませんか？

バーコードがホストデバイスに正しく表示されても、入力するにはキーを押す必要がある（Enter/Return キーや Tab キーなど）。

- サフィックスをプログラムする必要があるサフィックスをプログラムすると、スキャナはバーコードデータと必要なキー（CR など）を出力してアプリケーションにデータを入力できる詳細は、[プリフィクス/サフィックスの概要](#)（123 ページ）を参照してください。

スキャナでどのプログラミングオプションが設定されているかわからない場合や、工場出荷時の設定に戻りたい場合は、[工場出荷時の設定に戻す](#)（238 ページ）を参照してください。

コードレスシステムのトラブルシューティング

ベースのトラブルシューティング

注: sps.honeywell.com にアクセスし **Support**（サポート） > **Software and Downloads**（ソフトウェアおよびダウンロード）を選択し、スキャナとベース両方の最新ソフトウェアを確認します。

ベースが正常に機能していない場合は、以下のトラブルシューティングガイドを参照して、問題を絞り込んでください。

赤色 LED は点灯していますか？

赤色 LED が点灯していない場合は、次のことを確認します：

- 電源ケーブルが正しく接続され、電源に電力が供給されている。
- ホストシステムの電源がオンになっている（外部電源を使用していない場合）。

緑色 LED は点灯していますか？

緑色 LED が点灯していない場合は、次のことを確認します：

- スキャナは正しくベースにセットされている。
- 外部電源または 12 ボルトのホスト電源がある。
- 充電モードがオンになっている。（[ビープ音と LED のシーケンスと意味](#)（42 ページ）を参照してください。）

- バッテリー／バッテリーレススーパーキャパシタに問題はなく、放電も大きくない。スキャナのバッテリーをトリクル充電して許容レベルにし、その後通常の充電サイクルに移行できる場合があります。

コードレススキャナのトラブルシューティング

注: スキャナのバッテリー／バッテリーレススーパーキャパシタが充電されていることを確認してください。

sps.honeywell.com にアクセスし、**Support** (サポート) > **Software and Downloads** (ソフトウェアおよびダウンロード) を選択して、スキャナとベースまたはアクセスポイントの両方の最新ソフトウェアを確認します。

スキャナの記号の読み取りに問題がありますか?

スキャナが記号を適切に読み込んでいない場合は、記号が以下の状態にあることを確認します：

- 汚れ、ざらつき、傷、隙間がないこと。
- 表面に霜や水滴が付着していないこと。
- スキャナが接続するベースまたはアクセスポイントで有効である。

バーコードは表示されているのにアプリケーションに入れませんか?

バーコードがホストデバイスに正しく表示されても、入力するにはキーを押す必要があります (Enter/Return キーや Tab キーなど)。

- サフィックスをプログラムする必要があります。サフィックスをプログラムすると、スキャナはバーコードデータと必要なキー (CR など) を出力してアプリケーションにデータを入力できます。詳細は、[プリフィクス／サフィックスの概要](#) (123 ページ) を参照してください。

スキャナがバーコードをまったく読み取りません。

- 本書裏面のサンプルバーコードを読み取ってください。スキャナがサンプルバーコードを読み取る場合は、ご自身のバーコードが読めることを確認します。
- バーコード記号が有効になっていることを確認する ([第 8 章](#)参照)。

A

章

参考図

記号チャート

注: "m"はAIM 修飾子文字を表します。AIM 修飾子文字の詳細については、国際技術仕様、記号ID を参照してください。

特定の記号に対するプリフィクス/サフィックスのエントリは、ユニバーサル（すべての記号、99）なエントリに優先します。

コードID と AIM ID の使用については、[データ編集](#)（123 ページ以降）および[データフォーマット/キューバスティング](#)（129 ページ以降）を参照してください。

1D 記号

1D記号	AIM		ハネウエル	
	ID	可能な修飾子 (m)	ID	Hex
すべての記号				99
Codabar]Fm	0-1	a	61
Code 11]H3		h	68
Code 128]Cm	0, 1, 2, 4	j	6A
Code 32 Pharmaceutical (PARAF)]X0		<	3C
Code 39 (フルASCIIモードをサポート)]Am	0, 1, 3, 4, 5, 7	b	62
TCIF Linked Code 39 (TLC39)]L2		T	54
Code 93および93i]Gm	0-9, A-Z, a-m	i	69
EAN]Em	0, 1, 3, 4	d	64
EAN-13 (Bookland EANを含む)]E0		d	64
EAN-13アドオン付き]E3		d	64
EAN-13拡張クーポンコード付き]E3		d	64
EAN-8]E4		D	44

1D記号	AIM		ハネウエル	
	ID	可能な修飾子 (m)	ID	Hex
EAN-8アドオン付き]E3		D	44
GS1				
GS1 DataBar]em	0	y	79
GS1 DataBar Limited]em		{	7B
GS1 DataBar拡張]em		}	7D
GS1-128]C1		l	49
2/5				
China Post (Hong Kong 2 of 5)]X0		Q	51
Interleaved 2 of 5]lm	0, 1, 3	e	65
Matrix 2 of 5]X0		m	6D
NEC 2 of 5]X0		Y	59
Straight 2 of 5 IATA]Rm	0, 1, 3	f	66
Straight 2 of 5 Industrial]S0		f	66
MSI]Mm	0, 1	g	67
Telepen]Bm		t	74
UPC		0, 1, 2, 3, 8, 9, A, B, C		
UPC-A]E0		c	63
UPC-Aアドオン付き]E3		c	63
UPC-A拡張クーポンコード付き]E3		c	63
UPC-E]E0		E	45
UPC-Eアドオン付き]E3		E	45
UPC-E1]X0		E	45

ハネウエルコードIDの追加				5C80
AIMコードIDの追加				5C81
バックスラッシュの追加				5C5C
バッチモード数量			5	35

2D 記号

2D記号	AIM		ハネウエル	
	ID	可能な修飾子 (m)	ID	Hex
すべての記号				99
Aztecコード]zm	0-9, A-C	z	7A

2D記号	AIM		ハネウエル	
	ID	可能な修飾子 (m)	ID	Hex
Chinese Sensible Code (Han Xin Code)]h0		H	48
Codablock A]O6	0, 1, 4, 5, 6	V	56
Codablock F]Om	0, 1, 4, 5, 6	q	71
Code 49]Tm	0, 1, 2, 4	l	6C
Data Matrix]dm	0-6	w	77
Dot Code]J0		.	2E
GS1]em	0-3	y	79
GS1 Composite]em	0-3	y	79
GS1 DataBar Omnidirectional]em	0-3	y	79
MaxiCode]Um	0-3	x	78
PDF417]Lm	0-2	r	72
MicroPDF417]Lm	0-5	R	52
QRコード]Qm	0-6	s	73
Micro QRコード]Qm		s	73

郵便記号

郵便記号	AIM		ハネウエル	
	ID	可能な修飾子 (m)	ID	Hex
すべての記号				99
Australian Post]X0		A	41
British Post]X0		B	42
Canadian Post]X0		C	43
China Post]X0		Q	51
InfoMail]X0		,	2c
Intelligent Mail Barcode]X0		M	4D
日本郵便]X0		J	4A
KIX (Netherlands) Post]X0		K	4B
Korea Post]X0		?	3F
Planet Code]X0		L	4C
Postal-4i]X0		N	4E
Postnet]X0		P	50

ASCII 変換チャート (コードページ 1252)

キーボードアプリケーションでは、以下に示すように、ASCII 制御文字を 3 つの方法で表すことができます。CTRL+X ファンクションは OS およびアプリケーションに依存します。次の表に、一般的に使用される Microsoft の機能をいくつか示します。この表は U.S.スタイルのキーボードに適用されます。国コードや PC の地域設定によって、特定の文字が異なる場合があります。

印字不能な ASCII 制御文字			キーボード Control + ASCII (CTRL+X)モード		
DEC	HEX	文字	Control + Xモードオフ (KBDCAS0)	Windows Mode Control + X Mode On (KBDCAS2)	
				CTRL + X	CTRL + Xの機能
0	00	NUL	Reserved	CTRL+ @	
1	01	SOH	NP Enter	CTRL+ A	Select all
2	02	STX	Caps Lock	CTRL+ B	Bold
3	03	ETX	ALT Make	CTRL+ C	Copy
4	04	EOT	ALT Break	CTRL+ D	Bookmark
5	05	ENQ	CTRL Make	CTRL+ E	Center
6	06	ACK	CTRL Break	CTRL+ F	Find
7	07	BEL	Enter / Ret	CTRL+ G	
8	08	BS	(Apple Make)	CTRL+ H	History
9	09	HT	Tab	CTRL+ I	Italic
10	0A	LF	(Apple Break)	CTRL+ J	Justify
11	0B	VT	Tab	CTRL+ K	hyperlink
12	0C	FF	Delete	CTRL+ L	list, left align
13	0D	CR	Enter / Ret	CTRL+ M	
14	0E	SO	Insert	CTRL+ N	New
15	0F	SI	ESC	CTRL+ O	Open
16	10	DLE	F11	CTRL+ P	Print
17	11	DC1	Home	CTRL+ Q	Quit
18	12	DC2	PrtScn	CTRL+ R	
19	13	DC3	Backspace	CTRL+ S	Save
20	14	DC4	Back Tab	CTRL+ T	
21	15	NAK	F12	CTRL+ U	
22	16	SYN	F1	CTRL+ V	Paste
23	17	ETB	F2	CTRL+ W	
24	18	CAN	F3	CTRL+ X	
25	19	EM	F4	CTRL+ Y	
26	1A	SUB	F5	CTRL+ Z	
27	1B	ESC	F6	CTRL+ [
28	1C	FS	F7	CTRL+ ¥	
29	1D	GS	F8	CTRL+]	
30	1E	RS	F9	CTRL+ ^	
31	1F	US	F10	CTRL+ -	
127	7F	△	NP Enter		

下位 ASCII 参照表

注: Windows コードページ1252 と下位 ASCII は同じ文字を使用します。

印刷可能な文字								
DEC	HEX	文字	DEC	HEX	文字	DEC	HEX	文字
32	20	<SPACE>	64	40	@	96	60	`
33	21	!	65	41	A	97	61	a
34	22	"	66	42	B	98	62	b
35	23	#	67	43	C	99	63	c
36	24	\$	68	44	D	100	64	d
37	25	%	69	45	E	101	65	e
38	26	&	70	46	F	102	66	f
39	27	'	71	47	G	103	67	g
40	28	(72	48	H	104	68	h
41	29)	73	49	I	105	69	i
42	2A	*	74	4A	J	106	6A	j
43	2B	+	75	4B	K	107	6B	k
44	2C	,	76	4C	L	108	6C	l
45	2D	-	77	4D	M	109	6D	m
46	2E	.	78	4E	N	110	6E	n
47	2F	/	79	4F	O	111	6F	o
48	30	0	80	50	P	112	70	p
49	31	1	81	51	Q	113	71	q
50	32	2	82	52	R	114	72	r
51	33	3	83	53	S	115	73	s
52	34	4	84	54	T	116	74	t
53	35	5	85	55	U	117	75	u
54	36	6	86	56	V	118	76	v
55	37	7	87	57	W	119	77	w
56	38	8	88	58	X	120	78	x
57	39	9	89	59	Y	121	79	y
58	3A	:	90	5A	Z	122	7A	z
59	3B	;	91	5B	[123	7B	{
60	3C	<	92	5C	¥	124	7C	
61	3D	=	93	5D]	125	7D	}
62	3E	>	94	5E	^	126	7E	~
63	3F	?	95	5F	_	127	7F	△

拡張ASCII文字					
DEC	HEX	CP 1252	ASCII	代替拡張	PS2スキャンコード
128	80	€	Ç	up arrow ↑	0x48
129	81		ü	down arrow ↓	0x50
130	82	,	é	right arrow →	0x4B
131	83	f	â	left arrow ←	0x4D
132	84	„	ä	Insert	0x52
133	85	…	à	Delete	0x53
134	86	†	ã	Home	0x47
135	87	‡	ç	End	0x4F
136	88	^	ê	Page Up	0x49
137	89	‰	ë	Page Down	0x51
138	8A	Š	è	Right ALT	0x38
139	8B	ƙ	ì	Right CTRL	0x1D

拡張ASCII文字 (続き)					
DEC	HEX	CP 1252	ASCII	代替拡張	PS2スキャンコード
140	8C	Ĉ	ĉ	Reserved	n/a
141	8D	Ċ	ċ	Reserved	n/a
142	8E	Ž	Ž	Numeric Keypad Enter	0x1C
143	8F	Ʒ	Ʒ	Numeric Keypad /	0x35
144	90	É	É	F1	0x3B
145	91	Ɔ	œ	F2	0x3C
146	92	Æ	Æ	F3	0x3D
147	93	“	ô	F4	0x3E
148	94	”	ö	F5	0x3F
149	95	•	ò	F6	0x40
150	96	—	û	F7	0x41
151	97	—	ù	F8	0x42
152	98	~	ÿ	F9	0x43
153	99	™	Ö	F10	0x44
154	9A	š	Ü	F11	0x57
155	9B	›	ć	F12	0x58
156	9C	œ	£	Numeric Keypad +	0x4E
157	9D	Ʒ	¥	Numeric Keypad -	0x4A
158	9E	ž	€	Numeric Keypad *	0x37
159	9F	ÿ	f	Caps Lock	0x3A
160	A0	á	á	Num Lock	0x45
161	A1	ı	ı	Left Alt	0x38
162	A2	ć	ó	Left Ctrl	0x1D
163	A3	£	ú	Left Shift	0x2A
164	A4	¤	ñ	Right Shift	0x36
165	A5	¥	Ñ	Print Screen	n/a
166	A6		ª	Tab	0x0F
167	A7	§	º	Shift Tab	0x8F
168	A8	¨	¿	Enter	0x1C
169	A9	©	┌	Esc	0x01
170	AA	ª	¬	Alt Make	0x36
171	AB	«	½	Alt Break	0xB6
172	AC	¬	¼	Control Make	0x1D
173	AD	ı	ı	Control Break	0x9D
174	AE	®	«	Alt Sequence with 1 Character	0x36
175	AF	¬	»	Ctrl Sequence with 1 Character	0x1D
176	B0	°	░		
177	B1	±	▒		
178	B2	²	▓		
179	B3	³	┆		
180	B4	´	┆		
181	B5	µ	┆		
182	B6	¶	┆		
183	B7	·	┆		
184	B8	¸	┆		
185	B9	¹	┆		
186	BA	º	┆		
187	BB	»	┆		
188	BC	¼	┆		
189	BD	½	┆		
190	BE	¾	┆		
191	BF	¿	┆		
192	C0	À	┆		
193	C1	Á	┆		

拡張ASCII文字（続き）					
DEC	HEX	CP 1252	ASCII	代替拡張	PS2スキャンコード
194	C2	Â	┘		
195	C3	Ã	┙		
196	C4	Ä	┚		
197	C5	Å	ı		
198	C6	Æ	┛		
199	C7	Ç	├		
200	C8	È	┝		
201	C9	É	┞		
202	CA	Ê	┟		
203	CB	Ë	┠		
204	CC	Ì	┡		
205	CD	Í	┢		
206	CE	Î	┣		
207	CF	Ï	┤		
208	D0	Ð	┥		
209	D1	Ñ	┦		
210	D2	Ò	┧		
211	D3	Ó	┨		
212	D4	Ô	┩		
213	D5	Õ	┪		
214	D6	Ö	┫		
215	D7	×	┬		
216	D8	Ø	┭		
217	D9	Ù	┮		
218	DA	Ú	┯		
219	DB	Û	■		
220	DC	Ü	■		
221	DD	Ý	■		
222	DE	Þ	■		
223	DF	ß	■		
224	E0	à	α		
225	E1	á	β		
226	E2	â	Γ		
227	E3	ã	Π		
228	E4	ä	Σ		
229	E5	å	σ		
230	E6	æ	μ		
231	E7	ç	τ		
232	E8	è	Φ		
233	E9	é	Θ		
234	EA	ê	Ω		
235	EB	ë	δ		
236	EC	ì	∞		
237	ED	í	φ		
238	EE	î	ε		
239	EF	ï	∩		
240	F0	ð	≡		
241	F1	ñ	≠		
242	F2	ò	∇		
243	F3	ó	κ		
244	F4	ô	∏		
245	F5	ö	∏		
246	F6	ö	∏		
247	F7	÷	∏		

拡張ASCII文字（続き）					
DEC	HEX	CP 1252	ASCII	代替拡張	PS2スキャンコード
248	F8	ø	°		
249	F9	ù	·		
250	FA	ú	·		
251	FB	û	√		
252	FC	ü	n		
253	FD	ý	²		
254	FE	þ	■		
255	FF	ÿ			

ISO 2022/ISO 646 文字置換

コードページは、文字コードから文字へのマッピングを定義します。受信したデータが適切な文字で表示されない場合は、スキャン中のバーコードが、ホストプログラムが予期しているものとは異なるコードページを使用して作成された可能性があります。この場合は、バーコードが作成されたコードページを選択します。データ文字が正しく表示されます。

コードページ選択方法／国	標準	国別キーボード	ハネウェルコードページオプション
アメリカ (標準アスキー)	ISO/IEC 646-IRV	なし	1
自動国別文字置換	ISO/IEC 2022	なし	2 (デフォルト)
バイナリコードページ	なし	なし	3
デフォルトの「自動国別文字置換」では、Code128、Code 39、Code 93の以下のハネウェルコードページオプションが選択されます。			
アメリカ	ISO/IEC 646-06	0	1
カナダ	ISO /IEC 646-121	54	95
カナダ	ISO /IEC 646-122	18	96
日本	ISO/IEC 646-14	28	98
中国	ISO/IEC 646-57	92	99
イギリス (UK)	ISO /IEC 646-04	7	87
フランス	ISO /IEC 646-69	3	83
ドイツ	ISO/IEC646-21	4	84
スイス	ISO /IEC 646-CH	6	86
スウェーデン／フィンランド (拡張 付属書C)	ISO/IEC 646-11	2	82
アイルランド	ISO /IEC 646-207	73	97
デンマーク	ISO/IEC 646-08	8	88
ノルウェー	ISO/IEC 646-60	9	94

コードページ選択方法／国	標準	国別キーボード	ハネウエル コードページ オプション
イタリア	ISO/IEC 646-15	5	85
ポルトガル	ISO/IEC 646-16	13	92
スペイン	ISO/IEC 646-17	10	90
スペイン	ISO/IEC 646-85	51	91

Dec			35	36	64	91	92	93	94	96	123	124	125	126
Hex			23	24	40	5B	5C	5D	5E	60	7B	7C	7D	7E
US	0	1	#	\$	@	[¥]	^	`	{		}	~
CA	54	95	#	\$	à	â	ç	ê	î	ô	é	ù	è	û
CA	18	96	#	\$	à	â	ç	ê	É	ô	é	ù	è	û
JP	28	98	#	\$	@	[¥]	^	`	{		}	-
CN	92	99	#	¥	@	[¥]	^	`	{		}	-
GB	7	87	£	\$	@	[¥]	^	`	{		}	~
FR	3	83	£	\$	à	°	ç	§	^	μ	é	ù	è	..
DE	4	84	#	\$	§	Ä	Ö	Ü	^	`	ä	ö	ü	ß
CH	6	86	ù	\$	à	é	ç	ê	î	ô	ä	ö	ü	û
SE/FI	2	82	#	¤	É	Ä	Ö	Å	Ü	é	ä	ö	å	ü
DK	8	88	#	\$	@	Æ	Ø	Å	^	`	æ	ø	å	~
NO	9	94	#	\$	@	Æ	Ø	Å	^	`	æ	ø	å	-
IE	73	97	£	\$	Ó	É	Í	Ú	Á	ó	é	í	ú	á
IT	5	85	£	\$	§	°	ç	é	^	ù	à	ò	è	ì
PT	13	92	#	\$	§	Ä	Ç	Ö	^	`	ä	ç	ö	°
ES	10	90	#	\$	§	i	Ñ	¿	^	`	°	ñ	ç	~
ES	51	91	#	\$	·	i	Ñ	Ç	¿	`	´	ñ	ç	..
 国別キーボード ハネウェルコード ページ			ISO / IEC 646国別文字置換											

キーボードキーリファレンス

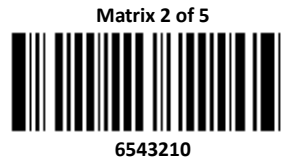
6E	70	71	72	73	74	75	76	77	78	79	7A	7B	7C	7D	7E					
01	02	03	04	05	06	07	08	09	0A	0B	0C	0D	0F	4B	50	55	5A	5F	64	69
10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	1A	1B	1C	1D	4C	51	56	5B	60	65	6A
1E	1F	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	2B					5C	61	66	
2C	2E	2F	30	31	32	33	34	35	36	37	39			53			5D	62	67	6C
3A	3B	3C			3D				3E	3F	38	40	4F	54	59	63	68			

104 キー米国スタイルキーボード

6E	70	71	72	73	74	75	76	77	78	79	7A	7B	7C	7D	7E					
01	02	03	04	05	06	07	08	09	0A	0B	0C	0D	0F	4B	50	55	5A	5F	64	69
10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	1A	1B	1C	2B	4C	51	56	5B	60	65	6A
1E	1F	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	2A					5C	61	66	
2C	2D	2E	2F	30	31	32	33	34	35	36	37	39		53			5D	62	67	6C
3A	3B	3C			3D				3E	3F	38	40	4F	54	59	63	68			

105 キー欧州スタイルキーボード

サンプル記号



サンプル記号 (続き)

Postnet



郵便番号

Data Matrix



テスト記号

QR Code



数字

MaxiCode



テストメッセージ

Micro PDF417



テストメッセージ

DotCode



12345

プログラミングチャート



K0K

0



K2K

2



K4K

4



K6K

6



K8K

8



K1K

1



K3K

3



K5K

5



K7K

7



K9K

9

プログラミングチャート (続き)



KAK

A



KCK

C



KEK

E



MNUSAV.

保存



RESET_

リセット



KBK

B



KDK

D



KFK

F



MNUABT.

破棄

注: 文字または数字のスキャン中にエラーが発生した場合 (**保存**をスキャンする前)、**破棄**をスキャンし、正しい文字または数字をスキャンして、再度**保存**をスキャンします。

ハネウェル
855 S. Mint Street
Charlotte, NC 28202

[sps.honeywell.com](https://automation.honeywell.com/)<https://automation.honeywell.com/>